

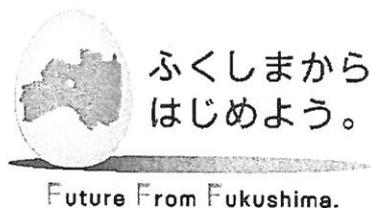
ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校 報告書

平成26年度道徳教育総合支援事業

平成27年3月

福島県教育委員会



はじめに

本報告書は、「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内7地区における小・中・高等学校7校の推進校が実践研究を行い、1年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、①道徳教育を学校全体でどのように推進していくのか、②道徳教育推進教師はどのような役割を果たしていくのか、③道徳の時間の授業をどのように展開していくのか、について、その取組の実際を次のプロットに従って報告しております。

なお、道徳の時間の授業については、ふくしま道徳教育資料「第Ⅰ集『生きぬく・いのち』」「第Ⅱ集『敬愛・つながる思い』」を活用した実践を多く紹介しております。

1年間で取り組んだ各校の実践のテーマは、次のとおりです。

| | |
|--------------|---|
| 福島市立瀬上小学校 | 人とよりよくかかわる力を育む道徳教育の推進 |
| 玉川村立須釜中学校 | 自他のよさを認め、自ら判断し、より良く生きようとする生徒の育成 |
| 白河市立五箇中学校 | 学び合いの工夫を通して、生徒一人一人がより良い生き方を考え、たくましく生きる生徒の育成 |
| 猪苗代町立猪苗代小学校 | 道徳の時間の充実と学校・家庭、地域との連携を通して豊かな心を育む |
| 南会津町立南会津中学校 | 自己を見つめ、お互いを認め合う生徒の育成 |
| 南相馬市立原町第二小学校 | 道徳的価値の自覚と自己の生き方について考えを深める指導の充実 |
| 県立遠野高等学校 | 教育活動全体を通しての道徳教育の再認識化 |

【報告書のプロット】

- 1 学校紹介
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道徳教育における校長の指導の方針
- 7 平成26年度 道徳教育の全体計画について
- 8 平成26年度 全体計画の「別葉」について
- 9 平成26年度 学級における指導計画について
- 10 道徳教育推進教師の実践について
- 11 道徳の時間について
- 12 成果と課題

《道徳教育推進教師の役割》

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
 - ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
 - エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
 - カ 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
 - キ 道徳教育の研修の充実に関すること
 - ク 道徳教育における評価に関すること
- (「学習指導要領解説道徳編」より)

《目次》

はじめに

1 道徳教推進校報告

| | | |
|-----------|--------------|-------|
| (1) 県北地区 | 福島市立瀬上小学校 | 5 |
| (2) 県中地区 | 玉川村立須釜中学校 | 2 3 |
| (3) 県南地区 | 白河市立五箇中学校 | 4 7 |
| (4) 会津地区 | 猪苗代町立猪苗代小学校 | 6 3 |
| (5) 南会津 | 南会津町立南会津中学校 | 8 9 |
| (6) 相双地区 | 南相馬市立原町第二小学校 | 1 0 7 |
| (7) いわき地区 | 県立遠野高等学校 | 1 2 3 |

2 資料

| | |
|----------------------|-------|
| ○ 「ふくしま道徳教育推進プラン」 | 1 3 8 |
| ○ 道徳教育推進校の役割について | 1 3 9 |
| ○ 道徳だより「道徳のかけ橋」第1～5号 | 1 4 1 |

「ふくしま道徳教育資料集」実践事例一覧

| 校種 | 学年 | 資料名 | 内容項目 | 実践校 | ページ |
|------|----|--------------------|----------------------|------|-----|
| 小学校 | 1年 | おむかえ（第Ⅱ集） | 4－（3） 家族愛 | 原町二小 | 120 |
| | 2年 | おむかえ（第Ⅱ集） | 4－（3） 家族愛 | 猪苗代小 | 86 |
| | 2年 | 「はだかまいり」のはじまり（第Ⅰ集） | 4－（5） 郷土への愛着 | 猪苗代小 | 84 |
| | 4年 | クリスマスのおくりもの（第Ⅰ集） | 2－（2） 思いやり、親切 | 瀬上小 | 19 |
| | 4年 | 舞台の上で（第Ⅱ集） | 2－（3） 信頼・友情 | 瀬上小 | 21 |
| | 6年 | 「までい」の牛（第Ⅰ集） | 3－（1） 生命尊重 | 原町二小 | 117 |
| 中学校 | 1年 | たった一秒のありがとう（第Ⅱ集） | 2－（6） 感謝、報恩 | 五箇中 | 60 |
| | 2年 | たった一秒のありがとう（第Ⅱ集） | 2－（6） 感謝 | 南会津中 | 104 |
| | 2年 | 温かさを分け合って（第Ⅰ集） | 3－（3） 生きる喜び | 五箇中 | 57 |
| | 2年 | 紫紺の襷（第Ⅱ集） | 1－（2） 強い意志 | 南会津中 | 102 |
| | 3年 | 手渡されたパン（第Ⅱ集） | 2－（6） 感謝の心 | 須釜中 | 28 |
| | 3年 | 五〇〇人の大家族（第Ⅱ集） | 2－（2） 温かい人間愛、思いやり | 須釜中 | 35 |
| 高等学校 | 1年 | 三十年後の桜（第Ⅱ集） | 1－（2） 希望・勇気 | 遠野高校 | 135 |

【県北地区】福島市立瀬上小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

| | |
|---------------|--|
| 学 校 名 | 福島市立瀬上小学校 |
| 所 在 地 | 福島市瀬上町字一ノ坪 2 8 |
| 校 長 名 | 小 島 英 二 |
| 学級及び児童数 | 普通学級 21 特別支援学級 1 児童数 583 名 |
| 学校の教育目標 | ○ よく考え 進んで学ぶ子ども ○ 心豊かに 助け合う子ども ○ 強いからだでやり抜く子ども ～豊かな心を持ち、気付き、考え実行するたくましい児童の育成～ |
| 道徳教育にかかる取組の概要 | ○ 思いやりのある心の育成・節度ある行動・態度の育成を柱に、学校教育全体を通して望ましい道徳性の育成を行う。 ○ 現職教育においては、「道徳の時間」の展開前段で資料を効果的に活用する工夫に焦点を当てて研究を進める。 |

2 研究テーマ

人とよりよくかかわる力を育む道徳教育の推進
～道徳の時間における資料の効果的な活用を中心に～

3 テーマ設定の理由

子どもたち一人ひとりに「人としてよりよい生き方を目指す」という本当の意味での生きる力を育み、学校教育に活気をもたらしていくことが、今学校に求められている。道徳教育推進の側面からは、家庭の教育機能の低下や社会全体のモラルの低下に対処し、さらには人とよりよくかかわりながら生きる力をもつ子どもを育てることが求められていると言える。

本校では、これまでに思いや考えを表現する活動を中心として「学ぶ喜び」を実感できる授業作りについて主に教科指導を通して研究してきた。その中で、子どもたちは少人数や小集団、学級全体で交流しながら学びを深めたり広げたりしている。また、日常の学校生活の中でも、友だちとかかわりながら学び合っている姿が多く見られる。

そこで、本年度は現職教育を通して道徳教育を推進したいと考えた。校内研修の充実により道徳教育の要である「道徳の時間」で実践的指導力の向上を図り、年間 35 時間の授業を充実させる。そして、子どもたちが人とさらによりよくかかわる力を育むことが、教育目標「心豊かに助け合う子ども」の具現につながる。

さらに、授業展開部の後段で特別活動や体験活動、生活経験との関連を図りながら道徳的価値の内面的自覚を深め道徳的実践力を育てるためには、まず前段において資料を効果的に活用することが不可欠であると考え、本テーマ並びにサブテーマを設定した。

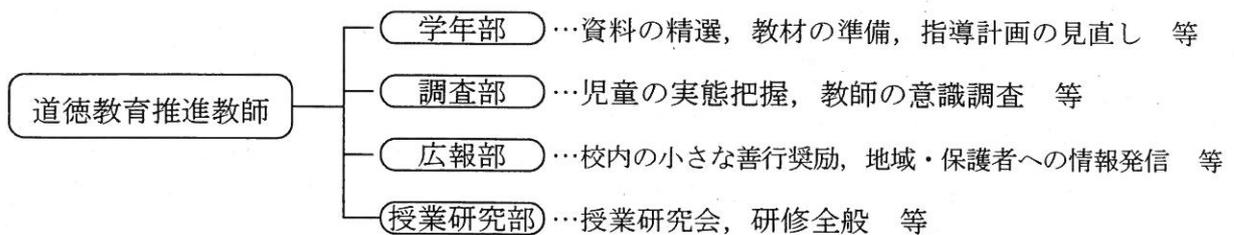
指導の重点は、2-(2) 親切・思いやり、2-(3) 友情・信頼と男女の協力におく。その上で、資料提示の工夫・発問の工夫・話し合いの工夫・書く活動の工夫・表現活動の工夫・板書を生かす工夫・説話の工夫の中から、どの手だてに絞って授業に生かしていくかを精選し、子どもと共につくる授業を目指したい。

4 研究計画

| 時期 | 研究内容 | 時期 | 研究内容 |
|------|---|-------|--|
| 4/18 | 第1回授業参観 ・道徳授業実践 | ～8/25 | ・資料選択・授業構想 ・道徳教育全体計画の見直し・別業作成 |
| 5/14 | 第1回全体会 ・道徳教育推進校の役割 | 9/2 | 第3回授業参観 ・道徳授業実践 |
| 5/29 | 学校訪問・道徳授業実践 (3学級) ご指導：渡邊裕樹指導主事、 渋谷美智子教諭 | 9/12 | 第2回校内授業研究会 (2-4) ご指導：渡邊 裕樹指導主事(市教委) ・(9/3・低学年ブロック授業案検討会) |

| | | | |
|--------------|--|---------------|--|
| 6/3 | 提案授業・資料の提示, 役割演技(2-2) | 10/8 | 道徳教育推進事業授業公開(6学級) |
| 6/5 | 現職教育・道徳教育合同部会 ・研究主題・副主題及び研究の方向性 | 11/5 ~7 | 第3回授業参観(フリー参観) ・道徳授業実践 (全学級実施を呼びかけ) |
| 6/9 ~6/30 | 道徳教育推進全体会 ・研究計画作成 ・第3・5学年Q-Uテスト実施・分析 | 11/14 | 第3回校内授業研究会(6-3) ご指導:佐藤倫子教諭(野田小) ・(11/・高学年ブロック授業案検討会) |
| 7/8 | 第2回授業参観 ・道徳授業実践 | 12/10 | 第3回全体会 |
| 7/11 | 第2回全体会 ・研修:資料分析の方法 | 12/10 ~1/9 | 研修のまとめと考察 |
| 7/16 | 第1回校内授業研究会(4-4) ご指導:嶋原 理指導主事(市教委) ・(7/1・中学年ブロック授業案検討会) | 2/20 2・3月 | 第4回授業参観 本年度研究・道徳教育推進の反省 次年度の構想 |

- 年間を通して、道徳資料の精選、道徳年間指導計画・全体計画の改善を行う。
- 道徳教育部会並びに現職教育・道徳教育合同部会は、毎週月曜日の研修日を原則として適宜開く。
- 研究は、次の組織で進める。



5 児童の実態及び地域の課題

創立143周年を迎える歴史と伝統ある学校である。瀬上町は福島市の北部に位置し、果物の栽培が盛んな地域でもある。古くからこの地域で暮らし、保護者も本校卒業生である家庭と新興住宅地または団地に二分される。おおむねPTA活動に積極的に取り組み、学校に対して協力的であるが、一部では保護者自身に規範意識の低さが見られる面があり、学校で指導した約束事がそれぞれの家庭で都合よく解釈されてしまうこともある。また、挨拶がしっかりできたり、相手の気持ちを思いやったりすることができる子に育つことを願いながらも、目の前の子どもたちが好ましくない行動をしても、直接指導することをためらう傾向が見られる。

児童は、やさしく素直な子どもが多い。上級生は、委員会活動や登校班で下級生の世話をし、下級生は上級生にあこがれの気持ちをもって接している。素直に自分の思いを表現して行動することができるが、時に相手の心を傷つけていることに気付かなかつたり相手の立場や状況を考えられず自己中心的になったりしてしまう様子も見られる。

このような実態を踏まえ、本校では重点目標を「社会規範を大切にし、学ぶ楽しさを感じる子ども」と設定し日々具現化に取り組んでいる。その基盤として、学校全体に支持的風土を醸成していく必要がある。そのために、「思いやり」と「信頼・友情」の心を育て、よりよく人とかわりながら、「なりたい自分」に近づこうとする子どもの育成を目指すものである。

6 道徳教育における校長の指導の方針「資料1」

- (1) 学校の全教育活動を通して豊かな人間性・社会性を育成するため、道徳教育の充実を図る。
 - ① 「自立」と「共生」を常に意識しながら学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図るために、道徳教育推進教師を中心に、「道徳教育全体計画」「道徳の時間の年間指導計画」を整備する。
 - ② 学年・学級において児童の実態を的確に把握し、具体的な手だてを講じながら道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の指導の工夫と充実に努める。
 - ③ 児童の発達段階を踏まえ、実態に即した重点的指導に努める。
- (2) 学校教育のあらゆる場を通して、道徳教育の基盤である児童相互の人間関係の充実や教師と児童との信頼関係の構築に努めるとともに、一人ひとりに居場所のある温かい学級づくりに努める。
- (3) 学校と家庭や地域社会との連携を密にし、保護者や地域の方々との共通理解を深め、相互の協力によって道徳教育の充実が図られるようにする。

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について「資料2」

- 「5 児童の実態及び地域の課題」で述べたような実態から、道徳教育の指導の重点を「思

いやりの心を育てよう」とし、道徳の時間を充実させることで、学年の発達段階に即して道徳性、さらには道徳的実践力を育てていくことを目指している。

- そのために、各教科・特別活動・総合的な学習・生徒指導その他の教育活動で養う道徳性を関連させて教育活動全体を構築した。さらに、昨年度末の学校アンケートから分かる保護者の願いや児童・地域の実態とその解決のための手だてが分かる部分を入れ、来年度に向けて構造的に改善していかなければならない。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別業」について「資料3」

- 昨年度末までに、本校では、道徳教育全体計画の「別業」を作成していないが、体験的な活動や各教科と道徳の時間のそれぞれの特色を生かした関連を図るために「別業」を作成し、意図的・計画的な指導を展開する必要がある。
- その際、次のような事項に留意したい。
 - ・ 体験的な活動を道徳の時間に取り入れる場合は、一部を疑似体験や表現活動として取り入れ、体験活動＝道徳にならないようにする。
 - ・ 道徳の授業が、特別活動（特に学校行事）の事前指導にならないようにする。
 - ・ 特別活動と道徳は、関連させてもねらいが別であることを押さえる。
 - ・ 学級活動等の特定場面での即効性を、道徳の時間の学びからねらわないようにする。

9 平成26年度 学級における指導計画について「資料4」

- 教師の見取りによる児童の実態把握を「研究価値から見る子どもの実態」と「道徳の時間から見る子どもの実態」の両面から捉えた。それにより、道徳の時間において求める子どもの姿が明らかになり、具体的な手だてを「テーマ設定の理由」で述べた7つの工夫点から絞り込んでいくことができる。
- Q-Uテストを実施した第3・5学年については、その分析結果から分かることについても関連付けて、実態把握の見直しを行う。

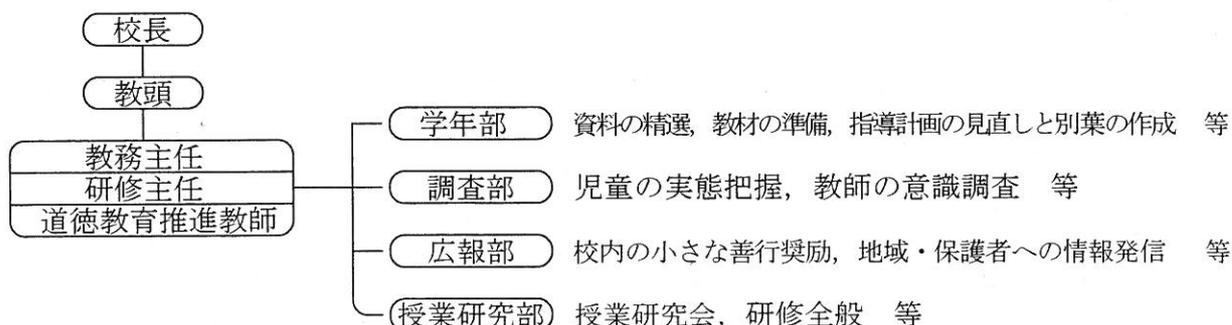
10 道徳教育推進教師の実践について

- (1) 道徳教育推進教師としての役割
「小学校学習指導要領解説 道徳編」に示される役割8項目

- ◎ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ◎イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
- エ 道徳教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ◎カ 授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- キ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ク 道徳教育の評価に関すること

道徳教育推進教師としての上記の役割のうち、まず本年度は◎の3項目について重点的に取り組みたいと考えた。また、○の2項目については、本校現職教育部との連携を図りながら、主題に迫るための構想を念頭におき、(3)で述べる4つの視点にたって具体的な手だてを実践していくことに取り組んでいる。

- (2) 道徳教育推進のための組織編成



- 上記の組織を機能させ、年間を通して道徳資料の精選、道徳教育全体計画並びに指導計画の改善を行う。
- 授業研究部は現職教育部が中心となって運営していく。

(3) 道徳教育を活性化させるための視点と実践内容

～全教師の共通理解と協力による道徳教育推進のために～

【視点1】 道徳教育全体計画の見直しと「全体計画別葉」の作成

① 児童の実態把握と課題の明確化

- 児童の実態及び地域の課題…平成25年度末実施の学校アンケートから



学校教育重点目標「社会規範を大切にし、学ぶ楽しさを感じる子ども」



道徳教育 内容項目の重点＝研究価値

- 2-(2) 思いやり、親切
- 2-(3) 信頼友情（男女の協力）

○ 教師の見取りによる児童の実態把握

「資料4」

研究価値から見る子どもの実態
「道徳の時間」から見る子どもの実態



「道徳の時間」において求める子どもの姿



「道徳の時間」における具体的な手だて

- ・ 道徳の時間に生かす指導方法の7つの工夫（「解説書による」）を参考にして
「東京学芸大学 第3回道徳授業パワーアップセミナー資料より」

- Q-Uテスト（第3・5学年）の分析
- ② 内容項目の重点化の確認と全職員の共通理解
- ③ 本校の実態に即した「全体計画別葉」の作成

「資料3」（本年度作成）

【視点2】 「道徳の時間」の充実

① 校内授業研究会（低・中・高学年ブロック授業ずつ）

- 7/16 第1回校内授業研究会(4-4) 「資料5-(1)」
ご指導：嶋原 理指導主事（市教委）
- 9/12 第2回校内授業研究会(2-4) 「資料5-(1)」
ご指導：渡邊 裕樹指導主事（市教委）
- 11/14 第3回校内授業研究会(6-3)

② 「一人一授業」の学年部を生かした実践

- 9/30 ブロック事前授業(6-1) 「資料5-(2)」

③ 授業の提供及び情報の提供

- 5/14 第1回全体会 「道徳教育推進校の役割」
- 6/3 提案授業（2-2）
・ 資料提示の工夫，役割演技の活用
- ふくしま道徳教育資料集を活用した実践から 「資料6」

- 7/11 第2回全体会 「研修：資料分析の方法」 「資料7」

○ 教師に向けた「道徳だより」の発行

- ・ 資料：「親切」及び「友情」の指導の基盤と全面実施に対応した指導の工夫
「ぶんけい 道徳と特別活動 2012.9 より」
- ・ 資料：「思いやり，親切」「信頼友情，男女の協力」について指導内容をどう考えるか
「光文書院 道徳授業ハンドブック 新宮 弘識 著より」

【視点3】 全教育活動との関連を図った指導

① 「人権の花」運動への参加（特別活動）

- 人権運動の意義の啓蒙
児童による相手を尊重し思いやる行動の呼びかけ
（ポスター作成・栽培活動 等） 「資料8」

② 「小さな善行」の奨励

- 教師間で情報交換をし，児童のよい姿を紹介する。
（広報部，昼の放送）



- ・ 児童の変容…模倣から道徳的習慣へ



- ・ 道徳的心情・判断力・態度の高まりを目指して

【視点4】 家庭や地域社会との連携

- ① 授業参観での積極的な道徳授業公開
 - 4/18 第1回授業参観・道徳授業実践 (1学級)
 - 7/8 第2回授業参観・道徳授業実践 (3学級)
 - 9/2 第3回授業参観・道徳授業実践 (7学級)
- ② フリー参観日の全学級道徳授業公開
 - 全学級実施の呼びかけ
- ③ 「わたしたちの道徳」の活用
 - 子どもの書き込み、家庭からの書き込み

「資料9」

1.1 道徳の時間について (別紙資料参照)「資料5-(1)・(2)」「資料6」

1.2 成果と課題

【視点1】 道徳教育全体計画の見直しと「全体計画別葉」の作成について

- 学年部を中心とした道徳教育についての話し合いが活発になった。
 - ・ 児童の実態とそれに応じた「道徳の時間」における具体的な手だてが明確になった。Q-Uテストの結果から、落ち込みの見られる設問については、質問紙を作成し、追調査を再分析した。
 - ・ 学年組織を生かした全教師の参画による「全体計画別葉」作成がなされた。
- 意図的・計画的な指導を展開するために、次のような留意事項の周知を図る必要がある。
 - ・ 体験的な活動を道徳の時間に取り入れる場合は、一部を疑似体験や表現活動として取り入れ、体験活動＝道徳にならないようにする。
 - ・ 道徳の授業が、特別活動(特に学校行事)の事前指導にならないようにする。
 - ・ 特別活動と道徳は、関連させてもねらいが別であることを押さえる。
 - ・ 学級活動等の特定場面での即効性を、道徳の時間の学びからねらわないようにする。
- 学校アンケートから分かる保護者の願いや児童・地域の実態とその解決のための手だてが分かる部分を入れ、来年度に向けて改善していかなければならない。

【視点2】 「道徳の時間」の充実について

- 教材作りや授業展開について、学年会で検討するなど協力して取り組む体制ができてきた。また、同学年で授業を見合う機会が増えた。
- 提供授業にも、多数の参観者があり、関心の高まりが見られた。道徳部に授業や資料に関しての質問が多く寄せられるようになり、職員室で道徳の授業(特に発問と子どもの反応)についての話題がよく聞かれるようになった。
- 「道徳だより」または研修により、今後は「わたしたちの道徳」の活用例や学級の道徳コーナーや掲示物の作成について紹介し、積極的に取り組むための情報を提供しなければならない。

「資料10」

【視点3】 全教育活動との関連について

- 昼の放送により、「小さな善行」の紹介を続けてきたところ、道徳的行為について、子どもの意識の高まりが見られた。
- 教師による子どもの道徳的行為の見取りが、一教師にとどまらず、情報交換して広がることで、生徒指導の場にも生かされる機会が増えた。
- 今後も日常の生活の中で、道徳的行為について継続指導すると共に見取り、称賛の場を持ち続けたい。
- 今後は、学年内での授業実践についても、「道徳だより」を活用して紹介したい。

【視点4】 家庭や地域社会との連携について

- 授業参観では、回を追うごとに「道徳の時間」の授業公開が増えてきた。学級懇談会でも、道徳への取組を話題にしたところ、保護者からの反応も見られた。
- 学校だよりで、道徳教育推進への取組を紹介している。
- 11/5~7のフリー参観は、3日間で9時間の公開になるため、1学級1授業「道徳の時間」の公開を全校に呼びかけていきたい。
- 「わたしたちの道徳」を活用し、子どもを通して各家庭に「道徳の時間」の学習について情報発信したり、保護者からの欄に返信していただいたりすることで、家庭との連携を図ることに全校で取り組めるよう呼びかけたい。

本校は、創立143周年を迎える歴史と伝統のある学校です。いつの時代も地域、家庭、学校が一体となり教育に励んできました。本年度も、全職員が一丸となり創意ある学校教育を実践します。

平成26年度福島市立瀬上小学校
学校経営・運営ビジョン

学校は、子どもが社会を担う一員としての基礎・基本を身に付けることです。そのため、よさや可能性(能力)を最大限に伸ばし、自己実現を図ることを通し、「生きる力」を身に付けます。

【教育目標】
○よく考え 進んで学ぶ子ども ○心豊かに 助け合う子ども ○強いからだでやりぬく子ども
～ 豊かな心を持ち、気付き、考え、実行するたくましい児童の育成 ～

重点目標
社会規範を大切にし、学ぶ楽しさを感じる子どもの育成

「資料1」

自立

共生

みんなのめあて

- 1 あいさつをしよう。
- 2 くつをそろえよう。
- 3 無言でそうじをしよう。
- 4 ろうかの右側を静かに歩こう。
- 5 目を見て聞こう。目を見て話そう。

めざす瀬上小の子ども

- ◇ 目を見て話す・聞くことができる。
- ◇ 自分の考えを伝えることができる。
- ◇ 最後まで、ねばり強く学習できる。
- ◇ 気持ちを含めてあいさつできる。
- ◇ きまりを守ることができる。
- ◇ 相手のことを考えて行動できる。
- ◇ しっかりと清掃・後始末ができる。
- ◇ 健康を考えた生活ができる。
- ◇ 安全を考えて行動できる。
- ◇ 根気強く運動に取り組むことができる。

北信の子ども5つのやくそく

- 1 元気にあいさつをかわします。
- 2 しっかり話を聞き合います。
- 3 正しいことばづかいをします。
- 4 きちんと時間を守ります。
- 5 進んで掃除をします。

知

徳

体

■：最重点実践事項

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
| <p>○地域の教育力を生かした教育活動の展開</p> <p>□ 地域文化・歴史・環境を積極的に活用し、地域に根ざした特色ある教育を進めます。</p> <p>■ 地域とかがわゆる学習の重視</p> <p>□ 地域の人材や出前講座等を生かし人・もの・こととの出会いをもとに実感を持った学びを進めます。</p> <p>■ 地域の人や出前講座等の積極的な活用</p> <p>□ 地域の行事への</p> <p>■ 地区各種団体等との連携</p> | <p>○ 言語活動の充実による、思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>○ 基礎的・基本的学習内容の確実な定着</p> <p>□ 学習に主体的に取り組むことのできる子どもを育てます。 ・課題を自分のものとしてとらえ、自ら学ぶ意欲を高める手立てを工夫する。 ・自分の考えを整理し、表現する活動を大切にします。 ・互いに考えを出し合い、深めたり広めたりする場を設定する。</p> <p>自分のめあてをもち、共に考え課題解決に取り組むことができる。</p> <p>□ 基礎・基本を身に付けた子どもを育てます。 ・学びを振り返り、整理・評価する場を設定する。(考えを書く場の設定) ・知識の蓄積、感性の育成、語彙の拡充等を目指し、読書の充実を図る。(読書の習慣化) ・家庭学習の習慣化を図る。 ・スキルアップタイムを設定する。(毎週火・木曜日の朝の時間)</p> <p>学年×10分+10分の学習が毎日できる。</p> | <p>○ 思いやりのある心の育成</p> <p>○ 節度ある行動・態度の育成</p> <p>□ 互いのよさを認めあい、相手を思いやる子どもを育てます。 ・自分のよさに気付き自信がもてるようになる。(子どもの望ましい姿を見逃さずに称賛) ・友達のよさを認めることの大切さを実感できるようにする。(友達のよさに気付いたことを称賛) ・返事やうなずきなど、コミュニケーション能力を高める指導をする。</p> <p>心を込めて、返事やあいさつができる。</p> <p>□ 基本的行動様式を身に付け、自分でよく考えて行動できる子どもを育てます。 ・「みんなのめあて」「瀬上小学校のきまり」「北信の子ども5つのやくそく」を基盤に全職員で指導する。 ・自分を振り返り、高めようとする気持ちを育てる。</p> <p>自分でよく考えて行動ができる。</p> | <p>○ 健康や安全についての望ましい態度や習慣の育成</p> <p>○ 進んで体力づくりに取り組む態度の育成</p> <p>□ 健康的な生活を実践しようとする態度と習慣の育成に努めます。 ・望ましい食生活習慣について指導する。(学校栄養士との連携、学級活動の充実等) ・歯の衛生や手洗いの大切さについての指導を学年に応じて行う。(学級活動での計画的な指導と家庭への啓発)</p> <p>ハンカチを身に付け、手洗い・歯みがきがていねいに行える。</p> <p>□ 安全に行動できる能力、態度、習慣の育成に努めます。 ・自転車に乗る時のきまりや道路の歩行のしかたについて、確実に指導する。(交通教室等での実践的指導)</p> <p>「この行動は安全かな？」といつも自分で考えることができる。</p> <p>□ 体力づくりの支援に努めます。 ・体育の時間の指導を充実させる。(全員が6年間で逆上がり、25m完泳、二重跳びを達成)(運動身体づくりプログラムの実施) ・子ども一人ひとりに具体的な目標をもたせ、場を設定して体力づくりに取り組ませる。(カードの活用・記録会の実施)</p> <p>自分なりのめあてを立て、それに向かって継続して運動できる。</p> | <p>○ 力量を高め合う教師集団</p> <p>○ 専門職としての自覚と指導力の向上</p> <p>□ 子どもに教科指導の楽しさや魅力を感じさせる授業を展開します。</p> <p>■ 板書計画・発問の精選</p> <p>□ 学年・学級経営方針やその実施状況を説明し、親身な教育相談や連絡を取り、学級経営を進めます。</p> <p>■ 学年・学級経営ビジョンの作成</p> <p>□ 高い倫理観と自覚をもち、自己目標達めます。</p> <p>■ 校内服務倫理委員会の活性化</p> |
|---|---|---|--|---|

学年・学級経営

教育活動を支える取組

- 学年・学級経営運営ビジョンの設定
・重点目標の学級化
- 一年間を見通した教科指導の充実と教材研究の深化
・各教科・領域間の関連の見直し
- 道徳・生徒指導の学級課題把握
・興味関心・よさ・性格行動等の特性の把握
・支持的な学級風土づくり

- 幼・保・小・中連携授業の推進
・11年間の成長を見通し、北信地区各学校と連携した指導・実践
- 特別支援教育の充実
・一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実
- 安心・安全な学校づくり
・児童の安心・安全確保を最優先にした組織体制と早期対応

□ 現職教育の充実・活性化
研究主題 「人とよりよくかかわる道徳教育の推進」
— 道徳の時間における資料の効果的な活用を中心に—

◆全教育活動のスローガン◆

◇気付く

思い・気付き・発見
疑問・ひらめき・発想・
迷い等を生む働きかけ

◇考える

思考・説明・質問・調査・
相談・試行・体験・表現・判
断等を生む働きかけ

◇実行する

まとめ・解決・実践
・方向付け・発表・
報告・完成等を生む
働きかけ

道徳教育全体計画

「資料2」

教育目標

1. 道徳教育の目標

- (1) 自分の生き方を見つめ直し、明るくよりよく生活することができる子どもを育てる。
- (2) 思いやりの心を持って、助け合う子どもを育てる。
- (3) 時と場所に応じて、正しく判断し、行動する子どもを育てる。

2. 道徳教育の方針

- (1) 教師と児童、児童相互の人間関係を深める。
- (2) 日常生活の基本的行動様式をはじめとする道徳的実践の徹底を図る。
- (3) 家庭・社会と緊密な連携を保ち、実際生活に即した指導に努める。
- (4) 一人ひとりの児童の実態を十分に把握し、自己肯定感を高める指導に努める。

3. 道徳教育の指導の重点

◆学校全体◆ **思いやりの心を育てよう。**

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎ 友達と仲良く助け合う。 ◎ 約束やきまりを守る。 ◎ 気持ちのよいあいさつをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 相手のことを思いやり、親切にする。 ◎ 約束や社会のきまりを守る。 ◎ 誰に対しても心を込めてあいさつする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 互いに信頼し、協力し助け合う。 ◎ 自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たす。 ◎ 時と場をふまえ、心を込めて礼儀正しいあいさつをする。 |

4. 各教科・特別活動・総合的な学習及びその他の教育活動との関連

| 各教科の指導 | 特別活動 | 生徒指導 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎ 各教科の学習活動において道徳性を高める指導 ◎ 言語活動の充実 <p>《国語》 ・美しい言語感覚と豊かな心情を養う。</p> <p>《社会》 ・郷土や国を愛する心を育てる。</p> <p>《算数》 ・筋道を立てて考え処理する能力を育てる。</p> <p>《理科》 ・生命を尊重し、自然を愛する豊かな心情を育てる。</p> <p>《生活》 ・直接経験を通して自立への基礎的能力を養う。</p> <p>《音楽》 ・美しいもの、崇高なものを尊ぶ心情を育てる。</p> <p>《図工》 ・表現活動を通して、美しいものに感動する心を育てる。</p> <p>《家庭》 ・家族の一員として、協力性、家庭愛を育てる。</p> <p>《体育》 ・健康や安全の大切さを理解させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 心身の調和のとれた発達、個性の伸長、自主的実践的な態度の育成 <p>《学級活動》 ○ 児童の自主性、協調性の伸長を図る。</p> <p>○ 好ましい人間関係を育て、健全な生活態度を育てる。</p> <p>《児童会活動》 ○ 集団の一員としての自覚を持たせ、協力的・奉仕的な態度の育成を図る。</p> <p>《クラブ活動》 ○ 個性の伸長、創意工夫の資質の向上を図る。</p> <p>《学校行事》 ○ 総合的な学習の場としてそれぞれの行事内容にそくし、道徳性の指導を意図的にして実践力を育てる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 基本的行動様式の確立 <p>○ 児童一人ひとりが自分のよさや可能性を最大限に発揮できるように努める。</p> <p>○ 日常の基本的生活習慣の指導を重視するとともに問題行動の早期発見・早期指導に努める。</p> <p>○ 安全指導・防災訓練を計画的に行うとともに日常生活における安全管理・指導の徹底に努める。</p> <p>○ 心身の障害を持つ児童の教育については、全職員が協力し、交流を深めながら指導の充実を図るように努める。</p> |
| 総合的な学習 | 家庭や地域社会との連携 | 全校集会 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な体験を通じた道徳的価値の高揚に努める。 ・心豊かな人間としての在り方を考える態度を育てる ・生き方について自らを見つめる体験活動を重視する ・発達段階に応じて情報モラルを取り扱う。 <p>外国語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化の理解 ・自国の伝統文化の理解 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 家庭や地域社会と連携・協力し、道徳実践の場と機会の拡充を図る。 ○ 道徳教育の理解と推進を図る。 ・道徳の授業参観を実施 ○ 家庭の教育力の向上を図る。 ・教育相談、PTAの研修 ○ 地域ぐるみのふれあい運動を奨励し、協力する。 ・あいさつ運動 <p>・「心のノート」の活用 ・学校便り ・ボランティア活動 ・クリーン活動</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が順番に心温まる話を全校生の前で話す。 |

道徳の時間の指導
 道徳的実践力の育成
 道徳的理解・判断・心情の深化
 道徳的意欲と態度の向上

学級経営
 教師と児童および児童相互の人間関係の深化に努める。
 学級ごとに、道徳教育の指導の重点「思いやりの心を育てよう」に関する内容を積極的に指導する

道徳教育全体計画(2) 教科・領域等との関連 第2学年 「資料3」

| | 領域 | | 教科 | | | | | | | | | | 領域 | | | | | | | |
|---|-----------------|-------------------------------------|----------|-----------------------------|------------|-------------------------------|---------|-------------------------------|---------------------------------|--------|-----------------------------------|----------|-----------------------|-----------|--|----------|-----------------|----------|-----|--|
| | 道徳 | 月 | 国語 | 月 | 算数 | 月 | 生活 | 月 | 音楽 | 月 | 図画工作 | 月 | 体育 | 月 | 特別活動 | 月 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 学級活動(2) | 月 | 月 | | | |
| 1 | (1) 節度ある生活態度 | じぶんで オマケ(かみかみ) かいもの おはあちゃんのお手玉 | 4 5 11 1 | 名前を見てちょうだい かさこじぞう | 10 2 | 時計を生活に生かそう | 4 | あしたへジャンプ | うたでどもたちのわをひろげよう | 4 | パレードパレード | 2 | 集団行動 | 4 | むしばをふせこう 休みの日のすこしか だんだんでもたべよう | 6 7 12 9 | 入学式 始業式 終業式 修了式 | 4 7 12 3 | | |
| | (2) 勤勉努力 | さかあがり できまよ ぼくは 「のび太」 だ | 7 2 | たけのこ ぐん だよ | 4 6 | かけ算 | 10 | あしたへジャンプ | | | | | 固定施設遊び かけっこ・リレー遊び 水遊び | 4 4 7 | 2年生になって ぶんどうかい | 4 5 | 運動会 学習発表会 | 5 10 | | |
| | (3) 善悪の判断、勇気、明朗 | むすねの ねい ねい ねい | 6 11 | 名前を見てちょうだい | 10 | | | | 名前を見てちょうだい | 6 11 | | | 水遊び | 7 | | | | | | |
| | (4) 正直誠実、明朗 | 金の おの さるへい 立てん | 5 10 | かさこじぞう | 12 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | (1) 礼儀 | いそいで いたも 「あいづつ」 いて いは | 4 9 | 話したいな、とく 「いなか」 「おもちやまつり」 | 4 9 1 | 1年生に学校をあんないしよう せの上学つくをたんけんしよう | 4 9 | 1年生に学校をあんないしよう せの上学つくをたんけんしよう | うたでどもたちのわをひろげよう | 4 | | | | | 話の聞き方・話のしかた ともちのよいあいさつ | 10 10 | 遠足 | 6 | | |
| | (2) 思いやり、親切 | かっぱ わくわく くまの だからちの 学きあうえの さるへい | 3 5 11 | かさこじぞう かくれんぼ おまじい 「おもちやまつり」 | 12 4 5 1 3 | 1年生に学校をあんないしよう せの上学つくをたんけんしよう | 4 4 12 | 1年生に学校をあんないしよう せの上学つくをたんけんしよう | 音楽を楽しもう だのの音をきこよう | 2 4 12 | とびだせがようし のぼりたりくつ こんなかげとつき | 6 9 10 | 固定施設遊び ボール遊び | 4 6 | みんななかよく | 9 | なかよし集会 | 6 | | |
| 3 | (3) 信頼友情 | ひろたビケット 森の ともち | 7 10 | かくれんぼ お手紙 「おもちやまつり」 | 4 5 1 3 | はこを作ろう | 2 | 1年生に学校をあんないしよう せの上学つくをたんけんしよう | はくのもとまりを かんじのうた リス あいうえおな音にし | 5 9 10 | ぬのであそぼう とびだせがようし のぼりたりくつ こんなかげとつき | 4 6 9 10 | かけっこ リレー遊び ボール遊び ゲーム | 4 10 11 2 | みんななかよく | 9 | 学習発表会 | 10 | | |
| | (4) 感謝 | じぶんが しんこうま | 3 | 「ありがたう」を つたえよう | 9 | | | せの上学つくをたんけんしよう | | | | | | | | | | お別れ集会 | 3 | |
| 4 | (1) 生命の尊重 | たんじょう日 ゆきひのうの ライフ | 7 12 3 | たんぽぽ | 4 | | | | | | | | 水遊び | 7 | ひなんくんれん してんしゃにのると きぎまり ほうしやせんについで かんがえよう | 5 6 7 | 各種健康診断 避難訓練 | 4 4 | | |
| | (2) 自然愛・動植物愛護 | ごえんの 虫はりぼん げんきにそとで、ミニマト ぼくが 大きくなったら | 6 9 2 | かくれんぼ たんぽぽ ビーバーの 虫は 道具をい | 4 4 11 2 | 百より大きい数を しらべよう 千より大きい数を しらべよう | 6 5 6 1 | 春をみつつけよう やさいをそだてよう 生きものごなをよ | 昔のたかさに 気をつけて だまを しようすを おもいうかべよう | 6 12 | どんなんふうつ さかいりの ひみ がお かお 顔 | 5 7 2 | | | | | 遠足 | 6 | | |
| | (3) 敬げん | 七つのはし カラスの 中の おさま | 12 2 | かさこじぞう | 7 | 百より大きい数を しらべよう 千より大きい数を しらべよう | 7 1 | ドリミであそぼう リスにのってあそぼう | | | おなじだけとみん おなちがう | 6 3 | 集団行動 水遊び | 4 7 | ストープのあたりかた | 11 | 遠足 | 6 | | |
| 5 | (1) 公徳心、矜持の尊重 | ごえんの 花 さくらい ハンチ かくした ボール | 4 10 1 | 手紙で知らせよう ニャーゴ | 5 3 10 | 時計を生活に生かそう かけ算 | 4 6 | はるがいつぱい ときどきわくわく ちたんけん | | | | | | | | | | | | |
| | (2) 勤労 | おもいで いっぱいの なつ休 | 8 | ビーバーの 大工事 | 11 | | | あしたへジャンプ | | | はーい いらいらっ しゃい | 11 | | | そうじのしかた | 5 | 愛校活動 | 5 | | |
| | (3) 家族愛 | だつて おいちゃん だもん あとさん ねは、おれん | 9 1 | ビーバーの 大工事 | 11 | | | | | | たのしくつかえる マウネット | 4 | | | わたしたちの 体とせ いちよう | 12 | | | | |
| | (4) 愛校心 | 「三つみ、まてまて」 かつつ とんがり、 ある 校 じょう | 6 12 | 思い出ブックを作ろう | 2 | | | | うたでどもたちのわをひろげよう | 4 | | | | | | | | 愛校活動 運動会 | 5 5 | |
| | (5) 郷土愛 | 町の ひみつ わかたよ | 10 | 言い伝えられてい るお話をしろう | 9 1 | | | | はくのにのって リス △をうとう | 9 | いろいろそめて みよう | 9 | | | | | | 盆踊り 初午行事 | 7 2 | |

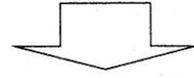
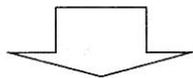
子どもの姿と具体的な手だて 第2学年

研究価値（思いやり・親切、信頼・友情）
から見る子どもの実態

道徳の時間から見る子どもの実態

- 優しく、素直な子どもが多い。学習活動や係活動を通して、助け合うことの大切さや心地よさもある程度経験している。
- 友達関係で、自分のわがままを我慢しようと努力する姿が見られる反面、大部分の子どもに幼児期の自己中心性が残り、相手の非は訴えるが自分の非に気づけないことが多々ある。
- 自分のしたいことを優先し、思いつきや相手の気持ちに考えの及ばない行動が見られることもある。

- 自分の思いを持ち表現しようとするが、相手にわかるように伝えることが難しい。
- 自分の考えを表現することで精一杯になり、友達の気付きに耳を傾けて受け止めたり、共有したり深めたりすることが難しい。
- 資料中の登場人物に共感したり批判したりしながら目指す道徳的価値に近づくことはできるが、自分の生活を振り返り、できた自分やできない自分を見直すことは難しい。



道徳の時間において求める子どもの姿

- 資料の登場人物の気持ちを考え、自分の感じ方を友達に伝えようとする子ども
- 自分の考えを表現したり、他者の考えを聞いたりする中で、道徳的価値について考えることができる子ども
- 資料の中の道徳的価値について、自分自身を振り返ることができる子ども



具体的な手だて

- 子どもが登場人物を共感的に捉えたり、道徳的価値について考えたりすることができるように、実態にあった資料の選択をする。
- 資料の世界に同化できるよう、場面絵や紙芝居、ペープサートなどを用いて資料提示を工夫する。
- 話し合い活動を工夫する。
(学習形態の工夫、動作化・役割演技の活用、構造的な板書 など)
- 価値に照らし合わせて自分自身を振り返らせるための手立てを工夫する。
(実態調査を基にした意図的指名、アンケート、道徳コーナーの掲示 等)

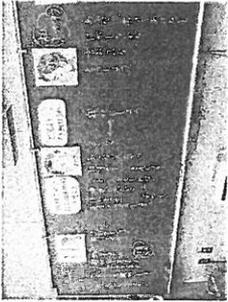
「道徳の時間」の充実

1. 第1回校内授業研究会(4-4)

【資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて】

- ◎ 子どもたちが場面の状況を理解して主人公の気持ちを考えられることができるように、場面絵や心内語を提示する。(手だて1)
- ◎ 子どもたちが自分の意志を表示し、立場を明らかにして学習を進めることができるように、席の近い子ども同士で考えや思いを交流する活動を設定する。(手だて2)

【子どもたちの姿】

- 場面絵と心内語を提示した板書(場面絵)
 
 - 電車に乗ることや目の不自由な人を見かけることの経験があまりない子どもたちが、場面の状況をすぐに理解できるかを心配したが、主人公の表情や吹き出しを手がかりにして、主人公の心の葛藤を話し合い、価値に迫ることができた。
 - 席の近い子ども同士で考えや思いを交流する学習形態は、他教科の学習でも取り組んでいることから、子どもたちは安心して自分の考えを話す姿が見られた。

2. 第2回校内授業研究会(2-4)

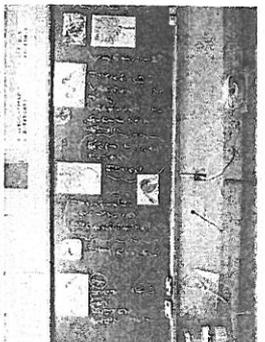
【資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて】

- ◎ 話の内容を理解するとともに、小鳥の心の動きを場面ごと考えられるように、紙芝居として資料を提示する。(手だて1)
- ◎ 嵐の中、病気で寝ているりすの家の向かって飛び立つまでの小鳥の葛藤する心情共感させるために、役割演技を取り入れる。(手だて2)

〈役割演技で小鳥の心情を話す〉【子どもたちの姿】



〈紙芝居を生かした板書〉



- 教師が小鳥にインタビューする形で役割演技を行った。嵐の中で飛び立つ恐怖やそれでも病気のりすのためにぐみの実を届けてあげたいという心情をその子なりの言葉で語る子どもたちの姿が見られた。自分の行為の裏付けがないことが多し低学年の児童にとつてこの手法を有効にするためには、一人の子の演技について他の子に問いかけ、行為の裏付けを見つけていっていくことも必要である。

- 紙芝居のよさは、情報の量を調整できることにある。子どもは、資料の内容をよく理解してあったと言え、場面絵として板書に生かしたことも構造的な板書を工夫するために有効であった。さらに、紙芝居の提示では、子どもたちの表情を見ながら問をかける等の工夫もしていくと効果的である。

「9/30 ブロック事前授業(6-1)」より

主題名 真の友情・資料名 ロレンソンの友だち

【資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて】

- ◎ 今までの自分の友達関係や友情についての考えを振り返ることができるようにするために、ワークシートを活用する。
- ワークシートの記述を事前調査のアンケート結果と比較すると、友達の様々な考え方に触れ、「友情」についての定義が広がったり考え方が深まったりしている姿が見られた。

事前アンケート

～友達がいってよかったなあと思ったのは、どんなときですか。

- 困っているときに助けてくれた。(仕事、勉強、いじめ) 15人
- 悩んでいるときに話を聞いてくれたり、一緒に考えたりしてくれた。5人
- 失敗をしたり、悲しいことがあったりしたとき、励ましてくれた。4人
- 体調が悪いとき、けがをしたときに「大丈夫。」と声を掛けてくれた。4人
- 一緒に話したり、笑ったり、遊んだりして、楽しいとき。4人
- (一人じゃないって思う。)

ワークシートに記述された振り返りから

- 3人の親友からいろいろな考え方が出たけど、ぼくはニコライが友達として一番いいと思いました。今日は「友情」の勉強ができたけど、ぼくには、まだちょっと難しいと思いました。
- 3人の友達、意見がバラバラだけど、大切なのはみんなの気持ちを分かち合うことだと改めて思いました。「友情」は簡単に言うけど、とても難しい。
- ぼくは、サバイユとニコラスの考え方に納得しました。悪いことは悪いことだと思いましたが、でも、やっけないことは親友として信じてあげなければならぬと思えました。親友がもし、自分のことを信じてくれなくて裏切られたらそれは親友ではない。ぼくは、やっけないと言ったら信じてあげたい。
- ぼくは、今日の話を聞いてすごく悩んだけど、友達が悪いことをしていいから、しっかか教えたい。それが本当の友達だと思えた。でも、他の人の意見もすごくいい考えだと思えました。

「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業実践から①

1 授業の概要

- (1) 主題名 思いやりやの心 2-(2) 思いやり・親切
- (2) 資料名 クリスマスのおくりもの(ふくしま道徳教育資料集 第1集 いきぬく・いのち)
- (3) 本時のねらい 他人の痛みに共感し、思いやりやの心をもって行動しようとする態度を育てる。
- (4) 資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて



子どもたちが少人数で話し合う様子

【手だて1】 あかりさんの気持ちを考える場面です、子どもたちが自分の気持ちを率直に出すことができると、少人数で話し合う活動を設定する。

【手だて2】 子どもたちが思いやりについての経験を振り返ることができよう、書く活動を設定する。

(1) 手だてについて

ア 手だて1について

少人数のグループ(4人)での話し合い活動の中で、子どもたちが、あかりさんの自己犠牲の精神や福島の人々を思う気持ちを想像し、表出していく姿が見られた。またその意見は、全体の話し合いへと生かされた。それらのことから、本手だての意図は、概ね達成されたと考えられる。

イ 手だて2について

子どもたちはそれぞれ、自分の経験を想起し、家庭や学校でのことを中心に、友達や家族に親切にしたこと、親切にされたことを綴ることができた。書く活動を継続して設定してきたことで、この手だてが自己を振り返るための手段として子どもたちに浸透してきていると考えられる。



思いやりやの経験について書く姿

(2) 資料について

本資料が、本時の内容項目(思いやり・親切)を振り返るために有効なものであると考えるのは、以下の理由からである。

- ・ 子どもたちも経験した、東日本震災が背景にあること。
- ・ 同年代の小学生から向けられた思いやりやの心であること。
- ・ クリスマスプレゼントがほしいという気持ちに共感するとともに、プレゼントを我慢しようとする気持ちを想像できること。

「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業実践から②

1 授業の概要

- (1) 主題名 心を開く友情 2-(3) 信頼・友情
- (2) 資料名 舞台の上で(ふくしま道徳教育資料集 第II集 敬愛・つながる思い)
- (3) 本時のねらい 友達を理解し信頼し合い、互いに助け合おうとする心情を育てる。
- (4) 資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて

【手だて1】 子どもたちがそれぞれ意志表示をし、立場を明らかにして学習を進めることができるように、席の近い子ども同士で考えや思いを交流する活動を設定する。

【手だて2】 子どもたちが登場人物の気持ちの変化に気付き、その心情について想像することができるように、登場人物の写真提示する。

2 考察

(1) 手だてについて

ア 手だて1について

ほとんどの子どもたちが、登場人物(ぼく)の気持ちに寄り添い、歌舞伎をやりたいと思わなかった気持ちや気持ちが進まないのに役を引き受けてしまった心情を考えることができていた。それらの考えを隣同士で交流する活動を通して、子どもたちは自信をもち、意欲的に考えを表出することで、自分の立場を明らかにすることができた。

イ 手だて2について

子どもたちは、登場人物(ぼく)の前半部分の前の向きになれない気持ちに気付くことができた。そこで、登場人物(ぼく)が友達と化粧をして写真を撮示したことで、子どもたちは登場人物の気持ちの変化に気付き、それが友達と信頼関係が築かれたことによるものだという考えにつなげていった。

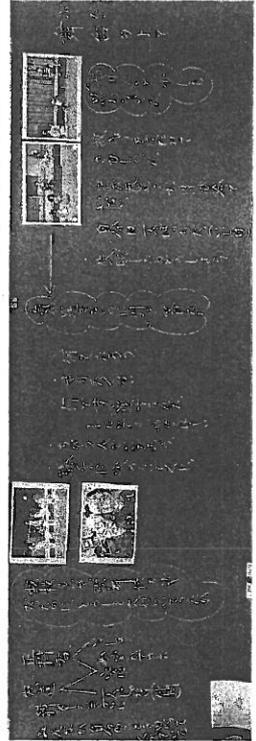


子どもたちが隣同士で交流する場面

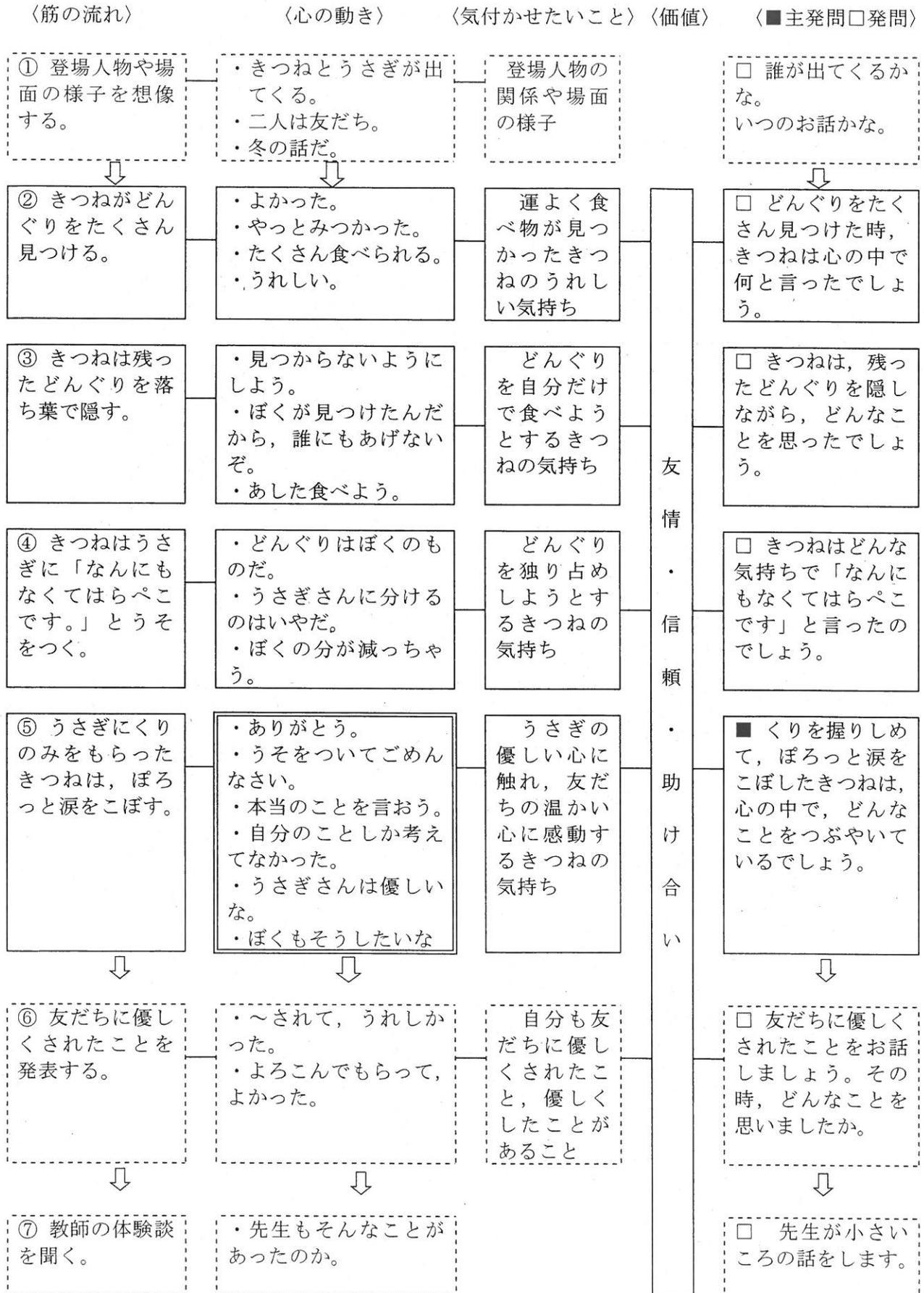
(2) 資料について

本資料が、本時の内容項目(信頼・友情)を振り返るために有効であると考えるのは、以下の理由からである。

- ・ 自分たちの居住する福島県内の文化的な話題が含まれていることで、子どもたちにとって資料が身近なものに感じられたこと。
- ・ 子どもたちも経験した、東日本震災が背景にあること。
- ・ 1学年～3学年を含めると、学級から転出した児童及び転入した児童が複数いたため、主人公(ぼく)及び、主人公を迎える友達の気持ちに寄り添うことができたこと。

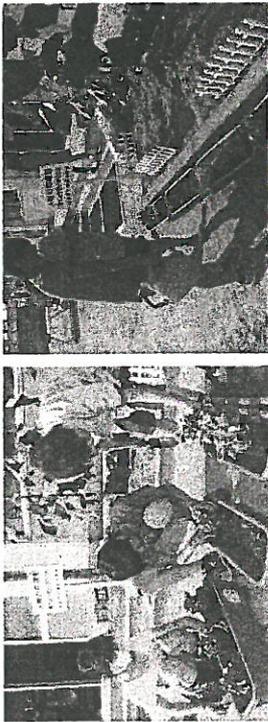


本時の板書



「人権の花」運動への参加…児童会栽培委員会

◎ 人権問題とは、命を大切にすることを。いじめ問題や子どもへの思いやりや他人への思いやりが少なくなっているために起こること。いじめ問題や子どもへの思いやりや他人への思いやりが少なくなっているために起こること。いじめ問題や子どもへの思いやりや他人への思いやりが少なくなっているために起こること。いじめ問題や子どもへの思いやりや他人への思いやりが少なくなっているために起こること。



すてきな花を育て、みんなもやさしい心になってほしいな。

心をこめて、お世話をしよう。

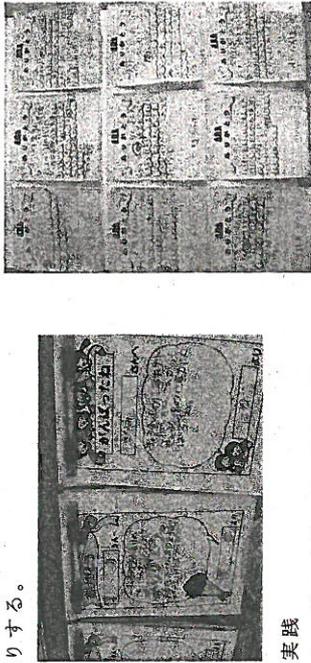


みんなが、花をたくさん見てくれるように、ポスターを作ってお呼びかけよう。

○ 人権の意味を理解し、進んで「善い行い」や「やさしい心を育てること」を呼びかける姿が見られた。

道徳コーナーづくり

◎ 友達の良いところを発見！ ありがとう、うれしかった感謝の気持ち。がんばったね、すごいなあ…帰りの会でメッセージを交換したり、カードに書いて掲示したりする。



◎ 道徳的实践
下級生と一緒に愛校活動(除草作業)



ちよっと待って！ふくろを開いてあげる。
草は、この中に入れてね。

草むしり、おつかれさま。
いっしょに手あらい、うがい
をしようね。

◎ 授業の足跡…考えたこと、友達の発言、書いたこと



【ワークシートに書いた振り返り】

- 「親切」はとてもしらしいと思った。人に親切にされた人も親切に…と、経験を生かしてとんだみんなが親切になっていくからです。
- 親切について、ほくは二つのことを思いました。一つ目は、だれにでもやる。二つ目は、迷わずにすぐやるということです。
- 親切は、年をとるほど、親切の範囲が広がると思っています。親切は相手の気持ちを考えて自分が行動することだと思えます。

「わたしたちの道徳」の活用

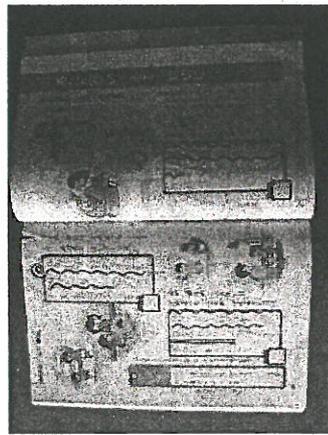
【思いやり、親切についておうちの方から】

今日書いたことを、だれかのために本当にやっておいてください。どんな気持ちになるかな？

周りの人の気持ちを考えられるようになるとうれしいです。

いつもやさしい心とやさしい目で見ると、人にやさしくできると思うよ。

困っている人がいたら、進んで親切にできる人に育ってほしいと願っています。



身近なところにあることです。一人でも多くの人に、優しい気持ちで何かをしてあげられるといいね。

第4学年1組道徳学習指導案

平成26年 10月8日(水) 3校時
指導者 津田 智子 場所 4年1組教室

- 1 主題名 2-(2) 思いやり, 親切 思いやりの心
- 2 資料名 クリスマスのおくりもの (福島県版 読み物資料 小学校編)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

どんな人間でも弱さを持っている。すべての人々は、それをなんとか克服しようと努力している。しかし、自分が思ったとおりに、それらのことがなし遂げられるわけではない。だからこそ、互いに相手の立場に立って、だれに対しても思いやりの心をもって親切にすることが望まれる。

(2) 児童の実態

子どもたちの多くが、学校生活の中で友達から親切にされ、喜びを感じた経験を持つ。また、困っている友達に対して思いやりの気持ちを持って接する子どもたちの姿が見られるが、「だれに対しても」思いやりの気持ちを持って親切にできる児童は少ない。

また、東日本大震災でさまざまな体験をした中で、直接親切にされた事例を持っており、目に見えない方からのいたわりや慰め・励ましに助けられたことも多い。

(3) 資料について

東日本大震災に実際にあったクリスマスにまつわるエピソードである。県庁に京都の小学生から手紙が届いた。被災した同年代の子どもたちへの思いやりの心が込められている手紙を見た県庁職員たちは少女の純粋な心に感動する。やがて、被災した小学校にサンタからのプレゼントが届くという話である。自分の幸せを困難な状況にある人々と分かち合おうとする少女の思いやりの心を通して、人間愛の精神を考えさせたい。

(4) 本時の指導にあたって

まず導入では、親切にしてもらった経験などについて日常生活を想起させる。そこから本時の資料を読み聞かせる。

資料を読んで話し合う活動では、黒板に場面絵を提示し、子どもたちが場面の状況を理解して主人公の気持ちを考え、本時で扱う価値に迫れるようにする。また、席の近い子ども同士で考えや思いを交流する活動を設定した上で、それぞれの思いを全体で深められるように話し合い活動を進めていくようにしたい。

「思いやり」の精神について経験を振り返る場面では、「書く活動」をもとに自分と主人公の行動を照らし合わせながら考えることができるようにさせたい。

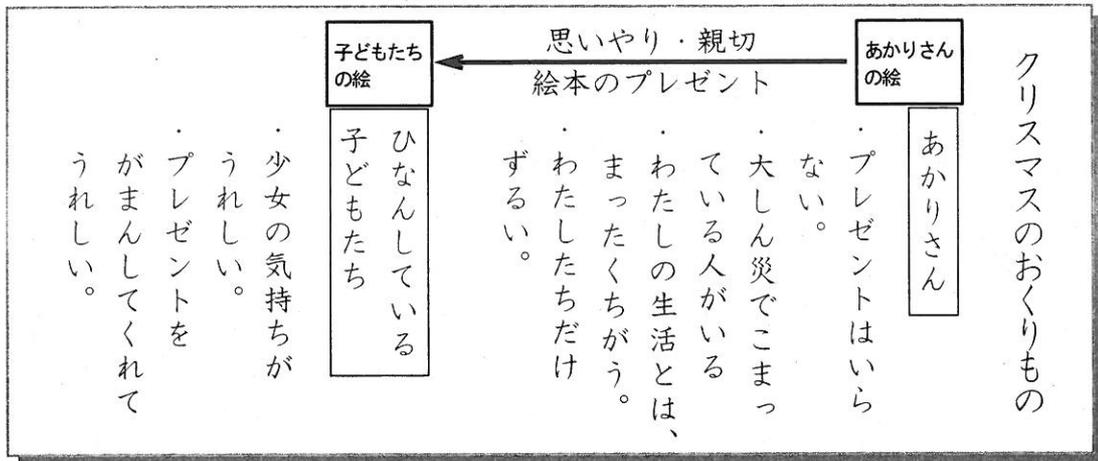
【資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて】

- ◎ あかりさんの気持ちを考えるために各自が自分の考えを率直に出すことができるように、少人数で話し合う活動の場を設定する。(手だて1)
- ◎ 思いやりについて自分の経験を振り返ることができるように書く活動を取り入れる。(手だて2)

4 本時のねらい

他人の痛みに関心し、思いやりの心を持って行動しようとする態度を育てる。

5 板書計画



6 指導過程

| 段階 | 学習活動・予想される反応 | 時間 | ◎ ねらいを達成するための手だて ○ 教師の支援 評価 |
|----|---|----|--|
| 導入 | 1 親切にしたり、親切にしてもらったりした経験を交流する。 (1) 日常生活の中で親切にしたり、親切にしてもらったりした経験を発表する。 ・ おばあさんの荷物を持ってあげた。 ・ 怪我をした時に助けてもらった。 | 5 | ○ 親切にしてよかった経験や、親切にってもらってよかった経験について交流し合い、資料への導入を図るようにする。 |
| 展開 | 2 資料を読んで話し合う。 (1) あかりさんが、サンタクロースに手紙を書いている時の気持ちを考える。 ・ 大震災で大変 ・ 私は何もできない ・ 避難している子どもたちももとの学校に行けるようになってほしい。 ・ 私のクリスマスプレゼントはいらない。 (2) サンタクロースから絵本をもらった避難している子どもたちの気持ちを考える。 ・ 絵本をもらってうれしい。 ・ 女の子のやさしさもうれしい。 | 25 | ◎ あかりさんの気持ちを考えるために各自が自分の考えを率直に出すことができるように、少人数で話し合う活動の場を設定する。(手だて1) ○ 状況を把握しやすいように板書を工夫する。 ○ 知らない相手の立場を押し量り、自分の思いを相手に届けようとする主人公の姿から、相手の立場や思いを想像することが温かい人間関係を築くことになることに気付かせたい。 |
| 閉 | 3 思いやりの経験を振り返る。 (1) 自分の経験を振り返る。 ・ 病気のおばあちゃんに手紙を書いて励ました経験 ・ 転んで困っていた知らない人に声を掛けて助けた経験 | 10 | ◎ 思いやりについて自分の経験を振り返ることができるように書く活動を取り入れる。(手だて2) 相手を思いやり、親切にしようとする意欲を高めているか。 |
| 終末 | 4 本時の価値にかかわる、教師の経験を聞く。 ・ 教師が大雪の道で助けてもらってうれしかった経験 | 5 | ○ 教師が大雪の道で助けてもらってうれしかった経験を伝え、思いやりの心をもって行動しようとする意欲を高めるようにする。 |

7 成果と課題

- 少人数グループでの話し合いの場の確保は、全員が自分の考えを表出することができたばかりでなく、教師も机間指導をしながら、聞くことを中心に話し合いに参加することができた。
- 書く活動は、自己を振り返るための手段として浸透してきていると感じる。さらにその後の話し合いでの意図的指名に生かすことができたため、話し合いが深まった。
- 書く時間の確保は難しいが、授業構想をしっかりと持ち、振り返りの内容に広がりや深まりを持たせられるよう配慮したい。

第4学年4組道徳学習指導案

平成26年 11月8日(水) 3校時
指導者 黒澤 建一 場所 4年4組教室

- 1 主題名 心を開く友情 2-(3) 信頼・友情
- 2 資料名 舞台の上で (ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集 敬愛・つながる思い)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

よりよい人間関係を築くためには、お互いを認め合い、助け合い、理解し合いながら、信頼感を育てることが大切である。それがあって心の安定が図られ、楽しい生活が送れるのである。友達同士いっしょに行動することによって、互いを理解すると主に、助け合うことの大切さを常に感得していくことが大切である。

(2) 児童の実態

小学校中学年の時期は、集団での活動がこれまでになく盛んになる時期である。本学級の子どもたちはみんな、集団生活の中で友達から親切にされ、喜びを感じた経験を持つ。また、困っている友達に対して思いやりの気持ちを持って接する子どもたちの姿が多く見られるが、「だれに対しても」思いやりの心を持って親切にできているわけではない。

また、東日本大震災やその後の生活の中で、避難のために学級から転出した児童及び転入してきた児童が数名いたという経験をしている。新しい生活に向かう立場と新しい友を迎える立場でそれぞれに友達の大切さを感じた事例を持っている。

(3) 資料について

震災のショックで笑うことを忘れた転校生が、何とか元気を取り戻してほしいと願う受け入れ側の友達と一緒に「子ども歌舞伎」を練習することで、少しずつ笑顔を取り戻していく。やがて、友達の一生懸命さや友情に触れ、自分も負けてはいられないと奮起していく話である。新しい環境になかなかなじめずにいる転校生が伝統芸能を通して徐々に仲間となっていく姿から、友達の大切さを再認識させるのに適した資料である。

(4) 本時の指導にあたって

まず導入では、友達の言葉や行為で元気が出た経験などについて日常生活を想起させる。そこから本時の資料を読み聞かせる。

資料を読んで話し合う活動では、黒板に登場人物の写真を提示し、子どもたちが子ども歌舞伎や資料の内容を理解して主人公の気持ちを考え、本時で扱う価値に迫れるようにする。また、席の近い子ども同士で考えや思いを交流する活動を設定した上で、主人公の気持ちの変化について全体で深められるように話し合い活動を進めていくようにしたい。

「信頼・友情」について自分自身を振り返る場面では、友達がいてよかったなど思った体験を振り返り、友達の大切さを再認識することができるようにさせたい。

【資料を効果的に活用しねらいを達成するための手だて】

- ◎ 子どもたちがそれぞれ意思表示をし、立場を明らかにして学習を進めることができるように、席の近い子ども同士で考えや思いを交流する活動を設定する。(手だて1)
- ◎ 子どもたちが登場人物の気持ちの変化に気付き、その心情について想像することができるように、登場人物の写真を提示する。(手だて2)

4 本時のねらい

友達を理解し信頼し合い、互いに助け合おうとする心情を育てる。

【県中地区】 玉川村立須釜中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

| | |
|---------------------|---|
| 学 校 名 | 石川郡玉川村立須釜中学校 |
| 所 在 地 | 石川郡玉川村大字南須釜字奥平290 |
| 校 長 名 | 石 井 直 人 |
| 学校の教育目標 | 【自立】 志をもって学び、学力を高める生徒 【剛健】 心身ともに健康で最後までやり抜く生徒 【友愛】 互いに敬い切磋琢磨する生徒 |
| 学級及び生徒数 | 3学級 72名 |
| 道徳教育にかかる 取り組みの概要 | 道徳教育の推進にあたっては、豊かな人間性や社会性を育成するため学校教育全体を通して次の点に重点をおいて道徳教育を実践する。 ①道徳教育の充実 ○生き方を振り返る道徳の時間の指導を充実させる。 ②豊かな心の醸成 ○目的を明確にした体験的な活動を充実させる。 ③より良い人間関係の育成 ○他の人格や意見を尊重する態度を育成する。 ④目標設定と実現への支援 ○様々な領域での目標実現のための方法を助言し、励ます。 |

2 研究テーマ

| |
|--|
| <p>◎研究主題</p> <p style="text-align: center;">『自他のよさを認め、自ら判断し、より良く生きようとする生徒の育成』</p> <p>○研究副主題</p> <p style="text-align: center;">「自己決定を導く資料提示と発問の工夫を通して」</p> |
|--|

3 テーマ設定の理由

福島県教育委員会より道徳教育推進校の指定を受け、本校の道徳教育の方針を定めるため、道徳教育の全体計画及び別業、年間指導計画を整備した。

道徳意識調査（平成26年6月実施）の結果を見ると、①「道徳の時間の勉強は好きですか」②「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定的に答えた生徒の割合が、それぞれ26%、30%と多かった。

資料の提示や発問を工夫して道徳の時間の学習をさらに充実させることにより、生徒は道徳的価値を主体的に捉えて自分の生き方を見つめ、やがて道徳的実践力が高まっていくものと考え、本主題を設定した。

【どのような子ども像を目指して道徳教育を推進するか】

◎自他の生命を大切にし、思いやりの心を育成する。

【道徳教育を推進する上でのポイント】

○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心を持つ。

【重点内容項目】 2 - (2) 3 - (1)

4 研究計画

| | |
|--------|--|
| 4 月 | ・職員会議（道徳教育推進についての展望） |
| 5 月 | ・道徳教育全体計画及び別葉、年間指導計画の修正 ・道徳教育指導者養成研修受講 |
| 6月13日 | ・職員会議（研修組織と研修の方向性） |
| 6月19日 | ・企画委員会（道徳意識調査について） |
| 6月20日 | ・第1回意識調査 ・指導案作成並びに検討 ・道徳コーナーの設置検討 |
| 6月30日 | ・第1回意識調査分析完了 |
| 7月16日 | ・第1回要請訪問（齋藤） |
| 7月25日 | ・計画書提出 |
| 夏季休業 | ・1学期研究実践のまとめ ・学習会の開催 ・第2回要請訪問に向けた指導案作成並びに検討 |
| 9月16日 | ・第2回要請訪問（鈴木知） |
| 9月22日 | ・講演会(ゲストティーチャー)※講師：アクアマリンふくしま |
| 10月15日 | ・第3回要請訪問（大越） |
| 10月23日 | ・講演会(ゲストティーチャー)※講師：福島テレビ 浜中順子様 |
| 11月18日 | ・公開授業並びに研究協議（3分科会） （鈴木知・大越・齋藤） |
| 11月25日 | ・第2回意識調査 |
| 12月 2日 | ・第2回意識調査分析完了 |
| 3学期 | ・研修の成果と課題の確認 ・研究紀要作成 ・研究の発表 ・次年度の研修へ向けた検討 ・報告書の提出（1月23日） |
| 年 間 | ・道徳授業づくり ・各教科、特別活動等における道徳教育の実践 |

5 生徒の実態及び地域の課題

素直で穏やかな生徒が多い反面、幼稚園・小学校・中学校では学年1クラスで、固定化された人間関係の中で生活しているために、生徒の自発的な行動やリーダーの育成が必要である。

身だしなみや挨拶、言葉遣い、整理整頓、時間厳守など当たり前のことを当たり前に行おうとする生徒が多く見られる。また、「自分の大切さとともに他人の大切さを認めること」を踏まえ、学校行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに熱心に取り組んでいる。

自然豊かで広い地区であるため、保護者の送り迎えで通学したり、街灯がないところを通学したりしている生徒が多い。登下校の安全指導や街灯設置の働きかけを行っている。

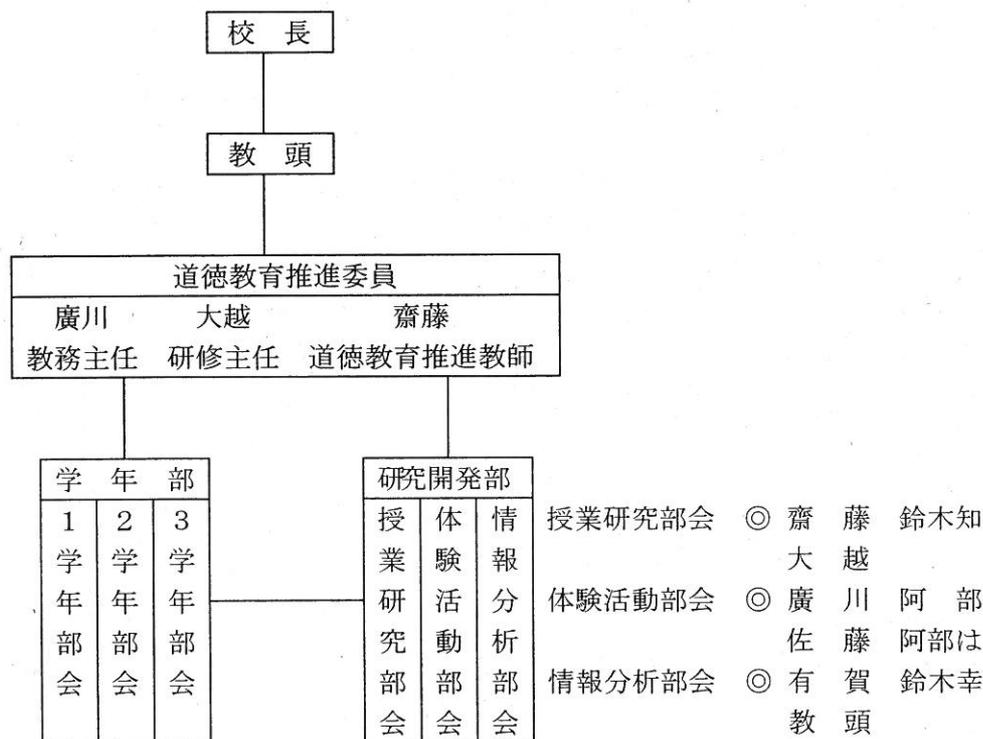
6 道徳教育における校長の指導の方針

※ 資料1

本校では教育目標に【「自立」志をもって学び、学力を高める生徒】【「剛健」心身ともに健康で最後までやり抜く生徒】【「友愛」互いに敬い切磋琢磨する生徒】を設定して、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に努めているところである。道徳教育の推進にあたっては、豊かな人間性や社会性を育成するため、学校教育全体を通して次の点に重点をおいて道徳教育を行っている。

- ①道徳教育の充実 ○生き方を振り返る道徳の時間の指導を充実させる。
- ②豊かな心の醸成 ○目的を明確にした体験的な活動を充実させる。
- ③より良い人間関係の育成 ○他の人格や意見を尊重する態度を育成する。
- ④目標設定と実現への支援 ○様々な領域での目標実現のための方法を助言し励ます。

- (1) 道徳教育推進教師を中心として教職員の研修意欲を高め、道徳教育の一層の充実を図る。
学校全体を掌握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくように働きかける。
- (2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を構築するにあたっては、小規模校の少ない教職員で新たな部署を設けることは困難であることから、既存の研究組織を生かし、道徳教育推進委員会（校長・教頭・教務主任・研修主任・道徳教育推進教師）を組織し、全教師が協力して取り組んでいく。
- (3) 校長、教頭等の積極的な参加
校長、教頭による道徳の時間の指導を行い、教職員の意識の高揚を図りながら、道徳の時間の充実を推進する。
- (4) 研究組織（道徳教育推進委員会）



- (5) 研究の具体的内容
 - ①効果的な資料選定と指導計画の整備
 - ②道徳の授業改善・充実（効果的な資料提示と発問の工夫）
 - ③体験活動を生かした道徳教育の推進
 - ⑤家庭・地域との連携

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について

※ 資料2

- (1) 学校として道徳教育の組織的な取組ができるように全教師の協力によって作成した。
- (2) 時代や社会の要請、生徒の実態や学校、地域の実態と課題、保護者や教師の願いを十分に取り入れ、発達段階に応じた各学年の重点目標を設定した。
- (3) 豊かな体験活動における指導や日常生活における指導との関連、小学校や家庭・地域社会との連携を推進する取組について明示した。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について

※ 資料4

これまでの道徳教育の全体計画を見直し、道徳と各教科、特別活動等との関わりを明らかにした「道徳教育の全体計画別葉」を「平成26年度ふくしま道徳教育推進プラン」や道徳教育指導者養成中央研修など様々な資料を参考に作成した。今後は、実践や生徒の実態に基づいて修正をすることにより実効あるものへ整備していきたい。

9 平成26年度 学級における指導計画について

※ 資料3-1～3-3

道徳教育全体計画を柱にし、目指す生徒像を明らかにした上で生徒の実態に配慮した道徳の時間の指導方針について作成した。また、学級における教育環境の整備や他学年との連携、家庭や地域社会への情報発信について配慮した計画を作成した。

10 道徳教育推進教師の実践について

- (1) 道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - ① 生徒や保護者、地域の実態、学校行事や総合的な学習の時間の体験活動等を考慮に入れた全体計画や道徳教育カリキュラムの作成の推進役となった。
 - ② 学級の道徳の時間の指導計画作成のアドバイス役として取り組んだ。
- (2) 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
 - ① 道徳教育講演会（アクアマリンふくしま所員講演会、福島テレビアナウンサー講演会）の立案や当日の運営を行った。
 - ② 夢拓く講演会（職業人と語ろう会、ようこそ先輩方）の計画作成に参加した。
 - ③ 道徳の時間の指導と学校行事・総合的な学習の時間における体験活動との関連を意識した取組の推進役となった。
「職場体験」（1～3年）【勤労・奉仕・公共の福祉】【希望・勇気・強い意志】
「館山祭（学校祭）」（1～3年）【人間愛・思いやり】【役割と責任の自覚】
- (3) 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
 - ① 道徳授業研究会を研究公開時の公開授業を合わせてのべ6回計画・実施した。
 - ② 事後研究会では、自ら建設的な発言をすることで、全教職員に道徳の時間の指導の改善・充実の工夫を促すためのリーダーとしての自覚を持った言動が見られた。
- (4) 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - 自らが、文部科学省の「わたしたちの道徳」やふくしま道徳教育資料集を使った道徳の時間の指導を行うことで、他の教職員の道徳の時間の指導のあり方の方向性を示した。
- (5) 道徳教育の研修の充実に関すること
 - 自らが参加した研修会での成果や資料を全教職員に示し、教職員の道徳の時間の指導に対する意識や指導力の向上に努めた。

1 1 道徳の時間について

(1) 学習指導案

第 3 学 年 1 組 道 徳 学 習 指 導 案

日 時：平成 2 6 年 1 1 月 1 8 日（水曜日）5 校時
場 所：3 年 1 組 教 室 指 導 者：齋 藤 哲 郎

- 1 主 題 名 感謝の心 2-(6)〔中心価値項目〕
思いやり 2-(2)〔関連価値項目〕
- 2 資 料 名 「手渡されたパン」(出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」)
- 3 主 題 設 定 の 理 由

① ねらいとする価値について（価値観）

中学校時代には思春期に入り、自意識や自立心が強まり、親をはじめとする周囲の大人の存在を疎ましく思うようになる。そのため、周囲の人々からの思いやりや気遣い、善意などに対して、素直に感謝の言葉を伝えられない場合が多く見られる。

本時では、感謝の心〔2-(6)〕を中心価値に据え、支えてくれる周囲の人たちの言動に対する感謝の気持ちを素直に表そうとする態度の尊さに気づかせたい。また、これから大人になっていく自分たちが、思いやりを持って他者を支える立場に成長していこうとする態度を育てたい。

② 生徒の実態について（生徒観）

授業においては、学習課題に対して素直に、まじめに取り組む。ただ、自ら進んでグループ内で発言したり、全体の前で挙手し発表したりするなどの積極性に乏しい一面がある。また、上級生としての自覚が高まっておらず、下級生へのリーダーシップが十分に育っていない生徒もいる。

学校生活においては、女子を中心にグループ化し、友人関係が限定されたものとなる傾向があり、学習活動においては協力できるものの、日常生活においての人付き合いの不得手さが見られる生徒もいる。

人との付き合い方に少なからず課題が見られる生徒たちであるため、人付き合いの基本である、他人への感謝の心や他者への思いやりを身につけさせたいと考えている。

③ 資料について（資料観）

本資料は、東日本大震災後に、家族と共に茨城のお婆の家に避難した主人公を描いた内容である。主人公は、経験したことのない震災と、知らない土地にきた不安からイライラを募らせ、両親や祖父母、避難先のお婆にも反抗的な態度をとっていたが、公園で出会ったお婆さんの善意と思いやりにより心を動かされ、周囲の人々がかけてくれた言葉や気遣ってくれた行動に対する自分の態度を反省し、自分は周囲の人々の支えによって生かされていることに気づき始めるといった内容である。

人は一人で生きていくことはできず、周囲の人々の思いやりや善意などに支えられ、生活している。本時は、人は多くの人に支えられて生きていることに改めて気づかせ、お互いに助け合って生きていくことが大切であることを考えさせるきっかけとしたい。また、他者から支えられていることに対して感謝の気持ちを持ち、他者に対する思いやりの心を育むようにさせたい。

4 本時のねらい

人は他者からの善意や思いやり、支えによって生きていることを考えさせ、周囲からの支えに対する感謝の気持ちと、他者に対する思いやりの心を持って生きていこうとする態度を育てる。

5 板書計画

(※生徒の意見からまとめる)

例：思いやりで感謝する人が、
人と人との絆をつくる。



- ・ ()
- ・ ()
- ・ ()
- ・ ()
- ・ ()
- ・ ()
- ・ ()

◎手渡されたパンをかじったとき、なぜ「ぼく」は涙が込み上げてきたのだろうか？

- ・ 手渡されたのは「思いやり」
- ・ 周囲に感謝できなかった自分への後悔
- ・ (その他生徒の意見)
- ・ ()
- ・ ()
- ・ ()

○感謝を言葉などで表現することは、なぜ大切なのか。

(生徒の意見から出たキーワード)

「手渡されたパン」

震災後の「ぼく」の行動について

- ・ ～と思うので共感できる。(生徒の意見)
- ・ ～と思うので共感できない。 ←
- ・ ～という心境なのだと思う。

6 指導過程

| 過程 | 学習活動 | 時間 | 主な発問 (□ は中心発問) ・予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 及び支援の工夫 |
|----|-------------------------------------|-----|---|----------------------------------|
| 導入 | 1 夢拓く講演会の感想を抜粋して紹介し、東日本大震災について振り返る。 | 5 | | ○ アクアマリンふくしまの所員の方の講話を聞いた感想を紹介する。 |
| 展開 | 2 資料を読み、意見交流をする。 | 25 | | ○ 教師の範読に集中させるために、範読箇所を指で追わせる。 |
| 開 | (1) 「お婆宅から外に出る所」まで、教師の範読を聞く。 | (3) | | |
| 前 | (2) 「ぼく」がとった行動について考える。 | (5) | <p>(発問1)</p> <p>◇ 震災後からお婆宅へ避難したときまでの「ぼく」の行動をどう思うか。</p> | ○ 挙手させ、2～3人の生徒を指名し考えを述べさせる。 |
| 段 | ① 挙手して、自分の考えを発表する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の今までの生活が急変した。友達とも会えない。自分でもむしゃくしゃすると思うので共感できる。 ・ 周りの人が自分たちのためにできる限りのことをやっているのに、自己中心的で共感できない。 ・ 震災の苦しさはみんな同じであり、自分もこれではいけないことを分かっている。 | ○ 意見を否定も肯定もせず、うなずきながら聞くように心がける。 |
| | | | | ○ 考えを共有することで、他者のよさを認めるきっかけとさせたい。 |

| | | | | |
|------------------|--|---|--|---|
| 展 開 前 段 | (3) 資料の続きから最後まで、 教師の範読を聞く。(2) | るのかもしれない。 | | |
| | (4) 涙が込み上げてきた「ぼく」 の気持ちについて考える。(15) ① ワークシートに自分の考 えを書く。 ② 自分の考えを発表する。 | (15) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(発問2) ○ 「ぼく」が手渡されたパンをかじった とき、訳もなく涙が込み上げてきたの は、なぜだろう。</div> ・ 身内の人では近すぎて分からなかった 善意や優しさ、思いやりだったが、見ず 知らずの人からの優しさに触れ、みんな 自分や弟のためにしてくれていたことに 気づいた。 ・ 善意や思いやりもパンと一緒に手渡さ れたように感じ、これまで家族に受けて きた優しさをないがしろにしていたこと に気づいた。 ・ 優しさに感謝の言葉を述べることがで きなかつた自分に深く後悔した。 | | ○ 時間を区切って書か せる。 ○ 手渡されたのはパン だけではないこと、お ばあさんだけではなく、 家族みんなが「ぼく」 と弟を気遣っていてく れたことに気づかせた い。 ○ 考えを掘り下げる問 いかけをしたり、適切 に問い直しや切り返し を行ったりしながら、 「ぼく」の内面に迫る アプローチをしたい。 |
| 展 開 後 段 | 3 他者の思いやりに対し、感 謝を表現することはなぜ大切 なのか、自分の考えを発表す る。 (1) ワークシートに書く。(5) (2) 自分の考えを発表する。(10) | 15 (5) (10) | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(発問3) [テーマ発問] □ 感謝を言葉などで表現することはなぜ 大切なのか、感謝を表現できた、あるい はできなかった自分の経験を振り返りな がら考えを発表してみよう。</div> ・ 部活でケガをして大会に出場できなかつた時にみんな気遣ってくれたが、出場 できない悔しさから感謝できなかった。 みんなの思いやりを受け取らず、不快な 気持ちにさせたと思う。信頼を壊すこと になってしまう。 | ○ 時間を区切って書か せる。 ○ 机間指導をして良か ったと思う意見を発表 させる。 ○ 自分自身を振り返ら せ、支えてくれる人へ の感謝の気持ちを表す 態度の大切さに気づか せたい。 |
| 終 末 | 4 動画「手渡すことが最高の コミュニケーション」を見る。 | 5 | | ○ 人は支え、支えられ て生きている、思いや りと感謝が人々の「絆」 を育てることに気づか せたい。 |

【道徳教育研究公開（研究協議会第3分科会）協議内容から】

自 評

◇…質問 ○…回答 ◎…意見など

- 挙手しての発言ができるようになってきた。
- 今回の道徳的価値については、思春期特有の照れがでてしまいなかなか意見が出なかった。
- 分段化したことに対する意見をいただきたい。
- 中心発問については、少し強引に進めすぎてしまった。テーマ発問では、自分の経験を振り返ることができたが、もっと意見を吸い上げたかった。最後の映像が少しでも印象に残ってくれたら良い。

質疑応答について

- ◇ ワークシートの変遷には、どのような意図があるのか。
- 項目が多すぎると、中心発問にかけられる時間が少なくなる。発問を記載してしまうと、子どもが先読みしてしまう。そのため、今の形に落ち着いた。
- ◎ 先生の朗読がとても上手でした。
- ◇ 動画の資料はどこで見つけたのか？⇒ 校長が見つめてきたものである。

研究協議から

視点1について

「ぼく」の行動を中心とした前段と、「ぼく」の気持ちの揺れを中心とした後段に分けて資料を提示することで、後段の「ぼく」についてより深く考える場面を設定する。

- 分段の意図 ⇒ 最後まで読むと、主人公の気持ちの流れが見えてしまい、気持ちの読み取りのじゃまになる。前半のギスギスした気持ちからの変容に気づかせたかった。
- ◎ 分段は意図があれば良い。子どもは意図を読み取りながら考えていた。
- ◎ 前段では、「ぼく」の間違っている部分について話し合う。どうして、腹立たしいのか…等。すると、「ぼく」の思いやりの欠如が見えてくるのではないか。
- ◎ 後段の始まりは、「ぼくとおばあさんが分かれた場面」ではないか。その後の行動に「ぼく」の決意が感じられる。
- ◎ 「お腹が鳴る時」がターニングポイント。ここからが変化が始まっていると感じ、前段と後段の境目と捉える。
- ◎ 決意のあたりから、優先順位が変わった。
- ◎ 前段…身内との関わり、後段…他人との関わり、と考えると授業者の分け方もよいと考える。
- ◎ 3段階に分けることもあるかも…段階ごとに行動や気持ちについて考えさせる。
- ◎ 黙って机間指導しているのが素晴らしい。映像の余韻にひたらせる時間をとっても良かったのではないか。
- ◎ 涙 ⇒ 謝罪は自然な流れである。分段してもしなくてもどちらでも良い。本時の分段は、子どもの意欲を高める意図があったのではないか。

視点 2 について

中心発問についてじっくりと考えさせ、子どもの考えを丁寧に拾い上げながら、少しの考えの違いを見逃さず問い返し、思考を整理・類型化しながら、子どもと子どもの考えをつなぐようにする。

- ◎ 発問は良くできていた。子どもたちのことを先生が分かっているのに、生徒も素直に書けたのではないか。
- ◎ 「問い返し」がすごい。これまでの授業の積み重ねと感じた。
- ◎ 予想される反応に沿った意見が挙げられた。これ以外の考えを取りあげたらどうなるか。「つなぐ」ことに手立てがあれば良い。
- ◇ 「不安が涙につながる」という考えもあったか。子ども同士で、近くの人と話し合い、引き出すという方法はとっていないのか。
- そのようにしているケースもある。
- ◎ 多様な価値観（高い価値観、低い価値感）もあるし、良い行為に関する価値観もある。本時では、多様性は期待できない。「感謝」だけに焦点を当てたのではないか。子どもの意見を「感謝」に結びつけられれば良かった。

視点 3 について

テーマ発問として「感謝を言葉にする大切さ」を自分の生活体験を重ね合わせることを通して、今までの自分のよき・弱さなどに気付くようにさせる。

- ◇ テーマ発問の意図は？
- 「～が大切なのか。」…一番難しい発問。テーマそのものについて考える場をつくることで、価値が高まると感じている。
- 発問の大小。主題全体に関する発問は「大きな発問」である。
- ◇ なぜ、「テーマ発問」と「中心発問」が分かれているのか。
- 振り返りの場に重きをおいても良かったが、まずは資料への共感を中心に据えた。
- ◎ テーマ発問 ⇒ 道徳的心情を高めるためには行為が必要か。
※ 震災でのボランティア、ワールドカップでのゴミ拾い
- ◎ 本時は、「思いやり」「感謝」など様々な価値があるが、根底には「感謝」がある。今回の「テーマ発問」は妥当ではないか。そもそも、「ぼく」が行動に移した、ということに着目するとお兄さんはえらい。
- ◎ 「感謝」「思いやり」はだれに向けてのものか？
⇒ 「感謝」「思いやり」は無償のものである。
- ◎ ワークシートの言葉は本当の彼らの言葉なのか？感謝に関する経験を引き出すための「資料」と捉えるべきなのではないか。それをどんどん出させて、友達の考えなどを知ることで、感謝の大切さが一般化するのではないか。時間がなくても話を出させるべきだったか。

授業について

- 訪問し始めた時、見せていただいた授業は、子どもたちの意見に「建前」の多いように感じた。
- 中学3年生に「自分の経験」を書かせるのは難しいが、5人も書いた生徒がいたことに驚きを感じた。自分の書いたことがみんなに知られるという前提がありながら書ける。⇒ 成長の証である。
- 粘り強い「問い返し」が良い。根拠を問うている。この働きかけは大切である。人とコミュニケーションをとることで、内面が見えてきたのではないか。それ故、子どもたちの意見を発表する場がほしかった。
- 「時間配分」の難しさを感じた。中学生は、“いかに中心発問に時間をかける”かが大切である。場面発問に時間をあまりかけられない。子どもの思いが出てくるまでには時間がかかる。
- この時期に、「感謝」について考えるのは、とても良い機会であった。人間は行為がすぐにはあらわれてこない。時間をかけて認めていく。
- 子どもたちの思いを「問い返し」などで深めている。じっくりと考えることで、他の価値についても考える場が必要か。他の価値を取りあげる場の設定も考える必要があるかもしれない。

研究全体について

- 道徳教育・道徳の時間に関する学びを先生方が積み重ねている。それを確実に実践に結びつけている。
- 校長先生を中心として、先生方が成長している。先生方の成長が子どもたちの成長につながっている。

【道徳教育研究公開のアンケート結果から（記述式）】

- 落ち着いた語り口で、時間配分もゆったりとしていました。最後にVTRを持ってきたのは何のためだったのでしょうか。少し速かったので分からなかった生徒もいたのではないかと思います。
- 生徒が一生懸命に取り組んでいる姿が見られ素晴らしかった。
- 指導者の「思い」が込められた良い授業であったと思いました。
- 落ち着いた雰囲気の中での授業は大変素晴らしかったです。
- 先生と生徒の信頼関係ができていと感じました。そのことが授業に反映されていて良い授業でした。最後の動画を視聴させたことで、本時のねらいが達成できたと思います。
- 子ども達が一生懸命に考えていた姿が印象的でした。

- 学校全体が落ち着いた雰囲気であったので、生徒たちも落ち着いていた。
- 中学生なりの考えの深さ・違いが見えてくれば良かった。
- 終末の動画の紹介が大変良かったです。
- 子ども達がとても落ち着いて過ごしているなど思いました。校内の掲示も子ども達の姿が見て取れて良かったです。
- 資料提示の仕方、発問・子どもの発表に対する教師の問い返しが素晴らしかったです。終末資料の動画にも感動しました。アンテナを高くして資料を探していかないといけないと感じました。
- とても良い授業で、先生方もよく考え取り組んでいたと思います。先生方お疲れ様でした。
- 生徒たちのワークシートにあれだけ書ける姿に驚きました。本当にお疲れ様でした。
- 子ども達の素直な気持ちを引き出す授業が展開されており、今までの取組の成果が伝わってきました。
- 前列の窓際の生徒からは、電子黒板が見えにくいようでした。
- 子ども達の意見が深いなあと感じました。これまでの教育の成果だと感じました。
- 資料が良く選ばれていて素晴らしかったです。
- お忙しい中本当にお疲れ様でした。とても有意義でした。
- 別葉については、大変良く作られていると思いました。
- 改めて、道徳の大切さを感じることができました。生徒たちの成長を見ることができて大変うれしく思います。
- 須釜中スタンダードが授業の中で生かされていた。これまでの実践の成果だと思います。今日の授業がこれからの生活の中で一人一人の行為となって表現されたら素晴らしいと思います。期待しています。
- 今後の授業の進め方に生かしたい。
- 道徳の授業は積み重ねであるということ、学校全体で取り組んだことで、生徒たちの道徳心も向上をするということが参考になりました。
- 廊下の掲示の全校的な取り組みが良かった。
- 分科会での熱い議論がとても参考になった。
- 現有の教育活動を活用して無理なく進めるようにしていけばいいと思います。ただし、後付け、こじつけにならないように留意されたほうがいいと思います。
- 中学生を見ることで、小学生の姿をきちんと振り返る良い機会になりました。同じ校種だと、ある意味比べてしまって視点がぼけることもあります。
- 継続して道徳教育に取り組んできた成果が、子ども達の姿から伝わってきました。自分の学校でも取り組んでいきたいと思っています。
- 良い点だけではなく、疑問点・改善すべき点などもたくさん出て良かったです。
- 学校全体で、先生方が一丸となって取り組んでいる姿を見て、自校に戻ってから参考にしながら、道徳教育の実践を心がけていきたいと思っています。

第3学年1組道徳学習指導案

場所：3年1組教室
指導者：齋藤哲郎

【研究主題】

自他の良さを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成
～自己決定を導く資料提示と発問の工夫を通して～

1 主題名 温かい人間愛、思いやり 2-(2)

2 資料名 「500人の大家族」(出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について(価値観)

中学校時代には思春期に入り、自意識や自立心が強まり、親をはじめとする周囲の大人の存在を疎ましく思うようになる。そのため、周囲の人々からの思いやりや気遣い、善意などに対して、素直に感謝の言葉を伝えられない場合が多く見られる。

本時では、支えてくれる周囲の人たちの言動に対する感謝の気持ちを素直に表そうとする態度の尊さに気づかせたい。また、これから大人になっていく自分たちが、思いやりを持って他者を支える立場に成長していこうとする態度を育てたい。

(2) 生徒の実態について(生徒観)

授業においては、学習課題に対して素直に、まじめに取り組む。ただ、自ら進んでグループ内で発言したり、全体の前で挙手し発表するなどの積極性に乏しい一面がある。また、上級生としての自覚が高まっておらず、下級生へのリーダーシップが十分に育っていない生徒もいる。

学校生活においては、女子を中心にグループ化し、友人関係が限定されたものとなる傾向があり、学習活動においては協力できるものの、日常生活においての人付き合いの不得手さが見られる生徒もいる。

人との付き合い方に少なからず課題が見られる生徒たちであるため、人付き合いの基本である他の人への感謝の心や他者への思いやりを身につけさせたいと考えている。

(3) 資料について(資料観)

本資料は、東日本大震災発生の翌日、地盤が固く、被害が少なかった会津の温泉旅館が被災者を無料で受け入れる決断をする。原発事故の混乱がいつまで続くかの見通しが全くない中、主人公は、被災者を受け入れることに不安を募らせていた。しかし、福島県に住む者が互いに助け合い、思いやりながら生きている姿を目の当たりにし、また、受け入れを決めた父の思いを知ること、自分もまた支えられている存在であることに気づくという内容である。

本時は、人は多くの人に支えられて生きていることに改めて気づかせ、お互いに助け合って生きていくことが大切であることを考えさせるきっかけとしたい。また、他者から支えられていることに対して感謝の気持ちを持ち、他者に対する思いやりの心を育むようにさせたい。

4 本時のねらい

どんな時でも、人は互いに思いやり、支えながら生活していることに気づき、身の回りの人々を思いやり、行動しようとする態度を育てる。

5 指導過程

| 過程 | 学 習 活 動 | 時 間 | 主な発問 (<input type="checkbox"/> は中心発問) ・ 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 及び支援の工夫 |
|------------------|--|-----|---|---|
| 導 入 | 1 資料の最初の部分を読んで考える。 ○ 500人の被災者を受け入れた旅館を想像してみよう。 2 教師の範読を聞く。 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ とても大変だ。 ・ 自分たちも大変なのに、さらに苦労しなければならない。 ・ 主人公は大変苦勞をしたんだ。 ・ 主人公たちはよく頑張ったなあ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 旅館の大変さについて説明する。 ○ 気軽に発言できる雰囲気を作る。 ○ 難しい場面では説明を加える。 |
| 展 開 前 段 | 3 震災によって避難した人々は、どんなことが不安だったのかを話し合う。 4 主人公が温かい人間愛に目覚めたわけを考える。 ①ワークシートに自分の考えを書く。 ②自分の考えを発表する。 | 25 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">私はどんな思いで旅館で働く人々の姿を見ていたのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 父の決断は、家族や従業員を苦しめている。 ・ 宿泊者による手伝いで家族や従業員が助かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主人公が、積極的に被災者に対して温かい気持ちをもって働くことができるようになったのはなぜか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今の旅館があるのは支えてくれたみんなのおかげである。 ・ 大変だけど自分の旅館の将来のためにもなる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読に集中させるために、範読箇所を指で追わせる。 ○ 2～3人の生徒を指名して考えを述べさせる。 ○ 考えを共有することで、他者のよさを認めるきっかけとさせたい。 ○ 考えを掘り下げる問いかけや切り返しを行う。 |
| 展 開 後 段 | 5 他者の思いやりに対し、感謝を表現することはなぜ大切なのか、自分の考えを発表する。 ①ワークシートに自分の考えを書く。 ②自分の考えを発表する。 | 10 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">兄と目があつたとき、私はどんな思いになったのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助け合うのは素晴らしい。 ・ みんなつながっているんだ。人間は素晴らしい。 ・ 反対していた兄が父の思いに応えようとしている姿に心を打たれた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身を振り返らせ、支えてくれる人への感謝の気持ちを表す態度の大切さに気づかせたい。 ○ 机間指導をして良かったと思う意見を発表させる。 |
| 終 末 | 6 教師の範読を聞く。 (「私たちの道徳」P57にある『賢者の贈り物』) | 5 | ※余韻を残して授業を終わる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人は支え合った生きていることに気づかせたい。 |

1 2 1年間の成果と課題（生徒の変容や学校での取り組みを振り返って）

(1) 成果

① 教師の変容から

道徳の時間の指導を改善するために、全職員が3回の研究授業や授業観、その後の研究協議などを通して指導技術を身に付け、意図的・計画的に授業を組み立てることができるようになった。教師の思いや工夫が生徒にも伝わり、お互いがいい授業を作ろうという雰囲気が生まれた。

また、資料の選定・分析においては、多岐にわたるアドバイスを得て、これまでにない視点を得ることができたり、発問の工夫などにも生かすことができたりと、指導力が向上したと思われる。

さらに、環境整備においても、道徳の時間のワークシートや意見・考えなどを、生徒の目に触れる場所へ教師が意図的に掲示するようにした。それは、学年を超えた道徳的価値のフィードバックなどにつながるものとなった。

② 生徒の変容から

※ 資料5

アンケート結果からも顕著なように、まず道徳の時間の授業への意識が変化した。どちらかというと、「資料を読み、価値について考える。」という生徒の印象から、「資料を読んで、自己をさまざまな角度から見つめ直す。本音をいう。他の生徒と意見や考えを交流する。自問自答する。発問に個人で、または複数で考える。」など、多様な活動により積極的な姿勢が見えるようになった。特に『学びあい』活動を中心とした意見の交流では、どの生徒も活発に活動することができていた。

(2) 課題

① 道徳の時間の指導について

今年度、道徳の時間の改善・充実のために、3回の要請訪問を通じた研究授業を行うことにより、それぞれの担任の先生方の道徳の時間における指導の在り方を検証することができた。指導法に関する校内研修を全職員参加のもとで深め合うことで、教師一人ひとりの授業づくりへの意識と指導技術の向上を図ることができたことは大きな収穫であった。

ただ、研究期間が1年間と限られていたので、まだまだ授業改善へ向けての余地は大きく残されており、更なる指導力の向上を目指していく必要がある。

② 道徳性の高まりについて

「道徳の時間」においては、生徒の肯定的な意見が増え、道徳的価値について、より深く考えることができる素地ができつつあると考えられる。

しかし、1回目と2回目の道徳意識調査からは、道徳的実践力の高まりが、必ずしも日頃の道徳的実践に結びついているとはいいがたい。原因の一つとしては、日頃の「道徳の時間」において高まった道徳的実践力を、教師が意図的に実践に結びつけるための「特別活動の在り方」「総合的な学習の時間の在り方」などの体験活動における体系的な取組が、まだまだ不十分であるということがあげられる。今後、道徳教育カリキュラムや道徳教育の全体計画別葉などを参考にしながら、さらに教育活動全体における道徳教育の位置づけを明確にしていく必要がある。

③ 家庭や地域との道徳教育における連携について

家庭や地域との道徳教育における連携を推進するために、「道徳だより」などを通して情報発信をしてきた。今後は、双方向のやりとりが、さらに必要になってくるだろうと推測される。発信するだけでなく、どう家庭や地域の声を受信し、それを今後の道徳教育に生かしていくのが課題である。

また、小中連携をさらに推進するために、道徳の時間の研究を通して小中が共同的に研究するような素地を作ることも念頭におきたい。

玉川村教育委員会学校教育重点事項

- 1 知徳体のバランスの取れた子ども育成
- 2 確かな学力の定着
- 3 生活習慣や学習習慣の改善
- 4 学校間交流・教師間交流の積極的な推進
- 5 ICT教育の積極的な推進

学校経営方針

- 1 全職員参加による創意ある学校経営を推進する。
- 2 須釜中スタンダードを明確にし、その徹底を目指す。
- 3 生徒の目標の実現に向けた支援を強化する。
- 4 家庭や地域との連携を一層推進する。
- 5 潤いのある良好な教育環境の実現を目指す。

生徒や保護者が願う姿

- 1 目的を持って自ら継続的に学習する。
- 2 心身ともに健康で根気強くやり抜く。
- 3 基本的な生活習慣が身に付いている。
- 4 思いやりと感謝の気持ちを持つ。

教育目標

【自立】 志をもって学び学力を高める生徒

- 1 わかる、できる、身につく授業の実践
 - ① 基本的学習習慣の確立を図ります。
 - ② 毎時間の授業の目標を明確に提示します。
 - ③ 個に応じた指導の充実を図ります。
 - ④ トリル学習で基礎基本を定着させます。
- 2 家庭学習の習慣化と内容の充実
 - ① 家庭学習の習慣を身につけさせます。
 - ② 教科に応じた家庭学習の仕方を徹底させます。
 - ③ 家庭学習の状況を毎日点検して助言します。
- 3 学力の補充
 - ① 朝の読書等で読書の習慣を身につけさせます。
 - ② 学力レベルに合った補充学習を実施します。
 - ③ 国英の基礎学力コンクールを実施します。
- 4 進路意識の高揚
 - ① 職業の世界について実践的に学ばせます。
 - ② 人生の先輩に学ぶ機会などを通して将来の夢を育みます。
 - ③ 教科指導においても社会生活との関連を示し、将来像の実現に向けて学習の意欲づけをします。

【剛健】 心身ともに健康で最後までやり抜く生徒

- 1 基本的な生活習慣の徹底
 - ① 須釜中スタンダードを徹底して身に付けます。(身だしなみ、挨拶、言葉遣い、整理整頓、時間厳守)
 - ② 規則正しい家庭生活ができるよう支援します。
- 2 健康と体力の保持・増進
 - ① 健康の実態を理解させ関心を高めます。
 - ② 食事への関心を高め食育を推進します。
 - ③ 目標を持って体力作りに取り組みさせます。
 - ④ 不安や悩みを解消に努めます。
- 3 強い意志の形成
 - ① 全校あげて部活動に取り組みます。
 - ② あたり前のことを完遂させます。
 - ③ 習動を奨励し学校を休まない生徒を増やします。
 - ④ 徒歩による登校を推進します。
- 4 安全教育の推進
 - ① 危機に対応できる行動訓練を充実させます。
 - ② 情報モラル教育を充実させて事故やトラブルの未然防止を図ります。

【友愛】 互いに敬い切磋琢磨する生徒

- 1 道徳教育の充実
 - ① 生き方を振り返る道徳の授業を充実させます。
 - ② 道徳的価値を意識した行事を推進します。
 - ③ 自他の生命を大切に思いやりの心を育成します。
- 2 豊かな心の醸成
 - ① 目的を明確にした体験的な活動を充実させます。
 - ② 奉仕の心とその実践力を高めます。
 - ③ 心を豊かにする良書に親しめます。
- 3 より良い人間関係の育成
 - ① 正しく自己主張する経験を積ませます。
 - ② 他の人格や意見を尊重する態度を育成します。
 - ③ 人間関係向上のための活動を取り入れます。
 - ④ 愛校心や集団への帰属意識を高めます。
- 4 目標設定と実現への支援
 - ① 一人一人に役割と責任を与えます。
 - ② 様々な領域で目標を立て発表させます。
 - ③ 目標実現の方法を助言し励まします。
 - ④ 目標達成の過程を互いに評価し合わせます。
 - ⑤ 目標の達成状況を評価し賞賛します。

具体的実践事項

教育環境の整備

- 1 潤いのある教育環境の実現
 - ① 全校あげて校舎内外の美化に努めます。
 - ② 掲示物や植木などで潤いのある環境をつくり出します。

- 2 開かれた学校づくりの推進
 - ① 幼・小・中連携事業や支援地域本部事業を活用します。
 - ② 学校ホームページ等による情報発信を推進します。

- 3 教師の指導力の向上
 - ① 積極的に研究授業を行い指導力を向上させます。
 - ② 校内研修を充実させ、職能の向上を目指します。

- ◇日本国憲法
- ◇教育基本法
- ◇学校教育法
- ◇学習指導要領
- など

時代や社会の要請

- ・国際化、高齢化、情報化など社会の変化に対応した指導を工夫する。

学校、学級における教育環境の整備計画

- ・道徳教育に有用な展示物の掲示や、情報の活用を工夫する。
- ・校舎内外や周辺の環境の美化を図る。

『私たちの道徳』活用基本方針

- ・道徳の時間の一部で補助的に用いたり、各教科の学習内容と関連させて活用を図る。
- ・学校や家庭の日常生活の中で、生徒が自主的に活用するように促す。

| 各教科 | |
|-----|---|
| 国語 | 文学教材では、豊かな読みを目指し、登場人物の心の動きを十分に読みとらせたり、自然や美しいものを感じとらせたりする。 |
| 社会 | 日本や世界の地理歴史の学習を通して日本や外国の人々に対する理解を深める。 |
| 数学 | 論理的に自分の考えを組み立て、物事に取り組む資質を養う。 |
| 理科 | 自然とのかかわりを通して、自然の偉大さを感じとる。 |
| 音楽 | 日本や外国の音楽に関心をもち、美しいものを尊ぶ態度を育てる。 |
| 美術 | 自然や美術作品への理解を広く創造する喜びを味わう。 |
| 保健 | 健康や安全に留意する態度を育てる。 |
| 家庭 | 生活と技術とのかかわりについての知識を深め、家族の一員としての自覚をもつ。 |
| 英語 | 外国の文化や習慣に触れることで、国際人としての感覚を身につけるようにする。 |

学校の教育目標

- 1 自立 志を持って学び、学力を高める生徒。
- 2 剛健 心身ともに健康で、最後までやり抜く生徒。
- 3 友愛 互いに敬い、切磋琢磨する生徒。

道徳教育の重点目標

- (1) 人間としての生き方についての自覚をもつ。
- (2) 自主・自律の精神を重んじ、規律ある生活ができる。
- (3) 自他の生命を大切にし、思いやりの心をもつ。
- (4) 国際社会に生きる日本人としての自覚を身につける。

各学年の重点目標

| 1年の目標 | 2年の目標 | 3年の目標 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自然の摂理の崇高さを知ることによって、自然環境を守ろうとする意欲を育てる。 ・自分や友だちのよいところを知り、相手の気持ちを大切に生活しようとする態度を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・異性に対する理解を深め、互いに信頼し合う態度を育てる。 ・自分自身を見つめ、自らの生活を振り返って、自律的に生活する習慣を身につけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来について目標をもち、着実に努力する態度を育てる。 ・社会の一員としての自覚をもち、責任を理解し、進んで社会に貢献しようとする意欲を高める。 |

生徒の実態

- ・自己肯定感がやや弱く、自主性・積極性に乏しい生徒が多い。
- ・明るく礼儀正しいが、指示を待って行動する傾向が見られる。

学校や地域の実態と課題

- ・小規模校のため、地域住民同士のつながりは強い。
- ・保護者の教育への関心が高く、学校に対して協力的である。

教師・保護者の願い

- ・自分の考えをもって行動し、困難に負けない強い心をもつ生徒
- ・他の人の心の痛みがわかり、思いやりのある優しい生徒

総合的な学習の時間

- ・勤労奉仕活動や施設訪問活動などのボランティア活動を行い、感動や充実感をもって問題に取り組む態度を育てる。

特別活動

| | |
|---------|--|
| A 学級活動 | 一人ひとりが自分の役割を認識し、協力し合う態度を育てる。 |
| B 生徒会活動 | 学校生活向上のために、自主的・自律的に活動を計画し、課題に取り組む態度を育てる。 |
| C 学校行事 | 各行事への参加を通して、より充実した学校生活を築こうとする |

道徳の時間の指導方針

- ・生徒一人ひとりの道徳的価値の自覚を促し、しっかりした道徳的判断力に基づく実践力を育てる。
- ・体験的な活動と密接に関連づけて指導する。
- ・生徒の考え、感性の違いを大切にし、お互いの個性を認め合うようにする。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連

- ・全教育活動において、募金活動やボランティア活動など、実社会の中での役割を実感できるような体験の場を設定する。

日常生活における指導 生徒指導との関連

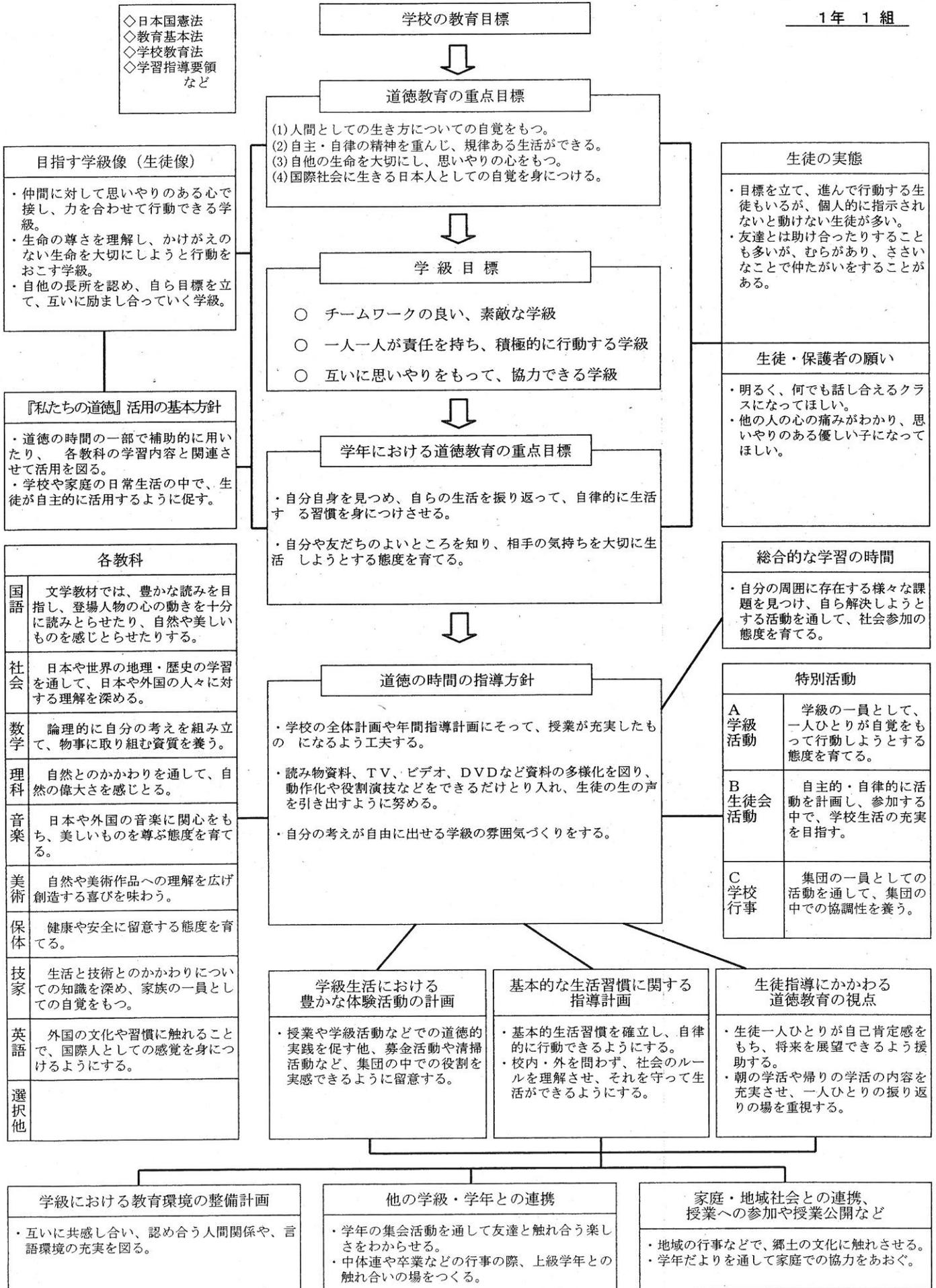
- ・集団の一員として、自覚をもって目標を立て、自己表現に努める態度を育成する。
- ・教師と生徒相互の望ましい人間関係を構築する。

小学校・高等学校・特別支援学校との連携

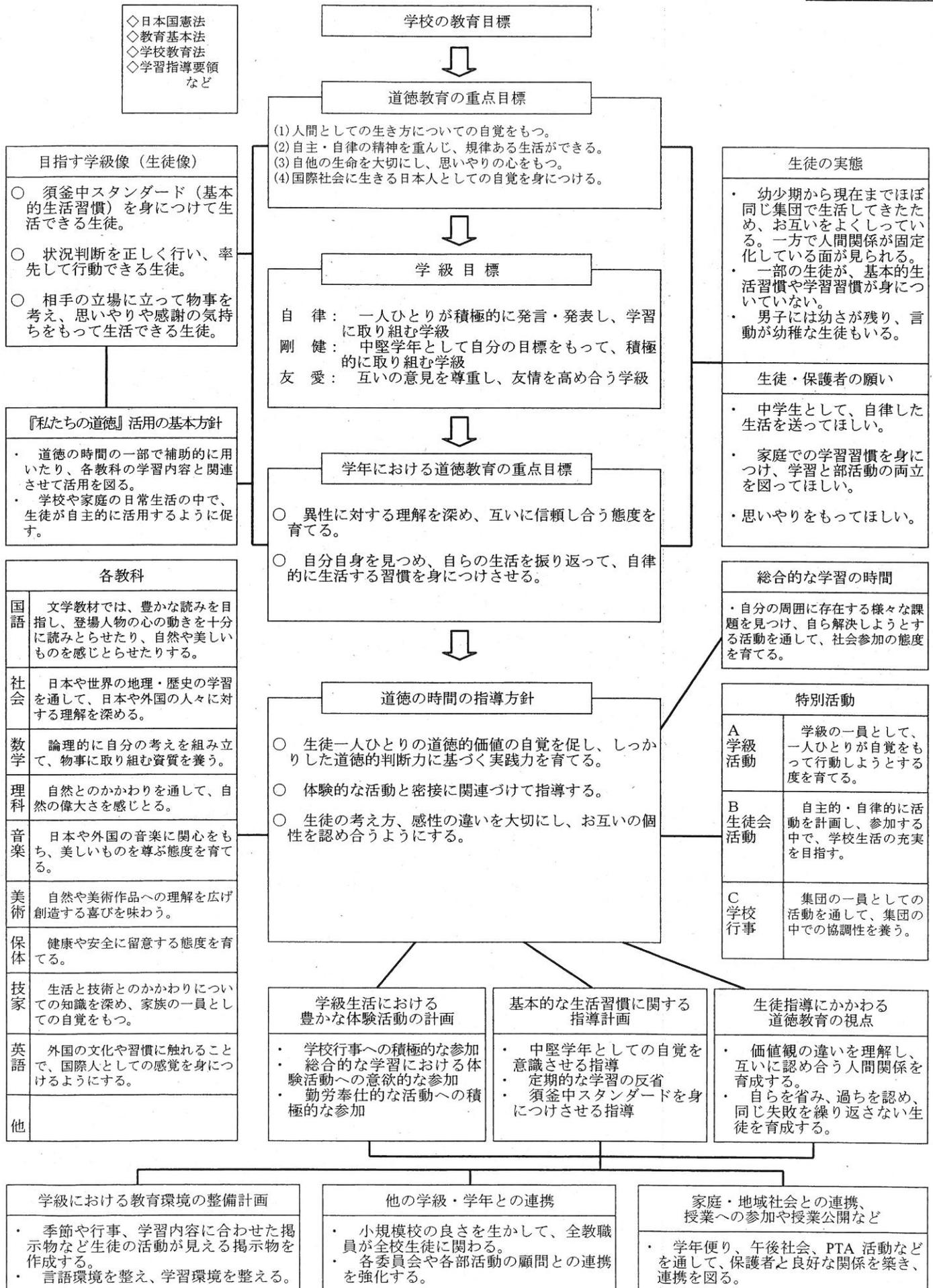
- ・小学校との情報交換を密にし、生徒の実態をつかむ。
- ・高等学校の公民科の内容を把握し、関連を図る。

家庭・地域社会との連携

- ・福祉施設などとの交流によって思いやりの心をもたせる。
- ・家庭や地域に向けた様々な通信を充実させ、道徳教育への理解を深める。



- ◇日本国憲法
- ◇教育基本法
- ◇学校教育法
- ◇学習指導要領など



- ◇日本国憲法
- ◇教育基本法
- ◇学校教育法
- ◇学習指導要領など

目指す学級像（生徒像）

- ・最高学年の自覚を持ち、尊敬、信頼される先輩を目指す学級。
- ・「Pressure」「Pride」「Plan」の3つのPを念頭に置き、自ら進んで物事に取り組み、他者の模範となる学級。

『心のノート』活用の基本方針

- ・道徳の時間の一部で補助的に用いたり、各教科の学習内容と関連させて活用を図る。
- ・学校や家庭の日常生活の中で、生徒が自主的に活用するように促す。

| 各教科 | |
|-----|---|
| 国語 | 文学教材では、豊かな読みを目指し、登場人物の心の動きを十分に読みとらせたり、自然や美しいものを感じとらせたりする。 |
| 社会 | 日本や世界の地理・歴史の学習を通して、日本や外国の人々に対する理解を深める。 |
| 数学 | 論理的に自分の考えを組み立て、物事に取り組む資質を養う。 |
| 理科 | 自然とのかかわりを通して、自然の偉大さを感じとる。 |
| 音楽 | 日本や外国の音楽に関心をもち、美しいものを尊ぶ態度を育てる。 |
| 美術 | 自然や美術作品への理解を広く創造する喜びを味わう。 |
| 保健 | 健康や安全に留意する態度を育てる。 |
| 技家 | 生活と技術とのかかわりについての知識を深め、家族の一員としての自覚をもつ。 |
| 英語 | 外国の文化や習慣に触れることで、国際人としての感覚を身につけるようにする。 |
| 選択他 | |

学校の教育目標

↓

道徳教育の重点目標

- (1)人間としての生き方についての自覚をもつ。
- (2)自主・自律の精神を重んじ、規律ある生活ができる。
- (3)自他の生命を大切にし、思いやりの心をもつ。
- (4)国際社会に生きる日本人としての自覚を身につける。

↓

学級目標

自立：進路実現を目指し授業や家庭学習に一生懸命に取り組む。

剛健：心身を鍛え、毎日元気に生活する。

友愛：最高学年として互いに協力し、クラスの絆を深める。

↓

学年における道徳教育の重点目標

- ・自分の将来について目標を持ち、着実に努力する態度を育てる。
- ・公正公平で善悪の判断ができる心を育むと共に、健康管理をしっかりとできる規則正しい生活習慣を身につけさせる。
- ・他者への思いやりを持って集団生活の向上を目指す態度と、誇りを持って主体的に物事に取り組む姿勢を育てる。

↓

道徳の時間の指導方針

- ・教育目標と学級目標を基本に、生徒一人一人の道徳的価値を高めさせる。
- ・道徳的実践力を高められるよう、生徒の実態や現状をふまえた資料を活用して授業を行う。
- ・SCや養護教諭、学年主任などと協力、連携して授業を行う。
- ・進路指導と連携させ、自己実現のための生活態度や活動姿勢について意識させていく。

生徒の実態

- ・幼い頃から同じ人間関係の中で育っているため、お互いをよく理解し、互いを尊重することができるが、固定された人間関係が、グループ分けなどで悪影響を及ぼすこともある。最高学年となり心身ともに成長してきているが、些細な理由で人間関係上のトラブルに発展することもある。

生徒・保護者の願い

- ・最高学年として、下級生の手本となる行動をとっていきたい。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、目標に向かって最後までやり抜く強い心を養ってほしい。
- ・善悪の判断と他者に対する思いやりの気持ちを持った人間になってほしい。

総合的な学習の時間

- ・自分の周囲に存在する様々な課題を見つけ、自ら解決しようとする活動を通して、社会参加の態度を育てる。

| 特別活動 | |
|---------|-------------------------------------|
| A 学級活動 | 学級の一員として、一人ひとりが自覚をもって行動しようとする度を育てる。 |
| B 生徒会活動 | 自主的・自律的に活動を計画し、参加する中で、学校生活の充実を目指す。 |
| C 学校行事 | 集団の一員としての活動を通して、集団の中での協調性を養う。 |

学級生活における豊かな体験活動の計画

- ・授業や学級活動などでの道徳的実践を促す他、募金活動や清掃活動など、集団の中での役割を実感できるようにする。
- ・最高学年としての意識に基づく積極的な活動ができるようにする。

基本的な生活習慣に関する指導計画

- ・基本的生活習慣を確立し、須釜中スタンダードの徹底を意識した日常生活を送ることができるようにする。
- ・校内・外を問わず、社会のルールを理解させ、それを守って生活ができるようにする。

生徒指導にかかわる道徳教育の視点

- ・受容的、共感的態度を基本とし、個の理解にたった視点で、生徒と接する。そして温かい人間関係を築く。
- ・最高学年のあるべき姿を常に意識し、下級生の模範となる行動とはどういうものかを考える。

学級における教育環境の整備計画

- ・整理整頓を常に心がけ、授業の準備や休み時間の過ごし方を生徒相互で呼びかけさせる。
- ・季節や行事に沿った、生徒の活動の様子が分かる掲示物を作成する。

他の学級・学年との連携

- ・生徒会活動の組織を生かし、全校生徒が連携して活動に取り組み、生徒会を盛り上げていく雰囲気作りを目指す。
- ・学校行事、生徒会行事等を通じ、他学年との連携・交流を深める。

家庭・地域社会との連携、授業への参加や授業公開など

- ・学校公開、学年だより、学校HP等を生かし、保護者や地域に活動の様子を発信する。
- ・学校行事や地域の行事などを通じ、地域社会と良好な関係を築いていく。

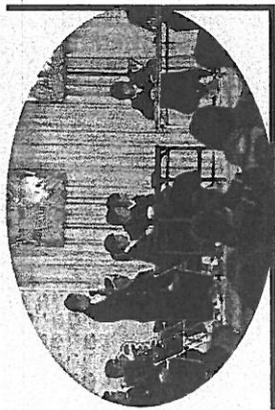
| 生徒の道徳意識調査（玉川村立須釜中学校） | | H26 6月実施（回答生徒数70人） | | | | | | H26 12月実施（回答生徒数68人） | | | | | |
|----------------------|---|--------------------|---------|----------|----------|------------|---------|---------------------|----------|----------|------------|--------|-------|
| NO | 質問項目 | 割合 | | | | 肯定的領域別意見平均 | 割合 | | | | 肯定的領域別意見平均 | | |
| | | （できている） | （できている） | （できていない） | （できていない） | | （できている） | （できている） | （できていない） | （できていない） | | | |
| 道徳の時間 | 1 「道徳の時間」の勉強は、好きだ。 | 15.7% | 58.6% | 24.3% | 1.4% | 74.3% | | 32.4% | 61.8% | 5.9% | 0.0% | 94.1% | 96.6% |
| | 2 「道徳の時間」の勉強は、ためになると思う。 | 35.7% | 54.3% | 10.0% | 0.0% | 90.0% | 82.9% | 51.5% | 45.6% | 2.9% | 0.0% | 97.1% | |
| | 3 「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。 | 20.0% | 64.3% | 14.3% | 1.4% | 84.3% | | 50.0% | 48.5% | 1.5% | 0.0% | 98.5% | |
| 自尊感情 | 4 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。 | 68.6% | 27.1% | 4.3% | 0.0% | 95.7% | | 72.1% | 26.5% | 1.5% | 0.0% | 98.5% | 87.2% |
| | 5 自分には、よいところがあると思う。 | 21.4% | 48.6% | 27.1% | 2.9% | 70.0% | 83.8% | 25.0% | 50.0% | 19.1% | 5.9% | 75.0% | |
| | 6 将来の夢や目標をもっている。 | 58.6% | 27.1% | 11.4% | 2.9% | 85.7% | | 45.6% | 42.6% | 7.4% | 4.4% | 88.2% | |
| 生活習慣 | 7 朝、決めた時刻に自分で起きている。 | 32.9% | 35.7% | 20.0% | 11.4% | 68.6% | | 26.5% | 39.7% | 25.0% | 8.8% | 66.2% | |
| | 8 学校に持っていくものを、前の日に確かめている。 | 41.4% | 37.1% | 18.6% | 2.9% | 78.6% | 77.6% | 39.7% | 29.4% | 25.0% | 5.9% | 69.1% | 75.0% |
| | 9 机やロッカーの中など身の回りの整理整頓をしている。 | 40.0% | 45.7% | 12.9% | 1.4% | 85.7% | | 47.1% | 42.6% | 10.3% | 0.0% | 89.7% | |
| 人間関係・規範意識 | 10 人の気持ちがかかる人間になりたいと思う。 | 70.0% | 25.7% | 4.3% | 0.0% | 95.7% | | 69.1% | 26.5% | 4.4% | 0.0% | 95.6% | |
| | 11 いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。 | 72.9% | 22.9% | 4.3% | 0.0% | 95.7% | | 61.8% | 33.8% | 4.4% | 0.0% | 95.6% | |
| | 12 人の役に立つ人間になりたいと思う。 | 68.6% | 27.1% | 4.3% | 0.0% | 95.7% | | 75.0% | 17.6% | 7.4% | 0.0% | 92.6% | |
| | 13 学校のきまり(規則)を守っていますか。 | 42.9% | 51.4% | 5.7% | 0.0% | 94.3% | 95.6% | 36.8% | 60.3% | 2.9% | 0.0% | 97.1% | 96.2% |
| | 14 人には親切にしたいですか。 | 75.7% | 21.4% | 1.4% | 1.4% | 97.1% | | 76.5% | 19.1% | 2.9% | 1.5% | 95.6% | |
| | 15 人が困っているときは、進んで助けていますか。 | 25.7% | 67.1% | 4.3% | 2.9% | 92.9% | | 45.6% | 47.1% | 7.4% | 0.0% | 92.6% | |
| | 16 近所の人に会ったときは、あいさつをしている。 | 51.4% | 41.4% | 5.7% | 1.4% | 92.9% | 95.6% | 57.4% | 41.2% | 1.5% | 0.0% | 98.5% | |
| | 17 木を折ったり、動物を傷つけたりすることは、いけないことだと思いますか。 | 81.4% | 18.6% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | | 85.3% | 14.7% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | |
| | 18 みんなが集まる場所では、時と場ふさわしい行動をしている。 | 42.9% | 52.9% | 2.9% | 1.4% | 95.7% | | 45.6% | 52.9% | 1.5% | 0.0% | 98.5% | |

参考：全国・学力学習状況調査（児童生徒質問紙）・「道徳教育実践研究事業」（文部科学省）における児童生徒の意識調査

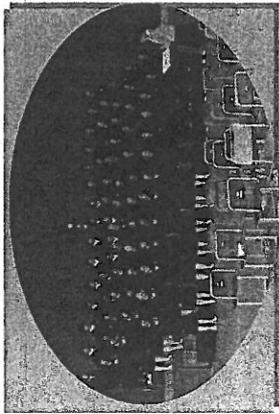
道徳研究主題

自他のよさを認め、自ら判断し、より良く生きようとする生徒の育成

鎗山祭から学んだこと



<コメント>3年生のディベートの一場面です。「ドラえもん」について緊張した中で真剣に討論していました。



<コメント>全校合唱です。当日は練習の成果を十分に発揮して、素晴らしいハーモニーを奏しました。

10月18日(土曜日)に、たくさんのご来賓や保護者の方、さらには地域の方にご来校いただき、第41回鎗山祭が盛大に開催されました。鎗山祭の準備期間中に、台風の影響で2日間の臨時休業の措置をとらざるを得なくなり、鎗山祭当日に間に合うかどうか心配されました。しかし、そこは本校生徒の底力がいかんなく発揮され、3年生を中心とした最後の準備に集中して取り組みました。当日は、緊張した場面もあつたようですが、1年生は「琴の演奏」、2年生は「北海道研修旅行の発表」、そして3年生は「ディベート」及び「オリジナルの学年発表」を行い、見ている人を意識した素晴らしい発表をしました。鎗山祭への準備を通して生徒は、「協力することの大切さ」「お互いのよさを認め合うこと」「他の人に対する思いやり」などを肌で感じる事ができたと思えます。終わった後の生徒の満足そうな顔が成長の証だと思えます。下は3年生の生徒の感想です。



○ 僕はこの鎗山祭で学んだことは、仲間と協力することの大切さです。みんなが、力を合わせて一つのことを成功させることはとても大変でしたが、しっかりとやりきることができて良かったです。

○ 大成功に終わり思いになりました。見に来て下さった方々、準備に協力して下さった先生方、ありがとうございます。これからは受験に向けて勉強に励みたいと思います。



第2回道徳教育講演会

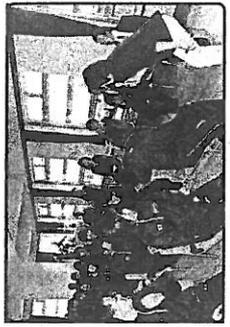
10月23日(木)に「第2回道徳教育講演会」を開催しました。当日は福島テレビのアナウンサーの浜中順子さんにお越しいただき、「コミュニケーションの大切さ」という演題でお話を伺うことができました。浜中さんには、アナウンサーになるためにたくさんの方の会社に挑戦したこと、チャンスの神様のお話など多岐に渡ってお話をいただきました。生徒は、アナウンサーの笑顔やきはきはした物言いにさすがという印象を持ちました。保護者や地域の方にも来ていただきました好評のうちに終了しました。なお、下は「チャンスの神様」のお話と浜中さんの甥っ子さんが書いた神様の絵です。



チャンスの神様です。



笑顔が素敵です。



生徒へ話を聞いています。

「チャンスの神様には前髪しかない」

チャンスの神様は向こうからやってきて、風のように自分の横を通り過ぎていきます。したがって、もし掴まえようとするれば、あらかじめ神様を待ち構えていて、その長い前髪を掴むしかありません。そして、神様には後ろ髪がないので、後から追いかけても掴むことはできず逃げられてしまいます。要するに「チャンスはここぞという時に掴まなければ手にできない。後から掴もうとしても手遅れである」という意味です。

ちよっと良いお話 NO. 4

私は、10月から山陽本線を使用して通勤するようになりました。その日は、疲れから車内で眠ってしまい、終点の広島駅(19時21分着)に着いてもそのまま眠り続けてしまいました。すると、一人で乗っていた男子高校生が肩をトントンとたたき、「終点ですよ。」と言って起こしてくれてはいないですか。見ず知らずの私にわざわざ声をかけてくれたことに感謝するとともに、本当にさわやかな気持ちになることができました。私が逆の立場だったら、声をかけてあげることができたかどうかと考えさせられた瞬間でもありました。

広島県教育委員会HP 「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」より抜粋)

道徳研究主題

自他のよさを認め、自ら判断し、より良く生きようとする生徒の育成

第2回道徳研究授業より



<コメント> グループでの役割演技を通して感じたことを話し合っているところです。



<コメント> 先生方が授業の中で良かったこと、もう少し改善すれば良かったことを真剣に話し合っている様子です。

9月16日(火曜日)に、1年生の道徳の授業研究会が本校で行われました。今回は、村内の幼稚園、小学校、中学校の先生方の授業研究会も兼ねており、多くの参観者が来校されました。そんな中で、1年生のみなさんは緊張した面持ちで道徳の授業を受けていました。授業では、ロールプレイングという方法を使い、物語の主人公になりきって自分なりにその人の心情などを表現する活動を行ったことで、徐々に緊張もほぐれ、活発な意見交換が行われました。参観者のみなさんも口々に「生徒が真剣に演技していて良かった。」「考えなきゃいけない。」「真剣に考えて良かった。」「などと感想をもらっていました。次回は、10月15日(水)に2年生の道徳の授業研究会が行われます。是非、保護者のみなさんも時間を作っていただけて参観していただければと思います。以下は、参観した先生方のコメントです。

中学校1年生で、役割演技を緊張しながらもやろうとしていたところはすごいと思いました。

幼稚園でも、「ほんわか言葉」「イガイガ言葉」ということを通して道徳性の育成に努めています。

第1回道徳教育講演会開催

9月22日(月)に、第1回道徳教育講演会を本校で開催しました。講師にはアキラマリンふくしくしま・魚のぞきチームリーダーの村山祐子さんをお招きしました。当日は、東日本大震災での深刻な状況、その後の迅速な対応などについてお話をいただきました。映像あり、興味深いお話があり、大変貴重な時間を過ごすことができました。下が当日の講演の様子です。



講演の感想から・・・

◎ 今日の講演を聞いて、命の大切さを改めて実感することができました。とてもつらい思いをしたのを知り、涙が出そうになりました。魚を選ぶか海獣を選ぶかで迷った時も、本当に思っていたと思います。この講演をきっかけに、もう一回命について考えてみたいと思います。これからは、どんなに辛いことでも協力して乗り越えていきたいと思います。(3年男子)

ちよつと良いお話 NO. 2

私が部活のため電車に乗り込んだ時のことです。隣の座席の男性が、財布をひらいたところ100円玉だったのでしょいか・・・、ともかくお金を落とされたのです。それに気づかず財布をしまわれたのを見て、私は「落ちましたよ。」と声をかけようとしてました。しかし、知らない人という抵抗からか、なかなか言い出すことができませんでした。すると、私よりずっと遠くの席にいた若い女性の方が、「落とされましたよ。」と、わざわざ近くに寄って、お金を手渡されたのです。

私はその人の行動と、男性の笑顔を見て、自分が(知らない人だから・・・)と、言い出せなかったことに対してとても情けなく思えてきました。電車は、他にも席の譲り合いなど、人間関係をつくるすばらしい乗り物だと思いました。そして同時に、私もあの女性のようにならぬように声をかけ、行動できる人になりたいと思います。

広島県教育委員会HP 「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」より抜粋)

【県南地区】白河市立五箇中学校



道徳教育推進校〈実施報告書〉

1 推進校紹介

| | |
|---------------|--|
| 学 校 名 | 福島県白河市立五箇中学校 |
| 所 在 地 | 福島県白河市田島結城館43番地2 |
| 学 校 長 名 | 長沼 政美 |
| 学校の教育目標 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">教育目標</div> <p>自ら学ぶ意欲をもち、創造性に富み、社会の変化に対応できる知性豊かな生徒の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">めざす生徒像</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に学び、確かな学力を身につける生徒（知） 2 広い視野をもち、思いやりのある生徒（徳） 3 心身ともに健康で、生き生きと生活できる生徒（体） |
| 学級及び生徒数 | 3学級 52名 |
| 道徳教育にかかる取組の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1 努力目標の設定にあたって 教育目標の「広い視野をもち、思いやりのある生徒」の達成のための努力目標を、「心豊かにたくましく生きる心の教育を基盤に、自立と共生の心を育てる。」とした。 2 教育課程編成・実施にあたって <ol style="list-style-type: none"> (1) 生命尊重や思いやりの心を育てる機会と場の意図的な設定 (2) 総合的な学習の時間との関連づけ ボランティア活動や体験的な学習を通して生徒の内面に根ざした道徳性や規範意識を向上させる。 (3) 年間指導計画の改善と授業時数の確保 学校教育全体で行う道徳教育の要になる道徳の時間の年間指導計画を改善するとともに、授業時数の確保に努める。 3 道徳教育に取り組む組織、授業実践などについて <ol style="list-style-type: none"> (1) 道徳教育推進教師を中心に、指導体制の充実を図る。 (2) 研究授業の実践は、全教師で取り組むものとする。 (3) 生徒の実態を客観的に把握し、計画的に取り組むものとする。 |

2 研究テーマ

| | |
|------|---|
| 研究主題 | 学び合いの工夫を通して、生徒一人一人がより良い生き方を考え、たくましく生きる生徒の育成 |
| 副主題 | 学び合いや関わり合いを取り入れた道徳の授業実践を通して |

3 テーマ設定の理由

- (1) 今日の少子化・核家族化、急激な情報化社会の進展に伴い、人・社会・自然との関わりが希薄になり、いのちの大切さを理解したり、実感したりする機会が少なくなってきた。

また、本校では、「自ら学ぶ意欲をもち、創造性に富み、社会の変化に対応できる知性豊かな生徒の育成」という教育目標のもと、知・徳・体の調和のとれた、生きる力を身につけた生徒を育てることを目指している。生きる力の核となる豊かな人間性を育てるためには、道徳教育が重要である。そのためにも全教育活動で行う道徳教育とその要となる道徳の時間を充実させ、よりよく生きようとする心を育てる教育を実現することが求められている。

このような理由から、急激に変化していく社会において、他と協調しつつ自立的に社会生活を送ることができ、自他のいのちを大切に、共によりよく生きようとする生徒の育成を目指して、研究主題を「学び合いの工夫を通して、生徒一人一人がより良い生き方を考え、たくましく生きる生徒の育成」と設定した。

- (2) 学習指導要領の4つの改善点から

- ① 指導内容の重点化（「主体的に社会の形成に参画すること」）
- ② 生徒が感動を味わえるような魅力的な教材の開発と活用
- ③ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
- ④ 道徳の時間の授業公開、家庭や地域社会との共通理解・相互連携

- (3) 平成25年度の反省協議会の結果から

- ① 「道徳の時間に真剣に考えたり、発表したりした。」について生徒の反省から、学年が上がるのにつれて道徳の授業に真剣に取り組む姿勢が見られた。

| 学 年 | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 | 全 体 |
|------|------|------|------|------|
| 1 学年 | 3. 5 | 3. 7 | 3. 4 | 3. 5 |
| 2 学年 | 3. 4 | 3. 6 | 3. 7 | 3. 6 |
| 3 学年 | 3. 7 | 3. 6 | 3. 8 | 3. 7 |

（5段階評価）

- ② 具体的な課題

- 学年が低いほど道徳の授業に対する真剣さに欠けている傾向がある。
- 道徳の授業時数は確保されているものの、授業の教材研究や魅力ある資料の作成が不十分である。
- 教育活動全体と道徳の時間の関連が十分でない。

以上の3点と後述する生徒の実態から、テーマを設定した。

4 研究計画

| 月 | 実践事項 | 地区別道徳教育推進協議会 | 県中教研道徳部会 |
|----|--|----------------------------|--------------|
| 4 | 今年度の研究主題・計画、 内容の検討(組織作りなど) 保護者への授業公開 | 指導案の検討(～9月) | 指導案の検討(～10月) |
| 5 | ハイパーQUテストの実施 道徳授業研究 | 小・中連接授業に伴う、幼・小の教員への道徳の授業公開 | |
| 6 | 生徒の実態～教科経営計画 の作成 全校道徳 | 指導案の検討～事前授業 | |
| 7 | | | |
| 8 | 1学期授業実践の振り返り | | |
| 9 | 重点実践の確認 | | |
| 10 | 全校道徳 | 2年生道徳研究授業 | 中教研県大会の参加 |
| 11 | いのちの教育 | | |
| 12 | 道徳教育講演会 東京学芸大学大学院 特命教授「福田富美雄」様 教育課程編成準備 | 1年生道徳研究授業 | |
| 1 | 今年度の成果と課題のまとめ ・道徳教育推進協議会の実施報告書作成・提出 | | |
| 2 | 次年度学校経営ビジョンの確認、教育課程実施届の作成 | | |
| 3 | 次年度の研究主題・計画案作成 | | |

5 生徒の実態及び地域の課題

(1) 生徒の実態

- ① 学年が低いほど道徳の授業や行事・ボランティア活動に真剣に取り組む意識が低い。(反省協議会資料から)
- ② 本校の生徒は、明るく元気で、指示されたことに対しては素直に行動することができるが、主体性が十分でない面がある。また、縦割り活動を重視した取り組みを行っているので、学校全体で協力性や連帯感が育まれている。
- ③ 自分の気持ちや思いを言葉や態度で表現することが苦手であったり、小規模校のため人間関係が固定化し、コミュニケーション能力に偏りが見られたりする。

(2) 地域の実態

- ① 白河市の東部に位置し、田園地帯の中にある。
- ② 中学校区に1つの幼稚園、1つの小学校しかないため、幼・小・中と同じ学級で生活する。
- ③ 保護者は、学校に対して協力的であり、子どもの学習や友人関係に対しても関心が高い。

6 道徳教育における校長の指導の方針 「資料1」

- (1) 道徳の時間を要として、学校教育活動全体を通じて行うものであることを再確認し、道徳教育推進教師を中心として、発達段階や生徒の実態に応じ重点化した指導計画作りや教材活用を図る。
- (2) 体験活動を重視し、職場体験活動、ボランティア活動、自然体験活動、地域との交流など、事前事後指導を含め充実を図る。
- (3) 道徳の時間は学級担任が行うことを原則とするが、校長や教頭、他の教師などが参加したり、保護者や地域の方々等の協力を得たりするなど、多様な授業スタイルを工夫する。

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について「資料2」

- (1) 前年度の学校評価、指導の成果と課題や学校経営ビジョンを踏まえたものとした。
- (2) 教育目標の達成のための道徳教育の重点目標を設定し、学年別指導の重点目標から道徳の時間の指導方針を設定した。さらに各教科・特別活動・総合的な学習の時間・生徒指導・進路指導まで、一環した指導ができるようにした。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について「資料3」

- (1) 道徳教育の「別葉」について
 - ① 別葉を作成するに当たり、各教科、特別活動、生徒指導、学校行事との関連を総合的に示し、学校教育全体を通して、「生きる力」を育む教育を推進し、豊かな人間性・社会性を育成することができるよう見直しを図った。
 - ② 「私たちの道徳」やふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集「生きぬく・いのち」、第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」等も活用し、多くの資料から授業実践ができるよう工夫した。

9 平成26年度 学級における指導計画について「資料4」

- (1) 学年共通の指導計画をもとに、生徒の実態を具体的に記述することで、実態を踏まえた柔軟な指導ができるように配慮した。
- (2) 指導にあたっては、次の点を配慮した。
 - ① 生徒の実態を把握し、それを踏まえ、教師の思いや願いを含めて資料の選択・分析をする。
 - ② 問題の意識化や中心価値の方向づけ、焦点化を図る効果的な導入に努める。
 - ・ 資料分析、中心発問の検討
 - ・ 視覚的教材の活用、実態調査結果や他教科との関連を図った導入の工夫
 - ③ 内面的自覚を図る振り返りの時間を設定する。

10 道徳教育推進教師等における実践について

道徳教育推進教師は、道徳教育の充実のため、現職教育主任と協力し、校内研修会において道徳の研究授業を実施するとともに、別葉の活用についても全職員で研修する機会を設け、本校の教育活動と道徳の関連を深めた。

さらには、幼・小・中連携事業の中で道徳の授業を公開するとともに、中学生の道徳に対しての意識の分析を公表して、地域としての道徳の重要性の啓蒙を図った。

また、道徳の資料については、福島県教育委員会で作成した資料や今までに活用した資料の保管場所を整理し、教材研究や資料の活用を容易にする環境を図った。

11 道徳の時間について「資料5」

全学年の授業の中で、ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集「生きぬく・いのち」第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」を活用するとともに、研究授業を行った。特に、1年生の授業は、研究公開とし、東京学芸大学大学院特命教授の福田富美雄先生を講師として招聘し、今後の道徳教育のあり方についての講演会を実施するとともに、公開した授業へのご指導やご助言を頂き、道徳の時間についての研究を深めることができた。

また、4月の授業参観や12月の研究公開で保護者や地域の方々に道徳の授業を公開するとともに、「私たちの道徳」を活用し、地域や家庭と連携を強化して、道徳教育の充実に努めた。

さらには、全校生での道徳の授業を行い、縦割りグループでの話し合いを中心に「いじめ」について考えさせた。その際、縦割りグループには、校長をはじめ全職員が関わったため充実した話し合いを行うことができ、生徒の考えを深めることができた。

12 成果と課題(○成果 ●課題)

本校教育目標の具現化の視点から「学び合いの工夫を通して、生徒一人一人がより良い生き方を考え、たくましく生きる生徒の育成」というテーマを設定し、取り組んできた。本年度の成果と課題については、以下の通りである。

- 平成26年度の教育課程の評価の一つである「道徳の時間に真剣に考え考えたり、発表したりした。」という項目について下記の表の通り結果が改善した。特に課題であった低学年で高い値となっている。これは、ア、イのような理由が考えられる。

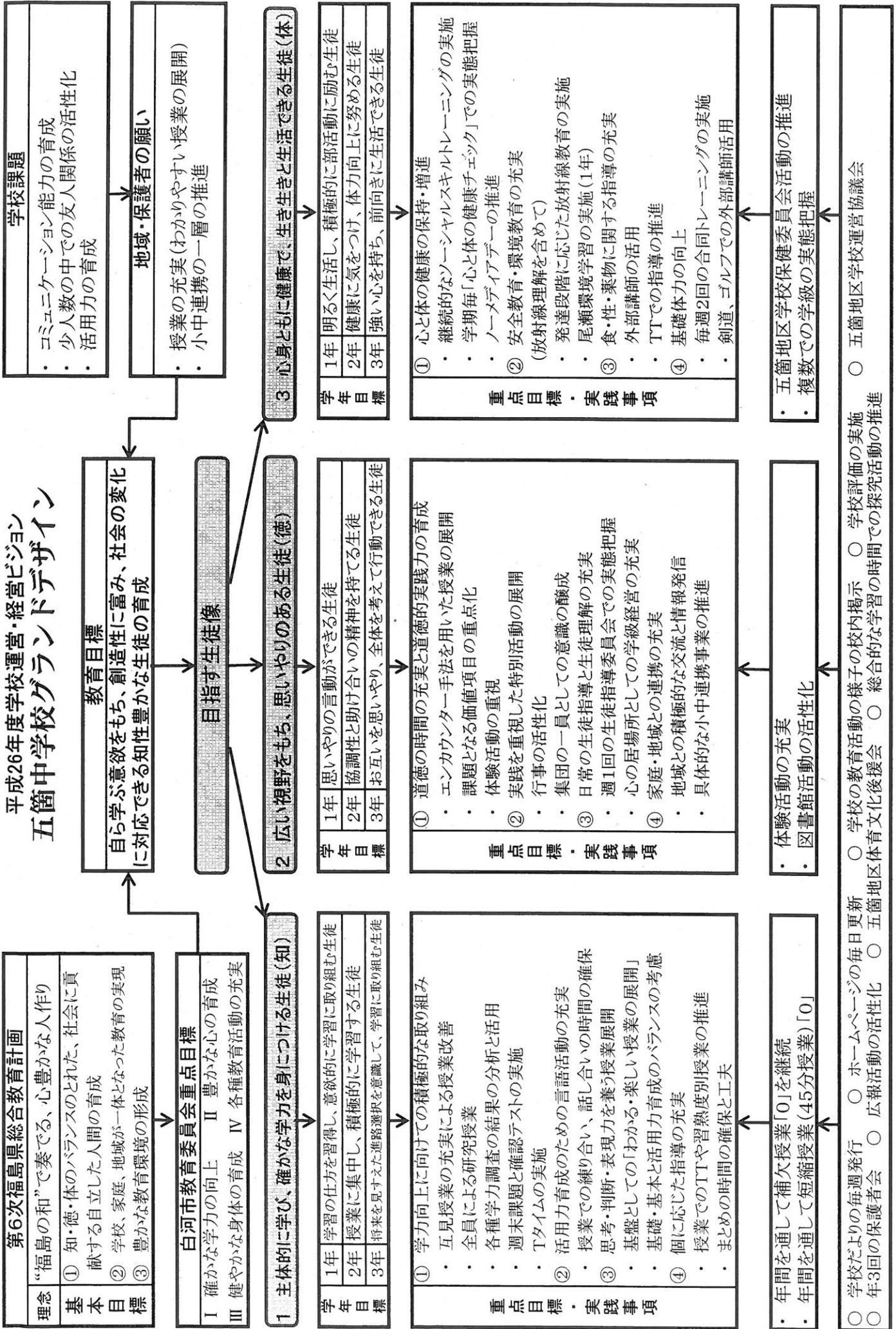
| 学 年 | 1 学期 | | 2 学期 | H 2 6 | H 2 5 | (5段階評価) |
|------|------|---|------|-------|-------|---------|
| 1 学年 | 3. 9 | → | 4. 4 | 4. 2 | | |
| 2 学年 | 3. 8 | → | 3. 9 | 3. 9 | 3. 5 | |
| 3 学年 | 3. 5 | → | 3. 7 | 3. 6 | 3. 6 | |

ア 道徳推進教師が行った道徳の資料の整理により、多くの資料から生徒の実態に合った資料を選択して授業を行ったことで、生徒の心を揺さぶり、物事を深く考えさせることができた。特に、ふくしまの道徳教育資料は身近な資料として生徒の考えを引き出すことができ、生徒の学び合い活動が充実し、よりよい生き方を考える機会とすることができた。

イ 発問の仕方を工夫したことにより、生徒の多様な考えを引き出すことができた。また、多様な考えにより価値の補充・深化・統合が図られた。

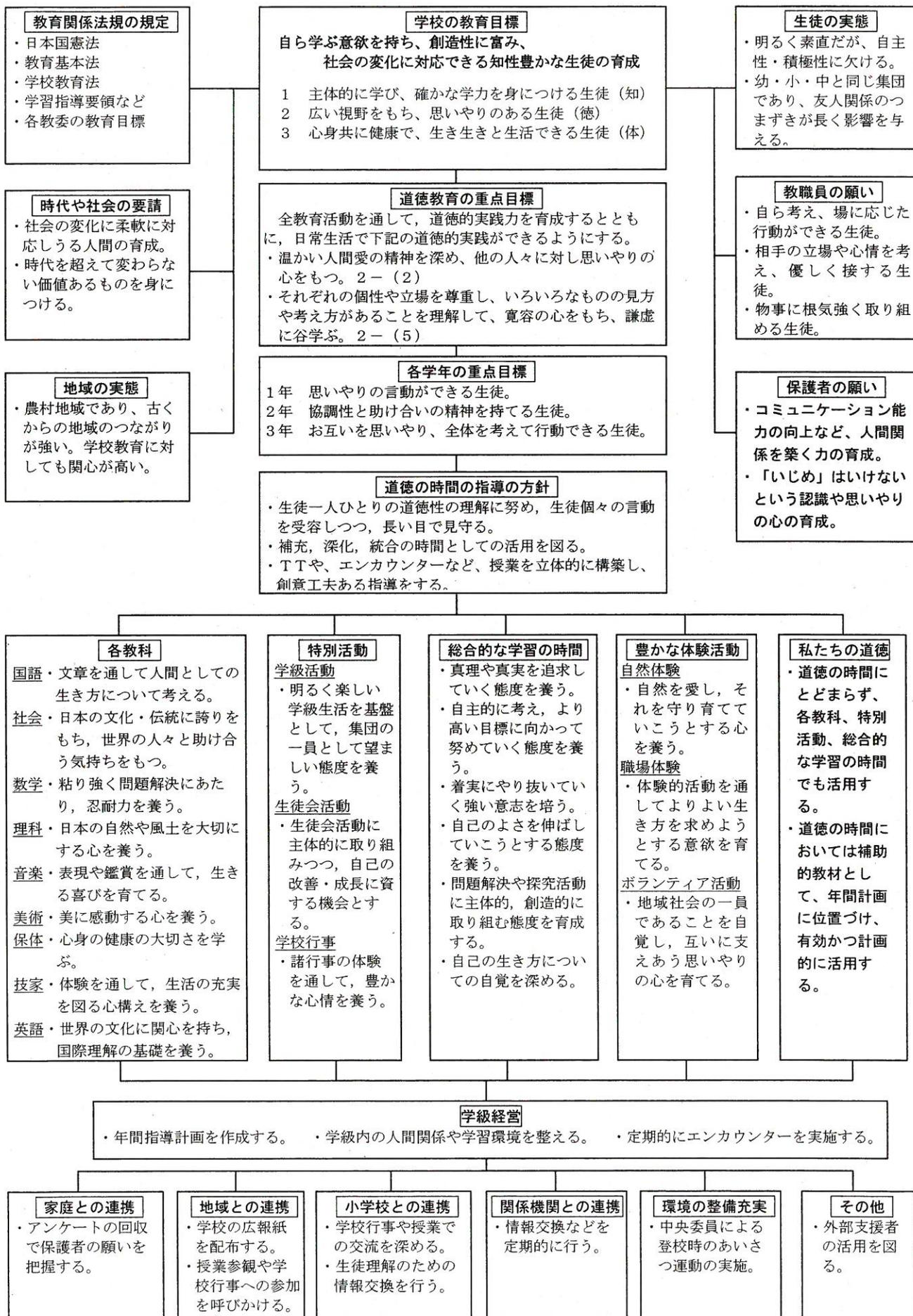
- 道徳教育推進教師と現職教育主任が連携し、校内研修で授業研究や別葉の作成など、道徳教育の推進に努めたことにより、教職員の意識が高まり、道徳教育の充実につながった。
- 学び合いを充実させるには、「考えをまとめる時間」「発表する時間」を十分に確保しなければならない。そのためには、資料の活用の仕方を十分に検討することが大切である。
- 発問については、教師の言葉だけに頼るのではなく、板書やパワーポイントなどを用いて視覚的に訴えることが効果的である。今後も、教育機器の活用について工夫する必要がある。
- 「学級における指導計画」や「別葉」などを今年度は重点的に見直し、「私たちの道徳」との関連も図ったが、さらに有効に活用できるよう具体性のある全体計画を作成し、学校全体で取り組む道徳教育の充実に努めていきたい。

平成26年度学校運営・経営ビジョン 五箇中学校グランドデザイン



道徳教育の全体計画

白河市立五箇中学校

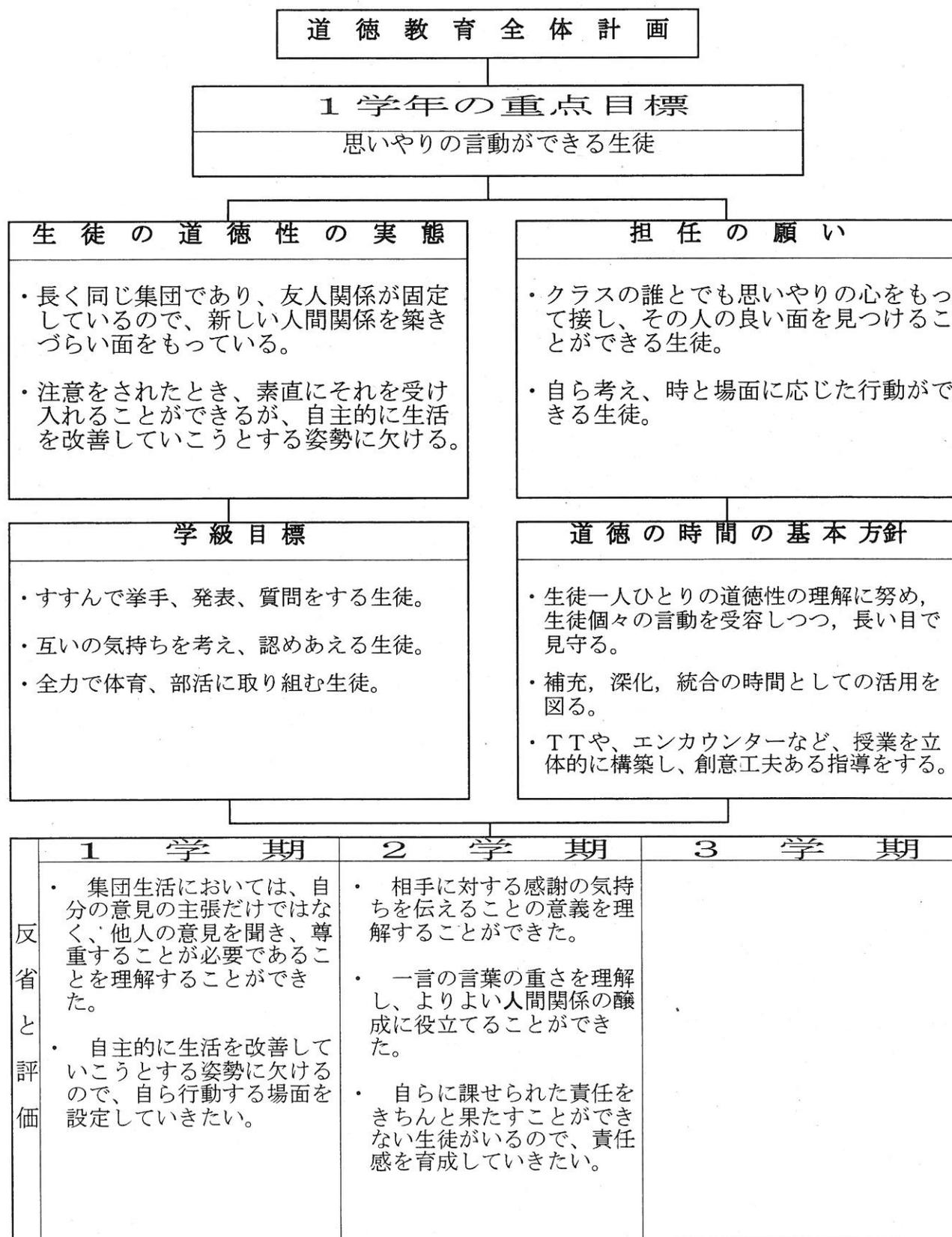


道徳科 第1学年

| 指導計画作成上特に配慮した事項 | | 生徒の実態に即し、指導の重点目標を達成するために必要な内容項目を重点的に取り上げ、思いやりのある集団作りのためのエンカウンターを定期的に取り入れるよう工夫した。また、総合的な学習の時間・情報モラル・他教科との関連に加え、私たちの道徳も計画的に活用できるように配慮した。 | | | | | | | | | |
|-----------------|-------------|--|------------------|-----------|---|---|---|--|----|--|--|
| 道徳の時間の年間計画 | | | | | 他の教科・外国語活動・諸活動との関連 | | | | | | |
| 月 | 主題 | 資料名 | 内容項目 | 私たちの道徳 | 教科、総合的な学習外国語活動と関連の内容項目 | 特別活動と関連の内容項目 | 生徒指導と関連の内容項目 | 学校行事、連携 | 時数 | | |
| 4 | オリエンテーション | 自作資料 | 1-(1) 節度・調和のある生活 | p.10～15 | 保健体育 武道 (礼儀) | オリエンテーション 対面式 入部式 学活「学級の組織と自分の役割」(役割と責任) | 中学生として自覚し、協力・友情の心を育てる。 (自主・自立) (望ましい生活習慣) | 入学式、始業式 身体測定 交通安全教育 修学旅行、遠足 授業参観 各種検診 | 1 | | |
| | 人を思う心 | 自作資料(エンカウンター) | 2-(2) 思いやり | p.54～59 | | | | | 1 | | |
| | 礼儀の意義 | 「いただきます」から始めよう | 2-(1) 礼儀 | p.48～53 | | | | | 1 | | |
| 5 | 望ましい生活習慣 | 野菜、食べてますか? | 1-(1) 節度・調和のある生活 | p.10～15 | 保健体育 武道 (礼儀) 心身の機能の発達と心の健康 (望ましい生活習慣) | 生徒会総会 選手壮行会 ハイパーQUTテスト | 学校・学級の決まりを理解し、自覚ある行動をとる。 (公德心) (社会連帯の自覚) | 家庭訪問 心電図検査 飯櫃、地域貢献 ボランティア活動 奉仕作業 | 1 | | |
| | 適切な言葉遣い | イマドキの高校生の言葉づかい | 2-(1) 礼儀 | p.48～53 | | | | | 1 | | |
| | あいさつの心 | あいさつの心 | 2-(1) 礼儀 | p.48～53 | | | | | 1 | | |
| | 自己責任の大切さ | 博文のブログ | 1-(3) 自律・責任 | p.22～27 | | | | | 1 | | |
| 6 | 文化の継承と発展 | しょうゆのふるさとを訪ねて | 4-(9) 日本人としての自覚 | p.206～211 | 全校道徳 音楽 育空へのぼろう (希望・勇気、強い意志) 社会(歴史) 歴史のとらえ方 (愛国心) | 学活「なぜ私たちは働くのだろうか」(勤労の意義) | 教室内での過ごし方を工夫し、規則正しい生活態度を養う。 (生活習慣) | 中体連総合大会 教育相談 全校道徳 | 1 | | |
| | 祖父母への感謝 | おばあちゃんのこころ | 4-(6) 家族愛 | p.180～185 | | | | | 1 | | |
| | 強い意志 | 願いのバトン | 1-(2) 強い意志 | p.16～21 | | | | | 1 | | |
| 7 | 勤労の尊さ | あめ細工職人 吉原孝洋 | 4-(5) 勤労・奉仕の精神 | p.172～179 | 心臓蘇生法講習会 (生命の尊重) | 学活「一学期の反省」 (向上心) | 1学期の生活や学習を反省し、有意義な夏休みを送らせる。 (自主・自律) | 薬物乱用防止教室 防犯教室 授業参観 学力テスト 校内球技大会 終業式 夏季休業 | 1 | | |
| | 礼儀の意義 | 自作資料 | 2-(6) 感謝 | p.82～87 | | | | | 1 | | |
| | 生命の尊さ | 生きるってどんなこと? | 3-(1) 生命尊重 | p.68～76 | | | | | 1 | | |
| 8 | 相手の立場の尊重 | 自作資料(エンカウンター) | 2-(5) 寛容・謙虚 | p.72～77 | | 学活「駅伝大会へ向けて」(強い意志) | 生活のリズムを整える。 (生活習慣) | 始業式 奉仕作業 | 1 | | |
| 9 | 相手の立場の尊重 | 自作資料(エンカウンター) | 2-(5) 寛容・謙虚 | p.72～77 | | 学活「地域に生きる一員として」(郷土愛) | 学校行事の意義を理解させ、協力と連帯の意義を育てる。 (役割と責任の自覚) | 校内駅伝大会 体験学習、職場体験 奉仕部会 | 1 | | |
| | 人を思う心 | 自作資料(エンカウンター) | 2-(2) 思いやり | p.54～59 | 1 | | | | | | |
| | 人を思う心 | 奄美の画家と少女 | 2-(2) 思いやり | p.54～59 | 1 | | | | | | |
| 10 | 感謝の心 | ご近所さんに「ただいま」 | 2-(6) 感謝 | p.82～87 | 社会(歴史) 中世の日本 (公德心、よりよい社会の実現) | 学活「文化祭を成功させよう」(校風の継承と発展) | 集団の一員としての役割を自覚をし、自主的に活動する。 (役割と責任の自覚) | 奉仕部会 結城祭 | 1 | | |
| | 人を思う心 | うちわと涙 | 2-(2) 思いやり | p.54～59 | | | | | 1 | | |
| | 集団生活での協力 | 合唱コンクール | 4-(4) 集団生活の向上 | p.166～171 | | | | | 1 | | |
| | ボランティア活動の意義 | 花火大会 | 4-(2) 公德心、社会連帯 | p.148～153 | | | | | 1 | | |
| 11 | 男女の敬愛 | 葉鶏頭の季節 | 2-(4) 男女の人格尊重 | p.66～71 | 美術 アジアの多様な美術 (国際理解、人類の福祉) 社会(地理) 世界のすがた (国際理解、人類の福祉) | 学活「職業について調べる」(生きる喜び) | 学習態度を整える。 (自主自律) | 三者相談 避難訓練 いのちの教育 | 1 | | |
| | 学校の一員としての自覚 | 修学旅行の見送り | 4-(7) よりよい校風の樹立 | p.194～199 | | | | | 1 | | |
| | 人類の幸福への貢献 | 「あたりまえ」ではなく「ありがたい」こと | 4-(10) 世界の中の日本人 | p.212～213 | | | | | 1 | | |
| 12 | 郷土愛 | 方言と出会うということ | 4-(8) 郷土愛 | p.114～119 | 美術 土と炎の造形 (自然愛護、畏敬の念) 音楽 夏の思い出 赤とんぼ (郷土愛) | 学活「2学期を振り返る」 (向上心) | 教室の整理整頓を心がけ、有意義な冬休みを過ごさせる。 (集団生活の向上) | 食の安全教育 学力テスト 学力テスト 終業式 冬季休業 | 1 | | |
| | 感謝の心 | たった1秒のありがとう | 2-(6) 感謝、報恩 | p.200～205 | | | | | 1 | | |
| | 社会秩序の維持 | キャッチボール | 4-(1) 秩序・規律 | p.134～139 | | | | | 1 | | |
| 1 | 相手の立場の尊重 | 約束 | 2-(5) 寛容・謙虚 | p.72～77 | 美術 文字や形で伝える (個性の伸長) 理科 いろいろな力の世界 (真実愛、理想の実現) | 学活「自分を見つめ直す」(向上心) | 自分の将来への希望実現に向け、今後の生活のあり方を考えさせる。 (理想の実現) | 始業式 奉仕作業 | 1 | | |
| | 自分の良さの発見 | 自分らしさとは | 1-(5) 向上心、個性の伸長 | p.38～45 | | | | | 1 | | |
| | 理想の実現 | 円谷英二 | 1-(4) 理想の実現 | p.32～37 | | | | | 1 | | |
| 2 | 友達への信頼 | いつも一緒に | 2-(3) 友情・信頼 | p.60～226～ | 生徒会総会 学活「将来の自分を考える」(理想の実現) | 自己理解を深めさせるとともに互いに励まし合い、向上しようとする態度を育てる。 (個性や立場の尊重、謙虚) | | 1 | | | |
| | 強く生きる | 運命を乗り越えて | 3-(3) 生きる喜び | p.120～125 | | | | 1 | | | |
| | 正義を実践する勇気 | 松本君への手紙 | 4-(3) 公正・公平 | p.160～165 | | | | 1 | | | |
| 3 | 自分の良さの発見 | 自作資料 | 1-(5) 向上心、個性の伸長 | p.38～45 | 美術 文字や形で伝える (個性の伸長) | 学活「2年生になる自分」(向上心) | 1年間の生活を振り返り、自分の成長を確かめると共に、次年度への目標を持たせる。(自主自律) | 学力テスト 卒業式 修了式 | 1 | | |
| | 学年のまとめ | 自作資料 | 1-(4) 理想の実現 | p.32～37 | | | | | 1 | | |
| 合計 | | | | | | | | | 35 | | |

学級における指導計画

白河市立五箇中学校
第1学年1組 担任



第2学年 道徳学習指導案

日 時： 平成26年11月17日（月）第5校時

学 級： 2年1組（男子7名 女子8名）

授業者： 金澤 喜一

1 主題名 「生きる喜び」

3-(3)

人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。

2 資料名 「温かさを分け合って」(出典：ふくしま道徳教育資料 第I集 生きぬく・いのち)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人間は誰しも弱い部分をもっている。自分の弱い部分と向き合い、乗り越えようとするのが、人間としての生きる喜びを見いだすことにつながるはずである。人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強くたくましくなる。

中学生の時期は、自分の弱い部分を感じては自信をなくしたり、劣等感を感じたりもする。人は誰でも弱い部分を含め、人間らしいよさをもっていることを認めるとともに、誰に対してもその人間としてのよさを見いだしていく態度を育んでいきたい。

(2) 生徒の実態

規律を守り、落ち着いた生活をするのできる集団である。また、どの生徒も家族に感謝の気持ちを持って接することができる。反面、小学校からクラスメイトが変わらないこともあり、お互いの立場を固定化し、切磋琢磨する姿が乏しい。

(3) 資料について

本資料は、中学3年生の作文である。大震災の影響で埼玉への転校を余儀なくされた筆者が、不安を抱え埼玉県での学校生活を始める。そこで、震災を通して助け合うことの大切さを学び、たくさんの人に支えられて生きていることを忘れなければ、人を傷つける言葉や相手の気持ちを考えない行動をとることはないと感じる。温かく迎えてくれた埼玉の友人たちや先生方、避難する前の学校の級友や先生方の温かい言葉を忘れず、自分も温かさを他人に分けられる人間になり、強く生きていく心を持つ人になろうということを考えさせる資料である。

(4) 指導にあたって

差別や偏見について、人間の弱さや醜さを見つめながらも、経験に裏打ちされた自分の言葉で主張する筆者の姿から、人間として力強く生きていく心構えや生きる喜びを見いだそうとする力について考えさせたい。

4 本時のねらい

見て見ぬふりをする消極的姿勢を憎み、いじめや不正を断固として許さぬ心を行動で表す実践意欲を培う。

5 研究主題との関連

研究主題 学び合いの工夫を通して、生徒一人一人がより良い生き方を考え、たくましく生きる生徒の育成

副主題 学び合いや関わり合いを取り入れた道徳の授業実践を通して

6 板書計画

| | | | | |
|--------------------|------------------------------------|--|------------------------|--|
| <p>「温かさを分け合って」</p> | <p>埼玉に引越したときの作者はどんな気持ちだっただろうか。</p> | <p>筆放射能による差別があることを知った作者は、どんな気持ちだったのだろうか。</p> | <p>作者が震災を通して学んだ事は。</p> | <p>どんなことがあっても、強く生きていく心とは、どんな心だろうか。</p> |
|--------------------|------------------------------------|--|------------------------|--|

7 学習過程

| 段階 | 学習活動・内容 ○発問 | 時間 | 予想される生徒の反応 | ○指導上の支援・留意点 |
|--------|---|----|--|---|
| 導 入 | 1 価値の方向づけをはかる。 ○事前アンケート「尊敬できる人・自分の弱いところ」の結果を聞く。 「温かさを分け合って」 | 5 | ・スクリーンに注目する。 | ・アンケートは教師がまとめ、集計結果をパワーポイントで示し、自分の考えに対して持っている認識を確認する。 |
| 展 開 | 2 資料を読む。 ○埼玉に引っ越したときの作者はどんな気持ちだっただろうか。 ○放射能による差別があることを知った作者は、どんな気持ちだったのだろうか。 ○作者は震災を通して何を学んだのだろうか。 ○どんなことがあっても、強く生きていく心とは、どんな心だろうか。 | 20 | ・不安 ・戸惑い ・心細い ・差別に対する疑問 ・怒り ・悲しい気持ち ・人権について考えるようになった。 ・守ってくれていたものに気づかされた。 ・人権を守りたいと思った。 ・助け合う心 ・大変な中でも普通の生活に戻そうとする行為 ・どんなことがあっても人を傷つける言葉や相手を考えない行動はしない。 | ・生活環境や実態とは、かけはなれているので、震災後の実態を映像で考えさせたい。 ・実際にあった風評被害についてパワーポイントで確認する。 ・大震災を通して、経験したことを生かし、他人にも温かい心を分けられるようになりたいという作者の考えを大切にしたい。 ・「強く生きる」ということを考えさせたい。 ・友だちの発表は、否定をしないで聞くようにする。 |
| | 3 価値の内面化を図る。 ○モラル・エッセイコンテスト「ふくしまで生きる」を読んで、感じたことをまとめる。 | 10 | ・「ワークシート」に取り組む。 | ・他地区の同年代の考えを通して、自分に振り返らすことができるようにしたい。 |
| 終 末 | 4 価値の内面化を図る。 ○自分の弱さとどのように向き合って、これからの生活に生かしていくか考えよう。 | 15 | | ◇人間として力強く生きていく心構えや今やるべきことを見出そうとする力を持つことができる。(ワークシート) |

8 成果と課題

事後研究会から

【成果】

- ふくしま道德教育資料第Ⅰ集「生きぬく・いのち」第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」や「私たちの道德」などを用いたことで、豊富な資料の中から生徒の実態に適しているかどうか、道德的価値がどのように含まれているかといった観点から資料を選択することができた。
- 事前アンケート調査結果より、集計結果をパワーポイントで説明し、自分の考えについて再確認させることができた。
- 主人公の状況がよく分かるように、プロジェクターを使って震災当時の写真を提示し、悲惨さや風評被害について認識させることができた。
- モラル・エッセイコンテスト「ふくしまで生きる」を資料として読ませ、同年代の生徒の考えを提示して、自分の考えを振り返えらせることができた。
- お互いの考えを深められるように、全員の考えを板書し、考え方の違いにも気づかせることができた。



【課題】

- 学び合いのためには、他の意見や考えを聞くことが必要であると考え、発表の時間を大切にしました。そのためには自分の考えを持つことが必要である。考える時間を確保するために、展開での資料読み取りには、時間がかからないように配慮した。しかし、資料中には作者の心情をおさえることのできる場面が多くあり、価値の深化を図るために発問をさらに工夫する必要があった。
- 価値の内面化を図るために活用したモラル・エッセイコンテストの作文は、同世代の様々な考えに触れることで、価値に重みを持たせることを狙いとしたが、「強い心」よりも「感謝」の価値に近づいてしまったように感じる。
- 発問については、作者の気持ちを読み取れるように、当時の映像や風評被害について、パワーポイントを通じて、視覚的に訴えることができた。生徒は、自分の考えをまとめ、全員が発表することができたが、映像提示のタイミングについては今後さらに検討していかなければならない。

【ご指導】 校長

- ・ 資料は、登場人物の心の読み取りだけにならないようにすることが重要である。
- ・ 生徒一人一人の意見を板書することによって、生徒の発表する意欲が高まった。
- ・ 福島県防災教育からの画像を使用することによって生徒の意欲が高まった。

第1学年 道徳学習指導案

日 時：平成26年12月10日（水）第5校時

学 級：1年1組（男子11名 女子4名）

授業者：岩本 哲

1 主題名 「感謝」

2-（6）感謝、報恩

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それに応える。

2 資料名 「たった1秒のありがとう」

（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集 敬愛・つながる思い）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

感謝の心は、多くの人々の善意や支えに対する感動や喜びから生まれてくるものである。さらに、その感動の心を言葉にして素直に伝えることが、他者との心の絆をより強くすることにつながる。積極的に感謝の気持ちを伝えることにより、潤いのある人間関係を築くことができるものと考えた。

(2) 生徒の実態

落ち着きがあり、お互いの立場を考え、行動することができる。反面、小規模校なので、固定化された人間関係を改善させづらく、悩みを持つ生徒もいる。

生徒は「周りの人に支えられていること」に気付いている者が大半であるが、「感謝の気持ちを素直に表現し、伝えること」は苦手としている生徒も多い。自分の感謝の気持ちを素直に表現し、相手に伝えることが人間関係の絆を深めることを理解させたい。

(3) 資料について

東日本大震災に伴う原発事故の影響で避難を余儀なくされた筆者が、避難所で支援者の温かい心に触れ、勇気と安らぎを得て、人間らしい生活と心を取り戻す。筆者は元気になるにつれ、周りの人々への感謝の気持ちを忘れていたことに気付く。本資料は、筆者の心に共感させ、互いに感謝の心を持ち、素直に伝えることの大切さについて考えさせることのできる資料である。

(4) 指導にあたって

本時の授業では、避難を余儀なくされた筆者の心に寄り添わせつつ、これまでの自分を振り返らせながら、多くの人に支えられていることに改めて気づかせ、感謝の気持ちを伝えていこうとする態度を育てたい。そして、「感謝の気持ちを相手に伝える」ことで、円滑な人間関係を育むことができる生徒を育てていきたい。

4 本時のねらい

自分を支えてくれている周りの人々に対して、進んで感謝の気持ちを伝えようとする態度を育てる。

5 研究主題との関連

研究主題 「学び合いの工夫を通して、生徒一人一人がより良い生き方を考え、たくましく生きる生徒の育成」

副主題 「学び合いや関わり合いを取り入れた道徳の授業実践を通して」

6 板書計画

| | | | |
|--------------------|--|-----------------------|---|
| 身近な人へ感謝の言葉を表現してみよう | これからの私は ・相手を責めてばかりではいけない ・温かい心に支えられている ・感謝の心を忘れない ・人間としての尊厳を忘れない | 「ありがとう」の一言で ・心が晴れる | 避難生活での私は ・何もない生活 ・自由がない ・イライラする ・不安 |
|--------------------|--|-----------------------|---|

7 学習過程

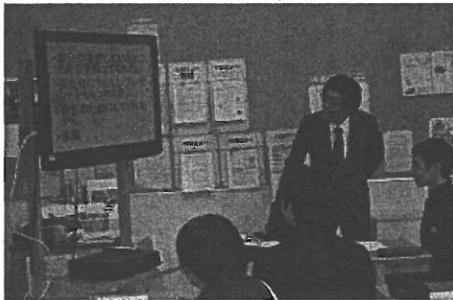
| 段階 | 学習活動・内容 ◎発問 | 時間 | ○指導上の留意点・手だて ◇評価 |
|------|--|-------------------|--|
| 導入 | <p>1 価値の方向づけをはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前アンケート結果を聞く。 ① 「誰かにありがとうを伝えたことはありますか。あった場合は理由も教えてください。」 →<例>友だちが助けてくれたから ② 「ありがとうの言葉以外に、感謝の心を伝えるためにしたことはありますか。」→<例>友だちの相談にのってあげた ③ 「あなたがあまり、ありがとうという感謝の気持ちを伝えられていない人はいますか。」 →<例>家族 | 10 一斉 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 数名にアンケートに答えたことを発言させる。 ○ アンケートの集計結果をパワーポイントで示し、「ありがとう」という言葉に対して持っている認識を確認する。 ○ 感謝はしているにもかかわらず「ありがとう」という言葉を伝えていない人物を確認する。 |
| 展開前段 | <p>2 価値の追求・把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を読む。 <p>◎ 『たちあおいの花が咲くと梅雨明けです。「ありがとうはたった1秒の言葉です。」暑さをのりきってがんばろう。』に込められた意味はなんだろう。</p> <p>◎ 私が、自分の心の中にある「慣れ」という恐ろしさに、がくぜんとしたとはどういうことか。(中心発問)</p> | 20 一斉 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自由に感想を言わせ、筆者の考えが変化してきたことを理解させる。 ○ 私が支援されることに慣れてきて、感謝の気持ちを忘れ始めていることに気付かせる。 ○ 私が反省し、感謝の気持ちを取り戻すことに気付かせる。 <p>◇ 人々の善意や支えに対して、進んで感謝の気持ちを伝えることの大切さに気付くことができたか。 (ワークシート・発表)</p> |
| 展開後段 | <p>3 価値の内面化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ありがとう」を伝えられていない人物とその場面を振り返り、なぜ素直に表現できなかったのかを考える。 「像の背中 旅立つ日」のスライドショーを見て、身近な人々への感謝の気持ちを素直に表し、伝えることの大切さを実感する。 | 15 班 一斉 | <ul style="list-style-type: none"> ○ スライドショーで、家族の絆を伝え、忘れかけている感謝の気持ちを素直に表し、伝えることの大切さを実感させる。 |
| 終末 | <p>4 価値の深化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な人への感謝の言葉をワークシートに記入する。 | 5 一斉 | <p>◇ これまでの自分について、価値と照らし合わせて振り返り、感謝の心を素直に表現できたか。 (ワークシート・発表)</p> |

8 成果と課題

事後研究会から

【成果】

- 事前アンケート調査の集計結果をパワーポイントで説明し、生徒各自の「感謝」についての考えを再確認させることができた。
- 「たちあおい」の映像を提示することで、資料中の場面や主人公の状況をよく理解させることができた。
- 「象の背中 旅立つ日」を映像で見せることで、身近な人への感謝の気持ちを素直に表し、伝えることの大切さに気づかせるとともに、余韻を持たせることができた。
- お互いの考えを深めさせるように、考えを記入した全員の短冊を黒板に掲示し、とらえ方の違いにも気づかせることができた。



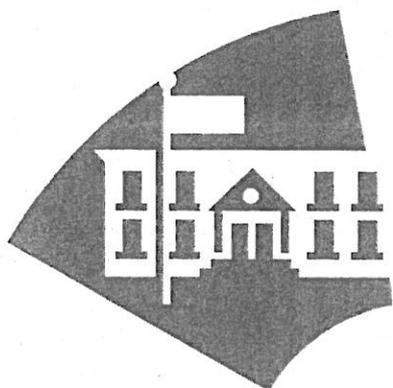
【課題】

- 映像資料「象の背中 旅立つ日」は、「感謝」についての価値の内面化を図るために活用したが、様々な価値が含まれており、中心資料とのつながりという点で適切であったか検討が必要である。
- 発問を絞り込んで生徒により深く考えさせることを意図したが、授業での発問が曖昧であったために、生徒が自分の考えを十分にまとめることができなかった。発問内容について検討・工夫していく必要がある。

【ご指導】 福田富美雄 東京学芸大学大学院 特命教授

- ・ 教師が意図した生徒の反応が出たのではないか。自分のためにしてくれたことに対して「ありがとう」の気持ちを持つことが人として大切なこと、尊いことである。
- ・ 映像「象の背中 旅立つ日」について、歌は心を揺さぶるが、歌詞の意味が生徒に十分に伝わったのか疑問である。歌詞だけを別に映す工夫があるとよかった。
- ・ 「私たちの道徳」を活用してほしい。小学校からの系統立てた指導をする必要がある。
- ・ 自分の考えを書いただけでは、生徒の思考の高まりは期待できない。
「他の人の考えを聞く」→「気づく」→「新しい考えに結びつく」これが高め合いである。
- ・ 学習指導要領解説書の道徳編を手元に置いて活用してほしい。

【会津地区】猪苗代町立猪苗代小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

| | |
|---------------|--|
| 学校名 | 猪苗代町立猪苗代小学校 |
| 所在地 | 耶麻郡猪苗代町字茶園5770番地 |
| 校長名 | 菊地 康則 |
| 学校の教育目標 | 「正直」と「忍耐」を生き方の基本に据え、人・社会・自然とのかかわりを通して自分を高めるとともに、集団の向上に寄与し、大きな「目的」に向かってたくましく実践できる子どもたちを育てる。 |
| 学級及び児童生徒数 | 普通学級11 特別支援学級2 児童数264 |
| 学校の教育目標 | やさしく(徳) かしこく(知) たくましく(体) |
| 道徳教育にかかる取組の概要 | 1 道徳の時間を要として、学校教育全体を通して道徳教育を推進し、教育目標(特に心正しくやさしい子ども)の具現化を図る。 2 道徳教育に対する教職員の意識を高め、家庭・地域との連携を通して、道徳教育の充実を図る。 |

2 研究テーマ

道徳の時間の充実と学校・家庭、地域との連携を通して豊かな心を育む (1年次)

3 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

現代社会は産業や科学技術が発達し、物が豊かで豊かで便利な生活を送ることができる。しかし、少子高齢化が進み、社会全体の活力が低下してきている。また、地域社会のつながりや支え合いも弱くなり、孤立化が進むとともに規範意識が低下してきている。少子化の中で兄弟姉妹も少なく、家庭では一人一人が大事にされながら、便利さの中で生活しているため、自分から行動する主体性や困難に直面した際には、乗り越える力等も弱くなりつつある。

このような社会の中で自立し、他と協働しながら生活する「生き抜く力」を育成することが強く求められている。未来を担う児童が将来への夢や希望を持ち、生きる喜びが実感できる教育を進める必要がある。

小学校での道徳教育は、「児童に人間としての在り方や生き方の自覚を深めさせ、よりよく生きようとする基礎・基本となる道徳性を育成すること」である。この道徳性は、学校だけでなく家庭や地域社会を含めたすべての環境によって育まれるものである。この課題を解決し、目標を実現するためには、学校での道徳教育の充実、とりわけ道徳の時間を大切にした指導と「学校・家庭・地域社会」の三者の連携こそが大切な要素である。そこで、本校では上記のテーマを設定して取り組むことにした。

(2) 本校の教育目標の具現化から

本校では、「豊かな心を持ち、自ら考え、進んで実践する子ども」の育成を目指し、道徳の時間を「自己を見つめさせ心に響き心が動く授業」の実現に力を入れている。校長の示す学校経営・運営ビジョン及び道徳教育の方針を十分に踏まえ、保護者や地域社会の理解を得ながら進めることで、より豊かで、多様な道徳教育が推進できるものと考えている。学校・保護者・地域が一体となり、協力・連携しながら教育目標の具現化を図っていく。

4 研究計画

| 月 日 | 内 容 | 備 考 |
|--------|---|-----------------------------|
| 5月19日 | 第1回福島県道徳教育推進協議会（於. 福島市杉妻会館） | 校長 出席 |
| 6月10日 | ふれあい 授業参観における道徳授業公開 2年1組 5年1組 5年2組 | |
| 6月16日 | 道徳教育総合支援事業に関わる外部講師を招聘しての授業公開・講話 筑波大学附属小学校 加藤宣行先生 | |
| 6月23日 | 第1回道徳教育推進委員会 ・組織編成と道徳推進計画の立案 | |
| 6月25日 | 要請訪問時の指導案（1年1組）事前検討会 | |
| 6月26日 | 各学級道徳指導計画の作成開始 | |
| 7月 2日 | 要請訪問 1年1組大堀加代子 授業「はしの上のおおかみ」 指導助言者 会津教育事務所指導主事 佐藤 毅先生 | |
| 7月 9日 | 第1学期末授業参観 保護者への道徳授業公開 1年1組 1年2組 2年2組 3年1組 3年2組 4年 6年1組 6年2組 あいご学級 | |
| 7月14日 | 第2回道徳教育推進委員会 ・3年2組、6年1組の道徳指導案について ・道徳計画別葉の見直し（改善週間 ～18日） | |
| 8月26日 | 第3回道徳教育推進委員会 ・3年2組、6年1組の道徳指導案の検討 ・地区別推進協議会についての準備計画 | |
| 9月11日 | 道徳教育地区別推進協議会事前準備 | |
| 9月12日 | 道徳教育地区別推進協議会 ・3年2組 「なかよしだから」・6年1組 「黄熱病とのたたかい」 の授業公開 | |
| 12月5日 | 第4回道徳推進委員会 ・道徳指導計画別葉の見直し（改善週間） ・各学級道徳プランのまとめ ・研究のまとめ（成果と課題） | |
| 12月10日 | 道徳・学級活動 5・6年 情報モラル教育 「携帯電話の安全な使い方」 | 電話会社の外部講師による 保護者授業参観時に実施 |
| 1月 19日 | 第5回道徳教育推進委員会 ・次年度の重点指導内容の検討 | |
| 2月 6日 | ・道徳指導計画別葉の見直し（改善週間） | |
| 2月 下旬 | 先輩による講演会（「夢・目標・挑戦・努力」をテーマに） | 卒業生 遠藤 尚選手 等 |
| 3月 6日 | ・次年度の教育課程作成 | |

5 児童生徒の実態及び地域の課題

児童は、明るく素直な子が多く、あいさつはよくできる。また、男女の仲もよい。ただ、がまん強さに欠け、地道な努力の継続を苦手とする子が多い。

学校は猪苗代町の中心地にあり、学区内には、役場、体育館、体験交流館、図書館、中小の商店、スキー場、民宿やホテルなどがあり、季節ごとに観光地として賑わっている。学区は広く、一番遠い児童は路線バスで15kmの距離の所から通学している。少子化の影響を受け、地区内に友達が少なく、帰宅後に戸外で一緒に遊ぶという経験が不足している子も多い。また、三世代で生活する大家族も多いが、アパートに住んでいる子どもは、核家族の共働きや父子家庭や母子家庭などにより、放課後児童クラブ(67名)に預けている。地域や家庭の教育力が低下している傾向が出てきている。

6 道徳教育における校長の指導の方針

【資料1】

- (1) 道徳の時間を要として、学校教育全体を通して道徳教育を推進し、教育目標(特に心正しくやさしい子ども)の具現化を図る。
- (2) 道徳教育に対する教職員の意識を高め、家庭・地域との連携を通して、道徳教育の充実を図る。

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について

【資料2】

- (1) 野口英世博士の母校として、野口博士の遺訓を教育目標に据え、そこから、道徳教育の重点目標を4点掲げている。
- (2) 低学年は「節度ある生活態度」と「勤勉努力」を、中学年は「不撓不屈・努力」と「思いやり・親切」を、高学年は「不撓不屈・努力」と「思いやり・協力」を今年度の最重点目標に位置づけている。
- (3) 道徳の時間には、「心に響き心が動く授業の実現」をキーワードにして、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・外国語と密接な関連をはかり、道徳的実践力を育成することをめざしている。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について

【資料3】

内容項目を表の縦軸にして、横軸に低学年は「道徳・特別活動・国語・生活・算数・音楽・図画工作」の教科を位置付け、関連する資料・題材・行事等を記入し、何月に実施するかを明示した。

同様に、中学年は横軸に「道徳・特別活動・総合的な学習の時間・国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・保健」を、高学年は横軸に「道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動・国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・保健」を位置付けた。

9 平成26年度 学級における指導計画について

【資料4】

学級の指導計画の名前を、『道徳学級プランきらきら』とし、「1 各学級の実態」「2 育てたい力」「3 手立て(きらきらクラスにするために)」「4 成果と課題」の項目を設け、「ふくしま道徳教育資料集」の活用を記入する欄も記載し、活用した上での成果と課題を記入できるようにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 指導体制の見直し

【資料5】

道徳教育の目標を達成するために、校長のリーダーシップのもと、指導体制の見直しを図った。「道徳教育推進委員会」の組織における教職員の役割分担を明確にし、「誰が、何をするか」ということを共通理解した。そのため、学校全体で行うこと、学年・学級で取り組むことが明らかになり、計画的に進めることが可能になった。

(2) 道徳の時間の充実・改善

① 道徳学級プランきらきらの作成

「1 学級の実態」、「2 育てたい力」、「3 手立て」、「4 成果と課題」の項目を設け、ふくしま道徳教育資料集か

ら活用できる資料を位置付け、活用を図れる学級プランとした。

② 道徳の授業公開及び研究会の推進

6月の要請訪問時には、推進教師が授業を提案した。授業参観時には、どの学級も最低1回は道徳の授業を公開する取り組みを図った。また、研究会においては、自校の実践を発表した。

③ 道徳授業の充実・改善の提案

道徳教育推進委員会において、次のような授業の改善を図るための視点を提案してきた。

○道徳的心情を育てる「テーマ発問型授業」 ○言語活動を生かした道徳の授業 ○本時のねらいにおける行動目標の設定 ○授業の展開に応じた板書の工夫 ○郷土資料「ふくしま道徳教育資料集ⅠⅡ」の活用奨励 等

(3) 善行を紹介するコーナーの設置

【資料6】

「きらきら猪小」コーナーを設置した。児童が友達の親切な行為や思いやりある行動、節度ある行為、勇気あふれる行動、真摯に努力する姿を発見した場合、カードに記入して、「きらきらボックス」に入れる。そのカードを、教師が、全校児童の通る昇降口に「きらきら猪小」というタイトルで掲示した。道徳担当の教師が、昼の放送で定期的に紹介し、善行を称賛・奨励した。

1.1 道徳の時間について

【資料7】

保護者または、他校の教師等に公開した授業は、次の通りである。

6月10日・・・2年1組 「二ひきのライオン」 5年1組と2組「お父さんのおべんとう」

7月 2日・・・1年1組 「はしのうえのおおかみ」

7月 9日・・・1年1組と2組「うかんだ うかんだ」 2年2組「森のともだち」

3年1組「なかよしだから」 3年2組「よわむし太郎」 4年「わたしの見つけた小さな幸せ」

5年1組「命がないと 始まん」 6年1組「命の重さは みな同じ」 6年2組「手品師」

9月12日・・・3年2組 「なかよしだから」 6年1組「黄熱病とのたたかい」

等である。その中から1年1組の「はしのうえのおおかみ」【資料7-①】、3年2組「なかよしだから」【資料7-②】、6年1組「黄熱病とのたたかい」【資料7-③】の指導案を掲載する。

1.2 成果と課題 【○成果 ●課題】

(1) 道徳の時間の充実について

- 筑波大学附属小学校の加藤先生に道徳の授業と講話をお願いし、全教職員で研修をした。研修前は「場面発問」を中心に授業構成をしていたが、「テーマ型発問」も取り入れるようになり、授業の質的改善を図ることができた。板書についても以前は時系列的に書くことが多かったが、児童の意見をとりあげながら構造的に示したり、児童が参画したりしての板書に変化していった。
- 「テーマ型発問」の授業や役割演技や劇化の表現活動を取り入れたことにより、児童の意見や考えが活発に出されるようになった。また、書く活動も意図的に行われ、自分の考えや心情を書く活動が定着してきた。
- 全教職員が道徳教育に対する理解を深め、実践意欲が高まり、授業参観日や地域に公開する「ふれあい授業日」に、全教員が工夫した道徳の授業を公開し、保護者や地域の方々の教育活動への理解を得ることができた。
- 道徳の副読本の他に、「私たちの道徳」や郷土資料「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用することができた。
- 情報モラルについて、外部の講師をお願いして携帯電話等情報ツールの利用の仕方を指導していただくとともに、担任から補足説明をして、指導の充実を図ることができた。また、保護者にも参観の場をとったことにより、「情報モラル」の大切さを理解してもらうことができた。
- 授業の質的改善がなされつつあるものの、ねらいにあった教材及び資料の準備（映像ソフトや多様な形式の教材や資料）やゲストティチャーなどの協力的な指導体制の整備等は、より一層充実させる必要がある。
- 児童の意見や考えが出されるようになったが、活発な話し合いや討論し合う段階には至っていないので、今後も国

語科及び他教科等で言語活動の充実を図り、道徳の時間がますます活性化し、ねらいの達成に結びつくようにしていきたい。

(2) 学校教育全体を通しての道徳教育の推進について

- 道徳の全体計画、学級の計画及び指導計画「別葉」を利用し、各教科・外国語活動・特別活動・総合的な学習の時間との関連を考慮した指導が行われるようになった。特に、4・5年生の宿泊学習、6年生の修学旅行等は、きまりを守る大切さ、マナー等の実践の場となり、道徳的实践力を向上させることができた。
- 学校の重点指導の一つとして「笑顔であいさつ」を掲げてきたが、全校集会において校長より積極的なあいさつの励行について講話をしたり、児童会の活動として昇降口で「あいさつ」を呼びかけたりしたことで、あいさつをする児童が増えた。保護者による学校教育活動アンケートでは、前年度よりも高い評価（「とても良い」が7ポイント増加）をいただくことができた。
- 児童の善行や親切な行為、思いやりある行動、節度ある行為、勇気あふれる行動、真摯に努力する姿を掲示した「きらきら猪小」コーナー設置と昼の放送での紹介は、児童のよさを発見することにつながるとともに、善行を奨励する機会となった。児童が笑顔であいさつする姿やお金や財布を拾い届けた行動に対して、地域の方より感謝やお褒めの言葉が寄せられた。また、校内ではトイレのサンダルが乱れていたら進んで揃える児童が増え、整とんが行き届くようになってきた。
- 道徳性の育成には、児童の生活の中心となる学級や学年での生活が大切になる。担任等の適切な指導により、望ましい雰囲気や学級作りができるよう学級・学年の経営にも一層力を注ぐようにしたい。
- 本校は世界的医学者の野口英世博士の母校である。また、最近ではスキー競技においてオリンピックやワールドカップに出場して活躍している遠藤尚選手の母校でもある。野口博士について詳しい方や遠藤選手本人に道徳の時間の講師として、または講演会を設定したりして話を聞く機会を設け、生き方等を学ぶような計画も位置付けていきたい。
- 児童の変容をとらえるのに、教師による児童観察や、児童相互のよさの発見、保護者による学校教育活動アンケート等であったが、検証方法を事前に確立して取り組むことができれば、より客観的なデータをとることができたかもしれない。

(3) 学校・家庭、地域との連携を通しての道徳教育について

- 夏休みや冬休みなどの長期休業日前に、「私たちの道徳」を家庭に持たせ、読ませたり、記入させたりなど、有効に活用し、学校と家庭の連携を図って、指導することができた。
- 道徳の授業を公開し、保護者や地域の方々に道徳教育や教育活動への理解が進んだが、さらに協力が得られるよう道徳教育の方針をHPや学校だよりで分かりやすく伝えたり、授業公開後に保護者や地域の方と意見を交流したりする機会を持つようにしていきたい。
- あいさつをする児童が増えてきている。しかし、児童全員が地域のなかでも、しっかりできているわけではない。日常のどの場面でもできるように、家庭や地域社会とも密接に連携をしながら、指導をしていくようにする。
今後は、PTA活動であいさつ運動に取り組んだり、青少年健全育成会議、学警連等の諸団体とも連携・協力したりして、児童によい習慣を身につけさせていきたい。
- 平成27年6月に、ミクロネシア諸島（ミクロネシア連邦フェイク州、パラ共和国）の児童30名が自然体験に国立磐梯青少年の家を訪れる。本校児童との交流も予定されているので、国際理解はもちろんのこと、国際親善に努めさせ人類愛についても考える道徳教育の機会としたい。

「正直」と「忍耐」を生き方の基本に据え、人・社会・自然とのかわかりを通して自分を高めるとともに、集団の向上に寄与し、大きな「目的」に向かっ実践できる子どもを育てる。

目指す姿

- 【学校像】
- 笑顔、あいさつ、会話、感謝があふれる学校
 - 美化環境が整い安全策が施されている学校
 - 地域に関われ、行動連携をする学校

- 【児童像】
- 心正しくやさしい子ども
 - 自ら学ぶかたしこい子ども
 - いつも元気でたくましい子ども

- 【教師像】
- 子どもと共に語り、共に行動し、温かい学校作りを率先して示す教職員
 - 研修者や地域と協働し、共に行動する教職員
 - 保護者や地域と協働し、共に行動する教職員

こんな学校に

- 「挨拶」がとぎやがとぎの言葉があふれる学校
 - 子どもも教師も楽しく生活する学校
 - 花や動物とふれあえる学校
 - 地域と関わりあふれる学校
- ・学校・学年便りの発行
・地域・保護者を対象としたフリー参観デーの実施

こんな教師に

- 子どもとの話を良く聞き、自分の学級に自信を持って誇りにできる教師
- 指導力を高め、率先・継続して児童に範を示している教師
- 地域に関わり、積極的なコミュニケーションを図り、保護者から信頼される誠実な教師
- 教諭・養護教諭・栄養士・主査それぞれの使命のもと、児童の成長に積極的に結集し寄与しあえる教師

重点目標

温かく望ましい人間関係を築く

知識・技能の習得を高め、活用・応用（知）

心身健康で体力・運動能力、安全意（体）

- このようない言動を許さない正しい言動を
- いじめ、意地悪を許さない子どもたちと仲良く助けあえること
 - 実践で豊かさを味わうこと
 - 合うこと

- このようなたい言動を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできる
- 学力検査で全国平均を上回ることができること
 - 学習意欲が伸び、基礎学力を高められること
 - 家庭でも継続する学習意欲を身に付けること

- このようない言動を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできる
- 正しい生活態度を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできること
 - 体力・運動能力を高め、安全意を高めること
 - 安全意を高め、安全な生活を送ることもできること

重点実践事項

- 望ましい言動の推進
 - ① 児童相互に認め合い、思いやりと協力、児童会の活動、道徳、ボランティア活動の継続
 - ② 児童相互に認め合い、思いやりと協力、児童会の活動、道徳、ボランティア活動の継続
 - ③ 児童相互に認め合い、思いやりと協力、児童会の活動、道徳、ボランティア活動の継続
 - ④ 児童相互に認め合い、思いやりと協力、児童会の活動、道徳、ボランティア活動の継続
 - ⑤ 児童相互に認め合い、思いやりと協力、児童会の活動、道徳、ボランティア活動の継続

- 学校はこのようなたい言動を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできる
- ① 家庭の協力のもと「早寝 早起き 朝ごはん」の習慣を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできること
 - ② 健康実践の充実を図り、朝食の摂取を促すこと
 - ③ 安全な環境づくりと危険を回避する力を育てる
 - ④ 運動の楽しさを味わい、体力・技能の向上を促す
 - ⑤ 記録の取組を継続し、記録の活用を図る

- 学校はこのようなたい言動を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできる
- ① 家庭の協力のもと「早寝 早起き 朝ごはん」の習慣を身に付けて、健康で安全な生活を送ることもできること
 - ② 健康実践の充実を図り、朝食の摂取を促すこと
 - ③ 安全な環境づくりと危険を回避する力を育てる
 - ④ 運動の楽しさを味わい、体力・技能の向上を促す
 - ⑤ 記録の取組を継続し、記録の活用を図る

児童の実態
 ・明るく素直で動植物を大切に
 ・男女の仲がよい
 ・学校では、あいさつがよくできる
 ・がまん強さがたりない

学校の教育目標
 「正直」と「忍耐」を生き方の基本に据え、
 人・社会・自然とのかかわりを通して高めるとともに、
 集団の向上に寄与し、大きな「目的」に向かってたくましく実践できる子どもたちを育てる。

教師・保護者の願い
 ・誰に対しても思いやりのある子に育てたい
 ・よく考えて行動する子どもに育てたい
 ・最後まで粘り強くやり遂げる子どもに育てたい

道徳教育の重点目標

- 基本的な生活習慣を身に付け、節度ある生活ができる子ども
- 目的に向かって、最後まで粘り強くやり遂げる子ども
- 相手を思いやり、仲よく助け合う子ども
- 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にしようとする子ども

家庭の願い
 ・あいさつ、礼儀、思いやりのある子どもに育てたい

| 低・中・高学年の重点目標 | | ◎は今年度の重点目標 |
|--------------|--|------------|
| 低学年 | ◎ 健康安全に気をつけ、身の回りを整え、わがままをしない。(節度ある生活態度) ○ 誰にでもやさしく親切にする。(思いやり、親切) ◎ 最後までがんばる(勤勉努力) ○ 生命を大切にしようとする心を持つ(生命の尊重) ○ 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をする。(節度ある生活) | |
| 中学年 | ◎ 自分のめあてに向かって粘り強く最後までがんばる(不撓不屈・努力) ◎ 相手のことを思いやり、親切にする(思いやり、親切) ○ 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。(生命の尊重) ○ 生活を振り返り節度ある生活をする。(節度ある生活) ○ 自主性・協し助け合うことを大切にすること。(自主性・協力) | |
| 高学年 | ◎ 目標実現のためにくじけず、粘り強く、最後までやり遂げる。(不撓不屈・努力) ◎ 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする(思いやり・協力) ○ 生命がかげがえのないものである事を知り、自他の生命を尊重する(生命の尊重) ○ 自立心、国家、社会の一員としての自覚を持つ(自覚と責任) | |

道徳の時間
 豊かな心を持ち、自ら考え、進んで実践する子どもを育てるために、自己を見つめさせ
心に響き心が動く授業の実現に力を入れて取り組んでいく

| 各教科における道徳教育 | |
|-------------|---|
| 国語 | 読んだり書いたりする学習を通して豊かな心情や表現力を養い、聞いたり話したりする学習を通して相手を尊重する態度を育てる。 |
| 社会 | 社会生活の理解を深め、郷土を愛する心や公民的資質の基礎を養う。 |
| 算数 | 数理的な処理の良さを知り、進んで生活に生かす態度を養う。 |
| 理科 | 自然に親しみ、愛護しようとする態度を育てると共に探求的な態度を育てる。 |
| 生活 | 具体的な活動や体験を通して自立の基礎を養う。 |
| 音楽 | 音楽の美しさ、楽しさを感じさせ、豊かな情操を育てる。 |
| 図工 | 創造の喜びや造形の美しさを感じさせ、豊かな心を育てる。 |
| 体育 | 健康の増進と体力の向上を図ると共に、互いに協力し合い、励まし合う態度を育てる。 |
| 家庭 | よりよい家庭生活を送ろうとする態度を育てる。 |

| 特別活動における道徳教育 | |
|--|--|
| 集団に一員としての自覚を高め、協力して、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。 | |
| 学級活動 | 学級内の望ましい人間関係や意欲的な生活態度を育てる。 |
| 児童会活動 | 集団の一員としての役割を自覚し、協力して責任を果たそうとする態度を育成する。 |
| クラブ活動 | 興味・関心を基に、創意ある活動への向上意欲と協力性を育てる |
| 学校行事 | さまざまな体験を通して協力、責任、勤労などの大切さを認識させる。 |

豊かな体験活動

- ・ 宿泊学習
- ・ 縦割り清掃
- ・ 集団登下校
- ・ 休み時間の遊び活動
- ・ 給食時の食育、協力

家庭・地域との協力

- 学校、学年、学級だよりの発行
- PTA協力事業
- 学年、地区、各委員会活動
- 後援会活動
- スポーツ少年団活動
- 学校評議員
 - ・ 事前調査
 - ・ 意見、感想依頼
 - ・ 授業参観
 - ・ 学年・学級懇談会

指導の内容・時期
 各学年別葉で

| | |
|-------------------|---|
| 総合的な学習の時間における道徳教育 | 自分にとって切実な課題に取り組む学習を通して、自分の生き方を探求する態度を育てる。 |
| 外国語の学習に関する道徳教育 | 外国の言葉に接することにより、国際理解の気持ちを深め、自国に対する誇りを養う。 |

別葉の活用 3年 猪苗代小学校 【資料3】

| 内容項目/教科・領域 | 道徳 東京書籍 | 特別活動 | 総合的な 学習の時間 | 国語 光村図書 | 社会 東京書籍 | 算数 東京書籍 | 理科 東京書籍 | 音楽 教育出版 | 図画工作 日本文教出版 | 保健 東京書籍 | 道徳の時間を生 かす体験活動 |
|---------------------|---|---------------------------------|------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|-----------------------|--|----------------------------------|--|---------------|---|
| 1-1(1) 節度ある生活態度 | あつしの計画ひよ う(4月) | | | | | 計算のしかたをく ふうしよう(6月) | | | | 健康な生活 (6月) | よい苗の教室(7 月) |
| 1-1(2) 不とう不屈・努力 | まげるものか (11月) | 春季大運動会 (5月) | | | | | | めざせ業き名人 (9月、1月) | | | |
| 1-1(3) 勇氣 | 二つの声(5月) | | | | | | | | | | |
| 1-1(4) 正直誠実・明朗 | ぬれた本(4月) 与作のカキの実 (10月) | | | | | | | | | | |
| 1-1(5) 個性の伸長 | じゃがいもの歌 (3月) | わくわく発表会 (11月) | | わたしと小鳥とす ずと(8月) | | | | | 大すまひの種と巻(4月) こんなことがあつたら(6月) やまのいも(5月) | | |
| 2-1(1) 礼儀 | あいさつをすると (5月) | | | | | | | | | | |
| 2-1(2) 思いやり・親切 | やさしい人大きく せん(6月) ほぐしたら、手つだ います19(月) | | | | | | | | 虫さんランド (12月) | | |
| 2-1(3) 信頼友情 | なかよしだから (7月) | | | | | 長さははからう (10月) | | 小さな世界(4月) みんなの音楽 パーティー(2月) | 緑であいさつ色でお はなし(4月) 広がれつな(5 月) | | 自然体験学習(5 月) 運動会(5月) 6年生を送る会 (3月) 卒業式(3月) |
| 2-1(4) 尊敬感謝 | 大通りのサクラン み木(7月) | 地区児童会 (4.7.12.3月) | | | | | | | | | |
| 3-1(1) 生命の尊重 | 又スズグスージ (6月) | 避難訓練 (5.9.1月) わたしの体(9.1月) | | | | | 動物のからだのつ くりと運動(6月) | | | | |
| 3-1(2) 自然愛・動植物愛護 | ケヤキのやさしさ (5月) | 猪苗代町の自然 について調べよう (4月) | | イルカのおねむり 方、ありの行列(5 月) | | | はなまるこ(4月) ちかやま(4月) こんぼま(4月) 花がさ(4月) | この山光る(4月) | パンチンサツサツ本の名人(9 月) おぞんからのおくりもの(10 月) | | 自然体験学習 (5月) |
| 3-1(3) 敬けん | 百羽のツル(11 月) しあわせの王 黄色いかさ(11 月) | | | | | | | | ものがたりのせ かい(1月) | | |
| 4-1(1) 公徳心・規則の尊重 | | | | | | | | | | | |
| 4-1(2) 勤労・社会への奉仕 | ことぶき園に行っ たよ(10月) | ボランティア活動 (6月) | | | 農家の仕事(8~ 10月) | | | | | | 自転車教室(4.9 月) |
| 4-1(3) 家庭愛 | 耳の聞こえない お母さんへ(3 月) | | | モチモチの木(2 月) | | | | | | | 親子奉仕作業 (5月) |
| 4-1(4) 愛敬心 | くちやんの陰 (10月) | | | | 学校のまわり(4 ~5月) | | | | | | ふれあい授業 参観(6月) |
| 4-1(5) 郷土愛 | ふるさといいとこ さがし(12月) | | | かるたについて 知ろう(11月) | のこしたいものつた えたいもの(12月) 町の様子(6~7月) | | | | | | 運動会(5月) 1年生を迎える会 (4月) |
| 4-1(6) 愛国心 | ほくのおべんどう (11月) | | 猪苗代町の伝統文 化を知ろう(12月) | | 古い道具と昔のく らし(10~12月) | そらぼんで計算し よう(3月) | 月や星の動き (8月) | アフリカの音楽で 遊ぼう(12月) | | | |

平成26年度 猪苗代小学校「道徳学級プランきらきら」【資料4】

第3学年1組 担任

| 3 学年1組 | 男子10名 女子14名 計24名 | ふくしま道徳教育資料集の活用 |
|-----------------|--|--|
| 1 学級の実態 | <p>○明るく元気で、あいさつを進んで行う子が多い。</p> <p>○何事にもまじめに取り組み、素直な子が多い。</p> | <p>〈計画・実践資料名〉</p> <p>資料名「三本えだのモミジの木」</p> <p>○ 道徳「ホテルのひっこし」の学習をする時に、関連資料として読み聞かせをする。</p> |
| 2 育てたい力 | <p>○場に合ったあいさつや言葉遣いができるようにしたい。</p> <p>○相手の気持ちを考えたあいさつや言葉遣いや行動ができるようにしたい。</p> | <p>〈成果と課題〉</p> <p>○ 虫の苦手をな「ぼく」が、おじいさんの自然を復活させる活動やおじいさんの自然に触れて、自然の大切さや命の輝きに気づく場面と共に感動することになった。</p> <p>● 東日本大震災との関連が簡単にしかなかった。</p> |
| 3 クラスのために (手立て) | <p>①教師が率先してあいさつや返事をする。</p> <p>②学級活動でよりよいコミュニケーションについて話し合う。</p> <p>③朝の会、帰りの会などで良い行いを賞賛し、お互いのよさを見つけ高めしていく。</p> | |
| 4 成果と課題 | <p>○道徳の学習で、気持ちのよいあいさつについて考えたり、ロールプレイングしたりした。毎朝、学級に入るといきや先生方、来客に出会った時に、声が出る児童が増えた。</p> <p>○行事や学習について、随時、学級全体の目標を持ちさせた。マラソン記録会やわいわく発表会、学期のまとめに向けてがんばったり互いに賞賛したりする姿が見られた。</p> | |

猪苗代小学校 平成26年度道德教育推進計画 組織図 【資料5】

校長方針

- (1) 道德の時間を要として、学校の教育活動全体を通して道德教育を推進し、教育目標（特に心正しくやさしい子ども）の具現化を図る
- (2) 道德教育に対する教職員の意識を高め、家庭・地域との連携を通して道德教育の充実を図る。

研究テーマ
道德の時間の充実と学校・家庭・地域との連携を通して豊かな心を育む

道德教育推進委員会

養護教諭 横山 紀
○ブリーダーの推進
○校内衛生環境の推進

教務主任 野崎
○教育活動の調整
○参観日の公開
○「きね」の推進
○「きね」の展示
○「きね」の記録

道德推進教師 大堀
○推進委員会の計画、運営の実践
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「道德」の「きね」の「猪小」
○「パネ」の「きね」の「猪小」
○「パネ」の「きね」の「猪小」の支援

研修主任 大越
○授業研究の充実
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」の「パネ」
○「パネ」の「きね」の「猪小」の「パネ」
○「パネ」の「きね」の「猪小」の「パネ」
○「パネ」の「きね」の「猪小」の「パネ」

生徒指導主事 大須賀
○教育相談
○児童相談の実施

道德部
安齋、大須賀、大堀、大森
○「きね」の「BOX」を全校生へ発信
○「きね」の「BOX」を全校生へ発信

低学年 大堀・横山 康・森・渡部 美
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」

中学年 新田・猪股・大須賀
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」

高学年 三本杉・安齋・大森・館
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」

あいご・ひまわり学級 渡邊・小池
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」
○「学級プランナー」の「きね」の「猪小」

善行を紹介するコーナー ～ きらきら猪小 ～

友達の親切な行為や思いやりある行動、節度ある行為、勇気あふれる行動、真摯に努力する姿を発見した時、カードに記入して、「きらきらボックス」に入れる。



地域の方から、「〇〇地区の子ども達は、集団登校のとき、元気なあいさつをしてくれて、とても気持ちがいいので、褒めて下さい。」の声が寄せられた。

その子ども達を写真に撮り、「きらきら猪小」のコーナーに掲示した。

また、きらきらボックスに入れられたカードの中から、道徳部の教師が昼の放送で定期的に、善行を紹介した。



第1学年1組 道徳学習指導案

【資料7-①】

平成26年7月2日(水)第3校時
指導者 大堀 加代子 場所 1年1組教室

授業テーマ

道徳的心情を育てるテーマ発問を中心とし、動作化や言語活動を取り入れることで、自分の考えを深め、自らの道徳的心情の成長を感じとることのできる授業

1 主題名 親切な心で【2-(2) 思いやり、親切】

資料名 「はしのうえのおおかみ」

出典：わたしたちの道徳 小学校1,2年 文部科学省
：道徳1みんななかよく 東京書籍

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人間として平等な立場で相手のことを深く考え、単に自分の思い込みや自己満足、おしつけやおせっかいではなく、相手の立場に立ってその心情を思い、自分のこととして受けとめることが大切である。学校、学級での生活が身につけてきたこの時期に、相手のことを考える温かい気持ちや親切な行為について考えられるようにしたい。

(2) 児童の実態

幼児期から完全に抜けきれずわがままな面が残るが、反面、照れたりせず素直に人に接することができる。また、自分と同等か幼い子、お年寄りへの思いやりや親切な行為の大切さは感じとっている。しかし、それが自己中心的な考え方や行為として一方通行してしまうため小さなトラブルもみられる。

(3) 資料について

主人公のおおかみが、うさぎたちを相手におもしろがっていじわるを続けるが、今度はじぶんがそうされたいと思ったくまに親切にされ、自分の行為を振り返り、やさしい心で親切にするという内容である。楽しく、わかりやすい本資料を通して、温かい心で親切にすることの気持ちよさ、大切さを感じとることができるようにする。

(4) 授業テーマに迫るための手立て

【手立て1】道徳的心情を育てるためのテーマ発問

価値の構造を分析し、気持ちや心情を問うだけでなく、心情を育てるために「いいきもちとは」というテーマ発問を持ち、授業の軸として、問うていく。「相手のために自分のためにもなる」ことを心情を表す色別の矢印を使って、視覚的にも気づかせていく。

【手立て2】動作化を通した「学び合い」の工夫

小道具(お面)を用い、登場人物になりきって動作化をしながら、その時の心情を捉えることができるようにする。また、役割も交代させ相手の立場になることで、自分と相手との双方向の思いやりが大切なことに気づかせたい。

【手立て3】自分の思いを持つための「書く活動」の工夫

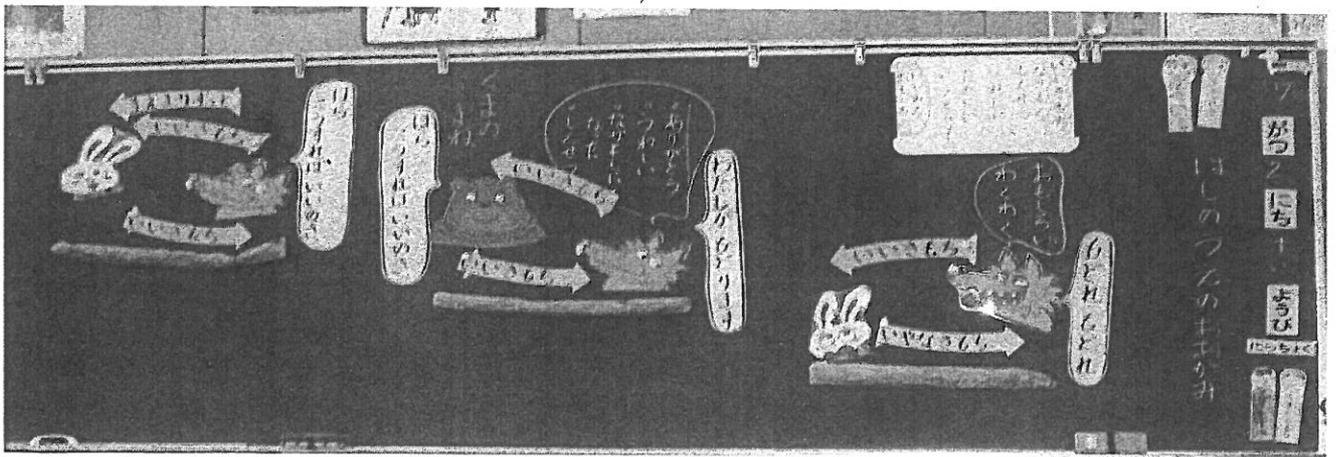
おおかみの立場で、くまに抱えられて橋を渡ることができた後の気持ちを吹き出しに書かせることで、相手を思いやる行動に気づいた、おおかみの心情の変化を捉えさせる。

3 本時のねらい

◎ 身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

- ・「いいきもち」になるときは、自分が楽しいいじわるをしている時ではないことに気づく。
- ・相手を思いやる気持ちがあり、行動に出せたときに「いい気持ち」になることがわかる。

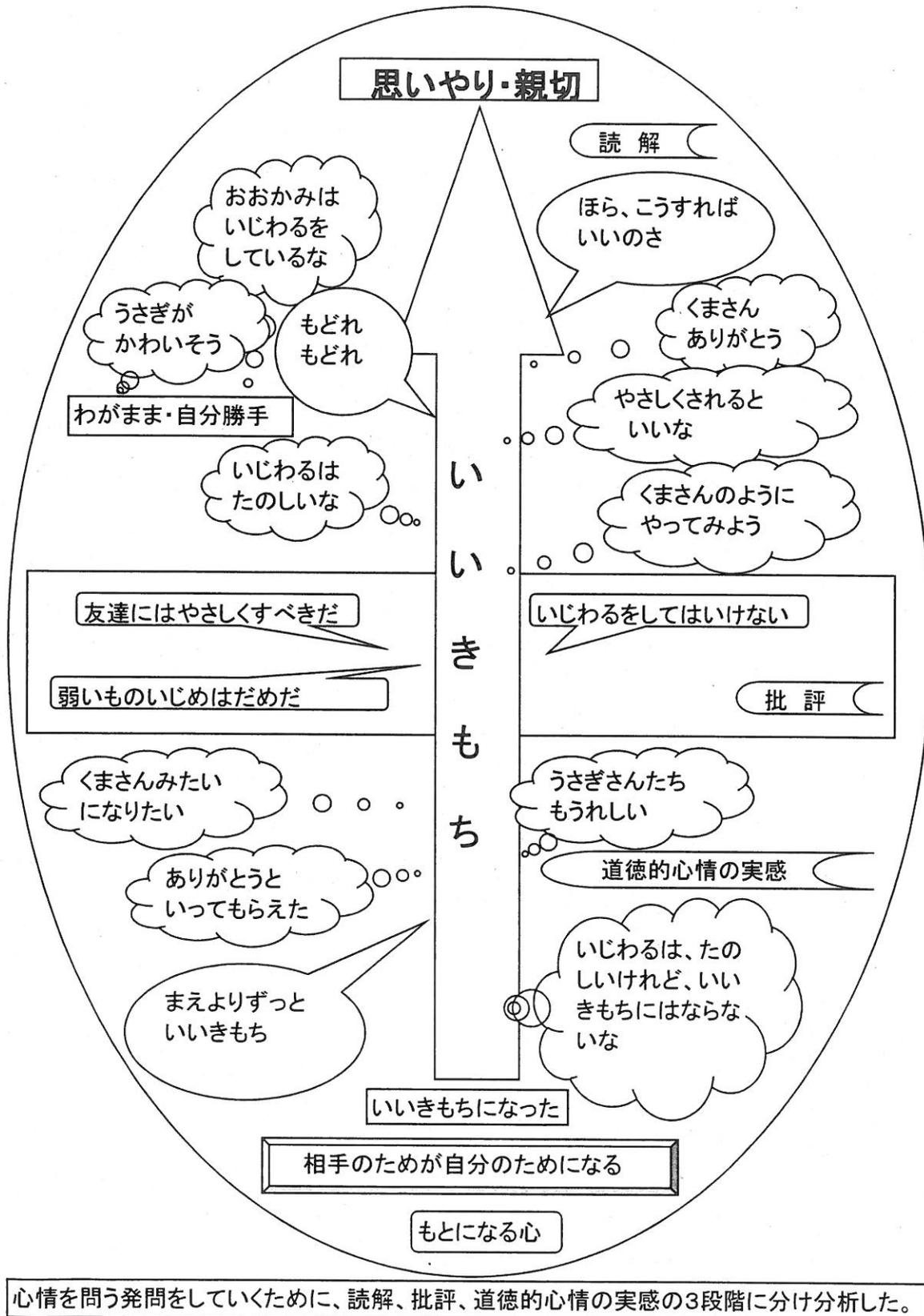
4 板書写真



5 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応 | 時間 | ○教師の支援 □評価 |
|------|--|----|---|
| つかむ | <p>1 「いい気持ち」になるときはどんな時か考える。 T 写真(笑顔)を見て、この人は友だちから「ありがとう」と言ってもらいました。どんな気持ちかな。 C にこにこしているから、いい気持ち T 「いい気持ち」になるときは、どんな時 C やさしくしてもらったとき C いいことをしたとき C 助けたとき T 今日は「いい気持ち」について考えていきましょう。</p> | 3 | <p>○ アンケートから、「ありがとう」と言ってもらった経験を例にだし、そのときの気持ちを2つ感情表現から選択させる。 ①いいきもちだな (ピンク矢印) ②いやなきもちだな (ブルー矢印) 【手立て1】</p> |
| 考える | <p>2 資料「はしのうえのおおかみ」の前半を聞き、おおかみの心情を中心に話し合う。 T 「もどれもどれ」といじわるをしているとき、おおかみはどんな気持ちだったのでしょうか。 C ①いいきもちだな (ピンク矢印) T おおかみになってみましょう。どうしていい気持ちだったのでしょうか。 C たのしいから C いばれるから T その時のうさぎの気持ちは C ②いやなきもち (ブルー矢印)</p> | 10 | <p>○ 教師がお話を聞かせながら、黒板に一本橋、おおかみ、うさぎの絵を貼り、キーワードとなる言葉「もどれ、もどれ」を貼り、内容を視覚的にも捉えやすくする。 ○ 2つの感情表現からおおかみの気持ちを選択させる。気持ちの向きが誰に対するものなのか矢印の向きを確認をする。 ○ お面や橋を用意し、おおかみの動作をさせて心情を深めさせる。うさぎは教師が行う。 ○ 立場を変えて、うさぎになり心情を考えさせる。おおかみは教師が行う。【手立て2】</p> |
| 高め合う | <p>3 資料中盤を聞き、おおかみの心情の変化について考える。 T おおかみは、くまに抱き上げてもらって橋を渡ることができたとき、どんな気持ちになりましたか。 C ①いいきもちだな (ピンク矢印) T おおかみは、くまの後ろ姿を見送りながら何を考えたのか書いてみましょう。 C やさしくしてくれてありがとう C くまさんみたいにやってみます C こんどはいじわるをしません T おおかみの考えたことを発表しましょう。</p> | 20 | <p>○ 場面が想起できるように、くまの絵をおおかみより大きくして、うさぎとの違いに気づかせる。 ○ キーワード言葉「わたしがもどります。」「ほらこうすればいいのさ。」を貼り、視覚的に内容を捉えさせる。 ○ 2つの感情表現からおおかみの気持ちを選択させる。気持ちの向きが誰に対するものなのか矢印の向きを確認をする。 ○ 道徳ノートに吹き出しを用意し、おおかみの立場で、くまに対しての気持を書かせる。【手立て3】 ○ おおかみの心情の変化をとらえた言葉を板書していく。</p> |
| 見つめる | <p>4 資料後半を聞き、おおかみの心情の変化について話し合う。 T おおかみは、うさぎを抱き上げて橋を渡したときどんな気持ちになりましたか。 C ①いいきもちだな (ピンク矢印) T おおかみになってみましょう。どうして、前よりずっといい気持ちだったのでしょうか。 C しんせつにしたから C うさぎがありがとうと言ったから C いじわるしているときより、いいことをしたから</p> | 10 | <p>○ 表情の優しいおおかみの絵を用意し、最初の絵と比較できるように黒板に貼る。 ○ キーワード言葉「ほらこうすればいいのさ。」を貼り、視覚的に内容を捉えさせる。 ○ 2つの感情表現からおおかみの気持ちを選択させる。気持ちの向きが誰に対するものなのか矢印の向きを確認をする。 ○ おおかみとうさぎも動作化は子ども達に行わせ、会話の変化から心情の変化を確かめさせる。【手立て2】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お互いが思いやらないと「いい気持ち」にならないことに気づくことができたか。 (道徳ノート・発言)</p> </div> |
| 見つける | <p>T おおかみさんもみんなと同じように「いい気持ち」になりましたね。</p> | 2 | <p>○ 導入時の事前アンケートの中から、実際にあった体験を紹介していく。</p> |

資料分析 「はしのうえのおおかみ」



平成26年9月12日(金)第5校時
 指導者 大須賀雅彦 場所 3年2組教室

授業テーマ

道徳ノートに書いたり、ペアやグループで話し合ったりする言語活動を通して、相手のことをよく考えることが「本当の友達」であることに気づいていく授業

1 主題名 ほんとうの友達【2-(3)信頼友情】

資料名 「なかよしだから」

出典：道徳3 明るい心で 東京書籍

わたしたちの道徳 小学校3・4年 文部科学省

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

友情を深めていくためには、友達どうし信頼し合い、互いに助け合い、励まし合い、学び合い、教え合うことが大切である。単に「仲よくすること」だけにとどまらず、中学年では、真の友達関係(信頼関係)を築いていくうえで大事にしたい視点である、「相手のことをよく考えること」に特に重点を置きたい。

(2) 児童の実態

中学年になると交友関係が広がり、友達を大切にしようとする傾向も強くなっていく。その反面、友達だからということで、悪いことは知りながら、一緒になって悪いことをしたり、友達の悪い行為を見逃したりすることがある。友達だからこそ、悪いこと(ところ)を注意したり、教え合ったりすることの大切さに気づいていないのが実態である。

(3) 資料について

主人公の「ぼく」は、うっかり忘れてしまった算数の宿題を、仲よしの実君に教えてもらおうと思いつく。前日、実君にカーブの投げ方を教えたので、そのお返しに教えてくれるだろうと考えたのである。ところが、実君に、「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られ、本当の友達について考え、気づいていくという資料である。

(4) 授業テーマに迫るための手立て

【手立て1】道徳的心情を育てるためのテーマ発問

「友達とは」の事前アンケートの結果を導入に用い、「本当の友達」とはどういうことなのかを考えさせ、話し合わせることを授業の軸に展開していく。

【手立て2】自分の思いを持つための「書く活動」の工夫

資料における中心発問に対する自分の考えを道徳ノートに書かせることで、「本当の友達とは」を考えさせるきっかけとする。また、具体的な場面での自分の言動を書かせ、「本当の友達とは」について、考えを広げさせる。

【手立て3】自分の考えを深めるための「話し合い活動」の工夫

自分の考えを書いた後で、ペアやグループで話し合い、自分の考えと同じ友達や違う友達との交流を通して、「本当の友達とは」についての考えを深めさせる。

3 本時のねらい

◎ 友達のことをよく考えて、友達を大切にしようという態度を養う。

〔具体的な行動目標〕

- ・単に仲よくすることが「本当の友達」ではないことに気づく。
- ・相手のことを思い、相手のためにならないことは注意したり、教えたりすることが、「本当の友達」であることが分かる。

4 板書計画…省略

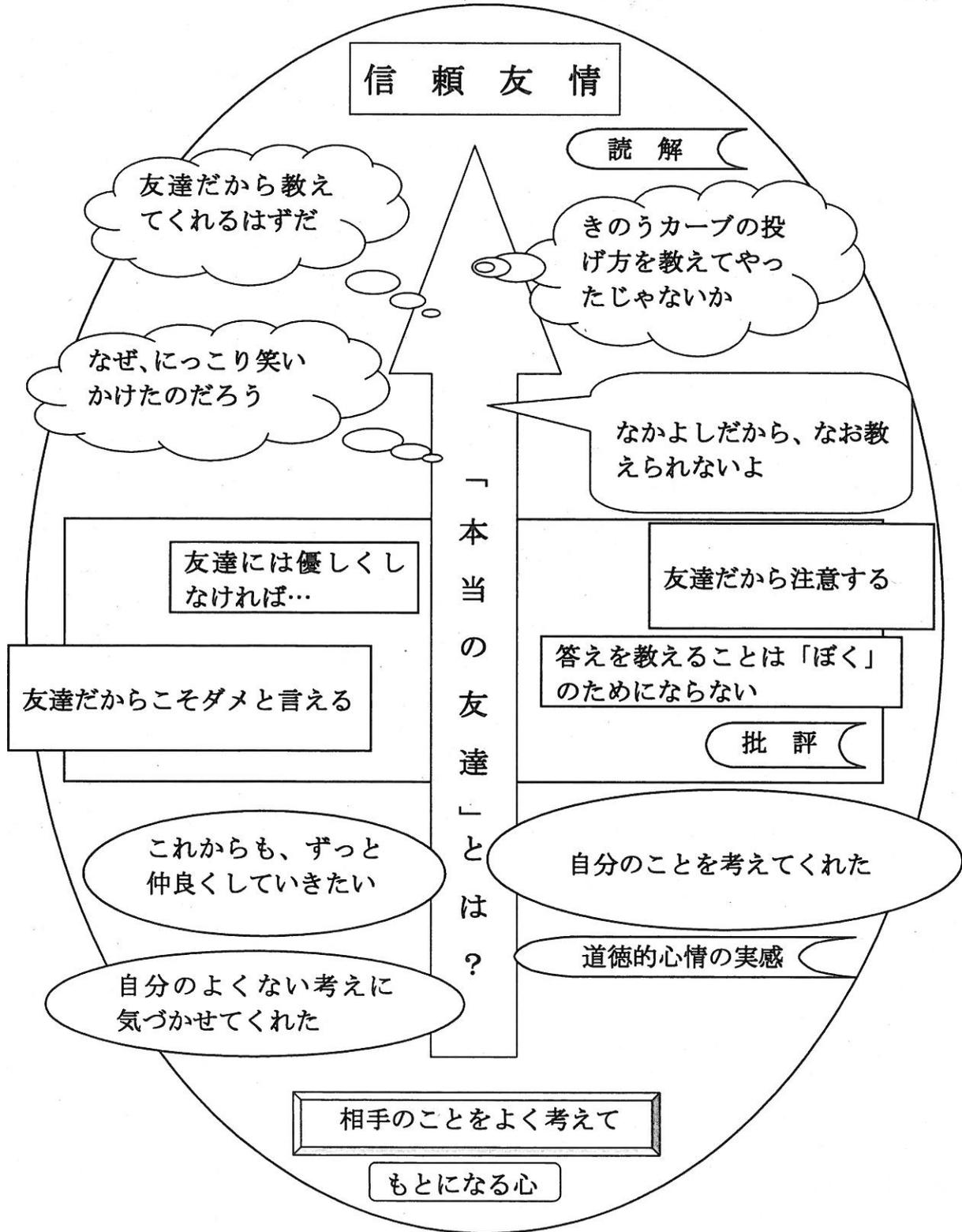
5 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 T教師の発問 C予想される児童の反応 | 時間 | ○教師の支援 □評価 |
|----------|---|----|---|
| つかむ | 1 「友達」について考える。 T 前にみんなに取ったアンケートから「友達とは何か？」について紹介します。 (C なかよし) (C 遊んだりしゃべったりする人) (C 頼りになって、助けてくれる人) (C 親しい兄弟のような存在) T 今日は、「本当の友達」について考えていきましょう。 | 5 | ○ 事前にとったアンケートから、「友達とは何か」の児童の答えを紹介し、話し合う中で、本時のテーマは「本当の友達とは何か」であることを共有する。【手立て1】 ○ 必要に応じて問い返しをし、本時への関心を高めていく。 |
| 考える・高め合う | 2 資料「なかよしだから」を読み、「本当の友達」について考える。 T 「実君」は、どうして「ぼく」に宿題の答えを教えなかったのか、考えて書きましょう。 C カーブを教えるのと宿題の答えを教えるのとは、全然違う。 C 苦労してやった宿題だから、教えたくなかった。 T 「実君」の言葉から考えてみましょう。 C 宿題は、自分でやるものだから。 C 答えを教えることは、「実君」のためにならないから。 | 15 | ○ 内容をとらえやすくするために、資料は事前に読ませておく。また、言語活動の時間を確保するために、教師が範読する。 ○ 実君の行動の理由や根拠を道徳ノート1に書かせることで、自分の考え(立場)を明確にさせる。【手立て2】 ○ 「なかよしだから、なお教えられないよ」の言葉から、宿題の答えを教えなかったのではなく、「ぼく」のことを考えて、教えなかったことに気づかせる。 |
| | 3 資料とは別の具体的な場面では、どうか考える。 T それでは、「道徳ノート」にある場面ではどうでしょう。 C わざと負けるのは、その人のためにならないから、そういうことはしない。 C やりたくないからやらないのは、その人にとってよくないことだから、代わってあげない。 | 15 | ○ 日常で起こりうる場面で、どう対応していけばよいのかを考えながら、「本当の友達とは」のテーマに迫らせていく。 ○ 道徳ノート2に書かせた後、まずはペアで、その後で少人数のグループで話し合わせることで、自分の考えを深めさせる。【手立て3】 |
| 見つける | 4 本時の学習をもとに、「本当の友達」についてまとめる。 T 今日の学習から、「本当の友達」についてまとめていきましょう。 C 悪いことを悪いと注意できる。 C ダメなときにダメと言える。 C その人のことをよく考えることが、「本当の友達」。 T 本時で分かったことを書きましょう。 | 10 | ○ 本時で何を学んだのかを子どもの言葉で表現させ、学習前と学習後の価値観の変容を自覚させる。 相手のことを考えることが「本当の友達」であることが分ったか。 (道徳ノート1・発言) ○ 友達からの注意や指摘を素直に受け入れることも大切であることに気づいた児童がいたら、ぜひ取り上げておさえる。 |

主題名 ほんとうの友達【2-(3) 信頼友情】

資料分析図 「なかよしだから」

出典；道徳3 明るい心で 東京書籍



心情を問う発問をしていくために、読解、批評、道徳心情の実感の3段階に分け分析した。

授業テーマ

道徳的心情を育てるテーマ発問を中心とし、英世の思いや考えを通して、感謝の気持ちを伝える方法に気づき感謝の気持ちを持つことで、自らの道徳的心情の成長を感じることでできる授業

1 主題名 感謝する心 【2—(5) 尊敬感謝】

資料名 「黄熱病とのたたかい」

出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

自分たちの生活が多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気づき、感謝の気持ちを持つだけでなく、それにどのように報えるか自分に問いかけ、何らかの形をとって答えたいこうとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態

最高学年として、各委員会やクラブ活動などで責任ある仕事や自主的な仕事の取り組みへの経験不足から戸惑い困ってしまう児童も多く見られる。学級の中では、男女ともに仲がよく和やかで、協力的である。日々の生活から特別に何かしてもらったことに対して感謝することはできているが、普段の生活が、いろいろな人に助けをもらいながら生活できていることを当たり前ととらえ感謝の気持ちを持たずに生活している児童も多い。

(3) 資料について

野口英世が少年時代の夢を実現して、世界の医学者となり人類を恐ろしい黄熱病から救うために闘った生き様とその時の英世の気持ちに寄り添うことで、そこに感謝があることに気づき、その気持ちから自分のできることは何かを考え、行動に移すことの大切さを感じ取ることができるようにする。

(4) 授業テーマに迫るための手立て

【手立て1】道徳的心情を育てるためのテーマ発問

価値の構造を分析し、気持ちや心情を問うだけでなく、「感謝する」というテーマ発問を授業の軸とし、道徳的心情を育てていきたい。

【手立て2】自分の考えを伝え合う場の工夫

自分を支え、助けてくれた人々に感謝し、報いようとする心情をしっかりとらえさせるために、自分の考えを持たせてから、少人数での話し合いをさせたい。

【手立て3】書く活動の工夫

自分の生活を支えてくれている人達を思い、感謝の気持ちに報いるために、形として答えていくことの大切さをじっくりと道徳ノートに書かせ考えをもたせたい。

3 本時のねらい

◎ 英世の思いや考えを通して、感謝の気持ちを伝える方法に気づき、それに応えようとする心情を育てる。

【具体的な行動目標】

- ・ 思いに応える大切さに気づく。
- ・ 自分の生活がたくさんの人に支えられていることが分かる。

4 板書計画

省略

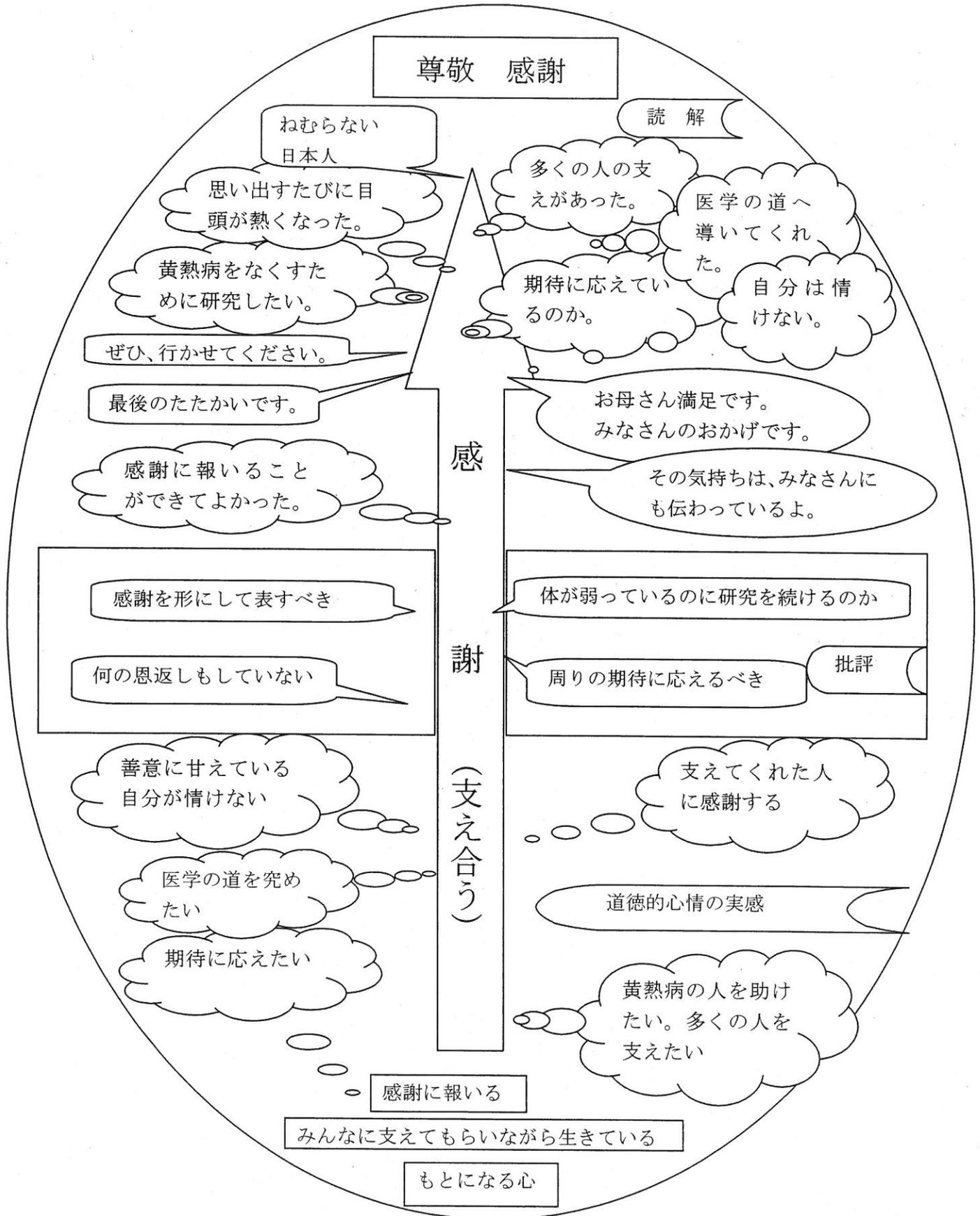
5 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応 | 時間 | ○教師の支援 □評価 |
|----------|--|----|--|
| つかむ | <p>1 「感謝する」とは、どんなことか考える。</p> <p>T 感謝するってどんなことですか。</p> <p>C 手助けをしてもらった時に思う。</p> <p>C 相談にのってもらった時に思う。</p> <p>C 何か買ってもらった時に思う。</p> | 5 | <p>○ 事前のアンケートの結果「どんな時に感謝の気持ちを持つか、どんな人に助けられているか」を振り返り本時のねらいとする道徳的価値への意識を方向づける。</p> <p style="text-align: right;">【手立て1】</p> |
| 考える・高め合う | <p>2 資料「黄熱病とのたたかい」から、英世にとっての感謝とは何かについて話し合う。</p> <p>T なぜ、「ねむらない日本人」と言われたのでしょうか。</p> <p>C 眠らないで研究していたいから</p> <p>C お金儲けをしたいから</p> <p>C 手術をしてもらってうれしかったから。</p> <p>C 助けてもらったから。</p> <p>T どんな思いでエクアドルに行ったのでしょうか。</p> <p>C 黄熱病で苦しんでいる人を助けたい。</p> <p>C 研究への情熱と周りの人々からの期待。</p> <p>T なぜ、「最後の戦いです」と言ってアフリカに渡ったのでしょうか。</p> <p>C アフリカの人々を助けたい。</p> <p>C 世界から黄熱病を完全になくしたい。</p> <p>C 世話になった人々の期待にこたえたい。</p> <p>C 命がけで黄熱病をなくしたい。</p> <p>T エクアドルでの英世の感謝の心とアフリカでの感謝の心は、同じですか。</p> <p>C 同じ。</p> <p>C 違う。</p> <p>T 始めの思っていた自分の感謝とアフリカへ行った時の感謝は、同じですか。</p> <p>C 違う。</p> <p>T 先生が考えた図の空欄をうめましょう。</p> | 30 | <p>○ 資料は、朝の読書の時間に事前に読み内容をとらえさせておく。</p> <p>○ 英世の生い立ちについて、簡単にまとめ振り返りができるように掲示しておく。</p> <p>○ 「ねむらない日本人」の意味をグループで考えさせる。 【手立て2】</p> <p>○ 英世がここまでになったのは、幼少時のやけどの手を医学の力で治してもらった感動から、自分も医学で人を助けたいという志をおさえる。</p> <p>○ 自分の生い立ちから医学への感謝があることや、支えてくれた人たちの期待に応えるとう感謝の気持ちがあることをおさえる。</p> <p>○ 研究者として黄熱病をなくしたい気持ちだけでなく、自分を支え助けてくれた人々に感謝し、その恩に報いようとした英世の心情をとらえるために、少人数での話し合いを取り入れる。 【手立て2】</p> <p>○ エクアドルに行った時の感謝の気持ちと、死ぬ危険があるのに、アフリカに行った時の感謝の気持ちの強さの違いに気づかせるために、イメージしたことを絵や図で道徳ノートに表現させる。</p> <p>○ 英世の感謝の大きさを図で表すことでその違いに気づかせる。</p> |
| 見つける | <p>3 本時の授業で学んだことをもとに、自分の生活を振り返り、これからの生き方に生かしたいことを考えて書く。</p> <p>T 本時の学習から「自分が感謝に応えるためには、どのようなことができるかについて考えましょう。</p> | 10 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分の生活を支えてくれる全ての人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする素直な気持ちが必要であることが</p> </div> <p>○ 自分の生活を振り返り、感謝に応えていきたいという意欲を高めるため道徳ノートに書かせる。 【手立て3】</p> |

資料分析図 「黄熱病とのたたかい」

主題名 感謝する心 【2-(5) 尊敬感謝】

出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省



心情を問う発問をしていくために、読解、批判、道徳的心情の実感の3段階に分け分析した。

授業テーマ

資料への導入を工夫し、役割演技をさせながら、考えを深めさせ、道徳的心情を高める授業

- 1 主題名 郷土への愛着 4-(5)
- 2 資料名 「はだかまわり」のはじまり
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

郷土の文化や生活に親しみ、愛着を持たせることは、地域の一員として生活する児童にとって、大切なことである。会津柳津町に古くから受け継がれる「七日堂裸詣り」の行われる虚空蔵様(円蔵寺)は、赤べこ伝説としても有名である。はりこの赤べこは民芸品として、福島県や会津のおみやげとして親しまれている。郷土の伝説や祭り、民芸品などを通して、先人の知恵・苦勞・言い伝えや伝統を知ることが、自分の住む地域の文化について理解を深めることになり、伝統を受け継いでいく心情を育てることにもつながる。

(2) 児童の実態

柳津町の虚空蔵様は、会津地方に住む子どもたちは小学校6年生になると「十三講参り」として訪れる。また、会津の観光地としても有名なので、低学年の児童でもこのお寺を訪れた経験があり、虚空蔵様の存在を知っている子もいる。ただ、千年も前から、このお寺で「七日堂裸詣り」の行事が行われていて、脈々と人々に受け継がれていることは、低学年の児童にとっては初めて知ることであろう。

(3) 資料について

柳津町の伝統行事である「七日堂裸詣り」を取り上げた資料である。祖父と一緒に裸詣りを見に行くことになり、祖父に由来を尋ねる。疫病が流行り、それを鎮めた伝説を知ることによって、ぼくの行事に対する認識が変わる。先人達が、健康な生活と平和を守るために力を合わせ龍神を退散させた感動的な話である。その千年前の行事が今も受け継がれていることに、先人の思いや願い、努力、喜びなどがあることに気づかせることができる資料である。

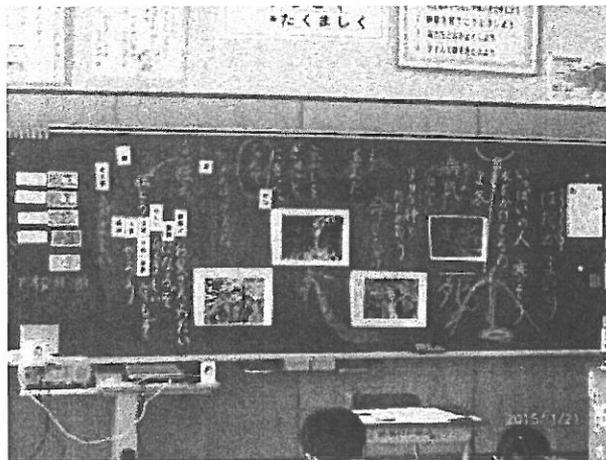
(4) 指導にあたって

真冬に裸でお詣りするというのは、低学年の児童には、イメージしづらい光景である。そこで、どのような行事なのかが分かるように、導入ではニュースになった映像を視聴させる。また、お話の中で龍神が登場し、現実離れしているところもあるが、伝説(昔からの言い伝え)として、児童の心に響くように取り扱う。健康な生活と平和を守るために、人々が一丸となって協力する場面をクローズアップし感動的に取り上げ、児童の心情に訴えたい。

4 本時のねらい

郷土に対する愛着を深め、郷土の文化や生活を守っていこうとする心情を養う。

5 板書計画



6 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 | 時間 | ○教師の支援 □評価 |
|------|---|----|---|
| つかむ | <p>T 教師の発問 C 予想される児童の反応</p> <p>1 裸詣りのニュースを視聴し、行事の概要をつかむ。</p> <p>T このニュースは、1月7日に柳津町で行われた裸詣りの様子です。</p> <p>C 「真冬なのに、男の人が裸で階段を昇っているよ。寒くないのかな。」</p> <p>C 「それも靴も履かずに、裸足よ。」</p> <p>C 「何のために、こんなことするのか。」</p> | 5 | ○録画した裸詣りのニュースを流して、児童に視聴させ、資料に登場するぼくと同じ疑問を持たせる。 |
| 考える | <p>2 資料「はだかまいり」のはじまりを教師の朗読を聞き、裸詣りの由来を知り、平和と幸せを守った人々の気持ちを話し合う。</p> <p>T 「病気で次々と人が死んでしまうがどうすることもできない」ときの人々の気持ちはどうでしょう。</p> <p>C 「家族や大切な人が亡くなり悲しい」</p> <p>C 「神様に助けを求めたい。」</p> <p>C 「みんなで何かできないか。」</p> <p>T 龍神から宝生の玉をもらい、病気がなくなった時の喜びを、町の人になってやってみよう。</p> <p>C 「やった。これでみんなが助かるぞ。」</p> <p>C 「ありがたい。ああよかった。」</p> <p>T 玉を取り返そうとした龍神に村人はどんなことをして、守り抜きましたか。</p> <p>C 「みんなで力を合わせた」</p> <p>C 「はだかで虚空蔵様にかけてのぼった。」</p> | 25 | <p>○教師が話を読み聞かせ、場面のさし絵を貼っていき、あらすじを押さえやすくする。</p> <p>○町の人々の悲しく、つらい状況をとらえさせる。</p> <p>○役割演技をし、平和になって喜んでいる場面を演じる。</p> |
| 高め合う | <p>3 現実の裸詣りを見た場面のぼく的心情を話し合う。</p> <p>T 裸のおとうさんたちを見て、ぼくがぎゅっところぶしをにぎりしめたのは、どんなことに気づいたからですか。</p> <p>C 「人々の願いが息づいてるすごい行事なんだ。」</p> <p>C 「苦しみや苦労をわすれないようにしているんだな。」</p> | 10 | <p>○千年も続く行事の背景には、人々の苦労・努力・願い・喜び等が息づいていることに気づかせたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>裸詣りの伝統の由来を知り、ふるさとの行事の大切さに気づくことができたか。(道徳ノート・発言)</p> </div> |
| 見つける | <p>4 猪苗代のぼんだい祭りの由来をゲストティチャーに話してもらおう。</p> <p>・夏のぼんだい祭りの鼓笛パレードの背景には磐梯山噴火で犠牲になった人の鎮魂のためという意味がある。</p> | 5 | ○自分の身近にある祭りにも目を向けさせ、郷土の祭りや伝統を大事にしようとする心情を育てる。 |

7. 成果と課題

- 児童に、虚空蔵尊の七日堂の裸詣りをダウンロードして映像で視聴させたことにより、裸詣りのかけ声と雰囲気などを伝えることができた。そのため、なぜ真冬に裸で大きな声で行うのか、祭りの由来を理解させることができた。
- 龍神に宝生の玉をもらう場面と村人が喜ぶ場面を龍神・やよいひめ・村人達で演示させたが、喜んで演じていた。再び危機が近づく場面は、時間の関係で省略した。
- こぶしを握った場面の心情を発言させたが、「勇ましいな」「父のようになりたい」「伝統を守るぞ」などが出された。
- ぼんだい祭りの慰霊の意味は、2年生には理解が難しかった。

授業テーマ

資料への導入を工夫し、役割演技やペアやグループでの話し合いをさせながら、考えを深めさせ、道徳的心情を高める授業

1 主題名 家族愛 4-(3)

2 資料名 「おむかえ」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

家族の愛情を受けて育っている子ども達であるが、普段はそのことに気づかないことが多い。また、低学年の発達段階からすると、家でお手伝いをして、家族の一員としての役割を果たすことも少ない。この時期に、家族に依存している日々の家庭生活を振り返らせたり、他人の立場を思い巡らせたりすることは、人間関係を構築する上でも大切であると考える。

(2) 児童の実態

本校の児童は、三世代家族の中で生活している家庭もあるが、核家族も多くなっている。また、片親という家庭も2割ほどある。共働き等で放課後の児童クラブに半分の子が入所している。また、その中で、家族から受ける愛情には差異等はあるものの、どの児童も愛情を受けながら生活している。東日本震災を経験したのが、約3年前になり、幼小の時期だったので、実体験の記憶としてはかすかなものとなっている。

(3) 資料について

小学校で東日本大震災に遭遇した主人公ひなは、家族との連絡が付かないまま、友達とともに体育館で家族の迎えを待つことになった。友達の家族が次々と迎えに来る中、主人公の迎えが来たのは夕方遅くになってからであった。ひなは、迎えに来た姉に対し、一人で待っていた苛立ちから、冷たい言葉をかけてしまった。家に帰って、姉が駅から3時間も歩いて自分を迎えに来たことや、兄も自分のことを心配して探し歩いたことを知り、反省をするのであった。この自分に対する姉と兄の思いやりが、ひなに家族の大切さとありがたさを気づかせることになる。そして、今度は、東京の大学に進学して離れて暮らすようになった姉に対して気遣いができるひなの心の成長を描いた資料である。

(4) 指導にあたって

一緒に生活している親・兄弟などの家族に対して、低学年児童が普段から敬いの気持ちをもって接するよりは、自己中心的な行動で過ごすことの方が多い。そこで、この資料を通して、自分たちは家族の温かい愛情や思いやりによって守られているということに気づかせ、感謝の心や家族の一員としての自覚を育てたい。資料の主人公のひなの心情に共感させるために、役割演技を取り入れながら指導をしていく。

4 本時のねらい

自分が家族からの愛情によって守られていることに感謝し、家族を大切にしている心情を育てる。

5 板書計画 …… 実際の板書



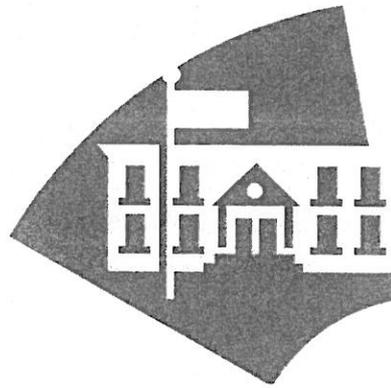
6 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応 | 時間 | ○教師の支援 □評価 |
|------|--|----|--|
| つかむ | 1 家族について考えていることを自由に話し合う。 T 家族や兄弟について思っていることを話してください。 C「大家族なので、にぎやかです。」 C「お父さんが遠くに行っているので寂しい。」 C「兄弟げんかするので、嫌だ。」 | 5 | ○児童に家族や兄弟について思っていることをペアやグループで話し合わせ、主なものを板書する。もし、発言が少ない場合は、家族が好きかどうかを尋ね、その理由を話させる。 |
| 考える | 2 資料「おむかえ」の教師の朗読を聞き、ひなさんの気持ちを話し合う。 T 体育館で迎えを待つときのひなさんの気持ちは、どんな気持ちでしたか。 C「早くこないかなあ。」 C「何してるんだろう。」 C「お迎えこなかったらどうしよう。」 T 迎えに来たおねえちゃんに「遅いよ。何してたの。」と言った、ひなさんの気持ちは、どうでしたか。 C「みんなの家族は、早く来たのに。」 C「遅いよ。待つのはつらかったのよ。」 T 自分をさがしてくれた時の家族の話を聞いたひなさんは、どんな気持ちになりましたか。 C「どきっとした。」 C「胸がきゅうつとなった。」 C「家族ってみんなわたしを心配してくれているんだ。」 | 25 | ○教師が話を読み聞かせ、ひなのさし絵を貼っていき、あらすじを押さえる。 ○ひなが家族を待つ、不安な状況をとらえさせる。 ○自己中心になってしまったひなの言葉と気持ちを役割演技をさせて考えさせる。 ○迎えに行ったときの姉や兄の苦労や言葉（気持ち）を押さえながらひなの心情にせまらせる。 ・おねえちゃんに冷たい言葉をかけてしまつてごめんね。 ・心配してくれてありがとう。 |
| 高め合う | 3 心が成長したひなさんの姿を考えさせる。 T ひなさんは、地震や台風が来ると、東京のおねえちゃんにどんな気持ちで電話をしますか。 C「おねえちゃんは大じょうぶかな。」 C「おねえちゃんにあいたいな。」 C「また、顔を見てお話ししたい。」 | 10 | ○心配してもらえばかりでなく、心配してあげる立場になったひなさんの姿に気づかせたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">大好きな気持ちや心配する気持ちが、発表できたか。 (道徳ノート・発言)</div> |
| 見つめる | 4 ひなさんと自分の家族に対する思いの共通点を出し合う。 C 私もひなさんと同じで災害や怖いニュースがあると家族のことが心配になる。 | 5 | ○家族が好き、家族を大事にしようとする家族思いの心情をたくさん出させ、余韻を残して終わる。 |

7 成果と課題

- つかむの段階で「家族についてどう思うか」の発問は、2年生にとっては漠然としていたと考えた。そこで、自分の家にはどんな人がいて、好きかどうかを尋ねると、「好き16名、ふつう8名」であった。その理由を尋ねてから資料に入ったので、ひなの家族への思いを素直にたどることができた。
- ペアやグループでの話し合いをさせてから発表させたので、自信を持って発言し、活発な授業となった。特に、ひなを心配して探し尋ねた姉と兄の苦労に気づいた場面では家族への思いを強くすることができたようである。
- 見つめる段階での振り返りでは家族の大切さに気づいたものの、「家族が大好き」という心情までには、高めることができなかった。

【南会津地区】南会津町立南会津中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

| | |
|---------------|--|
| 学校名 | 南会津郡南会津町立南会津中学校 |
| 所在地 | 福島県南会津郡南会津町鶴巣字平林573番地 |
| 校長名 | 渡部 正弘 |
| 学校の教育目標 | 夢を求めて自ら磨き 思いやりの心でふれあい 仲間とたくましく伸びる |
| 学級及び児童生徒数 | 5学級 96名 (内 特別支援学級1 生徒1名) |
| 道徳教育にかかる取組の概要 | <p>本校の教育目標は「夢を求めて自ら磨き 思いやりの心でふれあい 仲間とたくましく伸びる」である。この目標を具現化するため、次の2つの視点をもとに研究を進めていく。</p> <p>(1) 生徒の実態にあった「資料選択・提示」の仕方を工夫する。</p> <p>(2) 「言語活動」を工夫する。</p> <p>① 自分の考えの根拠を明確にして書くことができるようにする。</p> <p>② 話し合いの視点を明確にする。</p> <p>③ 学習形態を工夫する。</p> <p>④ 自分の考えと他の考えを比較し、自分の考えを振り返ってまとめる活動を行う。</p> |

2 研究テーマ

自己を見つめ、お互いを認め合う生徒の育成
～言語活動の工夫を通して～

3 テーマ設定の理由

生徒を取り巻く昨今の社会環境は人間関係の希薄化から自制心や規範意識が低下したり、思いやりや譲り合いの心が欠如したりしている傾向が見られる。地域、家庭を含めた教育力や社会全体のモラルも低下傾向にある。また、自己肯定感が低い子供が国際的に見て多いことや、学習や将来の生活に対して無気力であったり不安を感じたりしている子供の増加等も指摘されている。その中で、現実から逃避し、今の自分さえよければよいという閉鎖的な子供の問題も指摘されている。さらに、社会性を身につける機会が減少して生徒の社会体験や生活体験が不足している現状にある。

この現状を踏まえ、学習指導要領の改訂において「変化の激しい社会において、人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができるようになるために必要な、人間としての実践的な力」である「生きる力」を育むことが引継がれている。これらの課題に適切に対応しながら、心豊かにたくましく生きる生徒を育むために、学校における道徳教育が重要になってくる。

さらに、学習指導要領 道徳編 「第3章 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の3には「自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるように工夫すること」と示しており、道徳の時間における言語活動の重要性や自分の考えを基に表現する機会を充実させることの大切さが述べられている。

以上の今日的な教育課題や学習指導要領の改訂から、今までの自分の見方や考え方や行動を振り返る活動、自分の考え方や感じ方を伝え合う活動を通して、自己理解が深まるとともに、他者の考え方のよさに気づくことで自分を見る目がさらに広まり、心豊かになるのではないかと考えた。

4 研究計画

| 月 | 研究推進 | 主な研究内容 |
|----------|--------------------|--|
| 4 | ・生徒の実態把握 | ○知能・職業検査をおこなう。 |
| 5 | ・校内研修委員会 ・現職協議会 | ○研究テーマの方向性を確認する。 ○研究テーマの検討をおこなう。 ○研究計画の確認、検討をおこなう。 ○Q-U検査を行う。 |
| 6～ 10 | ・授業実践 | ○研究実践をおこなう。(一人一実践とする。) ○現職便りを発行し、研究内容を共有する。 |
| 11 | ・要請訪問 | ○研究の方向性や指導法についての協議、助言をもとに今後の指導に生かす。 |
| 12 | ・現職協議会 | ○効果的な指導法について意見交換をおこなう。 |
| 1 | ・実践のまとめ | ○研究のまとめをおこなう。 |
| 2 | ・現職協議会 | ○次年度の研究について協議する。 |

5 生徒の実態及び地域の課題

今年度は、旧南郷中学校と旧伊南中学校が統合して2年目を迎える。南郷地区、伊南地区どちらの生徒も地域性から穏やかな生徒が多く、生徒同士の交流も行われてはいたが、自分を表現することに消極的であるためうまくコミュニケーションがとれない生徒が多い。

昨年度の研究の成果と課題から、本校の実態は次のように考えられる。成果としては、道徳アンケートの結果「道徳の時間が自分にとって大切な時間だと思う」の質問に対して、「そう思う」の回答は増加した。このことは、昨年度重点をおいた「生徒の実態に応じた資料を選択すること」の大きな成果であった。また、「道徳の時間では、友達の考えと自分の考えを比べた後、はっとしたり、なるほどと思ったりすることがある」の質問に対しても、「そう思う」の回答が増加している。つまり、道徳の時間を通して、生徒は自己を見つめるだけでなく、自分以外の考えに触れることで道徳的価値を高めることができたと考えられる。課題としては、道徳アンケートの結果「道徳の時間に、自分の思うことを発言できている」「道徳の時間では、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いている」の質問に対して、「そう思う」の回答は増加しているものの全体に占める割合は20%前後であり、他の質問に対する割合に比べて低い状況であった。このことから、授業の中で友達の意見をよく聞き、活発に発言したり、話し合ったりできる生徒を育成していくことが課題として残った。

また、今年度5月に生徒に実施したアンケートによると、「南会津中学校の生徒に足りないと感じるところ」の質問に対する回答は、「自ら行動するところ・積極性」と答えた生徒が全体の3分の1を占めた。続いて、あいさつや返事の大さの割合が約20%をしめた。教師のアンケート結果からは、粘り強さ、自己表現する力、相手の立場を考えた言動、自分から行動する力、筋道を立てて説明する力などが足りない指摘されている。さらに、「南会津中学校をどんな学校にしたいか。」の回答は、「明るい学校、元気な学校、あいさつや返事のできる学校、他の学校の目標になる学校、積極的な学校、いじめのない学校」などが挙げられた。「南会津中学校の生徒への教師の願い」の質問に対する回答は、「粘り強く頑張れる生徒」「思いやりのある心」「自ら考え意欲的に取り組む生徒」「学習と部活動の両立を目指し頑張る生徒」などが挙げられた。

6 道徳教育における校長の指導の方針 (資料1)

- (1) 正義感・倫理観・思いやりの心などの豊かな人間性や社会性の育成を図るため、人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を培うとともに、日常生活の基本的な生活習慣をはじめとする道徳的実践の指導が徹底されるように努める。
- (2) 道徳教育の目標を達成するため、道徳教育の全体計画に基づき、道徳の時間の指導と各教科、特別活動との関連を一層深め、豊かな体験を通して、内面に根ざした道徳性を養い、日常生活のあらゆる場で実践できるよう指導の徹底を図る。
- (3) 道徳の時間においては、道徳的実践力を高めるため、指導計画の改善、資料の収集・整理に努めるとともに、指導の効果を高めるよう指導法の改善を図る。
- (4) 人間的な触れ合いを通して、道徳教育を一層充実するよう生徒と教師、生徒相互の好ましい人間関係づくりに努めるとともに、家庭や地域との連携を図り指導の効果を高めるよう計画し、実践する。

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

学校教育目標を受け、本年度の道徳の重点目標を3点設定し、さらには学年別の重点目標を掲げ、「道徳教育の全体計画」を構築した。本計画では教科指導のみならず、特別活動、生徒指導、総合的な学習の時間、体験的活動、生きる力の育成等における指導法方針を明らかにした。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について（資料3）

道徳の時間と各教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連が分かるように、学年ごとに作成した。

9 平成26年度 学級における指導計画について（資料4）

学級における道徳の指導が効果的に行えるよう、学級目標・学級経営の基本方針・生徒の実態・学級における道徳教育の方針・道徳の時間の指導方針を明確にし、担任の視点からの道徳教育の推進の方針を明らかにした。

10 道徳教育推進教師の実践について（資料5）

道徳教育地区別推進協議会において、本校の研究主題にせまるために、研究の視点に基づいて、授業実践を行った。

11 道徳の時間について（資料6）

学校全体で11回の授業研究会を実施した。その中で、「ふくしま道徳教育資料集第I集・第II集」を活用した授業を2実践、補助資料として1実践行った。

12 成果と課題

(1) 生徒の実態にあった「資料選択・提示」の仕方を工夫する。

- デジタル機器を活用して、映像で訴える資料の提示することは、生徒たちの興味・関心を高める上で非常に効果的であることが分かった。このことは、授業中の生徒の発言やまとめ、そして、眼差しの変化に顕著に表れていた。
- 導入において、生徒たちが身近な問題として捉えることが難しい資料であっても、その資料と、生徒たちが経験したことと重ね合わせることができる資料を関連させて授業を組み立てていくことにより、生徒たちは、自分の生き方を見つめ直すことができた。
- 登場人物の絵を用いて提示することも生徒の興味・関心を高めるだけでなく、資料の内容を把握する上でも効果的であった。
- 事前アンケートをもとに授業の導入を工夫したり、生徒の実生活に直結する資料を選択したり、導入と終末のつながりを意識して資料を提示したりすることは、生徒が自分の生活に置き換えて振り返る上で有効であった。
- 映像資料をつながりを持たせて提示することは効果的であるが、生徒個人が考えたり、小集団や全体で考えを深めたりする時間を確保するためにも、時間配分を吟味していくことが大切であると分かった。また、震災資料など生徒にとって衝撃を受ける資料もあるため、生徒の実態に応じた配慮も大切であることが分かった。

(2) 言語活動を工夫する。

① 自分の考えの根拠を明確にして書くことができるようにする。

- 書く活動を授業の中に位置付けたことで、自分の考えを持つことができたり、自分の思いや考えを授業の中で発言できたりする生徒が多く見られるようになってきた。12月のアンケートでは「道徳の時間に自分の意見を持つことができている、どちらかといえばできている」と答えている生徒が全体の96%で、6月から10%増えているおり、「道徳の時間に自分の意見を発言できている、どちらかといえばできている」と答えた生徒の割合が全体の79%で、6月から31%増えている。このアンケート結果から、書く活動の成果を見てとることができる。
- 違いの根拠をもとに、小集団で意見交流することにより、生徒は様々な見方や考え方に触れることができた。根拠を大切に授業を組み立てていくことが、思考に広がりを持たせる上で効果があることが分かった。
- 自分の考えを付箋に書かせることにより、生徒は箇条書きでいろいろな考えを書くことができていた。付箋に書く活動が、考えを引き出す有効な手段の一つであることが分かった。
- 書く活動を行う際には、十分な時間を確保する必要があることも分かった。ただ、書く時間や回数が多くなってしまうと、考えを共有したり、練り上げたりする時間を確保することが困難になるため、書く活動を行う時間

や場면을精査することが課題として残った。

② 話し合いの視点を明確にする。

○ 話し合いの視点を焦点化することにより、自分の考えを広げたり、全体でさらによいものを作り上げたりしようとする姿勢が見られた。また、考える視点を焦点化することも、生徒の思考を助けることにつながっていることも分かった。

③ 学習形態を工夫する。

○ 自分の考えを持った上で、小集団で考えを共有する活動を意識して行ったため、意見交流に内容の深みが見られた。

○ KJ法を用いて考えを共有する活動を行うことで、生徒は、自分の意思を、付箋を貼ることを通して表示することができた。ワークシートに書いた考えを、班の中で回し読みする学習形態も新たな考えに気づき、そして、考えを共有する上で有効な手段の一つであった。

○ 小集団での活動は、様々な考えを共有できるよさがあるだけでなく、個では十分ではない部分を補う上で効果があることも分かった。

○ 個での思考→小集団での共有、練り上げ→全体での発表という流れを全体で実践することにより、生徒が、自分の考えを持ち、自分の考えを伝え合う力を少しずつ高めることができた。

● 個→小集団→全体の流れは有効な手段の一つではあるが、授業のどの場面で、どんな目的を持って取り入れるかを十分検討することも大切であることが分かった。

④ 自分の考えと他の考えを比較し、自分の考えを振り返ってまとめる活動を行う。

○ 自分の考えと主人公の考えや思いを比較すること、自分の考えと級友の考えの違いを比較することを行うことにより、振り返りの場面で自分の今までの生き方に照らし合わせて考えることができる生徒が多かった。

● 様々な考えを共有することで、自分の考えがどう変化したかを書かせたり、発表させたりすることにより、生徒の考えが深まっていくと考えられる。その部分を意識して授業実践することが大切であると感じた。

(3) その他の成果と課題

○ 授業実践後に自己評価カードに記入させ、一実践の中での生徒の変容を捉えることにした。「自分の考えを持てたか」「自分の考えを発言できたか」「友人の考えに共感できたか」「自分を振り返り、まとめることができたか」の4項目に絞り、自己評価させた。すべての実践において、6月実施のアンケート結果よりもできた、どちらかといえばできたと答える生徒の割合が増えており、授業での手だてが有効であったことを検証することができた。

○ 授業参観シートを活用して、多くの先生から授業の成果や課題を挙げてもらい、それを道徳通信で共有することを実践してきた。授業で効果が高まった手だてを共有することで、授業実践に少しずつつながりを持たせることができた。

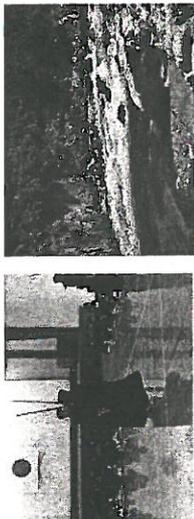
○ 生徒が自分の意見を発言できることは、授業における達成感や満足感を得る上で効果的であることが分かった。

○ 道徳アンケートの日常生活に関わる項目についても、すべての項目で、そう思う、どちらかといえばそう思うと答えている生徒の割合が増加している。特に、「あなたの学級は、お互いの良さを認め合える雰囲気がありますか」については、学校全体の約94%を占めており、6月から約12%増えている。これらのことから、道徳の時間で高めた道徳性を日常生活の中で実践できていることが窺える。

● 全体アンケート結果では、「自分の意見を発言できた、どちらかといえばできた」と答える生徒の割合が大きく伸びているが、依然として約21%の生徒は「どちらかといえばできていない」と答えている。座席表を用いた意図的指名や生徒に自信を持たせる言葉掛けなど、個に応じた支援を共通して実践することが必要であると感じた。

教育目標

夢を求めて自ら磨き
思いやりの心でふれあい
仲間とたくましく伸びる



生徒の実態

- 清掃活動や部活動に一生懸命
- 忍耐力・集中力がある
- 素直なところでお心できる
- △「私がやります、します」という積極性に欠ける
- △自己表現力が不足している

保護者の願い

- 統合による教育的効果の実現
- 学力の向上、進路希望の心
- 他者理解、感謝や奉仕の心
- 良い生活習慣、健康の自己管理

目指す学校像

自主・自立の精神と自発的な態度を育てる学校

目指す生徒像

- 「私がやります！」という主体的な生徒
- 「こんな企画とおお？」という創造的な生徒
- 「目的を達成したい!!」という意欲的な生徒
- 「相手の立場になろう」という思いやりのある生徒
- 「仲間とともに歩もう」という共生的な生徒

町教育委員会基本目標

- 自ら学ぶ人を育み、支援します
- 文化財の保護と活用を図ります

こんな学校に

- 生徒にとっても「学びたくなる学校」
- 保護者にとっても「通わせたい学校」
- 地域住民にとっても「誇り高い学校」
- 教職員にとっても「文化のある学校」

こんな教師に

- 情熱を持ち、褒め、叱り、導く教師
- 生徒や保護者、地域から信頼される教師
- 自己研鑽に励む教師

知 思考・判断・表現する力の育成

- 1 授業における言語活動を推進します。
 ・ 考案・発表・討論・振り返りの場を設定
 ・ 見通しを明確にする(授業)構成工夫
 ・ 家庭学習の時間を充実させ、自己の生き方を考える学習を促す
- 2 探究活動の場を工夫
 ・ 職場体験活動の成果の発表、提言
 ・ 研究会及び委員会活動の活性化を図る
 ・ 生徒委員会活動の場を設定し、改善
 ・ 生徒自主活動の推進
- 3 生徒が主体的に活動する意図を醸成
 ・ 道徳の授業を充実させる
 ・ 広い視野からのもの見方、考え方の養成
 ・ 体験・ボランティア活動の充実を促す
 ・ 地域清掃や屋間木中との交流
 ・ 自然体験学習

徳 豊かな人間関係の育成

- 1 組織的な生徒指導を推進します。
 ・ 平常時から、生徒一人ひとりの人間関係を見取り、内包する課題に組織的に対応する。そのためのきめ細かな情報共有。
 ・ 不登校生徒の出現阻止と対応
 ・ 授業やその他の自尊感情や自己肯定感の醸成
- 2 道徳の授業を充実させる。
 ・ 広い視野からのもの見方、考え方の養成
- 3 体験・ボランティア活動の充実を促す。
 ・ 地域清掃や屋間木中との交流
 ・ 自然体験学習

体 心と体の健康づくりの育成

- 1 規則正しい生活習慣を身につけさせます。
 ・ 早寝、早起き、朝ご飯の継続的な実施
 ・ 食育の推進による生活リズムづくり
 ・ 朝練による生活リズムづくり
 ・ 心の悩みへの相談を充実します。
 ・ 教育的ないじめアセスメント等の実施
- 2 教師と生徒、生徒同士の豊かな人間関係づくり
 ・ 定期的な交流活動の充実
 ・ 特別支援教育を充実させます。
 ・ 障がいに対応した指導の充実
 ・ 社会参加を目的とした支援
 ・ 関係機関との連携重視
- 3 特別支援教育を充実させます。
 ・ 障がいに対応した指導の充実
 ・ 社会参加を目的とした支援
 ・ 関係機関との連携重視

教職員のチームワーク

- 1 すべての教職員が全ての生徒の担任であるという意識で教育します。
 ・ 校務分掌に基づき、機動力のある組織
 ・ 共通のねらいに向けた仕組みづくり
 ・ 報連相の確実な遂行
- 2 不祥事の防止に向け、風通しのよい職場環境づくり

開かれた学校づくり

- 1 学校の経営を公開し、様々な意見を反映させる努力をします。
 ・ 学校、学級たよりの毎週発行
 ・ 外部評価の実施と結果の公表
- 2 生徒と教職員による地域行事への参加

平成26年度 道徳教育の全体計画

(資料2)

南会津町立南会津中学校

| | | |
|--------------------------|---|--|
| 関係法規・学習指導要領 | 教育目標 ○ 夢を求め、自ら磨きあひ ○ 夢を求め、自ら磨きあひ ○ 夢を求め、自ら磨きあひ | 生徒の実態 |
| 地域の実態 | | ・明るく、素直で、自信あふれる生徒を育てる。 ・自ら進んで、積極的に活動する。 |
| 学校の実態 | | 保護者の願い |
| 時代や社会の要請 | | ・相手の立場や気持ちを考へて行動する思いやりの心 ・自然や物を大切にすること |
| 国際化、少子化、高齢化、情報化、社会変化への対応 | 道徳の重点目標 ・心身の健康に心がけ、何事にもねばり強く、着実にやり抜く生徒を育てる。 ・集団生活の一員として、自己の役割と責任を自覚して行動できる生徒を育てる。 ・感謝と思いやりの心を持ち謙虚に他に学ぶ広い心を持つ生徒を育てる。 | |

| 学年別の重点目標 | | |
|--|--|--|
| 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
| ・心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を身に付ける。 ・他人の立場を理解し、思いやりの心を育む。 ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 | ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 | ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 ・自己の役割と責任を自覚し、着実にやり抜く。 |

| 道徳の時間の指導方針 |
|---|
| ・道徳実践力の育成及び道徳的価値の主体的自覚を重視する。 ・人間的成長の時間を確保し、道徳的実践力を育成する。 ・道徳的実践力の育成及び道徳的価値の主体的自覚を重視する。 |

| 各教育活動における道徳指導の基本的方針 |
|---|
| ・教育活動全体を通じて行う道徳教育と、道徳の時間の関連を図る。 ・教育活動全体を通じて行う道徳教育と、道徳の時間の関連を図る。 ・教育活動全体を通じて行う道徳教育と、道徳の時間の関連を図る。 |

| 道徳の時間 |
|---|
| ・道徳教育の指導効果を期待し、生徒のより確かなものに働きかけ、道徳的実践力を育成する。 |

| 各教科における道徳教育の指導方針 | |
|------------------|---|
| 国語 | 人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝えあう力を高める。 |
| 社会 | 伝統と文化を尊重する態度を重視し、我が国と郷土に対する愛情を養う。 |
| 数学 | 筋道を立てて正しく理解する態度を養う。問題解決への粘り強い態度を養う。 |
| 理科 | 科学的、合理的に真理を追求する態度を養う。 |
| 音楽 | 音楽的情操を養い、豊かな心情を育てる。 |
| 美術 | 美的情操を養い、豊かな人間性、創造力を養う。 |
| 保健 | 健康安全の指導と集団のきまりや規則を守る公正な態度を身につけさせる。 |
| 技芸 | 協力和責任、安全を重んじる態度を育成する物を大切にすることを育てる。 |
| 英語 | 国際的視野に立って、生活や物の見方や考え方の基礎を養う。 |

| 特別活動における道徳教育の指導方針 | |
|-------------------|--|
| 学級活動 | 自主的・自立的態度を育成する。集団生活の中で、協力する態度を身に付ける。 |
| 生徒会活動 | 自治的活動を推進し、責任感の育成や、協力して問題を解決する態度を養う。 |
| 学校行事 | 〔儀式的行事〕 儀式、連帯感を高揚させるとともに、目的達成のために努力する。 |
| | 〔学芸的行事〕 個人の価値を認め合うと共に、お互いに協力し合い、理想を目指して創造性を高める。 |
| | 〔健康・安全・体育的行事〕 健康の保持増進と安全意識の育成を心がける。強い意志を持って、全力を尽くす態度を育てる。 |
| | 〔旅行・集団宿泊的行事〕 見聞を広め、集団の一員として行動する態度を養う。 |
| 行事 | 〔勤労生産・奉仕的行事〕 勤労の尊さや意義を理解し、社会奉仕の精神を養う。 |

| 生徒指導における道徳教育の指導方針 |
|--|
| ・基本的生活習慣を身につける。 ・差別のない社会で活躍する。 ・集団の一員としての自覚を育てる。 |

| 総合的な学習の時間における道徳教育の指導方針 |
|--|
| ・自ら進んで学び考え、よりよく問題を解決する態度を育てる。 ・自己の生き方の自覚を高める。 |

| 生きる力の育成にかかわる道徳教育の指導方針 |
|--|
| ・自分の生き方を選び取る力を育成する。 ・自分の人生を自分で作りあげていく力を育成する。 ・問題発見力、問題解決力、人間関係能力を育成する。 |

| 体験的活動における道徳教育の指導方針 |
|---|
| ・体験的活動の中から、道徳的な価値を体感し、それを自己のものとして取り込めるような姿勢を養う。 |

| | | |
|--------|----------|---|
| その他の活動 | 言語、読書、進路 | ・言語環境を整え、読書活動を深め、余暇の活用と生き甲斐を求め、将来の希望を持たせる。 |
| | 保健・安全指導 | ・健康の維持増進と、安全な生活を心がける態度の習慣化を図る。 |
| | 礼儀・作法 | ・登下校などのあいさつの励行に努め、お互いに理解し合い、望ましい人間関係を育成する。 |
| | 部活動 | ・互いに信頼し、友情を深め、強い意志力で活動を進める。 |
| | 学級・学校環境 | ・教師間、教師と生徒間、生徒の好ましい人間関係をつくるよう努力する。 ・図書室や学級文庫を整備し、読書を通して道徳教育に資するよう努力する。 |
| | 家庭との連携 | ・学校、学年、学級通信、PTA通信など保護者との連携を図り、また授業参観等を通して、学校の道徳目標についての理解と協力を得る。 |
| | 地域社会との連携 | ・各種機関等との連携を密にし、環境美化、交通安全の指導を行い、健全育成に努力する。 |

南会津町立南会津中学校 道徳教育 別業(一部抜粋)

第1学年 道徳教育 別業(南会津町立南会津中学校)

| 内容項目 | 到達の時間 | 資料名 | 総合的な学習の時間 | 特別活動 | 国語 | 歴史 | 地理 | 数学 | 理科 | 音楽 | 体育 | 外国語 |
|------|-------------------------|------------|---------------------|-------------|--|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | 1-0)他より、他者の存在、実現した生き方 | 世界に一つだけの花 | | 学級や学校の生活づくり | 「1人1花の物語」 「はじめての物語」 「感じたことと文章にしよう」 | | | | | | | |
| 2 | 1-1)楽しい生活習慣、健康、習慣 | 朝のうた | 自ら目標を見つけ、学び、考え、実践する | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 3 | 1-2)自分やまわりの選択、権利と責任、社会の | オースリアのフス川 | 社会の一員としての自覚と責任 | 学級や学校の生活づくり | 「国語をたどって行く」 「少人数の目的の探し方」 「1人1花の物語」 「感じたことと文章にしよう」 | | | | | | | |
| 4 | 1-3)健康、学習 | 五色紙 | 地域や学校や文化の継承 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 5 | 1-4)健康、学習、健康 | 足から伝わる健康 | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 6 | 1-5)日本人としての自覚、文化の継承と創造 | 伝統文化に学ぶもって | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 7 | 1-6)健康、学習、健康 | パーカッションととも | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 8 | 1-7)健康、学習 | 心のつながり | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 9 | 1-8)健康、学習、健康 | 健康 | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 10 | 1-9)健康、学習、健康 | 健康 | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 11 | 1-10)健康、学習、健康 | 健康 | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |

第2学年 道徳教育 別業(南会津町立南会津中学校)

| 内容項目 | 到達の時間 | 資料名 | 総合的な学習の時間 | 特別活動 | 国語 | 歴史 | 地理 | 数学 | 理科 | 音楽 | 体育 | 外国語 |
|------|--------------|---------|---------------|-------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | 2-0)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 2 | 2-1)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 3 | 2-2)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 4 | 2-3)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 5 | 2-4)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 6 | 2-5)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 7 | 2-6)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |

第3学年 道徳教育 別業(南会津町立南会津中学校)

| 内容項目 | 到達の時間 | 資料名 | 総合的な学習の時間 | 特別活動 | 国語 | 歴史 | 地理 | 数学 | 理科 | 音楽 | 体育 | 外国語 |
|------|--------------|---------|---------------|-------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | 3-0)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 2 | 3-1)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 3 | 3-2)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 4 | 3-3)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 5 | 3-4)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 6 | 3-5)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 7 | 3-6)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |
| 8 | 3-7)健康、学習、健康 | 水は生きている | 健康の源流が社会へへの貢献 | 学級や学校の生活づくり | | | | | | | | |

平成26年度 道徳教育の学級における指導計画 (第3学年) (資料4)

| 学級目標 | 学級経営の基本方針 | 全体計画・年間指導計画 | | | | | | |
|---|---|--|--------|---|--------|---|--------|--|
| <p>勇往邁進 ～ひたむきに目標に突き進め～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚をもち、あいさつ返事、諸活動に率先して取り組む。 ・授業での発言、毎日の家庭学習に全力で励み、全員の進路実現を果たす。 ・中学校最後の部活動と学校行事にみんなで団結し、最高の思い出をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○最高学年としての役割を自覚させながら、諸活動において、生徒一人一人が活躍できる場を設定し、達成感を味わわせる。 ○はじめある生活態度を身につけさせるとともに、見通しをもって行動する力を養う。 ○生徒一人一人の進路実現を図るため、学力の向上を目指して指導にあたる。 ○生徒同士、生徒と教師、教師と保護者のふれあいや連携を大切に、信頼感に満ちた温かい人間関係づくりと生徒のよりよい成長に努める。 | <p>学年の重点目標</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1 年</td> <td>○心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を育てる。 ○他者の立場を理解し、思いやる心を育む。 ○より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を育てる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 年</td> <td>○自己の役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める意欲を育てる。 ○互いに高め合い励まし合える友情を育む。 ○自主的に考え、誠実に実行し、その結果に責任を持つ態度を育成する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 年</td> <td>○自己を見つめ、個性を伸ばした充実した生き方を追求する態度を育成する。 ○相手の立場を認め、助言や忠告を謙虚に受け入れ、自己の向上に生かそうとする態度を育てる。 ○地域から国際社会にまで目を向け、社会に貢献しようとする態度を育てる。</td> </tr> </table> | 1 年 | ○心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を育てる。 ○他者の立場を理解し、思いやる心を育む。 ○より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を育てる。 | 2 年 | ○自己の役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める意欲を育てる。 ○互いに高め合い励まし合える友情を育む。 ○自主的に考え、誠実に実行し、その結果に責任を持つ態度を育成する。 | 3 年 | ○自己を見つめ、個性を伸ばした充実した生き方を追求する態度を育成する。 ○相手の立場を認め、助言や忠告を謙虚に受け入れ、自己の向上に生かそうとする態度を育てる。 ○地域から国際社会にまで目を向け、社会に貢献しようとする態度を育てる。 |
| 1 年 | ○心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を育てる。 ○他者の立場を理解し、思いやる心を育む。 ○より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を育てる。 | | | | | | | |
| 2 年 | ○自己の役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める意欲を育てる。 ○互いに高め合い励まし合える友情を育む。 ○自主的に考え、誠実に実行し、その結果に責任を持つ態度を育成する。 | | | | | | | |
| 3 年 | ○自己を見つめ、個性を伸ばした充実した生き方を追求する態度を育成する。 ○相手の立場を認め、助言や忠告を謙虚に受け入れ、自己の向上に生かそうとする態度を育てる。 ○地域から国際社会にまで目を向け、社会に貢献しようとする態度を育てる。 | | | | | | | |
| 学級の生徒の実態 | 学級における道徳教育の方針 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●統合して2年目だが、全体的には男女の仲もよく、協力体制は取れている。 ●親しくなった反面、言葉遣いや接し方に相手に対する思いやりが感じられない場面が見られる。 ●自分の気持ちを言葉に表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。 ●自分から行動できる生徒と指示待ちの生徒が、はっきり分かれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●日常の学校での教育活動の中で、道徳的な心情を育成する手立てや援助の仕方を工夫し、道徳的実践を促す機会と場を計画的に位置づける。 ●一般社会生活におけるルールやマナーを身につけさせ、自主的な集団生活を営ませる。 ●指示待ちの態勢でなく、自ら考え、自律的・自発的行動ができる実践力を育てる。 ●生徒指導の機能(自己決定の場、良好な人間関係、自己存在感)を重視し、道徳的実践力の育成に努める。 | | | | | | | |

| 各教科 | 道徳の時間の指導方針 | 特別活動 |
|--|--|--|
| <p>国語 ○人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝えあう力を高める。</p> <p>社会 ○伝統と文化を尊重する態度を重視し、我が国と郷土に対する愛情を養う。</p> <p>数学 ○筋道を立てて正しく理解する態度を養う。問題解決への粘り強い態度を養う。</p> <p>理科 ○科学的・合理的に真理を追求する態度を養う。</p> <p>音楽 ○音楽的情操を養い、豊かな心情を育てる。</p> <p>美術 ○美的情操を養い、豊かな人間性、創造力を養う。</p> <p>保健体育 ○健康安全の指導と集団のきまりや規則を守る公正な態度を身につけさせる。</p> <p>技術 ○協力と責任、安全を重んじる態度を育成する物を大切にする心を育てる。</p> <p>英語 ○国際的視野に立って、生活や物の見方や考え方の基礎を養う。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 読み物資料、視聴覚機器を効果的に活用する。 ○同じ時代を生きた生徒の考え方や、体験を描いた共感の持てる生徒作文を多く取り入れる。 ○資料の筋道をせず、ねらいとする価値についての話し合いを深める。 ○VTRやテープを活用し、導入・終末などで興味・関心を高めるよう工夫する。 2 多様な考えや、感じ方を聞き、様々な価値に触れる場面を設定する。 ○生徒の発言を容易にするとともに発表を通して思考を深めさせるために小集団での話し合いを十分に活用する。 ○書く場面を設定し、自分の考えを確かに整理して考えを共有させる。 3 「価値の主體的自覚」の前段階を重視する。 ○「高められた価値観」を練り上げるまでに、多くの価値観に触れさせる。 4 心にひびく教師の説話を工夫する。 ○教師の失敗談などを披露し、「価値の継続化」においての実践の意欲づけを図る。 ○生徒の関心や視野を広げるために時事問題等を取り上げ、考えを深めさせる。 5 視覚に訴える板書を工夫する。 ○話し合いの中心や学習の展開、授業の構造などを明確にし、生徒の考えを深める手助けとなるようにする。 ○一枚絵、切り絵、色チョークなどを用い、簡潔で変化に富んだ板書を心掛ける。 6 道徳プリントの工夫と活用を図る。 ○生徒の内面をより深く理解するために生徒の考えをワークシートに記入させる。 ○生徒の思考の深まりを把握することにより、日常生活における、道徳的実践力の指導に役立てる。 | <p>学級活動 ○自主的・自立的態度を育成する。集団生活の中で、協力する態度を育てる。好ましい人間関係を育て集団生活の適応能力や進んで協力する態度を養う。</p> <p>生徒会活動 ○自治的活動を推進し責任感の育成や協力して問題を解決していこうとする姿勢を育てる。 ○学校生活での連帯感を深め、自主的な生活態度を養う。</p> <p>学 [儀式的行事] ○儀式の意義を認識させるとともに、目的達成のために努力し連帯感の高揚に気づかせる。</p> <p>校 [学芸的行事] ○個人の価値を認め合うと共に、お互いに協力し合い理想を目指して創造性や情操を高める。</p> <p>行 [保健安全・体育的行事] ○健康の保持増進安全を心がける態度を養う。 ○継続的な練習とその成果のためには、強い意志を持って遂行し、全力を尽くす態度を育てる。</p> <p>事 [旅行・集団宿泊的行事] ○見聞を広め、集団の一員として行動する態度を養う。</p> <p>[勤労生産・奉仕的行事] ○勤労の尊さや意義を理解し、社会奉仕の精神を養う。</p> |

| 学級生活における体験 | 生活習慣の定着 | 家庭・地域との連携 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">●係活動 <li style="width: 33%;">●学級レク <li style="width: 33%;">●文化祭 <li style="width: 33%;">●募金活動 <li style="width: 33%;">●校内合唱コンクール <li style="width: 33%;">●修学旅行 <li style="width: 33%;">●協力旅行 <li style="width: 33%;">●見学学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">●チャイム着席 <li style="width: 33%;">●時刻を守る <li style="width: 33%;">●歯磨きの励行 <li style="width: 33%;">●授業にのぞむ約束 <li style="width: 33%;">●あいさつを交わす <li style="width: 33%;">●服装を整える | <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">●家庭訪問 <li style="width: 33%;">●学年通信、学級通信 <li style="width: 33%;">●三者面談 <li style="width: 33%;">●廃品回収作業 <li style="width: 33%;">●地域祭礼への協力 <li style="width: 33%;">●地域行事への協力 |

研究主題

自己を見つめ、お互いを認め合う、生徒の育成
～ 言語活動の工夫を通して ～

授業テーマ

詩に込められた作者の思いや震災の悲しみから立ち上がろうとする中学生の言葉に触れ、自己を振り返りながら、これからの生き方や生活の仕方を考えさせる授業。

1 第1学年研究授業の実際

主題名 充実した生き方 1-(5) (関連項目: 自他の生命の尊重 3-(1))
資料名 最後までわかっていたなら (サンクチュワリ出版)
授業者 馬場仁子

(1) 授業テーマの設定と趣旨

東日本大震災から4年が経とうとしているが、生徒たちの暮らす南会津地方は浜通りほどの大きな影響もなく、風評被害などは感じつつも震災前と変わらぬ毎日を過ごしている。そういった現状を踏まえ、この資料を通して「今」という時間の尊さやかけがえのない命の大切さを実感させ、自分の生活を振り返らせることは、これからの「福島」で生きる生徒たちにとって大切なことであると考えた。

1学年は国語と家庭科を担当しているが、全体的に男女ともに仲がよく、集団としてのまとまりやお互いを認め合う雰囲気も感じられるようになった。しかし一方では、学校生活や人間関係にゆとりが出てきたためか、ちょっとしたトラブルや物事を後回しにしてしまう傾向も見られる。

また、6月に実施したアンケート(P45)によると、「道徳の時間に自分の思うことを発言できている」に対して51%が、「自分の生き方を振り返り、感じたこと考えたことをまとめることができている」に対して37%の生徒が「あまりできていない」、「できていない」と感じていることがわかった。生徒の考えを引き出せるような資料を提示し、その変容に気付かせる工夫をしていきたいと考え、この授業を設定した。

(2) 本時の概要

「詩や中学生の言葉に触れ、今までの自分を振り返り、一日一日を大切にしながら充実した生活を送ろうとする心情を育てる」をねらいとして授業を組み立てた。

まず、事前にとっておいた「もし明日が最後の日だったら」という生徒への質問の回答を提示・共有したうえで、9・11の画像と「もし最後までわかっていたなら」の詩に触れた。詩に込められた思いを感じるだけでなく、自分たちと詩の考えが異なるのはなぜかに気付かせることを意図した。さらに、外国で起こった遠い話で終わらせず、自分たちも経験した東日本大震災と重ね合わせながら、後悔しない日々を送ることやそれを意識して生活することの大切さをとらえさせることを意識して授業を展開させた。そこで、後半に気仙沼市の中学生の答辞を提示し、震災との関連性を持たせ、これからの「福島」に生きる生徒たちに、毎日を後悔しないように生きていこうという意識を引き出すきっかけにしたいと考えた。

今回は詩を資料に用いたということもあり、終末は感想でなく簡単な詩を書かせることで、自分の本音を客観的に表現させ、互いの詩をを読み味わうことで「よりよく生きる」ことへのそれぞれの考えを深め合うことをねらいとした。

(3) 研究の視点との関わり

手だて1：生徒の実態にあった「資料選択・提示」の仕方を工夫する。

震災関係の資料は今までも扱ってきたので、今回はアメリカの同時多発テロから震災に、最後は自分自身に戻るといった段階を意識して授業を組み立てた。

詩の言葉にしっかりと注目させるために詩を印刷したプリントも準備し、範読に合わせて文字を追えるようにした。

i p a dを活用して同時多発テロのセンタービルや気仙沼市の中学生の答辞の画像を提示することで、作者の思いや震災で被害を受けた人の悲しみをとらえさせる手だてとした。



手だて2：「言語活動を工夫する。」

＜自分の考えの根拠を明確にして書くことができるようにする。＞

「もし最後だとわかっていたら」という問いかけに、「おいしいものを食べる」、「好きなことをする」などと書いた自分たちと作者の言葉になぜ違いが生じたのかを考えさせた。詩に描かれた作者の思いをしっかりととらえさせたいうで、違いが生じた理由を明らかにして自分の考えをまとめさせた。

＜自分の考えと他の考えを比較し、自分の考えを振り返ってまとめる活動を行う。＞

比較という点では、①で述べたように自分と作者の言葉を比較させることで状況の違いを明確にし、今の恵まれた環境とその中で自分はどのように生きていくのかを考えさせた。違いが生じた理由を小グループで意見交換することで、安易に「最後」ととらえてしまいがちな自分たちの状況を省みながら、今という時間の大切さに気付かせるなど、考えを深めさせる場を設定した。小グループに関しては、国語の時間でも活用している4人班で編制した。生徒たちも慣れているのでスムーズに話し合いを進めることができ、全員の考えを伝え合うことができた。



終末に詩を書かせることで、初めの自分の考えと比較することも、変容に気付くともできると考えた。感想を書かせると反省となってしまうことが多いので、今回は各自に詩を作らせた。書き出しには時間がかかったが、思い思いの詩を作り班で共有した。

2 本時における成果と課題（成果は○、課題は●で掲載）

手だて1：生徒の実態にあった「資料選択・提示」の仕方を工夫する。

- 文字から受けるイメージのふくらみや考えの深まりも大切なので、プリントを見ながら範読を聞いたことはよかった。
- 9・11の映像→詩→3・11の映像という流れによって、授業の深まりが感じられた。生徒たちの心を揺さぶる資料だった。
- 中学生の答辞は生徒にとって等身大の声であり、震災で被害を受けた同じ世代の思いに触れるためによい資料だった。
- 事前のアンケートの提示は生徒の関心を高めるうえでも効果的だった。自己中心的な考えが出ていて導入には適していたと思う。ワークシートで自作の詩と対比できるのも有効だった。

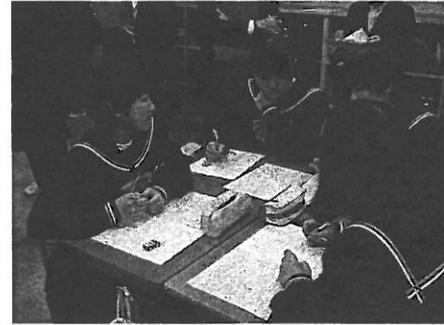
- 板書計画が明確で振り返りがしやすく、短冊の活用は効果的な提示だった。
- 画像の提示については、生徒の真剣な眼差しや授業の雰囲気からも効果的であったと思うが、衝撃的な映像だけに配慮することもあり、精選する必要がある。
- 一つの資料をもっと深く話し合うことも必要だと思う。中学生の答辞の資料だけでも十分に話し合える、考えを深められる資料だと思う。
- 9・11や震災についての説明にもう少し時間が取れると、さらに資料を身近に感じられたと思う。



手だて2：「伝え合いと振り返りの活動」を工夫する。

<自分の考えの根拠を明確にして書くことができるようにする。>

- 自分の考えを書くことでさらに思考が明確になるので、ワークシートに考えを書かせることは有効だった。
- 中心発問で「いい詩だ」で終わらせずに、「なぜ違いが生じたか」と生徒に考えさせたのは、意見が組み立てやすくよかったと思う。
- 他の意見と交流し、自分の考えを深めるために4人という班編制は有効であった。生徒たちも活発に考えを共有していた。
- しっかりと自分の考えを書くことが、次の話し合い活動につながるので、その時間の確保に努めなければならない。



<自分の考えと他の考えを比較し、自分の考えを振り返ってまとめる活動を行う。>

- 詩を書かせたことによって、生徒たちの言葉の重さや願いが強く感じられた。思春期に入った中学生に素直な思いを書かせるのには有効な手だてだった。
- 導入の自分中心的な考えが終末の詩の言葉と違っていたこと、そしてその変容を生徒自身が実感していたことはよかったと思う。
- 終末の詩を書いたワークシートを回し、共有したことは一人一人の内省化に効果的だった。
- 教師や学級全体の雰囲気、班の話し合いの中にも、自由な意見を受け入れよう認め合おうとする思いが感じられた。話す人に体を向ける、ちょっとした態度からも日頃の学習訓練がうかがえる。
- 詩にするまでに時間がかかっていた生徒も見られた。「『もし、最後だとわかっていたら』という書き出しがいいよ。」という補助発問で書き始めることができた。
- 自分に振り返って考える時間や場をしっかりと確保することで、さらに意識の高まりが得られると思う。

3 その他の成果と課題

- 6月に実施した道徳アンケートと事後アンケートの結果に変容が見られた。

- ①「道徳の時間に自分の考えを持つことができている」
 - ・ 平均値が3.3から3.8となった。6月のアンケートで4段階評価の1、2を選んだ12%の生徒が0%になったことが要因である。
- ②「道徳の時間に自分が思うことを発言できている」
 - ・ 平均値が2.7から3.5に向上した。「できている」、「どちらかといえばできている」と評価した生徒が49%から92%に増えた。
- ③「道徳の時間では、友達の考えと自分の考えを比べた後、はっとしたり、なるほど思ったりする」
 - ・ 平均値は3.5から3.8となった。96%の生徒が肯定的な評価をしている。
- ④「道徳の時間では、自分の生き方を振り返り、感じたこと、考えたことをまとめることができている」
 - ・ 平均値が2.7から3.8に向上した。「まとめられていない」と評価した37%の生徒が、「できるようになった」と評価している。

上記のように生徒の意識が変わってきたことは、今回の授業だけでなく、現職教育を通して学校全体で取り組んだ成果だと思う。日頃からの学級の雰囲気作り、小グループでの話し合い活動の取り組みなどを継続していくことの大切さを実感した。

- 「授業参観シート」を活用して授業の助言をいただくことは、様々な視点からのアドバイスをいただくことができるので大変勉強になった。同様にたくさんの先生方の授業を参観することで、次時の授業に生かしたいと思える手立てを学ぶことができた。
- 本時の課題でも触れたように、自分の考えをしっかりと持つ時間を確保すること、考えを共有する場面をどこに設定するか、その目的は何かなどを考えて授業を組み立てていく必要があると思った。
- 中心発問や補助発問を価値がぶれないように設定していくことが課題である。
- 価値項目は変えられないが、生徒の実態に合わせた資料作りを考えていくことは大切だと思う。福島大学の松下先生の助言の中に、資料の準備に時間をかけすぎると続かないという話があったので、毎回とはいかないまでも、生徒に身につけさせたい、考えさせたい道徳的価値をしっかりと見据えた資料を見つけていきたいと思っている。「教師がおもしろいと思わないと、生徒は道徳の授業に入り込んでこないものだ。」と先輩の先生に教えられたことがある。これからもその意識を持って授業に臨みたいと考える。



| | | | | |
|--------|---|--------------|--|--|
| 展 開 | 2 資料を読み、高志の心 情について考えを出し合 う。 (1) 高志君の心の変化を 考える。 ○野球部の遠征中、薄暗い 野球部の遠征中、薄暗い 野球部の遠征中、薄暗い 野球部の遠征中、薄暗い 野球部の遠征中、薄暗い 野球部の遠征中、薄暗い | 2 0 | ○資料の内容をつか む。 ○自分の考えを書き、 ●後自分の考えを努力して ●自らの考えを努力して | ・資料を配付し、読み 資せ徒が一生懸命に ◇生組んで取りついで い生徒の興味の懸部を 【手書分】1【動きを こる。だくのと活考が 【手だて2①】 |
| | ○高志君はなぜ恥ずか しくなったと思います か。 (2) 他の考えを聞く。 ○このことに気付いた高 志君はどんな人生を送 っていきましょう。 | 5 | ○自分の考えを書き、命 ●先支える生れ懸いて ●練習の習にから逃げ出 ○他リ人の考えをプ ●強人に記入する。た ●簡単になる。諦めな 人になる。 | ・先生がのういとい確考 ◇先え分いしとど色見え 【手だて2④】 |
| 終 末 | 4 感想を書く。 5 教師の話聞く。 | 1 0 5 | ○自分の振りをか送か述 自活れをい記教ケつ の振りか送か述教師 今返りどて由る。準備 ま返りどて由る。準備 でりなけ含し。た の、生ばめ。ラに 生こ活良て。え ◇感葉れ考【手立て2④】 | ・初心を忘れる。大切 ◇感葉れ考【手立て2④】 |

7 板書計画

今、自分が頑張っていることは何ですか。

・部活
・勉強

頑張っていることで目標は何ですか。

・優勝
・テストで上位になる。

頑張っている自分を支えてくれている人はいますか。

・家族
・仲間
・先生

紫紺の襪

野球部の遠征中、薄暗い中を黙々と走る啓介の姿を
思い出す高志はどのような気持ちだったろうか。

・サボっている自分が恥ずかしい。
・後ろめたい

なぜ、高志君は恥ずかしくなったのだろう。

・先生が一生懸命支えてくれているのに。
・練習も逃げ出している自分に、

このことに気付いた高志君はどんな人生を送っていきましょう。

・強い心を持った人になる。
・簡単には諦めない人になる。

ポイント研究授業シート

日 時：平成26年12月15日(月)6校時
場 所：多目的教室
授業者：八巻 裕介

授業テーマ 日常の「あたりまえ」に改めて感謝の気持ちを持ち、自分を支えてくれている周囲の人々に対して、進んで感謝を伝えようとする態度を育てる授業。

- 1 主題名 感謝 中心価値2-(6)
- 2 資料名 たった一秒のありがとう
(出典：「ふくしま道徳教育資料集」第Ⅱ集 敬愛・つながる思い)
- 3 本時のねらい震災の経験から人権に目を向け、周囲の思いやりに気づき、感謝の気持ちを持つことができた筆者の気持ちに共感し、自分の周りの人々に対して感謝の気持ちを持つ心情を育て、それを伝えようとする態度を養う。
- 4 授業の構想

震災から3年9ヶ月が経過し、私たちの心の中でも徐々に風化してしまっている現状の知る。そんな中、未だその影響から不自由な生活を強いられている被災者が大勢いることを再認識し、会津に避難してきた中学生の作文と、実際の当時の学校生活が映された映像資料を元に、生活の中の「あたりまえ」に、改めて感謝の気持ちを持ち、その気持ちを伝えようとする態度を育てたい。

5 本時の展開・研究の視点との関わり (◇手立て)

* 記入者

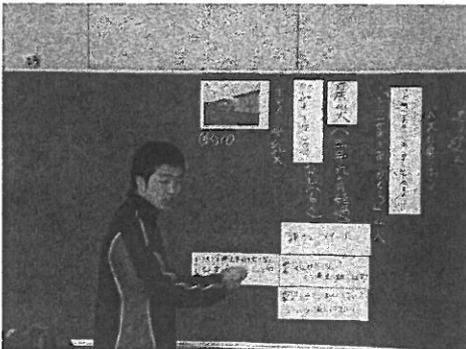
| | | |
|--------|---|--------------|
| 導 入 | <ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活の中で、「ありがとう」と感じたこと、「ありがとうを伝えたこと」について話し合う。 ・あまりない。・恥ずかしくて伝えていない 2 最近の震災の記事を読む。 ○「また、震災の話かよ〜。」「震災とかもう古くない?」といった言葉から私たちの心の中で震災がすでに風化してしまっている現状を理解する。 | 《 反省・考察・感想 》 |
| 展 開 | <ol style="list-style-type: none"> 3 資料「たった一秒のありがとう」から考える。 ○震災時、自分は何をしていて、その後苦勞に感じたことはどんなことか? ・寝ていた ・友達と遊んでいた ・そんなに苦勞したと感じたことない ○段ボールで囲まれた避難所での生活をしてきた筆者、もし自分だったらどのように感じていたか? ・堪えられない ・絶対に嫌だ ・作者の気持ちが分かる ◇自分のネームカードを貼って考えを掲示する。 ○避難先のホテルでボランティアの人々の献身的な支援を受けた筆者はどんな気持ちだっただろうか。 ・嬉しい ・救われた ・人の思いやりを感じた <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>『『ありがとう』はたった一秒の言葉です。』という看板を見た筆者はどんなことを考えたのだろうか。</p> </div> <p>◇友達と話し合わせて考えを深める。 ・自分も勇気を出して感謝の気持ちを伝えたい</p> | |
| 終 末 | <ol style="list-style-type: none"> 4 本時を振り返る ○映像資料から、感謝の気持ちを持って前向きに生きる筆者のその後を確認し、そこから自分の生活の中で感謝すべきことについて考える。また、その伝え方についても考える。 ・同じ中学生が感謝の気持ちを持って生きている。自分も感謝の気持ちを持って、日々を大切に生きていきたい。 5 感想を書く。 | |

- 1 主題名 感謝 2-(6)
- 2 資料名 たった一秒のありがとう
(出典:「福島道徳教育資料集」第Ⅱ集 敬愛・つなげる思い)
- 3 授業者 八巻裕介

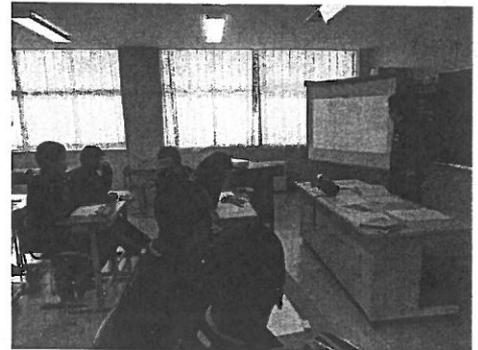
【授業の反省・考察・感想】

※手立てに関する成果は◇、課題は◆で記入。それ以外は・で記入

- ・ 生徒への発問のタイミングが良かった。
- ・ 心を成長させるきっかけづくりがしっかりと計画されていた。
- ・ 後半書くことが多かった。もう少し自分の思いを語らせても良かったのではないかな。
もっともっと葛藤させても良いのではないだろうか。
- ・ ツイートを紹介することで、生徒の表情が変わった。興味・関心を高める上では効果的な提示の仕方であった。
- ・ 最初の震災の映像で生徒の真剣さが増し、集中していた。
- ・ 映像が効果的だった。
- ・ 導入で20分かかっていた。導入をもう少し短くすると後半の話し合いができたのではないかと思った。
- ◇ 「避難所での生活をもし自分がしていたらどう感じたか」の発問は、自分を振り返る上で効果的であると感じた。自分のネームカードをはらせて、意思表示させる手法も良いと思った。映像を見せる前であつたら5段階で3にはる生徒もいたかもしれませんね。
- ・ 書く時間をもう少し確保できたなら良かったのではないかと思った。生徒が考えている間は、できるだけ教師は話さない方が良いのではないかと思った。
- ・ 「避難先のホテルで・・・」の発問の場面で、小集団で考えをまとめさせていた。まとめる視点が「ぐぐっとくるやつ」であった。話し合いの視点をどうするかということは共通の課題ではないかと思った。
- ・ 映像のインパクトが素晴らしく、生徒たちはどんどん引き込まれていっていた。映像を使った資料提示が工夫されており、とても新鮮な印象を受けた。



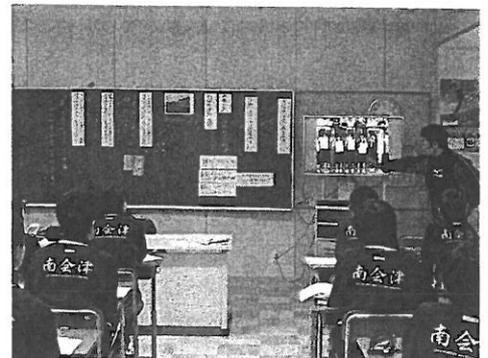
【ツイートを紹介している様子】



【震災の映像を提示している様子】



【中心発問の答えを発表している様子】



【終末で映像を提示している様子】

【相双地区】南相馬市立原町第二小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

| | |
|---------------|--|
| 学 校 名 | 南相馬市立原町第二小学校 |
| 所 在 地 | 南相馬市原町区橋本町1丁目101番地 |
| 校 長 名 | 山 邊 彰 一 |
| 学校の教育目標 | ひばりのように生き生きとして明るい子ども ○ よく学ぶ子 ○ 思いやる子 ○ たくましい子 |
| 学級及び児童数 | 普通学級8 特支学級2 児童数175名 |
| 道徳教育にかかる取組の概要 | 道徳の時間における多様な指導方法や指導体制の工夫を図るとともに、他の教育活動との関連的な指導に努め、重点価値を設定して道徳教育を進める。 |

2 研究テーマ

道徳的価値の自覚と自己の生き方について考えを深める指導の充実

3 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

科学技術の進歩と発展は現代の豊かな社会を形成してきたが、一方では加速度的な情報化の広がりや国際化の流れ、少子高齢化などによる社会生活の急激な変化をもたらしている。この変化によって、子どもたちが育つ家庭生活や社会生活においても価値の多様化や複雑化が進んでいる。生活習慣の乱れや規範意識の希薄化、自己中心的な言動の増加など、子どもたちの心と体に関わる課題が増大している。また、大震災や原発事故による被害を直接受け、避難などを経験したことによる心の不安定さは、今なお重要な課題である。

道徳教育は、よりよく生きる基盤となる道徳性を育成することがねらいである。そこで、学校の集団生活の機能を生かし、豊かななかかわりの中でよりよい生き方を追求する道徳教育の充実を図る必要がある。大震災からの再生に向け、心の教育を大切にしながら、子どもたちが夢と希望をもって力強く生きようとする力を育てることが求められている。

(2) 本校の教育目標から

本校では「ひばりのように生き生きとして明るい子どもの育成」をねらいとし、「よく学ぶ子」「思いやる子」「たくましい子」の3つの児童像を掲げている。今年度は重点目標を「豊かに表現 元気に発表」とした。児童が道徳的価値について考え、自分の考えを基に表現する学習活動を工夫することで友だちと交流し、深めていくことができるよう道徳の時間のさらなる充実を目指したいと考える。また、全教育活動の場面で児童の活動場面や発表場면을意図的に設定し、自分を見つめ、自己の生き方に

について考え、目標を持って生き抜く子どもの育成に結びつくものと考えている。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、まじめで与えられた課題に向かって黙々と解決することが得意である。反面、自分から進んで行動する力は不十分である。また、困っている友だちや下級生に優しく接したり、手を貸したりするなど、よりよい行動をとることができる一方で人が良すぎる面も見られ、自分が言いたいことが言えずにいる児童も多く、コミュニケーション能力も十分とは言えない。これらのことから、道徳の時間には資料に対する自分なりの感じ方や考え方を持たせ、その考えや根拠を友だちと伝え合いながら道徳的価値を高めていくことができるよう指導の充実を図っていきたい。

4 研究計画

| 月 | 主な実践内容 | 備考 |
|----|---|-------------------|
| 4 | ○研究計画の検討、研究組織確立 | |
| ・ | ○理論研究（研究主題、研究仮説）について | |
| 5 | ○各部研究活動の検討（活動内容の検討と係分担） | ・先進校視察 |
| 6 | ◎授業研究会①（4年1組）・校内研修 | ・先進校視察 |
| 7 | ○1学期のまとめと反省（各研究部、各ブロック） | |
| 8 | ◎授業研究会②（6年）・校内研修 | |
| 9 | ◎授業研究会③（2年） ◎授業研究会④（4年2組） | |
| 10 | ◎授業研究会⑤（1年2組） ◎授業研究会⑥（5年）※学校訪問 | ・先進校視察 ・小教研2次研 |
| 11 | ◎7日 道徳教育地区別推進協議会 授業公開⑦（1年1組） | |
| 12 | ○2学期のまとめと反省（各研究部、各ブロック） | |
| 1 | ○道徳年間指導計画の見直しと改善 ◎授業研究会⑧ ○1年間のまとめ（各研究部、各ブロック） | |
| 2 | ○学力テストの実施と分析 ○次年度の現職教育計画の作成 | |

5 児童生徒の実態及び地域の課題

震災前、340名ほどの児童が在籍していたが、平成23年4月には80名に激減した。平成24年4月には158名となり、現在175名(帰還率66%)にまで戻っている。本校学区は、地震、津波による被害は無く、その後の原発事故による放射線被害への不安から、多くの家族が避難し、復帰していない状況にある。

平成23年の学校再開は、学校所在地が「緊急時避難準備区域」であったため、別な学校での再開となった。子どもたちは、学校からスクールバスに揺られ約30分かけて移動し、6校が同居する形で学校生活がスタートした。平成24年1月に自校に戻り、再スタートしている。しかし、児童の学校生活は、屋外活動の制限があったり、これま

での児童数との違いがあったり、以前のような学校システムでは動けない状況が数多くあった。集団登校ができない、地域がバラバラ(避難家庭がある、高齢者だけ等々)、活動の制限(校庭での活動、栽培活動、送迎による学校滞在時間の制限等)などである。

平成25年頃より次第に放射線被害の心配が弱まり、通常の教育活動に近づいてはきているが、欠落した経験や積み重ねの不足などによる影響が見られる。これらは、道徳教育を進める上での課題でもあり、克服しなければいけない課題でもある。

6 道徳教育における校長の指導の方針 (資料1)

- (1) 教育活動全体を通して向上を図り、本校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童の当面している道徳問題を把握し、絶えずそれとの関連において、道徳の時間、各教科、特別活動、総合的な学習の時間、その他の領域における指導が効果的に行われるようにし、特に授業の充実を図る。
- (3) 地域の特色や児童の実態を把握し、特に身に付けさせたい内容を重点的にとりあげ、発達段階に応じた指導を行う。
- (4) 学校、家庭、地域社会との連携を密にし、共通理解をもって指導にあたる。
- (5) 全教育活動を通して、「私たちの道徳」を補助的な教材(資料)として活用する。
- (6) 道徳教育等の指導に、道徳教育推進教師が中心となった指導体制を充実させる。

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について (資料2)

- (1) 児童の実態と発達段階をもとに、各学年(ブロック)における指導の重点を図った。低学年では「節度ある生活態度」「思いやり、親切」、中学年では「信頼・友情」「生命尊重」、高学年では「不とう不屈」「生命尊重」「郷土愛」として設定した。
- (2) 全教育活動において道徳教育の推進を図るため、道徳と他領域との関連、家庭や地域社会との関連を示した。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について (資料3)

他教科や食育、情報モラル、放射線教育、学校行事等との関連を示したり、「ふくしま道徳教育資料集」や「私たちの道徳」活用計画を明示した年間指導計画の他に、教科領域等と道徳関連を明記した「年間カリキュラム(別葉)」を作成している。

9 平成26年 学級における指導計画 (資料4)

児童の実態とめざす児童像から実践事項を明らかにしている。学期ごとの反省・評価だけでなく、重点価値の指導の反省、資料の効果等を記入できるようにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

本校は前年度まで国語科で現職教育を進めてきており、今年度の「道徳教育推進校」の取組は、ほぼゼロからのスタートであった。そのため、年度当初は道徳について全職員で改めて見直し、研究を進める準備期間となった。道徳教育推進教師にとっても、何をどうすればよいか模索する状況にあった。そのことを踏まえ、本校の道徳教育推進教師の実践について記載する。

(1) 先進校の取組視察

地区内にある小教研の研究校の校内授業研究会や授業公開をしている学校への先進校視察を計画し、授業を通して視察してきた。先進校の取組から、今、道徳指導において課題となっていること、研究として取り組んでいる現状などを理解した。

推進教師はそのことを受け、提案授業の形で校内の授業研究を推進し、推進校としての方向性、研究内容等の確立に取り組んだ。

(2) 「ふくしま道徳教育資料集」の活用推進

大震災、原発事故から生まれたエピソードを素材とした第1集と第2集を活用した授業実践を進める計画を立て、授業展開を進めてきた。子どもたちの発達段階や震災によって体験してきた経験を踏まえ、資料の選択に当たってきた。福島県で最大の津波被害があった地区であり、原発事故により、子どもたちのほとんどの家庭が避難を経験しているため、資料活用の難しさを感じることもあった。結果として、資料の価値と資料選択の重要性に改めて気付いた。

(3) 2学年共通資料活用による授業実践

低学年において、同一の資料(県編)を選択した授業を実践した。同じ発問や投げかけに対する発達段階の差や反応の違いがあることに気付いた。共同研究的要素を持った授業実践を進めることができた。

(4) 家庭、地域との関わりを生かした授業づくり

家族愛や郷土愛などの価値項目を指導する際には、児童と身近な存在である父母や祖父母、地域の人々からの手紙を活用したり、ゲストティチャーの参加を生かしたりした授業の工夫に取り組むことができた。

11 道徳の時間について (別添)

12 成果と課題

【成果】

- 全職員で道徳の授業実践に取り組み、先進校視察や校内授業研究会、講師をお呼びしての講演会などで、道徳の時間の指導や道徳教育についての研修を深めることができた。
- 「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用して授業に取り組んだことで、資料提示や発問の工夫などの研究を深めることができた。

【課題】

- 家庭との連携や「わたしたちの道徳」の活用方法、活用機会などについて、共通理解を図りながら、計画に位置付ける必要がある。
- 「ふくしま道徳教育資料集」については、津波被災児童や原発事故避難児童がほとんどであることを踏まえ、資料をどう見るか、学年の実態に合っているか、ねらいとする価値に適切か等を見極め、中心発問、補助発問等を十分に検討し授業展開の工夫を図らなければならない。

平成26年度

原二小の教育

(学校経営カラムデザイン)

教育目標：ひばりのように生き生きとして 明るくい子ども

- よく学ぶ子
- 思いやの子
- たくましい子

(資料1)

「開かれた学校」を目指し、学校、家庭、地域の実情に応じた「特色ある学校」づくりに努める

学校経営方針

本校の課題・保護者の願い

- ・読書の習慣
- ・家庭学習
- ・体力の向上
- ・学習意欲の向上
- ・発表力の向上

自らの考えを伝える力

平成26年度 重点目標

豊かに表現 元気に発表

各教科・道徳・特別活動・総合等において「表現力・発表力」を身に付ける。

★特に育てたい力

★手立て(具体策)

- ★音読・読解力：★自分の考えを書く/ノート指導
- ★資料活用力：★読み取った情報をまとめる活動
- ★数学的な表現方法を用いた説明力：★説明する活動
- ★問題解決力：★見通しを持って解決する活動
- ★コミュニケーション力：★かかわり重視の体験活動
- ★表現力・鑑賞力：★互いに演奏し、聴き合う活動
- ★表現力・鑑賞力：★互いの作品の良さを見つめ合う活動
- ★生活に生かす力：★家庭との連携・学習/ト活用
- ★体力・調整力：★毎時の運動身体70%の発揮
- ★自己を愛する心：★自己を見つめる場の設定
- ★コミュニケーション力：★関係づくりの場を設定する
- ★課題達成力：★計画を立て、自己評価をする
- ★話し合う力、異学年で助け合う力、集団の一員として自分を高める力

具体目標(学校目標)

- 1) 言語活動の充実と表現力の育成
- 2) 体力の向上と健康・安全教育の充実
- 3) 豊かな体験を通じた道徳的実践力の育成
- 4) 的確な児童理解と積極的な生徒指導の充実
- 5) 情報豊かな、主体的な児童をを目指す 学校経営・教育環境の充実
- 6) マネジメントサイクルを生かした教育活動の推進

★目標管理制度の活用

特色ある学校

学力向上グラントデザイン

活動目標(重点目標)

- 1) 調べ学習と説明・考えや意見を言葉に表現 発表する機会を増やす
- 2) 自分の健康について知り、進んで心身を鍛える。
- 3) 道徳的実践力を培う機会を設定、規範意識の向上・生活習慣の改善
- 4) 児童の心のケア・特別支援教育の推進、「挨拶・返事・後始末」、適切な就学指導
- 5) 読書活動の推進・進んで楽しく学ぶ学習環境づくり・互いに高め合う人的環境づくり
- 6) 学校評価等の活用・PDCAサイクルの充実

★教職員が目標を持ち、自ら子どもの手本となりま



子供たちの力が総合的に働く活動

特色ある教育活動(具体的実践事項)

- 目的や相手を意識した発表方法を工夫し、発表力の育成を図る。・コミュニケーション力の育成
- 確かな学力を育む授業の改善に努める。・各教科の言語活動の充実(辞書活用)
- 体験活動を重視し、個に応じたよきめ細やかな指導(理数教育)・教育的ニーズに合わせた特別支援
- 家庭との連携を図り、学習習慣の確立を図る。・家庭学習の手引き等の活用
- 定着確認シートでの家庭との繋ぎ
- 読書活動の充実を図る。・読書がらみ
- 読み聞かせの交流・学校図書館等の効果的活用

家庭や地域社会との連携

- 各教科・総合的な学習の時間での地域の教育力を生かした学習の展開を図る。
- ・ポランティア、ゲストティーチャー
- 各種通信により、学校の取り組みの情報を提供する。
- 図書ボランティアによる読書活動推進
- 家庭学習、基本的な生活習慣、規範意識等についての家庭との連携

思いやる心の育成

- 発達段階に応じた指導内容の重点化を図り、自己を思いやる心の育成に努める。・道徳の時間の充実・心の活用
- 豊かな体験を通して、温かな人間関係や自主的実践的な態度の育成に努める。・読書年輪交流による規範意識の確立
- 組織的な教育相談体制の確立を図る。・いじめ・不登校への早期発見と迅速な対応
- ・SCの活用と家庭との連携
- ・生徒指導の記録の効果的な活用

たくましく生き抜くための健康や体力の育成

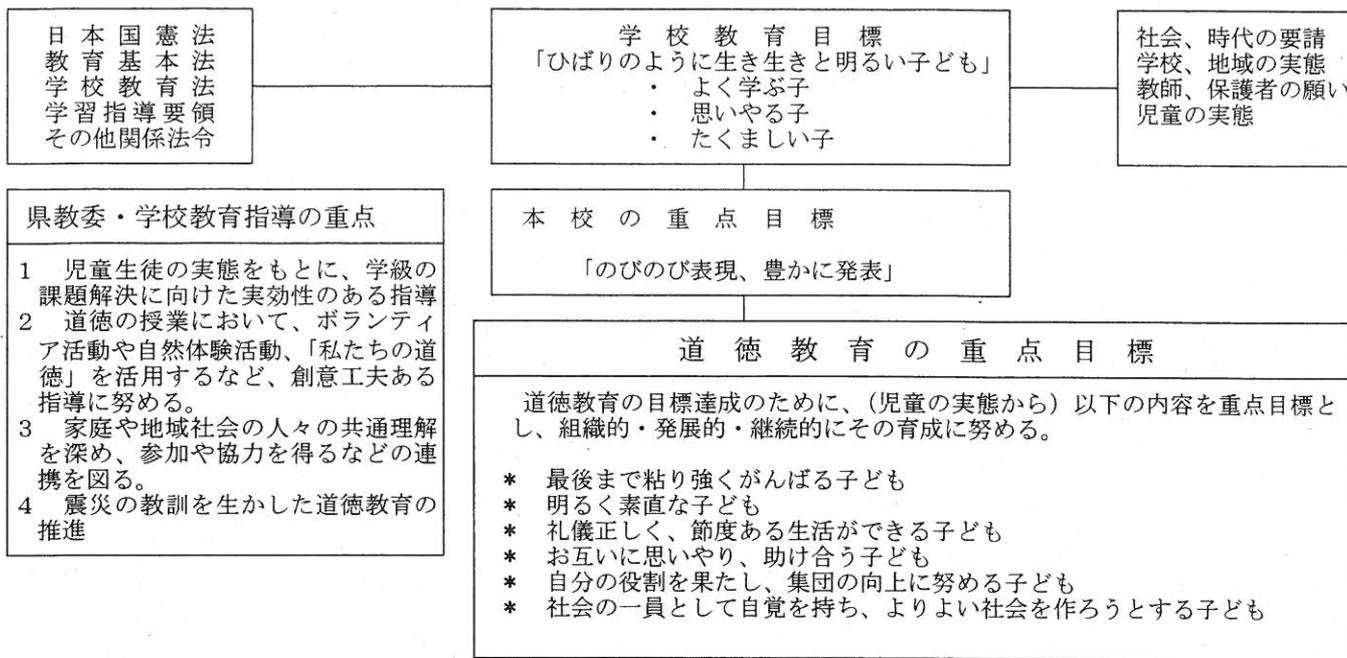
- 体力の向上に努める。・運動身体づくりプログラムの自消化
- ・毎朝の体力づくりの推進
- 日常生活における安全意識の高揚を図る。・放物線教育 防災教育の推進
- 危険予知能力・危機回避能力の育成
- 基本的な生活習慣の改善と食育の充実を図る。・早寝・早起き・朝ご飯・自分の健康調査・食卓の栄養バランスとマナー

開かれた学校

道 徳 教 育 全 体 計 画

(資料2)

1 道徳教育の全体構造



| 学 年 の 重 点 目 標 | | |
|---|--|---|
| 低 学 年 | 中 学 年 | 高 学 年 |
| * 周りの人のことを考え、わがままをしないで生活しようとする 1- (1) 節度ある生活態度 * だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 2- (2) 絆…思いやり、親切 | * 友達と互いに理解し、助け合っていこうとする態度を養う。 2- (3) 信頼、友情 * 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 3- (1) 生命尊重 | * 自分ができることを最後まで全力を尽くしてやり抜こうとする心情を育てる。 1- (2) 不とう不屈 * 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 3- (1) 生命尊重 * 郷土の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。 4- (7) 郷土愛 |

| 道 徳 教 育 年 間 指 導 計 画 | 各 領 域 に お け る 道 徳 教 育 の 役 割 | | | | | 学 級 の 道 徳 教 育 指 導 計 画 |
|--|---|---|--|--|--|---|
| | 各 教 科 | 道 徳 の 時 間 | 特 別 活 動 | 総 合 的 な 学 習 | 日 常 生 活 | |
| 道 徳 教 育 年 間 指 導 計 画 | ○ 本来のねらいの達成により、ゆたかな人間性を養い道徳性が養われる。 ○ 教科が道徳性形成の内容を直接・間接に分担している。 ○ 様々な活動表現(言語)を通して、道徳的価値を高める。 | ○ 道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳実践力を身に付ける。 ○ ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を生かすなどの多様な指導の工夫、教科の開発や活動を通して、創意工夫ある指導をする。 | ○ 自主的、自発的活動を助長し、児童の個性を伸長する。 ○ 集団の一員としての自覚を深めるとともに友人と助け合いながら学習や生活をしようとする態度、所属する集団に主体的にかかわっていこうとする態度など、望ましい道徳性を身に付ける。 | ○ 児童の興味や関心に基づく体験的な学習を通して、道徳性の育成を図る。 ○ 自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの意識に基づくとともに、児童が自分なりの価値観を身に付ける。 | ○ 豊かな道徳性を養う。 ○ 基本的な行動様式を理解させ実践化を図る。 | |

| 教科他/月 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------|-------------|------------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|------------------|------------------|----------------|-----------------|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 道徳 | 【キョウブテンとして】 | 11「希望のおくりもの」 | 9「小さい子からもらった幸せ」 | 6「小さな子からもらった幸せ」 | 6「修学旅行の夜」 | 25「すんまへん」【でない】 | 19「おはあちかんのさびしもの」 | 16「うち5人の手」【ラナーア】 | 23「お母さんへの手紙」 | 24「青の洞門」 | 16「あまののび」【おはあちかんのさびしもの】 | 28「東京大空襲の中で」 | 35「新しい日本に」 |
| | 【価値】 | 1-3「社会的役割の自覚と責任」 | 2-3「活動友情、男女の協力」 | 4-4「勤労、社会への奉仕」 | 1-3「自由」責任 | 1-1「前向きな生活態度」 | 4-5「家庭愛」 | 4-4「勤労、社会への奉仕」 | 3-1「生命の尊重」 | 3-3「敬び心」 | 4-3「社会的役割の自覚と責任」 | 3-1「生命の尊重」 | 4-7「愛国心」 |
| | 【価値】 | 1-2「不届不屈、希望、勇気」 | 1-4「読書、朗読」 | 3-1「生命の尊重」 | 1-1「前向きな生活態度」 | 1-1「前向きな生活態度」 | 26「神さまはマスクマン」 | 22「顔のよけ」 | 2-4「寛容、謙遜」 | 2-4「寛容、謙遜」 | 30「あこがれのパラソル」 | 32「確立の夏ランナー」 | 10「夢をつかまよう」 |
| 家庭 | 【価値】 | 8「白神山地」 | 7「土石流の中で救われた時」 | 7「土石流の中で救われた時」 | 7「土石流の中で救われた時」 | 14「思いやりの心」 | 18「せんぱいの心を繋ぐついで」 | 20「明日の君と先生」 | 2-2「信頼友情」 | 28「江戸しくさ」 | 34「おはあちかんのさびしもの」 | 2-2「思いやりの心」 | 1-2「不届不屈」 |
| | 【価値】 | 4-7「郷土愛」 | 2-5「尊敬感謝」 | 2-5「尊敬感謝」 | 2-5「尊敬感謝」 | 4-6「愛敬心」 | 4-6「愛敬心」 | 1-5「創意工夫、進取」 | 2-2「信頼友情」 | 2-1「礼儀」 | 4-1「権利、義務」 | 33「空を飛ぶ」 | 4-1「公徳心」 |
| | 【価値】 | 2「敬らかしら」 | 1-1「前向きな生活態度」 | 1-1「前向きな生活態度」 | 1-1「前向きな生活態度」 | 2-2「思いやりの心」 | 2-2「思いやりの心」 | 4-2「公正公平、正義」 | 4-2「公正公平、正義」 | 10「土まじよう 確かな生活」 | 10「土まじよう 確かな生活」 | 10「土まじよう 確かな生活」 | 10「土まじよう 確かな生活」 |
| 保健 | 【価値】 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 | 1「毎日の生活をふり返そう」 |
| | 【価値】 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 |
| | 【価値】 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 | 1-1「1-1」 |
| 体育 | 【価値】 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 | 1「体ほぐし運動」 |
| | 【価値】 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 | 1-2「数種運動」 |
| | 【価値】 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 | 1-4「短距離・リレー」 |

平成26年度 学級における道徳教育指導計画

4年 組

| 重点目標 |
|--------------|
| ・豊かに表現、元気に発表 |

| 道徳教育の重点目標 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで粘り強くがんばる子ども ・明るく素直な子ども ・礼儀正しく、節度ある生活ができる子ども ・お互いに思いやり、助け合う子ども ・自分の役割を果たし、集団の向上に努める子ども ・社会の一員として自覚を持ち、よりよい社会を作ろうとする子ども |

| 保護者の願い |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良く過ごし元気で明るく学校生活をおくる。 ・自分の仕事などに進んで取り組む。 |

| 児童の実態・願い |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良く過ごす ・楽しく過ごす ・勉強、運動ががんばりたい |

| 学年の重点目標 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと互いに理解し、助け合っていこうとする態度を養う。 2-(3)信頼、友情 ・生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 3-(1)生命尊重 |

| 学級における | | |
|---|--|---|
| 豊かな体験の計画 | 教育環境の整備計画 | 基本的な生活習慣に関する指導計画 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り登山 ・花の苗植え、美化 ・七夕集会等 ・運動会、水泳記録会 ・学習発表会 ・修・卒業式 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、言葉づかいの言語環境整備 ・整理整頓 ・朝の会でのスピーチ ・係活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ・返事」の徹底 ・月の生活目標の指導 ・「今日のめあて」の意識化 ・「生徒指導だより」などによる家庭との連携 |

| 他の学年との連携にかかわる内容 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り清掃(ひばりグループ) ・花の苗植え、登山遠足、交通教室等 |

| 家庭・地域社会との連携にかかわる内容 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会、家庭訪問、学年行事 ・学年・学級のおたより ・授業参観での道徳授業 |

| | 1 学 期 | 2 学 期 |
|------------|-------|-------|
| 反省・評価 | | |
| 重点価値の指導の反省 | | |
| 資料の効果 | | |

第6学年1組 道徳学習指導案

日時：平成26年8月29日（金）第3校時
場所：6年1組教室 授業者：橋本 太

| | |
|-------|--|
| 授業テーマ | 資料を組み合わせ、その提示方法やタイミングを工夫しながら、それらの出来事を自分に置き換えて考えられるような発問により、人間や他の動物の命を尊重しようという心情を高める授業。 |
|-------|--|

1 主題名 ともに生きる命 3-(1) 生命尊重

2 資料名 「までい」の牛 (出典：ふくしま道徳教育資料集第I集)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

本資料の内容項目は4-(4)「勤労、社会への奉仕」であるが、本時では他の資料と併せて提示することにより、人間と家畜やペット、それぞれの命について考えさせるものとしている。それぞれが関わりあって互いを支えていることを意識させることにより、自分や周囲の命について、改めてその大切さを実感させる。

(2) 児童の実態

震災以降、子どもたちの多くは南相馬市を離れて避難生活を余儀なくされた。幸い家族などに直接的な犠牲者は出なかったが、少なくないストレスを受けたことだろう。しかし、あれから3年以上の時がたち、放射線の影響を懸念する風潮も収まりつつある今、子供たちが命の大切さを考える機会は多くない。場所柄、畜産業を営む家庭もなく、ペットを飼う経験も少ない子供たちに、動物たちの苦境を知らせることで、失われる命の悲しさ、そしてそれを助ける尊さを実感させ、命を尊重する心情を養いたい。

(3) 資料について

原発事故による全村避難となった飯館村の畜産農家が、遠く離れた千葉に80頭の牛たちを運び「いいたて牛」を守っているという実話である。「不撓不屈」的な内容だが、そこには牛の命を守り、それによって自分たちの生のよりどころを得ている面も大きく含まれるため、人間と動物の命の相互関係について考えるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

震災による原発事故後、各地に取り残された動物たち（ペット・家畜）の写真から、まずはその動物たちの心情を想像させたい。それから本資料を読み、牛の命を守った小林さんの決意の固さに気付かせていくようにする。終末では、愛犬との再会を果たした新聞記事を紹介し、人間と動物の生命の関わりに明るい希望を持たせたい。

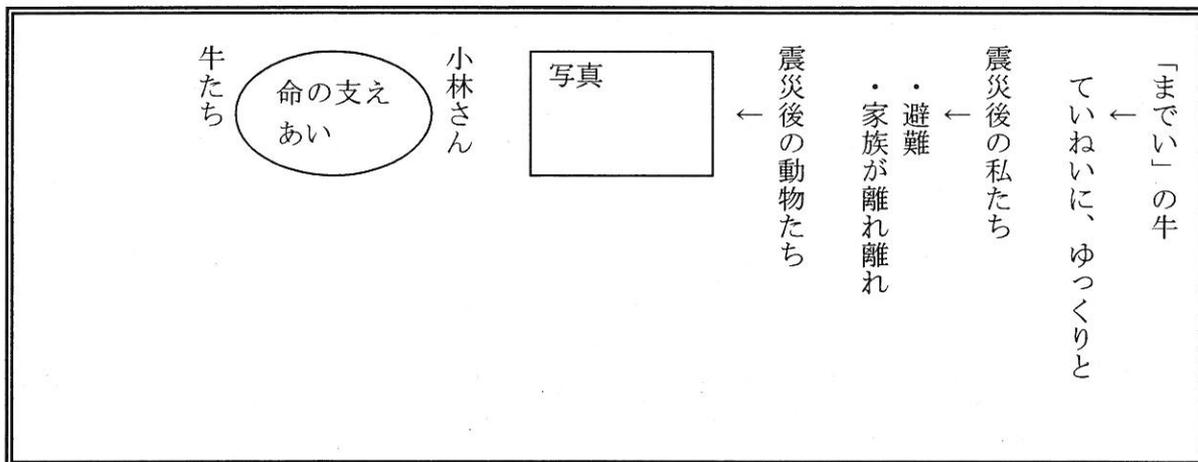
4 本時のねらい

命の危機に瀕した動物たちについて考えながら、自他の生命を尊重する心情を養う。

5 授業テーマに迫る手立て

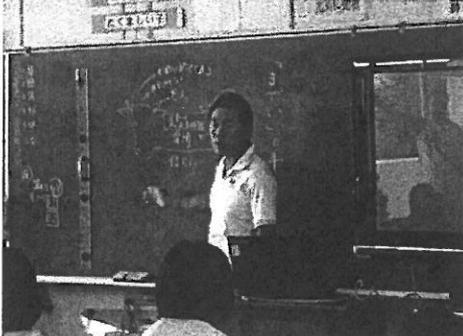
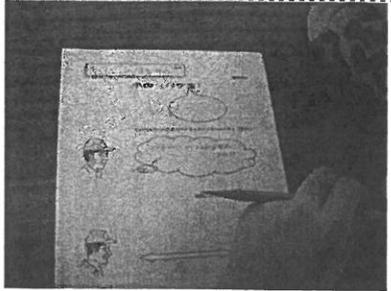
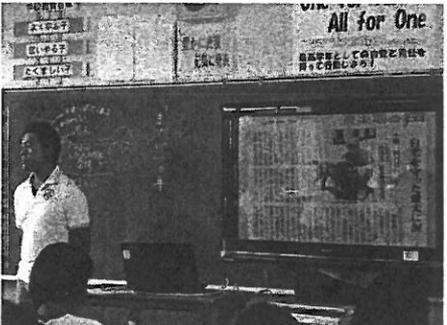
- (1) 残された動物たちの写真により、生命が失われることの悲しさを実感させ、それを守ろうという気持ちの尊さに気付かせる。
- (2) 担任自身が資料の舞台となった村に住んでいたことを生かし、他人事でなく身近な危機であるという部分から、児童の心情に訴えかけたい。

6 板書計画



7 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 | 時間 | 形態 | ○教師の支援 評価 |
|-------------|---|----|------------------|---|
| 出 会 う | 1 震災以降、被災地に取り残された動物たちの写真を見る。 | 3 | 一斉 | ○ 写真を見せることにより、動物たちの置かれた過酷な実情を理解させる。 ○ ここでは軽い話し合いにとどめる。 |
| | 2 動物たちの気持ちを考える。  | 7 | | |
| 考 え る | 3 資料「までいの牛」を読み、話し合う。  (1) 全村 避難となったとき的小林さんの気持ちを考える。 (2) なぜ小林さんが牛たちをあきらめられないのか想像する。 | 30 | 個人 一斉 | ○ 震災後の自分たちの様子も思い起こさせ、小林さんのおかれた立場を考えさせる。 ○ 苦労するとわかっていながら、牛をあきらめないのはなぜなのかを話し合わせる。 ○ ワークシートに、それぞれの気持ちを想像し書かせる。 |

| | | | | |
|------------|---|----------|---------------------|--|
| | <p>(3) 震災から 1 年半が経っての小林さんと牛たちの様子から、それぞれの気持ちを考える。</p> <p>(4) 小林さんと牛の関係について考える。(命の関係)</p>  | | <p>個人</p> <p>一斉</p> |  <p>○ 互いの存在が助け合っていることに気付かせ、それぞれの生命の大切さを感じさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>命の大切さと、それを尊重することの尊さを感じることができたか。</p> </div> |
| <p>深める</p> | <p>4 犬との再会を果たした人の新聞記事を読む。</p>  | <p>5</p> | <p>一斉</p> | <p>○ 支えあう命を感じさせて終わる。</p> |

第1学年1組 道徳学習指導案

(別添)

日時：平成26年11月7日(金)第3校時
場所：1年1組教室 指導者：今村はるみ

| | |
|-------|---|
| 授業テーマ | 主人公の気持ちに焦点を当て、自分のことに置き換えて考えられるように資料提示や発問を工夫し、家族に守られていることに気づき、家族を大切にしようとする心情を高める授業 |
|-------|---|

1 主題名 家族の人の願い (4-(3) 家族愛)

2 資料名 「おむかえ」 (出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

本主題は、家族との関わりに関するものであり、家庭や家族を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。家庭で身につける道徳性が様々な集団との関わりの中核になる。その家族一人一人について理解を深めれば、父母や祖父母を敬愛する心が一層強くなる。そのような精神を芽生えさせ家族のために役に立つ喜びが実感できるような心の指導が重要になる。震災を機に「家族の絆」が強まり、親にも子にも「家族はかけがえのないもの」「家族と一緒に過ごしたい」という意識が強まっていると言われている。そこで、自分が家族からの愛情や努力によって守られていることに感謝し、家族を敬い大切に思う心情を育み、その上で、家族の一員としての自覚を育てていくことが必要である。

(2) 児童の実態

震災直後、保育園や幼稚園で過ごした児童は8名、祖父母や父母といった児童は8人だった。家族が迎えに来た時やそばで支えてくれた家族へ抱いた気持ちをまだ鮮明に覚えていることをアンケートから伺うことができた。しかし、記憶や感情はあるものの、発達段階から家族や家庭のさまざまな心づかいや愛情は当然のことのように受け止めている児童が多い。震災から約3年8ヶ月が過ぎた今、日々の家庭生活が父母など家族の心づかいや努力の上で成り立っていることに気づいて、家族の一員として家族や家族を愛する心情を育てていきたい。

(3) 資料について

本資料は、実際にあったエピソードをもとにしている。連絡もなかなかつかない状況の中、主人公を迎えに行くために何時間も歩いた姉の姿から家族の愛情やありがたさや家庭のぬくもりについて考えを深めていくことができる資料で、家族愛の価値に適した資料である。低学年のこの時期は、幼児期の自己中心性は残っているものの他人の立場を認めたり理解したりする能力も徐々に発達してくる。そこで、道徳的価値が調和的・発展的に育っていくよう道徳の時間と他教科における道徳教育との関連を図り一層道徳的価値を充実していく必要がある。具体的には、生活科の「家族を紹介しよう」「家でする仕事・みんなの仕事を紹介しよう」などの内容と結びつけながら自分が家族からの愛情や努力によって守られていることに感謝し、家族を敬い大切に思う心情を育み、家族の一員としての自覚を育てていきたい。

(4) 指導にあたって

「気づく」段階では、写真資料から震災を想起させ、そのときの抱いた不安や家族への思いなどを発言させる。「考える」段階では、本資料を読み、自分のために家族が探し回ってくれた事実を知り、自分勝手な思いから家族への感謝や愛情に気づく主人公の気持ちの変化を考えさせる。その手立てとして、役割演技を取り入れ、じっくりと家族に対する心情を考えさせたい。また、友達と考えを交換し合い自分とは違う考えにもふれることができるようにしたい。「見つめる・深める」段階では、「わたしたちの道徳」を読んでから、今までの話し合いを基に家族と気持ちがつながっているなど感じた思い出を発表させる。さらに、生活科で取り組んだ「お手伝い大作戦」の家族からの手紙を読み、家族を大切にしようとする心情を高めていきたい。

4 本時のねらい

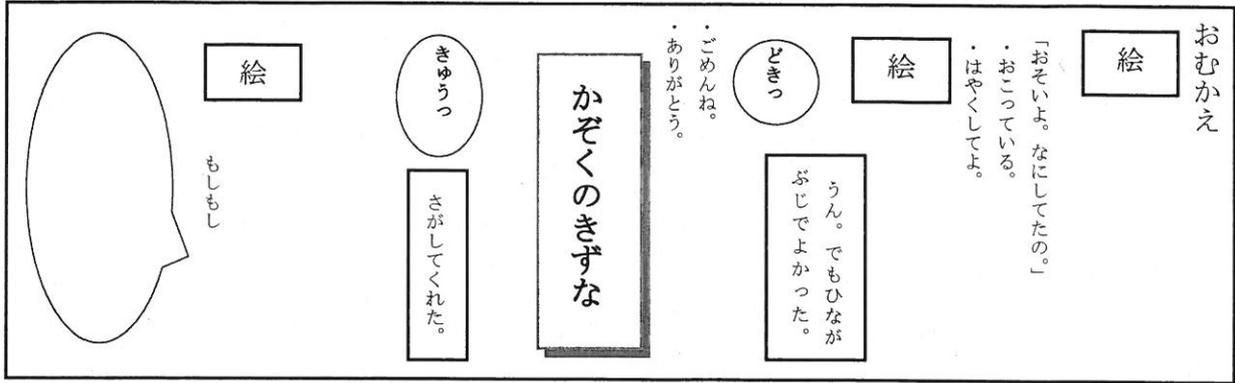
自分が家族からの愛情に守られていることに感謝し、家族を大切にしようとする心情を育てる。

5 授業テーマにせまる手だて

(1) 適切な場面で資料提示と発問を工夫する。

(2) 主人公の気持ちを自分に置き換えて考えられるために、役割演技や話し合いを行わせる。

6 板書計画



7 指導過程

| 段階 | 学習活動・内容 | 時間 | 形態 | ○教師のかかわり ●評価 |
|------|--|-----|--------------------------|---|
| 出あう | 1 主人公の挿絵と震災の写真を見る。 | 5 | 一斉 | ○ 主人公の挿絵と震災の写真を見せて、当時の様子を思い出させる。 ○ アンケートをもとに意図的に指名をし、その当時自分の置かれていた状況を思い出させる。 ・家族と一緒にいた。 ・保育所・幼稚園にいた。 ○ お迎えを待っていたときの気持ちを思い出させる。 |
| 考える | 2 資料「おむかえ」を読んで話し合う。 (1) 「おそいよ。なにしてたの。」と言ったわたしの気持ちを考える。 ・おこっている。 (2) 「どきっ」としたわたしの気持ちを考える。 ・ひどいことを言って、ごめんなさい。 ・ありがとう。 (3) 電話をしたときの「もしもし、おねえちゃん」に続く言葉を考える。 ・げんきにしてる？ ・からだにきをつけてね。 | 2 5 | 個人ペア 一斉 個人 | ○ 電子黒板で場面絵を大きく写しながら資料提示し、場の状況をつかませる。 ○ 役割演技を通して、お迎えを一人で待つわたしの気持ちを考えさせる。 ○ わたしを迎えに来てくれるまでの姉と兄の行動から家族の思いに気づかせ、わたしの気持ちの変化を考えさせる。 ○ 遠く離れた家族を思う気持ちを言葉のノートに書かせ、家族への感謝の気持ちや大切に思う気持ちを考えさせる。 ○ 姉に電話をかける場面を役割演技で再現し、それぞれの思いを発表し聞き合うことで、家族の大切さやきずなについてとらえさせる。 ● 家族を大切に思う気持ちを高めているか。(ノート・発表) |
| 見つめる | 3 家族と気持ちがつながっていると感じたことを考える。 (1) 「わたしたちの道徳」を読む。 (2) 発表をする。 | 1 0 | 1 0 | ○ 「わたしたちの道徳」P138を読んで、「家族っていいな」という気持ちを持たせる。 ○ これまでの家族との関わりを振り返り、それぞれの思い出を発表させる。 |
| 深める | 4 家族が書いた手紙を読む。 | 5 | 5 | ○ 手紙を読むことで家族への思いを深めるようにする。 |

【いわき地区】 県立遠野高等学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

| 学 校 名 | 福島県立遠野高等学校 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|--|---|---|---|----|---|---|----|---|---|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|--|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|--|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 所 在 地 | 福島県いわき市遠野町上遠野字赤坂 10-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 校 長 名 | 森 田 晶 代 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校の教育目標 | <p>① 教育方針 教育基本法及び学校教育法に基づき、学習指導要領の精神を体し、自主的で知性に富み、かつ情操豊かで、実践力のある人間を育成指導することをもって方針とする。</p> <p>② 校 訓 「努力」 「自立」</p> <p>③ 教育目標 「知性を磨き、心身を鍛え、思いやりの心と正しい判断力を養い、主体的に生きる力を育てる。」</p> <p>④ スローガン 「明るい笑顔で充実した高校生活を送ろう」</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学級及び生徒数 | <p>6学級 163名</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">1年</th> <th colspan="3">2年</th> <th colspan="3">3年</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1組</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>32</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>24</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>26</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2組</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>32</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>28</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>35</td> <td>29</td> <td>64</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>52</td> <td>21</td> <td>26</td> <td>47</td> <td>163</td> </tr> </tbody> </table> <p>○2年次より進路希望に対応した「進学・教養・ビジネス生活」の3コースを設定し、個性の伸長や進路対策を強化</p> | | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 計 | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 小計 | 1組 | 18 | 14 | 32 | 15 | 9 | 24 | 14 | 12 | 26 | | 2組 | 17 | 15 | 32 | 14 | 14 | 28 | 7 | 14 | 21 | | 計 | 35 | 29 | 64 | 29 | 23 | 52 | 21 | 26 | 47 | 163 |
| | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1組 | 18 | 14 | 32 | 15 | 9 | 24 | 14 | 12 | 26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2組 | 17 | 15 | 32 | 14 | 14 | 28 | 7 | 14 | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 35 | 29 | 64 | 29 | 23 | 52 | 21 | 26 | 47 | 163 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道徳教育にかかる 取組の概要 | <p>(1) 豊かな心、思いやりの心を持って、周囲に関われる心の育成</p> <p>(2) 部活動への積極的な参加</p> <p>(3) 正しい判断力で主体的に生きることができる生徒の育成</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

2 研究テーマ

教育活動全体を通しての道德教育の再認識化

3 テーマ設定の理由

- (1) 生徒の心の問題に組織的に対応することで、生涯にわたって自らの向上に努力するなど、生徒の自発的な成長を促したい。
- (2) 生徒が環境からの望ましくない影響に流されることなく問題行動の未然防止を図るため、自律心の育成を図る必要がある。
- (3) 生徒が健全に成長し、社会人として自立していくための課題解決をめざすため、遠野町の地域特性や本校生のよさを生かした方策を講じたい。

4 研究計画

- (1) 各教科、ホームルーム活動、学校行事、部活動等学校教育全体における取り組み。
- (2) ゲストティーチャーを活用しての、生徒への啓発と教職員への研修。
- (3) 「ふくしま道德教育資料集 第Ⅱ集 敬愛・つながる思い」を活用した授業実践。

5 生徒の実態及び地域の課題

【A 生徒の実態】

(1) 学力面

① 「学習の遅れがちな生徒」…

特別支援学級や中学時不登校、義務教育段階の学習が未定着であるなど、学習歴が多様である生徒が多い。

② 一部の生徒は、作業学習には集中し意欲的に取り組むが、「話し合い」「考える」ことが苦手である。

授業では、「常識」「基礎知識」が十分定着していないことを前提とした対応が必要

●割り算や割合(%)が苦手である

●金種計算が苦手である

●「日本は、何アジアか？」との間に「南アジアです」と回答

●携帯電話所持率98%であるが、主な用途はLINEであり、ニュースサイトや検索機能を使用しない。文章理解や論理的思考、既存の知識の関連付けにまで至っていない。

(2) 進路面

①進路希望状況…3年生52名中：進学28名、就職希望24名（平成25年9月時点）

②「専門学校の卒業後進路」「入社後の継続勤務年数」などは把握が難しい課題である。

●卒業時点にとどまらない「真のキャリア教育」の必要性

(3) 生活面

①「素直で一生懸命な遠野高生」

…部活動の全員加入、遠野町「満月祭」などにボランティア協力者延べ110名。

②欠席せず、特別指導件数も少ないが勉強時間も少ない（家庭・地域の取り巻く環境）。

③環境が及ぼす影響

●やさしくおとなしい一方で、打たれ弱い

●「1年生に虚勢張る3年生」→就職試験の受験をまえに「もう絶対だめだ」

●不登校、保護者の規範意識など多様化

●大人社会の消費文化が高校生段階にも影響

④生徒指導の文法構造を理解させる（「指導の前段階」）

●「日常生活の確立」…「早寝・早起き・朝ごはん」「返事・あいさつ・あとしまつ」の指導

(4) 入学者の出身中学校の推移

〔各年度版学校要覧より。（小数点以下処理のため合計は不一致）〕

| 学区 | 平成17年度 (2005年) | 平成20年度 (2008年) | 平成23年度 (2011年) | 平成26年度 (2014年) |
|----------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 遠野 | 70(32%) | 35(19%) | 31(16%) | 20(12%) |
| 田人 | 6(2%) | 8(4%) | 6(3%) | 4(2%) |
| 常磐 | 58(26%) | 60(34%) | 66(34%) | 65(39%) |
| 植田・勿来 | 52(24%) | 44(25%) | 46(24%) | 27(16%) |
| 内郷 | 14(6%) | 15(8%) | 15(7%) | 13(7%) |
| 小名浜 | 7(3%) | 9(5%) | 18(9%) | 20(12%) |
| その他市内 | 8(3%) | 4(2%) | 7(3%) | 15(9%) |
| 合計(市外含む) | 215 | 175 | 189 | 164 |

○地元・遠野地区の生徒減少・入学者減少がすすむとともに、本校での少人数指導等に期待し、常磐（湯本第一、磐崎）・小名浜（泉）などからの入学生が増加傾向。その結果、生徒の通学域の広域化が進んでいる。

【B 地域の課題】 (新聞記事日付：平成25年)

(1) 被災地・復興拠点としてのいわき市 人口33万→「被災者+作業従事者」2万人以上
復興需要にともなう求人倍率上昇（8月：県1.25倍、いわき1.37倍）

- 除染作業員による犯罪増加傾向(7/30福島民友, 8/27読売) […地域社会全体での喧騒感]
- 市人口は郡山を下回り県内2位。避難者は増加も、以前からの市民は流出。(9/12読売)

(2) 生徒の「内向き化」

①スマートフォンの標準仕様化と「LINE」普及

●生徒間トラブルを誘発（“LINE外し・寝落ちまでLINE”，「高1生の81%スマホ」9/7内閣府）

- 「子の携帯電話 つながる異界あるらしく 深夜ひそかに笑う声する」(8/3読売・編集手帳)

②「問題行動は少ないが、正しく理解し、自律できているわけではない」

- 「特別指導件数」24年度8件(のべ12名)→25年度1件(教育相談的要素を含む事案)
- 生徒の心の問題が、問題行動としてのかたちだけではなくてきている。

(3) 保護者の要望の多様化と家庭の指導力

①特別支援学級から入学する生徒も多く、個別対応を要望

②祖父母家庭など家庭環境の複雑な事例

6 道徳教育における校長の指導の方針(資料1)

(1) 教育目標の達成に向けて、教育活動全体を通して取り組む。

(2) 生徒の進路希望実現のため、確かな学力の定着を図り、家庭・地域と連携を密にし、豊かな心と健やかな体を育成するために全体計画を作成し実践する。

7 平成26年度 道徳教育の全体計画について(資料2)

教育目標、道徳教育の重点目標を踏まえ、総合的な学習の時間、各教科及び特別活動等を通しての計画を実践することに配慮した。

8 平成26年度 道徳教育の全体計画の「別業」について(資料3)

教育目標を踏まえて、地域行事・ボランティア活動の積極的参加、頭髪・服装指導などでの基本的生活習慣の確立、特別活動等など教育活動全体を通じて豊かな心を育成することを実践することに配慮した。

9 平成26年度 学級における指導計画について(資料4)

各学年のホームルームの年間計画に道徳教育の目標が達成できるような活動計画を実践する

ことに配慮した。

10 道徳教育推進教師等の実践について

(1) 教育活動全体を通しての実践

- ① 基本的な生活習慣を身につけさせ、礼儀正しい学校生活を送らせる。
 - ア 登下校指導
 - ・生徒指導部による毎朝の昇降口での頭髪・服装指導を兼ねながらのあいさつすることを習慣化した。
 - ・全職員による登校指導と下校指導で通学路でのあいさつやゴミ拾いを行った。
 - イ 学期初め、定期考査のときの頭髪・服装指導
 - ・常に頭髪や制服の着こなしを意識させ、日常の学校生活はもとより定期考査や様々な行事には正装で臨むよう指導した。
 - ウ 制服着こなしセミナー
 - ・正しい制服の着こなし方を制服企画コーディネーターによる講演を通して自分自身の服装について考えさせる。
- ② 地域行事・ボランティア活動への積極的参加により、郷土愛の育成と奉仕的精神を養う。
 - ア ふれあい活動によるボランティア活動
 - ・幼稚園児や高齢者とのふれあいを通して、礼儀や思いやりの態度を養った。
- ③ 満月祭や地域のお祭りへの参加
 - ・地域の方々と一緒に活動することにより様々な事柄に感激や感謝できる気持ちや郷土愛を養った。
- ④ 自ら学び、自ら歩む自立心を育成し、日々の目標に向かって前進しようとする意欲を育成する。
 - ア 各学年の進度に合わせた進路ガイダンスやキャリア教育の積極的な実施
 - ・地域の人材による講演会や企業見学、職場体験学習を通して物事を主体的、創造的に取り組んでいこうとする態度と自己の生き方を考えさせる。
- ⑤ 8月に実施されたいわき地区の道徳教育地区別推進協議会において本校の取組みを発表した。

(2) 校内研修の実施

- ① 目的

平成26年度道徳教育地区別推進協議会道徳教育推進校として、「教育活動全体を通しての道徳教育の再認識化」をテーマに研究を進めて行くにあたり、日々の教育活動全体を通して実践していることが道徳的教育の観点からどのように関連しているかを確認し、将来、導入が予想させる『道徳』の授業にむけて知識と技術の向上をはかり、生徒の望ましい成長と自己実現への支援に努める。
- ② 期日 平成26年11月25日(月) 視聴覚室
- ③ 講師 長島 利行先生(茨城県立水戸南高校 教諭)
- ④ 内容 『茨城県における「道徳」の授業実践』
 - 1) 高等学校における道徳教育の現状
 - 2) 豊かな心育成全般について
 - ア 豊かな心の育成に向けた体制整備
 - イ 本県(茨城県)の幼児・児童・生徒に「はぐくみたい大切な心」

- ウ 「豊かな心育成コーディネーター」の主な業務
- エ 平成26年度豊かな心の育成に向けた事業
- 3) いばらき版高等学校「道徳」教育推進事業
 - ア 「道徳」資料開発会議の開催
 - イ 豊かな心育成コーディネーター等研究協議会の開催
 - ウ 「道徳教育推進委員会」の開催
 - エ 「道徳」の公開授業の促進
 - オ 「道徳」の授業におけるゲストティーチャーの活用

- 4) 「道徳」授業実践に向けて
- 5) 教育活動全体を通じて行う道徳教育
- 6) 各教科の目標と内容等と「道徳」の関連
- 7) 教室や校舎・校庭等の環境の整備

⑤ 資料等

- ・人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題
- ・茨城県における「道徳」授業実践
- ・各教科の目標や内容等と「道徳」との関連(資料5)

○先生方の感想

- ・他県の実践を学ぶことが有意義であった。
- ・指導用テキストの中身がとても充実していた。

(3) 道徳教育講演会について

① 目的

県内で活躍されている方をゲストティーチャーとして、さまざまな実践、体験をとおして命の大切さやあきらめない気持ちを伝えることにより、生徒の望ましい成長と自己実現への支援に努める。

② 日時 平成26年12月16日(火) 体育館

③ 講師 西本由美子氏(NPO法人ハッピーロードネット理事長)

④ 内容 『三十年後の桜を楽しみに』

東日本大震災での津波被害を受けた場所と原発事故により立ち入りが制限された地域の現状を映像で見せ、桜の木を植えるようになった経緯はある高校生の強い思いから始まったことを伝えた。浜通りの国道6号線沿いを桜の花で埋まるように全国各地の方々よりいろいろな支援を受けて、近い将来たくさんの人たちが笑顔で集まれるようにしたいと熱い思いを伝えた。生徒たちは、歌手のMay. JさんやGLAYさんらがこの桜の事業のために作ったミュージックビデオを観て、さらに熱い思いになった。

また、生徒たちには、今の生活は当たり前ではないこと、今自分があることに感謝して毎日の生きることの大切さと夢を持って決して諦めないことを伝えた。

○生徒の感想

- ・震災の影響で気持ちが沈んでるはずなのに、ふくしまの復興のためにプロジェクトに参加している方々がすごいと思いました。西本さんの熱く話されていること全てが心に響きとても励まされました。
- ・桜をどうしても植えたいとっていた男の人が桜を見ることが出来なくてとても残念だけれども、その人の分まで桜を見たいし、桜を見たらこの講演会のことを思い出し福島のことを忘れずにどんなことにも負けずに強い気持ちで生きていきたいと思いました。

11 道徳の授業について（資料6）

12 成果と課題

（1）成果

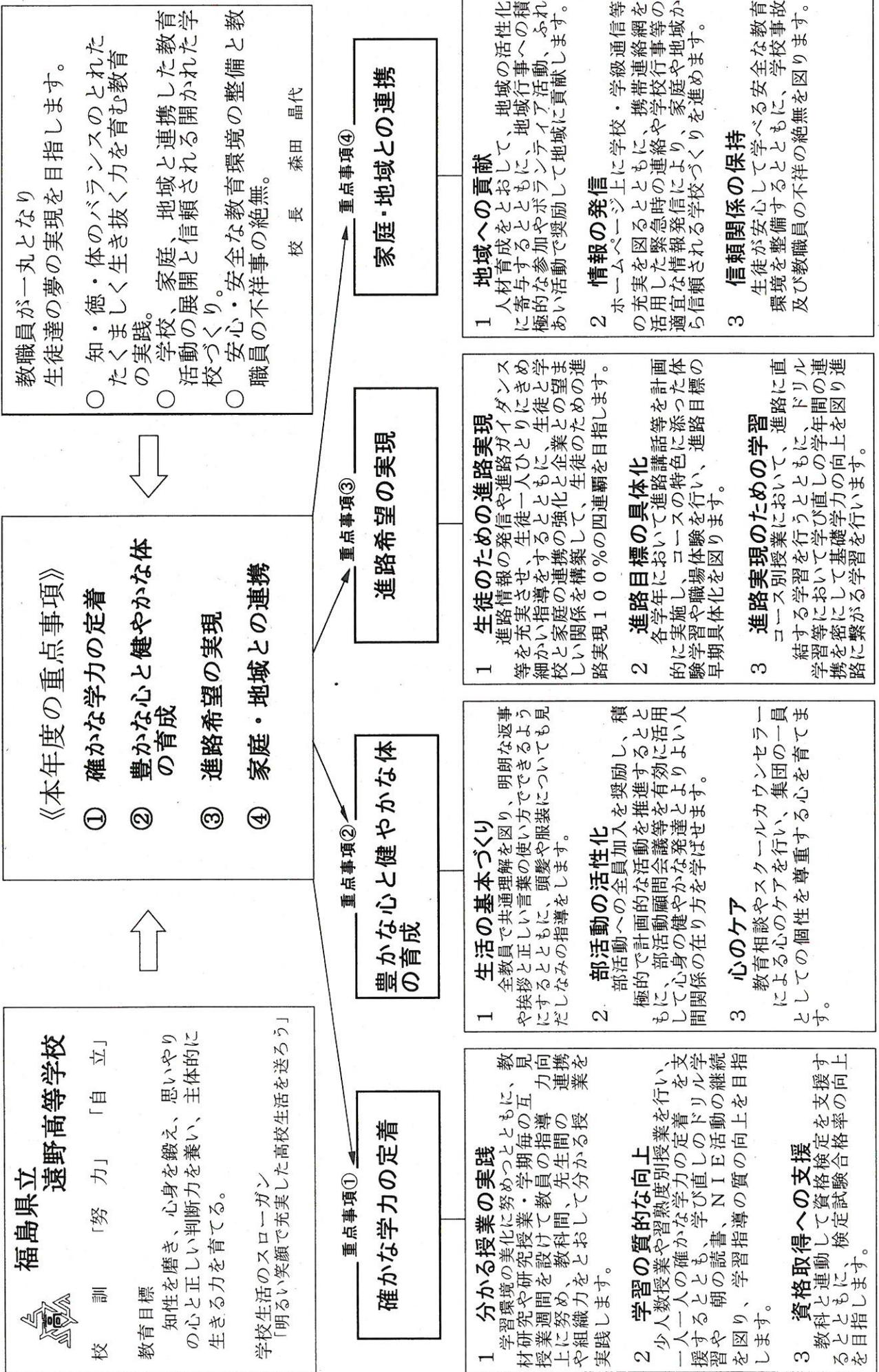
- 校内研修が他県の取組みに触れる機会となった。日々の教育活動の中で生徒への働きかけがさまざまな道徳的役割を持つことを再確認できた。道徳講演会では、ふくしま道徳資料集に掲載されている話を直接本人に講演頂き、道徳的心情を育むことができ生徒の評価も高かった。
- 日々の実践の中で、「あいさつ」することが習慣化し外部の方々に好印象を持って頂いている。進路決定 100%、国公立大学 2 年連続合格と高い目標に向かってやり抜く意志を持つことができた。
- 地元の施設、お祭りなど多くのボランティア活動に参加できた。特に本校を会場として実施された満月祭では全員がボランティアとして参加し、地域の文化（和紙）、伝統の継承、郷土愛などを育むことができ、地域の一員として自覚・意識が高まった。

（2）課題

- 発達障がいを持つ生徒への働きかけにおいては、他者との関係や心情を汲み取るバランスを欠く場面が多く、道徳性をどのように育成していくかが今後の課題である。
- 年々コミュニケーションがなかなかうまくとれない生徒が増加している。コミュニケーションスキルと併せて他者理解を含めた道徳的要素を入れていくような複合的な支援を考えていく必要がある。
- すこやかな身体づくりにおいて、虫歯の治療であったり、視力の矯正であったりと自分の健康について自覚と意識を高めていく必要がある。

（3）次年度へ向けて

- ◎ 特別支援との関わりの中でも職員連携を密にし、常に共通理解を持って生徒への働きかけができるようにする。
- ◎ LHRを有効活用する。道徳という観点だけでなく、いのちの教育として 10 時間程度の実践を目標とする。学校行事に関連づけて、性教育関係では節度と礼節の観点や他者への思いやり、制服着こなしセミナーでは集団の一員としての自覚や礼儀としてさらに強調していく。
- ◎ スクールカウンセラーとの連携も強化し、年間を通してコミュニケーションスキルと道徳的要素を取り入れた講座を展開する。



教職員が一丸となり生徒達の夢の実現を目指します。

- 知・徳・体のバランスのとれた実践。
- 学校・家庭・地域と連携した教育活動の展開と信頼される開かれた学校づくり。
- 安心・安全な教育環境の整備と教職員の不祥事の絶無。

校長 森田 晶代

1 地域への貢献
人材育成をとおして、地域の活性化に積極的に参加する。

2 情報の発信
ホームページ上に学校・学級通信等の充実を図る。

3 信頼関係の保持
生徒が安心して学べる安全な教育環境を整備する。

1 生徒のための進路実現
進路情報の発信や進路ガイダンスを実施し、一人ひとりの進路実現を支援する。

2 進路目標の具体化
各学年において進路講話等を実施し、進路目標の達成率を向上させる。

3 進路実現のための学習
コース別授業において、進路に直結する学習を行う。

1 生活の基本づくり
全教員で共通理解を図り、明るい返事や挨拶と正しい言葉の使い方を身に付ける。

2 部活動の活性化
部活動への全員加入を奨励し、積極的に計画的な活動を推進する。

3 心のケア
教育相談やスクールカウンセラーによる心のケアを行い、集団の一員としての個性を尊重する。

1 分かる授業の実践
学習環境の美化に努め、授業・学習の質を向上させる。

2 学習の質的向上
少人数授業や習熟度別授業を行い、一人一人の確かな学力の定着を図る。

3 資格取得への支援
教科と連携して、資格試験合格を目指す。

平成26年度 道徳教育の全体計画

福島県立遠野高等学校 全日制の課程 普通科

学校の教育目標

○校訓 「努力」「自立」

○教育目標

知性を磨き、心身を鍛え、思いやりの心と正しい判断力を養い、主体的に生きる力を育てる。

○学校生活のスローガン

「明るい笑顔で充実した高校生活を送ろう」

◎生徒の実態

○素直だが積極性に欠ける面。家庭環境・発達障害等の課題を有する生徒も在籍。
○問題行動は比較的少ないが幼稚な面も。ネット・地域が生活面にも影響。

◎学校・地域の実態

○昭和23年、地域の要望により創立。遠野・田人の地元生が14%と減少傾向。バス等により常磐(40%)・勿来(16%)が通学。
○男子52%、女子48%。(昨年49:51)
○各学年2クラス編成で、2年次よりコース制を採用。

◎目指す生徒像

- 1 目標に向かってひたむきに努力する生徒
- 2 部活動・生徒会活動やクラス活動などでリーダーシップを発揮できる生徒
- 3 元気で礼儀正しい生徒

道徳教育の重点目標

- 自ら学び、自ら律し、自ら歩む自立心の育成
- 日々目標に向かって前進する挑戦意欲の育成
- 諦めずに最後までやり遂げる忍耐強さの育成
- 礼儀正しく、思いやりのある態度の育成
- 様々な事柄に感激や感謝できる素直さの育成

「言語活動の充実」を通じた道徳教育の展開

- 『高校学習指導要領解説・総則編(18p)』:「道徳教育は、豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動」
- 「言語活動の充実」からの観点 [『同・(71p)』]:「言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。」

◎本校教育活動の諸領域における方策

○「家庭・地域等」との連携

- PTA活動や服装頭髪指導における家庭との協力体制の確立につとめる。
- 地域行事・ボランティア活動への積極的参加により、郷土愛の育成と奉仕的精神を養う。

○「生徒指導等」との関連

- 基本的な生活習慣を確立するため、「頭髪・服装指導」、「登下校指導」を実施する。
- 「交通安全教室」や「薬物乱用防止教室」などの講演を通して安全教育の充実を図る。

○「特別活動」との関連

- 社会において自立的に生きることができるよう、社会の一員としての自己の生き方を探求し、在り方生き方に関する指導を行う。
- 具体的活動の場面：HR活動・生徒会活動・学校行事・部活動・ふれあい活動

○「総合的な学習の時間」との関連

- 自ら学び自ら考え、問題を解決していこうとする力など、生きる力を育成する。
- 物事を主体的、創造的に取り組んでいこうとする態度を育て、自己の生き方を考えさせる。

◎「各教科・科目」との関連

公民：望ましい自己形成。人間としての在り方生き方の考察。民主的な国家・社会の一員としての自覚の醸成。

人間の尊厳への自覚。自然や生命への畏敬。法や規範の遵守。

国語：伝え合い、心情を理解し合う態度。言語感覚を磨き、伝統や文化を尊重する態度の育成。

地理：我が国及び世界の歴史などへの理解と認識を深め、伝統や文化を尊重。異文化への理解。郷土愛育成。

数学：論理的思考力や表現する能力を通じ、道徳的判断力の育成。

理科：自然環境や生命へ対する畏敬。科学的な自然観による道徳的判断力・真理を大切にす態度。

保健体育：ルールやマナー、責任の自覚。健康と安全、生命の尊重。集団活動による公正・協力・責任・参画。

芸術：感性を高め、美や崇高なものを尊重する態度を育成。道徳性の基盤となる豊かな情操の育成。

外国語：異文化への理解。コミュニケーション能力の育成。国際社会での責任と役割の自覚。

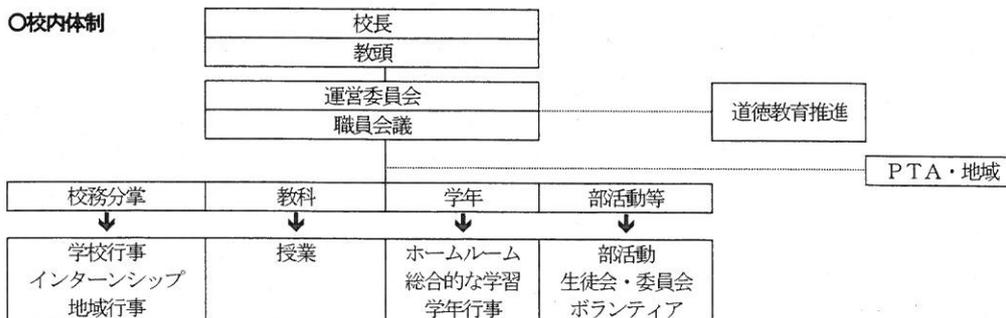
家庭：家庭や家族、勤労の貴さとの意義を理解。家庭や地域社会の一員としての自覚、男女の協力。

情報：情報と情報技術の役割や影響の理解。情報通信機器の適正利用と情報社会へ参画する態度。

商業：課題発見・課題解決能力の育成。望ましい職業観・勤労観や職業的倫理観の育成。

「言語活動の充実」(共通):「言葉遣い」、言語環境の前提となる好ましい人間関係の構築、コミュニケーション、感性・情緒の育成

○校内体制



平成26年度 道徳教育の年間指導計画

あいさつをする（通年）

| 月 | 全体 | 学年 | その他 |
|----|---|---|---|
| 4 | 対面式 部活動紹介 服装頭髪指導 登下校指導 | 適応指導（1年） | カウンセリング（通年） |
| 5 | 遠足 面接週間 生徒総会 家庭クラブ総会 交通講話 制服着こなしセミナー | 校外清掃（3年） | 高体連地区大会 |
| 6 | 更衣・月例集会 服装頭髪指導 登下校指導 ドリル学習 校内美化活動 ケータイ安全教室 生徒会立合演説会 | Q-U検査（1.2年） 職業適性検査（1.2年） 企業訪問（2年） 校外清掃（3年） ふれあい活動（2年） | 高体連県大会 県総体地区大会 Q-U検査 生活調査 PTA 部活動後援会草刈り作業 |
| 7 | 性教育講話 ふれあい活動 | 面接練習（3年） 校外清掃（2年） | 県総体県大会 |
| 8 | 服装頭髪指導 登下校指導 球技大会 | 面接練習（3年） 家庭訪問（1年） | リーダー研修会 |
| 9 | 芸術鑑賞教室 ドリル学習 ふれあい活動 | 修学旅行（2年） 面接練習（3年） 校外清掃（2年） | |
| 10 | 更衣・月例集会 服装頭髪指導 登下校指導 校内美化活動 満月祭 | 校外清掃（1年） | PTA 部活動後援会草刈り作業 生活調査 |
| 11 | 文化祭 マラソン大会 服装頭髪指導 校内美化活動 ゲストティーチャーによる研修会 | 校外清掃（1年） 「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業（1年） | |
| 12 | 百人一首歌留多大会 ゲストティーチャーによる講演会 | Q-U検査（1.2年） | |
| 1 | 服装頭髪指導 登下校指導 | 職場体験学習（2年） | |
| 2 | 服装頭髪指導 卒業式予行 | | 生活調査 いわきサンシャインマラソン |
| 3 | 卒業式 表彰式 服装頭髪指導 | | |

平成26年度 ホームルーム年間指導計画

| 月 | 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 |
|----|--|---|--|
| 4 | 高校生の心構え 遠足事前指導 | 2年生としての心構え 生徒総会に向けて 【進路希望調査】 | 3年生としての心構え HR組織作り 生徒総会に向けて |
| 5 | 望ましい集団生活 修学旅行について 性格検査 | 学年集会 学習することの意義 適性検査 | 規則正しい生活 進路と学習 男女交際について |
| 6 | 進路を考える 健康・安全を考える 【たばこの害を考える】 | 修学旅行について① 自己実現は計画から 読書に親しむ | 集団生活の向上 作文・小論文の書き方 読書に親しむ |
| 7 | 仕事について考える 読書に親しむ 1学期の反省 【夏休みの計画】 | 働くとは何か 修学旅行について② 1学期の反省 【夏休みの計画】 | 面接試験の受け方① 一般常識テスト① 1学期のまとめ |
| 8 | 2学期の心構え | 2学期へ心構え 修学旅行について③ | 【夏休みの反省】 一般常識テスト② |
| 9 | 自己理解について 自己実現について考える 社会とルール・マナー① 社会とルール・マナー② | 修学旅行について④ 学年集会 修学旅行を終えて | 面接試験の受け方② 一般常識テスト③ |
| 10 | 男女の協力 文化祭を成功させよう 文化祭に向けて① ② | 男女の協力 文化祭を成功させよう 文化祭に向けて① ② | 運転免許の取得について ～交通ルールとマナー～ 求められている人間像 (内定・合格後の生活) 文化祭に向けて |
| 11 | 文化祭の反省 【伝統について考える】 働く意義・職業の理解 自己理解を深める 【道徳教育資料集を使って】 | 文化祭の反省 【伝統に学ぶ】 求められている人間像 【高校生と喫煙】 男女交際のエチケット | 文化祭の反省 【伝統に学ぶ】 男女交際のエチケット 高校生と煙草 |
| 12 | 歌留多大会について 2学期の反省 冬休みの計画 | 歌留多大会について 読書に親しむ 2学期の反省 | 歌留多大会について 今後のライフプラン 2学期の反省 |
| 1 | 今年の抱負 【冬休みの反省】 | 学年集会 | 学習への取り組み 進路の定着に向けて 自宅学習中の心構え |
| 2 | 【単位修得・進級について】 集団生活の向上 特別活動の意義 | 就職か進学か 私の将来 学習への取り組み | 卒業式に向けて |
| 3 | 今年度の反省 中堅学年への心構え | 最高学年を迎えるに当たって 春休みの計画 | |

○各教科の目標や内容等と「道徳」との関連（例）

| 教科 | 教科の目標や内容等と道徳性との関連 | 「道徳」との関連 |
|----------|---|---------------|
| 国語 | ○互い（自分と他者）の立場や考えを尊重する。 | 自立・自主、思いやり |
| | ○ものの見方や考え方を広げる。 | 寛容・謙虚 |
| | ○日本の文化や伝統を大切にす。 | 郷土愛、伝統文化 |
| | ○言葉などで適切に表現し、伝え合う力を高める。 | 道徳的実践力 |
| 地理 歴史 | ○社会の一員としての在り方を育てる。 | 社会連帯、社会的役割・責任 |
| | ○我が国の文化や歴史を理解する。 | 伝統文化、愛国心 |
| | ○世界の文化や歴史を理解する。 | 国際理解 |
| 公民 | ○先哲の考えを理解する。 | 人間としての在り方生き方 |
| | ○現代社会の諸問題を理解する。 | 人間としての自覚 |
| | ○国家・社会における一員としての在り方を育てる。 | 法やきまり、権利義務 |
| 数学 | ○数学的な見方や考え方のよさを認識し、活用する態度を育てる。（→筋道を立てて考える能力の育成） | 道徳的判断力 |
| | ○数学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 | 法やきまり |
| | ○公正かつ適切に判断する。 | 公正、公平 |
| 理科 | ○自然に対する関心や探求心を高める。 | 自然愛、畏敬の念 |
| | ○科学技術や生物をとりまく環境を考察する。 | 生命尊重 |
| | ○科学的に探究する方法や態度を身に付ける。 | 道徳的判断力 |
| 保健 体育 | ○各種の運動を通して、健康を保持し、体力を高める。 | 生きる喜び |
| | ○たくましく生きる意志を持つ。 | 強い意志、くじけない心 |
| | ○競技を通してルールの大切さを理解する。 | 集団生活の向上 |
| 芸術 | ○豊かな情操を養い、生活を豊かなものにする。 | 生きる喜び、寛容 |
| | ○芸術作品を介して、背景となる文化や歴史を理解する。 | 伝統文化、人間理解 |
| | ○わが国の自然や四季を感じる。 | 自然愛、生きる喜び |
| 外国語 | ○言語や文化に対する理解を深める。 | 国際理解 |
| | ○コミュニケーション能力を高める。 | 集団生活の向上 |
| | ○相手の意志や意向を理解しようとする。 | 思いやり |
| 家庭 | ○生活を明るく豊かなものとする。 | 生きる喜び |
| | ○男女の協力関係や家族のあり方を理解する。 | 男女理解、家族愛 |
| | ○高齢者の生活や健康を学ぶ。 | 人間愛、生命尊重 |
| | ○地球環境について理解する。 | 自然愛 |
| 情報 | ○情報に関する科学的な見方や考え方を養う。 | 道徳的判断力 |
| | ○情報モラルの育成を図る。 | 人間としての在り方生き方 |
| | ○社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解する。 | 社会連帯 |

第1学年2組 道徳教育指導案

日時：平成27年2月6日(金) 第6校時

授業者：福島県立遠野高等学校 阿部 智

| | |
|-------|-----------|
| 授業テーマ | 将来の自分を考える |
|-------|-----------|

1 主題名 自分の目標

2 資料名 『三十年後の桜』(出典：ふくしま道徳資料集第Ⅱ集)

3 主題設定の理由

(1) 指導にあたって

26年12月にゲストティーチャーとしてこの物語の主人公である西本さんの話を聞いている。そのため、西本さんの話を思い出させながら、西本さんの行動を通して自分の目標や将来を考えさせる。

(2) ねらいとする価値

高校2年生になる前に自分の将来を考える。そのためにはより高い目標を目指し、希望と勇気を持ってやり抜く強い意志をもって生きようとする態度を育てる。

(3) 生徒の実態

男子15名、女子15名 計30名

2年生になると自分の進路に応じた選択のコース分けになる。今のところの希望では進学14名、就職16名である。しかし、自分の進路を明確に決めている生徒は少ない状況である。

(4) 資料について

東日本大震災による原発事故でふるさとに帰ることが出来ない地域がある中、ふるさとに誇りと希望が持てるような桜並木を作ろうと困難に立ち向かう主人公の姿を通して、夢を持つことの大切さと使命感に燃え行動する生き方を参考に自分の将来を考えさせる。

4 本時のねらい

自分の将来の夢を持つことでより目標を明確にし、強い意志をもってやり抜く強い気持ちを育てる。

5 学習過程

| 段階 | 学習活動・内容 ○基本発問 ◎中心発問 | 時間 | ○支援内容 評価 |
|----|---|--|--|
| 導入 | 1 価値の方向付け ・12月の講演会での話を思い出す。 | 6分全 | ○GLAYが作ったミュージックビデオを観て講演会の話を出させる。 |
| 展開 | 2 価値の探求・把握 (1) 資料の範読をする。 ○30年後の国道6号線沿いの景色とそれを見る人たちの気持ちを想像する。 ○自分の夢を実現している30年後の姿を想像してみる。 ◎西本さんが桜の活動にこだわった使命感はどんなことから生まれたのか考える。 | 5分個 8分班 | ○生徒の反応を確かめながら臨場感のある範読となるようにする。 ○30年後の桜の様子を想像させ、それを見に来る人(ふるさとに戻る人)たちの気持ちを想像させる。 ○班で意見を述べさせ、全体に紹介させる。 ○それぞれの30年後の姿を想像させる。 |
| | 3 価値の内面的自覚 ・自分の将来の夢に向かって努力しなくてはならないことを考えノートに書く。 | 8分個 8分班 | ○西本さんの使命感を考えさせる。 ○班で意見を述べさせ、全体に紹介させる。 |
| | | 10分個 | ○書く活動を取り入れることで、自己の生き方をじっくり見つめさせ、道徳的実践へ向けての道徳的意欲を高めさせる。 自分の将来の目標を明確にできたか。 |
| | 終末 | 4 価値の深化・継続化 ・授業や部活動において自分が努力すべきことを確認する。 | 5分 |

※成果と課題

○成果

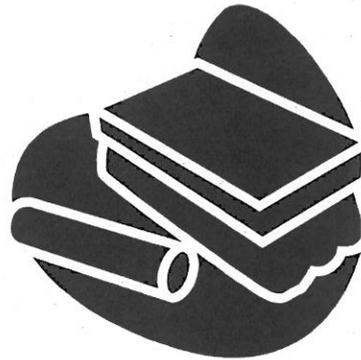
- ・これからの学校生活を送るうえで、目標を明確にして具体的に努力していくことの大切さを学ぶことができた。
- ・表現力が乏しく夢を表現することが出来ずに、具体的にパティシエや小説家などと表現できる生徒は少なく、半数以上の生徒はどうやって表現していいかわからない様子であるなど、生徒の実態を把握することができた。

●課題

- ・各授業や学校生活の中での小さな成功体験の積み重ねを実感させる必要性を強く感じた。
- ・イメージネーションの乏しさはコミュニケーション能力とも関係すると考える。
やはり、表現能力を学校生活の中で積み上げていく努力をしなければならない。

【資料】

- 「ふくしま道徳教育推進プラン」
- 道徳教育推進校の役割について
- 道徳教育実施状況調査
- 道徳だより「道徳のかけ橋」第1～5号



【県の課題】

○東日本大震災の経験から「郷土愛」の意義、「人と人との絆」を考えることのできる道徳教育を推進し、児童生徒の心の発達に寄与する事業が求められている。
○道徳の時間を公開し、学校と家庭・地域が一体となって道徳教育を推進することは、児童生徒の道徳的実践力を養うばかりでなく、県民一丸となって取組み育てる「生きる力」を身に付ける機会とする。



「深まる絆！郷土愛」道徳教育推進計画

福島県道徳教育推進メンバーによる学校・地域支援事業。教職員を対象に道徳にまつわる授業エピソードと大震災を乗り越えた県民対象としたモラルエッセイを募集したり、教材開発をしたりと、「郷土愛」をテーマに、広く道徳教育を推進していきます。

道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

- 教室に、ゲストティーチャー(外部講師)を派遣します！
 - 「道徳の時間」に外部講師とともに「郷土愛」について考える授業。
 - 体験活動に道徳的な視点から講師を招聘する。
- 職員室に、ゲストティーチャー(外部講師)を派遣します！
 - 「職員研修」に外部講師の講演を聴く。
 - 指導案や教材作成に外部講師の指導を道徳の時間の「教材作成」に関する研修。

学校

「ふくしま道徳教育読み物資料集」教材作成委員会

- 教材作成委員会(年4回)を開催
- 作成委員 大学教授、各教育事務所指導主事、小・中・高等学校教員
- 小・中・高等学校の道徳教育に関する読み物資料及び教材を開発する。
- 「郷土愛」「絆」などについて考える資料を作成する。
- エッセイコンテストの優秀作品を掲載し、メッセージの活用推進を図る。

今伝えたいメッセージ「モラル・エッセイ」コンテスト 子どもたちに残したいエピソード大募集！

県民参加型の道徳教育を推進するために、モラルやマナー、いのちや家族、人の絆など、心温まるちょっといい話を大募集！コンテスト入賞作品は、県内の各学校で道徳の時間に紹介されます。
■ 年1回 優秀作品は、「ふくしま道徳教育読み物資料集」に掲載予定。

地域

「いのち」について考える (1年次)

「敬愛」について考える (2年次)

「絆」について考える (3年次)



福島県道徳教育推進協議会

県内における道徳教育を推進し、その充実を図るため、本事業の実施を含め本県の道徳教育を推進するために必要な指導・助言を行う。

- 年2回開催(5月・2月予定)
- 構成員 学識経験者(大学教授等)、道徳教育推進協議会委員、学校関係者(小・中教研道徳部長、高等学校代表) 県教委・教育事務所・教育センター、担当指導主事

福島県道徳教育地区別推進協議会

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及する。

- 参加対象
 - 各地区の小中高等学校の道徳教育推進教師等
 - 保護者、地域住民、関係機関・関係団体等
- 各地区年1回開催(各教育事務所の計画による)
- 内容
 - ① 「道徳の時間」の授業研究会、道徳教育推進協議会メンバー等による模擬授業や保護者等を対象とした道徳の授業実践等
 - ② 道徳教育指導者養成研修(中央・ブロック別研修) 受講者・学識経験者等による講義・演習・協議等
 - ③ 推進校及び先進校実践報告等

推進校による実践研究

推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究を推進する。

- 《推進校の研究内容》
 - 研究テーマの設定
 - 校長の指導の方針の明確化
 - 全体計画・年間指導計画の提出
 - 道徳教育推進教師の実践報告
 - 道徳の時間の授業公開
 - 1年間の成果の報告と普及への協力
 - 地区別推進協議会等での実践発表
- 1年間の研究推進校
- 県内7地区に1校ずつの推進校
- 推進校による実践研究、地区別推進協議会の事例等の中から、優れた取組みや有効な教材(資料)等をもとに、道徳教育実践事例集を作成し、県内に普及する。



「和で奏でる！望ましい道徳性の育成」

教員の実践指導力の向上 家庭・地域の協力・参画

道徳教育推進校の役割について

福島県教育委員会

福島県では、平成24年度から地域に根ざした道徳教育推進校を設定しています。推進校は次のような活動を行います。

- 1 推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究の推進をする。
- 2 推進校は、ゲストティーチャー（教室GT）を活用して、児童生徒に魅力的な「道徳の時間」を提供する。
- 3 推進校は、ゲストティーチャー（職員室GT）とともに、校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
- 4 推進校は、域内の各学校へ道徳教育を公開し、推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
- 5 推進校は、自校の取組を依頼された様式に従って義務教育課へ報告する。

なお、ゲストティーチャーへの申請、経費にかかる事務手続きは県教育委員会（各教育事務所）が行います。

実践研究内容

- 研究テーマの設定・・・・・・・・・・学校における今年度の重点を核として1年間のテーマを設定。
- 校長の指導の方針の明確化・・・・・・・・年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出。
- 全体計画・年間指導計画の提出・・・・・・・・年度初めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出。
- 道徳教育推進教師の実践報告・・・・・・・・年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告。
- 道徳の時間の授業公開・・・・・・・・保護者や地域への公開授業を開催。
- ふくしま道徳教育資料集の活用・・・・・・・・実践例を紹介。
- 地区別推進協議会等での実践発表・・・・・・・・地区別推進協議会で中間報告。
- 1年間の成果の報告と普及への協力・・・・・・・・道徳教育推進校報告書の作成。

- 1年間の研究推進校です。県内7地区に1校ずつ、小・中・高等学校の中から推進校を設定します。
- 推進校の実践した研究成果は「道徳教育推進校報告書」にまとめ、県内の広く発信します。
- 推進校の関係者は、県道徳教育推進協議会に出席（年2回）し、他地区の推進校と情報交換しながら1年間の研究推進を行います。

さらに、県教育委員会が魅力的なゲストチャーチャーを派遣します。

道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

■ 推進校へゲストティーチャーを派遣

- ① 教室（道徳の時間）にゲストティーチャーを派遣する。
 - 県教育委員会が各小・中学校の「道徳の時間」及び高等学校の「ホームルーム活動の時間」に魅力的な人材を派遣して、一緒に道徳の授業を行う。授業の実施過程において、道徳教育推進教師としての役割や道徳教育についてのあり方や高等学校における道徳教育の方策等を実践レベルで提案することを目的とする。
- ② 職員室（校内研修）にゲストティーチャーを派遣する。
 - 県教育委員会が道徳教育に係る教員研修を希望する学校の職員室へ講師を派遣する。全職員で道徳教育を推進するために、学識経験者や道徳教育実践者を交えて、校内研修の充実を図る。

道徳のかけ橋

平成26年7月7日発行
第 1 号
福島県教育庁
義務教育課

道徳教育だよりを発行します



現在、文部科学省では、道徳教育における様々な課題を考慮し、教科化に向けた検討が進められています。

一方、福島県教育委員会では、震災を経験した福島県だからこそ、子どもたちに、改めて「命」「家族」「思いやりの心」「地域の絆」などの大切さについて考えさせたいという思いから、県独自の道徳資料「第Ⅰ集『生きぬく・いのち』」「第Ⅱ集『敬愛・つながる思い』」を作成し、福島ならではの道徳教育を進めています。

今回、本県の道徳教育の充実に向けて、道徳教育だより「道徳のかけ橋」を発行することにしました。教壇に立ち、日々がんばっている先生方と県教育委員会との道徳教育の充実に向けたかけ橋となることを願っています。

道徳教育の課題

～なぜ、教科化が進められているのか～

戦後、我が国の道徳教育は、学校教育全体を通して行うという方針で進められてきました。昭和33年の学習指導要領の改訂によって「道徳の時間」が設置され現在にいたっています。有識者会議（道徳教育の充実に関する懇談会）の報告の中で、道徳教育は、個々の学校では創意工夫ある優れた実践が行われているが、全体としてとらえると多くの課題があり、「道徳教育の目指す理念が関係者に共有されていない」「教員の指導力が十分でない」「他教科に比べて軽んじられている」など、期待される姿に遠い状況にあると指摘されています。

そのため、道徳教育の抜本的な改善・充実を図っていく上で、新たな枠組による教科化の必要性が高まってきました。

平成26年5月19日に実施した福島県道徳教育推進協議会において、東京学芸大学の永田繁雄教授が講演の中で、有識者会議の報告を裏付ける調査結果を紹介していただきましたので掲載します。

【教科等の好き嫌い(道徳)】 「とても好き」「まあ好き」を合わせた割合

| | |
|------|-------|
| 小学4年 | 58.4% |
| 小学6年 | 42.8% |
| 中学3年 | 37.2% |

(文部科学省：H17「義務教育に関する調査」グラフから数値のみを抜粋)

小・中学校の頃に受けた道徳の時間についての感想

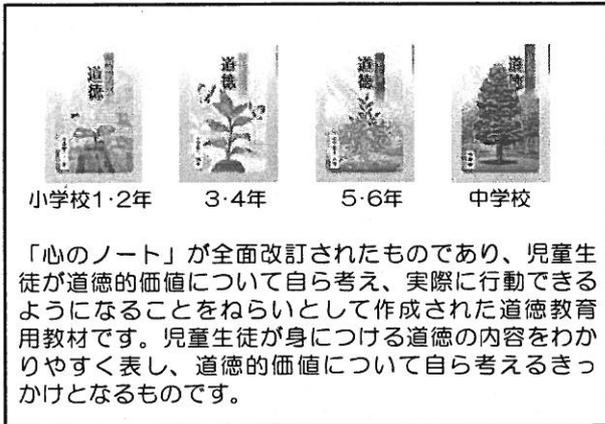
- そんなの当たり前と思うようなことばかりだった。でも、それをやるのが道徳なのだろうと思った。
- 国語の授業との違いがあまり分らなかった。物語文の読み取りと何が違うのだろうかと思っていた。
- 先生によって取り組み方が全く違っていた。
- 担任の先生も、イマイチ何をしてよいのか分からない様子で混乱していることが多かった気がする。
- 道徳の授業は他の教科などに比べて、教師の熱意が低かった。
- 「毎日の生活で道徳は学ばれるので、授業はしない」という考えの先生もいた。
- 運動会や合唱祭練習に当てられた。
- 教科などの息抜きという感じで受けていた。
- 道徳の教科書はほとんど使われなかった。
- 挙手して発言すると「まじめ」「いい子」と思われそうで、発言しにくかった。
- 当たり前のことを改めて言っているような印象。常識さえあれば、いじめっ子も「いい子」を装う。

(東京学芸大学永田繁雄教授が平成24年秋、大学2年生を対象としたアンケートからの抜粋)

教科化は、今、どのように進んでいるのか

平成25年2月、安倍内閣に設置された教育再生実行会議が、いじめ問題等への対応についてまとめました。その中で、いじめの問題が深刻な状況の今こそ、道徳教育の重要性を再確認し抜本的な改善・充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化することが提言されました。その提言のもと、3月、文部科学省に「道徳教育の充実に関する懇談会」が設置され、有識者等による10回の審議が行われました。その成果は12月26日「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」(文部科学省ホームページに掲載)としてまとめられました。平成26年2月17日、下村博文文部科学大臣は、小中学校の道徳を教科にするための具体的な制度づくりについて、中央教育審議会(文科相の諮問機関)に諮問しました。今秋に答申が出るのではないかといわれており、中央教育審議会は審議を続けています。

「私たちの道徳」について



「私たちの道徳」の活用Q&A

Q:「私たちの道徳」の活用について、どのような場面が想定されますか。

A: 道徳の時間の活用とあわせて、次のような場面での活用が考えられます。

- 学校や家庭の日常生活の中で子ども自らが活用する。
- 各教科や外国語活動の学習内容との関連で活用する。
- 総合的な学習の時間の動機付けや自己の生き方を考える際などに活用する。
- 特別活動の各内容と関連させて活用する。
- 学校・家庭・地域の連携を深める場で活用する。家庭に持ち帰らせて活用することで家庭や地域全体で道徳教育の充実を目指していく。
- その他、各学校間の交流の際などに活用する。

Q:「私たちの道徳」は、現在学校で使用している道徳の副読本に代わるものですか。(「私たちの道徳」があれば、道徳の副読本は必要ないのですか。)

A:「私たちの道徳」だけで一年間の道徳の時間を展開することはできません。例えば学習指導要領に示された小学校1, 2年の内容項目は全部で16ありますが、「私たちの道徳小学校1・2年」にある読み物資料は12編で、すべてをまかなうことはできません。したがって、現在使用されている副読本と、地域資料等、そして、「私たちの道徳」をあわせて活用いただくことになり

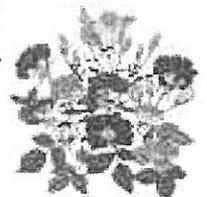
なります。 ぶくしま道徳教育資料集 第1集

Q:「私たちの道徳」の活用事例集はないのですか?

A: 現在文部科学省で作成中です。今年度中に配付する予定です。なお、『心のノート』を生かした道徳教育の展開(文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1332340.htm)の内容も「私たちの道徳」を活用するうえで大変参考になりますので、ぜひご覧ください。

Q: 道徳が教科化されると「私たちの道徳」が「道徳の教科書」となるようなことを聞きましたが.....

A:「道徳の教科書」については、今の段階では未定です。教科化の動向に合わせて、今後明らかになってきます。現状では上に記したような活用をお願いいたします。



道徳のかけ橋

平成26年8月29日発行
第 2 号
福 島 県 教 育 庁
義 務 教 育 課

道徳の時間は、何をする時間なのか

学校教育全体で行う道徳教育の「要」となるのが道徳の時間です。それでは、道徳の時間は何をする時間なのでしょうか。「道徳のかけ橋」第2号では、「小学校（中学校）学習指導要領解説道徳編」を参考に先生方と一緒に考えていきたいと思えます。

道徳の時間については、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、（中学校：道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深め）道徳的実践力を育成する」と明記されています。子どもたちが自分自身の生き方をじっくり考える時間といえるのです。

ここで、「道徳的価値の自覚」について、詳しく考えていきましょう。

道徳的価値の自覚を深めるためには、次の3つのポイントに留意して、子ども自らが主体的に学習を進めていくように授業を展開していくことが大切です。

〈ポイント1〉道徳的価値について理解する。

道徳的価値の理解は、次の3つの理解を通して行います。授業では「①価値理解」を重視しますが、人間の弱さを含めた「②人間理解」、人間の多様性を考えさせる「③他者理解」を深めていくことが大切です。



〈ポイント2〉自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる。

ねらいとする道徳的価値にかかわる事象に対する感じ方、考え方などを単に資料中の問題としてとらえるのではなく、子ども自身が自分とのかかわりで考えられるようにします。自己理解を深めさせていくことが大切です。

〈ポイント3〉道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。

ねらいとする道徳的価値にかかわる現在の自分自身の行為、感じ方、考え方を振り返ることで、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培います。

教師は、これらのポイントをもとに、子どもたちの姿を、自己の生き方について考えを深めているかという視点で見取りながら、授業を展開していくことが大切です。

授業を構想する手順

- ①ねらいを検討する → 年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、指導内容や教師の指導の意図を明らかにします。ねらいは学習指導要領に基づいて検討します。
- ②指導の要点を明確にする → ねらいに関する子どもたちの実態、各教科・領域等における指導との関連も考慮し、指導の要点を明確にします。
- ③資料を吟味する → 読み物資料を使う場合は、登場人物の行為や心の動きを中心に資料を分析し、資料の活用の仕方、取り扱う場面、中心となる発問などを検討します。
- ④指導過程を構想する → 資料について、子どもたちがどのように感じたり考えたりするのかを予想し、中心となる発問を検討し、それをもとに展開の段階を考えます。その後で、展開のための導入、終末を考えていきます。
- ⑤板書計画を立てる → ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容、子どもたちの感じ方が視覚的に分かりやすい板書になるよう指導過程と関連をもたせて計画を立てます。
- ⑥事前・事後指導を考える → 日常的な指導、各教科等との関連をはじめ事前の実態把握や事後の個別的な指導、家庭や地域社会との連携も含めて検討します。

一般的な学習指導過程

「学習指導要領解説道徳編」には、一般的な学習指導過程が示されています。(小学校P84・中学校P88) その中に、「いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切である」とあり、授業者の創意工夫を期待しています。道徳の授業はこれまで様々な研究が行われ、多様な展開が試みられています。授業者が本時のねらいを明確に押さえ、子どもの問題意識や学びの意識の流れを大切にしたい指導過程を工夫していくことが大切です。

| | 段階の位置づけ | 具体的な学習例等 |
|----|---|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主題に対する子どもたちの興味や関心を高め、ねらいとする道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階 | <ul style="list-style-type: none"> ○ねらいにかかわる生活経験の話合い ○教師からの資料内容に関連した説明 ○道徳的価値に意識が向くような教師の説話 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">短時間で的確に主題に向かわせるように工夫する。</div> |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、子ども一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の自覚を深める段階 | <ul style="list-style-type: none"> ○ねらいとする道徳的価値にかかわる問題についての話合い ○役割演技など劇的な表現活動に基づく話合い ○自分自身の生活経験などを想起した話合い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">重要となるのは発問である。子どもの発言や心の動きを予想し、ねらいとなる価値の理解を図ることができる発問か、自分の経験に基づきながら自分事として考えられる発問かなどの視点から発問を吟味する。発問の精選が必要である。</div> |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的価値に対する思いや考えを、子どもが自分なりにまとめたり温めたりして、今後の発展につなげる段階 | <ul style="list-style-type: none"> ○教師によるねらいとする道徳的価値にかかわる子どもの頃の体験談の説話 ○板書などを利用した、本時の学習の整理 ○補助資料(名言、金言、詩など)を用いた実践への動機付け <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">決意表明を迫るようなまとめは避け、学習したことを確かめたり、さらに深く心に留めたり、実践に向けての思いや課題について考えたりさせる。</div> |

道徳のかけ橋

平成26年11月27日発行
第 3 号
福 島 県 教 育 庁 課
義 務 教 育

福島ならではの道徳教育を

「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業が各学校で行なわれています。資料集には、震災を経験した福島の子どもたちに、今後の生き方について考えさせたい読み物が多く掲載されています。ぜひ、授業や読み聞かせ等で活用してみてください。今回は、「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業を紹介します。

中教研いわき大会 いわき市立江名中学校2年1組 阿部孝平先生の授業

- ◆ 主題名 やり抜く強い意志 1-(2) 希望、勇気、強い意志
- ◆ 資料名 「三十年後の桜」 『敬愛・つながる思い(ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集)』

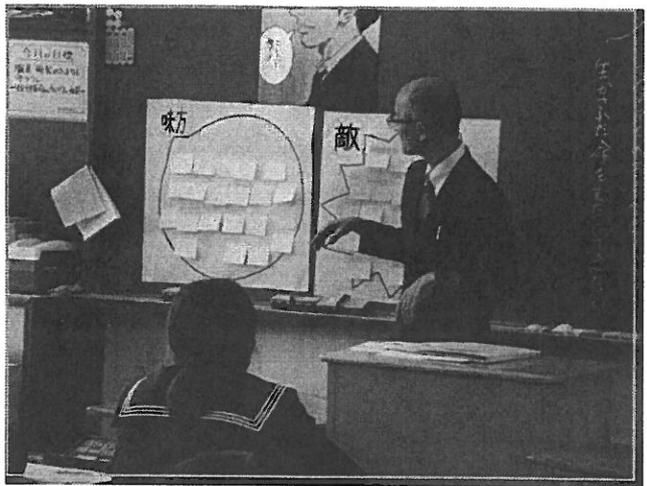
「三十年後の桜」は、ボランティア団体代表の西本由美子さんが、子どもたちが喜ぶ「世界一美しい浜街道」をつくるため国道6号沿いに桜を植林している活動を資料にしたものです。阿部先生は、この資料を使って希望をもって生きていくことの大切さについて生徒と一緒に語り合う授業をしたいと考えたそうです。

生徒は、西本さんが、様々な困難を乗り越えて活動を進めていく姿に自分の生き方を重ねて考えていきました。中心発問は「西本さんがあきらめずに活動を続けることができたのはなぜだろう」。阿部先生は「先生だったらあきらめちゃうなあ」と生徒に語りかけ、西本さんが「強い意志」を持ち続けられた理由について生徒と一緒に話し合っていました。

その後、「私たちの道徳」に載っている「宇宙兄弟」の主人公の台詞「俺の敵は、だいたい俺です」を提示し、生徒に、今の自分の敵は何なのかを考えさせました。この展開の流れが絶妙でした。「自分の弱さ」を敵と考えた生徒、「夢や希望」を味方と考えた生徒、それぞれが自分の生き方を深く見つめて考えていきました。1時間の授業で、生徒たちは、強い意志をもって生きていくことのすばらしさ、そして、その難しさを考えることができました。

終末で、西本さんを紹介するテレビ番組「ふくしまのハンサムウーマン」の映像を視聴し余韻をもたせて授業は終了しました。

福島の道徳資料と「私たちの道徳」を上手に関連させた展開構想で、生徒たちにとって忘れられない道徳の授業となったと思います。



道徳教育推進校 福島市立瀬上小学校4年1組 津田智子先生の授業

- ◆ 主題名 思いやりの心 2-(2) 思いやり、親切
- ◆ 資料名 クリスマスのおくりもの 『生きぬく・いのち(ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集)』

「クリスマスのおくりもの」は心温まる話です。震災後、京都の小学生の女の子から福島県庁に「自分へのクリスマスのプレゼントは福島の子どもたちへ届けてほしい」という手紙が届きます。心を打たれた県の職員が、その願いを叶えたいと考え、避難していた子どもたちに絵本のプレゼントを贈ったという内容です。

津田先生は、京都の女の子の思いや絵本をもらった福島の子どもたちの気持ちを考えていくことで、相手の気持ちを考え、思いやりをもって行動することの大切さに気付かせたいと考えたとのことでした。

授業では、子どもたちに、女の子が手紙を書いた時の気持ちを考えさせました。「わたしは今年は、プレゼントはいりません」という女の子の言葉に対して、「自分の分はいらないなんて、本当に優しい女の子だと思います」「自分は、同じようにできないかもしれない」など、様々な意見が出ました。クリスマスプレゼントは、だれもが楽しみにしています。それを我慢しようとする女の子の優しさを、震災を経験した子どもたちだからこそ、感謝と感動をもって感じ取ることができたのだと思います。

自分の生活を振り返る場面では、書く活動を設定していました。継続して授業の中を書く活動を位置付けてきているとのことで、子どもたちは素直に自分の考えを書き綴り、真剣に自分自身を見つめ直していました。「避難所にいた時に、近くのおばさんが大丈夫と励ましてくれて、うれしかった」「お年寄りの荷物が



重そうだと思ったので、持ってあげた。自分が人の役に立ててうれしかった」「今までなかなか親切にできなかったけれど、これからは少しでもいいから、困った人に親切にしてあげたい」などの記述があり、自分が思いやりをもって行動したことを振り返ったり、親切にすることの大切さに気づき、実行しようとする気持ちを高めたりしている子どもたちの姿を見ることができました。

道徳教育推進校として学校全体で進めてきた研究をベースに、確かな資料分析を行い、本時のねらいを明確に設定し、目の前の子どもたちの思いを大切に展開していたすばらしい授業でした。

県内では7校の推進校が各地区の道徳教育のモデル校として研究を進めています。「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業も積極的に行っています。その成果は、年度末に「推進校報告書」としてまとめ、各学校に配布する予定です。ぜひ、ご活用ください。

平成26年度 道徳教育推進校

〈県北〉福島市立瀬上小学校 〈県中〉玉川村立須釜中学校 〈県南〉白河市立五箇中学校 〈会津〉猪苗代町立猪苗代小学校
〈南会津〉南会津町立南会津中学校 〈相双〉南相馬市立原町第二小学校 〈いわき〉県立遠野高等学校

人権教育推進地域「おおたま学園」大玉村教育委員会

大玉村は、村内の幼・小・中を一貫校構想「おおたま学園」として人権教育の研究を進めています。大玉村はもともと全国でも先進的な「コミュニティ・スクール」の研究を続けてきました。

その研究を土台に「共によりよく生きる子どもの育成」というテーマを設定し、地域ぐるみの人権教育が行われています。12月2日(火)には、「おおたま学園公開授業研究会」が開催されます。震災及び原発事故後、改めて人権教育の必要性が高まってきています。県全体で人権教育を充実させていきたいと考えています。



大玉村キャラクター たまちゃん

道徳の時間の教科化に向けた答申ができました

平成26年10月21日に中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について」の答申ができました。答申には、①「特別の教科 道徳」(仮称)を位置づける。②目標を分かりやすいものに改善する。③授業を多様な指導方法に改善する。④検定教科書を導入する。⑤よさを伸ばすための評価を充実するなど、今後の道徳教育に関する内容がまとめられます。今後、学習指導要領の改訂、教科書検定基準の作成等の整備が進められ2018年度から本格実施の見通しです。

文部科学省のホームページには、答申や部会での議事録も掲載してありますので、ぜひ、ご覧ください。

道徳のかけ橋

平成26年12月15日発行
第 4 号
福 島 県 教 育 庁
義 務 教 育 課

道徳教育全体計画の別葉とは？

別葉は、学校の教育活動全体を通して道徳教育を進めていく上で必要となる計画です。教育活動全体にかかわる計画のため、作るのが大変だなあ、と思っている先生方も多いようです。今回の「道徳のかけ橋」では、その目的や意図を再確認して、何のために作るのかを一緒に考えていきたいと思います！！

学習指導要領解説 道徳編 「2 全体計画の内容」 (小学校) P67 (中学校) P69

「全体計画を一覧表にして示す場合は、必要な各事項について文章化したり、具体化したりしたものを加えるなどの工夫が望まれる。例えば、各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの、(略)を別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられる。(小学校)」

別葉には決まった形式はなく、次の例をあげて、学校の創意工夫を求めています。

- ① 各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの
- ② 道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- ③ 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

大事なことは、次の2点です。

- ① 自校の特色や重点を、教育活動全体でどのように実践していくか、分かること
- ② 道徳の時間以外の指導内容や時期が明確になること

「道徳に係る教育課程の改善等について(中教審答申)」において、道徳教育が学校教育の中核であることが再確認され、「各教科等との密接な連携の強化」の必要性が明記されています。道徳教育の充実に向けて、別葉の重要度は、これまで以上に高まってきています。

まずは、作ってみましょう！！

次に、別葉の例を示し、それぞれのよさや留意点を整理しました。これらを参考に、まずは、できそうなところから作成してみてください。

A 時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉

| 中学校の 道徳目標 | 相手のことを思いやり、進んで関わり たす | 2-②関わり たす | 社会や社会のまわりを守り、公明心をもつ | 4-①公明心・風 則意識 | | | | | | | |
|------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 4年生にかかわる 学校行事 | 始業式 身体測定 運動会 | 交通安全教室 道徳講座 | プール開き 道徳講座 | プール開き 秋学期始業 道徳講座 | 読書初日 始業 道徳講座 | 文化祭行事 社会科見学 運動会 | 道徳講座 | 書き初め 道徳講座 | 道徳講座 | 道徳講座 終り式 | |
| 道徳 | 碓氷山 3-①歌けん 1-①基本的人な 生きかた 2-②関わり たす 4-①関わり たす 2-③実践 | |
| 特別 活動 | 学校行事(1) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(2) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(3) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(4) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(5) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(6) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(7) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(8) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(9) 碓氷山 1-①関わり たす | 学校行事(10) 碓氷山 1-①関わり たす | |
| 教科 目標 | 「あはれ心」 3-②自然体・勇 気 「思いやり」 3-③関わり たす 「よいよき学校 をしよう」 4-④関わり たす 「話す言葉は同じ でも」 2-④関わり たす |

○ 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。

▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。

〈ちょっとひと工夫〉
自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

(義務教育課作成)

B 自校の重点を中心に、内容項目の系統性を明確にした別葉

第6学年 2-(2)「思いやり、親切」、3-(1)「公徳心、規則尊重」に関わる指導

| 内容項目 | 領域 | | 級 | | | | | | | |
|--|--|--|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 道徳 | 月 | 国語 | 月 | 社会 | 月 | 算数 | 月 | 理科 | 月 |
| 1 (1) 生活習慣 態度・節度 (2) 希望・勇気 強い意志 (3) 自由・責任 (4) 誠実・忍耐 (5) 創意・ 創造意欲 (6) 向上心 個性存続 | | | | | | | | | | |
| | (1) 礼儀 | | | | | | | | | |
| | (2) 思いやり・ 親切 | 道徳の上で最も 大切なこととして 「思いやり・親切」 について指導する 必要がある。 | 6 10 2 | 12 12 12 |
| | (3) 自律・忍耐 実行力 | | | | | | | | | |
| | (4) 寛容・謙虚 | | | | | | | | | |
| | (5) 尊敬・感謝 | | | | | | | | | |
| 3 (1) 生命尊重 (2) 自然尊重・ 環境保全 (3) 敬重 | | | | | | | | | | |
| | (1) 礼儀 | | | | | | | | | |
| | (2) 思いやり・ 親切 | | | | | | | | | |
| 4 (1) 公徳心・ 規則の尊重 (2) 公正・公平 人権尊重 | 道徳の上で最も 大切なこととして 「公徳心・規則の尊重」 について指導する 必要がある。 | 7 11 3 | | | 1 1 | | 5 5 | | 12 12 | |
| | (1) 礼儀 | | | | | | | | | |

○ 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
(別葉の第一歩の形です。野田小学校は、これを土台に全職員で別葉の作成に取り組みました。)

▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。

▲ 他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのかが分からない。

〈ちょっとひと工夫〉
重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

学校全体で行う道徳教育を別葉からはじめよう。



(地区別推進協議会資料 福島市立野田小学校)

C 道徳の時間におけるすべての価値項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉

平成26年度 道徳教育の全体計画別葉 (道徳の時間と教科指導・特別活動等との関連表)

| 内容項目 | 道徳の時間 | 特別活動 | | | 総合的な学習の時間 | 各教科 国語 |
|----------------------|--|--|--|---------------------------------------|-----------|--|
| | | 学校活動 | 生徒会活動 | 学校行事 | | |
| 1-(1) 望ましい生活習慣、健康、節度 | ・両立って両たろう ・Just Say No! | 1学期の反省 2学期を通して 2学期の反省と冬休みの計画 | あいさつ運動(通年) | オリエンテーション、身体計測、修学旅行、休業式・終業式、三者相談、二者相談 | 高物乱用防止教室 | |
| 1-(2) 希望、勇気、強い意志 | ・希望の種 ・未来人へのメッセージ | 中学生になって充実した学校生活 期末テストに向けて1年間の反省と進級への心構え | 生徒会オリエンテーション、社行会 | 入学式、卒業式 | ディベート学習 | ・明日 ・走れ! ロス |
| 1-(3) 自主・自律、誠実、責任 | ・ネット利用 ・家の方へ渡されると誰かが借つく ・書き出す日のために | 学校生活充実のための工夫 職場体験学習 | 生徒会オリエンテーション、生徒総会、生徒会本部役員選挙、生徒会専門委員会(通年) | 文化祭 | 夢拓く講演会 | ・道徳の時間を通して ・道徳の時間を通して ・道徳の時間を通して ・道徳の時間を通して |
| 1-(4) 真摯な、理想の表現 | ・前野良辰と杉田玄白 | 進路学習 | | 弁論大会、英語弁論大会 | | |
| 1-(5) 向上心・個性の伸長 | ・この朝のために ・憧れの職業 ・14才からの仕事道 | 私の学習方法 1年間の反省と進級への心構え 職場体験学習 | | 三者相談、二者相談 | 夢拓く講演会 | ・アイスプラネット |
| 2-(1) 礼儀 | ・礼儀としてどう言えはいいかな? ・言い方ひとつで気持ちもなごむ | | あいさつ運動(通年) | 離任式 | | ・気持ちを込めて書こう |
| 2-(2) 人間愛、思いやり | ・○○の人の大事観 ・「みんな違っていい」と思う ・アフリカの少年 | 中体連への参加 | 資源回収 | | ディベート学習 | ・やさしい日本語 ・道土産 |
| 2-(3) 信頼・友情 | ・ナゾびり ・自分だけ「赤い」になってしまふ ・あなたにとって大切なものは? | 中体連への参加 | 生徒会交流会① | 修学旅行、文化祭 | 夢拓く講演会 | ・走れ! ロス |

(道徳教育推進校 玉川村立須釜中学校)

○ すべての内容項目の関連が分かる。
○ 自校の重点を網掛けにして強調しているため、分かりやすい。
○ 道徳の時間に使用する資料名だけでなく、「ふくしま道徳資料集」や「私たちの道徳」の活用場面を明確に位置付けている。

▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。

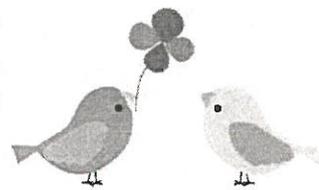
〈ちょっとひと工夫〉
道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

D 学校オリジナルで使いやすい別葉!

形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが一番です。形式にこだわらず、ぜひオリジナルなものを作ってみてください! 今ある計画をちょっと工夫することをおすすめします。

みんなで活用していくことが大切

「別葉はあるが活用が十分でない」。どの学校でも、これが一番の課題です。別葉をもとに、自校の重点を職員全員が把握し、各教科の授業はもちろん、日々の教育活動すべてを通して道徳教育を進めていくという意識をもちたいものです。「この関連は難しいなあ」「この単位では○○という価値項目についても学んでいるなあ」と気付いたら、別葉にメモを残していくとよいと思います。そういった日々の積み重ねが道徳の時間と教育活動全体を積極的に結び付けることになります。次年度の教育課程を検討していくこの時期こそ、別葉について、校内で、あらためて考えてみましょう。



道徳のかけ橋

平成27年2月16日発行
第 5 号
福島県教育庁
義務教育課

新しい学習指導要領案が発表されました！

2月4日、文部科学省は、学校教育法施行規則及び学習指導要領（道徳編）の改正案を発表しました。県教育委員会では、2月9日に文部科学省の道徳担当調査官：澤田浩一先生を迎え、全国に先がけて新しい学習指導要領に関する講演会を開催しました。今回は、改正案の概要をお知らせいたします。

| 現行の学習指導要領 | 新しい学習指導要領（案） |
|---|---|
| 道徳教育と「道徳の時間」の位置づけ | |
| 学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの（略）。 | 学校における道徳教育は、 <u>特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）</u> を要として学校の教育活動全体を通じておこなうもの（略）。 |
| 学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標 ※（ ）内は中学校 | |
| 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。（第1章総則） | 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、 <u>自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと</u> を目標とする。（第1章総則） |
| 道徳教育の要である道徳科の目標 ※（ ）内は中学校 | |
| 〈道徳の時間〉 道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動（※略）、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、 <u>道徳的価値の自覚及び自己の（それに基づいた人間としての）生き方についての考え（自覚）を深め、道徳的実践力を育成するものとする。</u> （第3章 道徳） | 〈特別の教科 道徳（道徳科）〉 道徳教育の目標に基づき、よくよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、 <u>道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</u> （第3章特別の教科 道徳） |
| 指導する内容 | |
| ※ 1－（3）などの数字で表記 小学校1・2年 16項目 小学校3・4年 18項目 小学校5・6年 22項目 中学校 24項目 | ※ 「善悪の判断」などのキーワードで表記 小学校1・2年 19項目 小学校3・4年 20項目 小学校5・6年 22項目 中学校 22項目 |



小学1・2年の【公正・公平・社会正義】「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」など、新たな内容が加えられています。

指導方法については、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(5)問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫(一部抜粋)」とあり、児童生徒が道徳的諸価値について主体的に考える授業を目指しています。

改正案については、http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/02/1354944.htm に掲載し、パブリックコメント(意見公募)を実施しています。参考にしてください。

道徳教育の推進状況調査結果

2学期末に実施した道徳教育推進状況調査の結果がまとまりましたので紹介します。各市町村で状況は異なりますが、県全体の状況を把握していただき、自校の道徳教育の充実に向けて参考としてください。

福島県道徳教育実施状況調査(概要) 平成26年12月22日現在

| ふくしま道徳教育資料集の活用状況 | 小学校(%) | 中学校(%) | 全体(%) |
|--------------------------|--------|--------|-------|
| ・活用した。(一部の学年も含む) | 99.8 | 99.6 | 99.7 |
| ・活用する予定はない。 | 0.2 | 0.4 | 0.3 |
| 「ふくしま道徳教育資料集」の活用場面(複数選択) | 小学校 | 中学校 | 全体 |
| ・道徳の時間に活用した。 | 97.6 | 96.4 | 96.5 |
| ・道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。 | 21.2 | 12.0 | 18.0 |
| ・家庭で活用した。 | 5.8 | 3.6 | 5.1 |
| 道徳の時間の授業参観の実施状況 | 小学校 | 中学校 | 全体 |
| ・今年度中に実施する予定である。 | 99.8 | 86.7 | 95.5 |
| ・実施する予定はない。 | 0.2 | 13.3 | 4.5 |
| 全体計画「別業」の作成状況 | 小学校 | 中学校 | 全体 |
| ・作成した。(今年度作成予定を含む) | 94.6 | 91.5 | 93.6 |
| ・作成する予定はない。 | 0.6 | 0.9 | 0.7 |
| ・その他(次年度以降作成予定など) | 4.8 | 7.6 | 5.7 |
| 「私たちの道徳」の活用状況(複数選択) | 小学校 | 中学校 | 全体 |
| ・道徳の時間に活用した。 | 99.6 | 99.1 | 98.7 |
| ・道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。 | 53.8 | 23.1 | 43.4 |
| ・家庭に持ち帰らせた。 | 68.9 | 49.8 | 62.2 |

ふくしま道徳教育資料全3集完成!

平成24年度から作成が始まった「ふくしま道徳教育資料集」全3集が年度末に完成します。作成に関わった多くの方々にこの場を借りて心より感謝申し上げます。震災を経験した福島の子どもだからこそ、思いやりのある心豊かでたくましい人間に成長してほしいという思いを込めた資料です。活用ください。



平成27年3月11日 印刷
平成27年3月25日 発行

福島県教育委員会
